

天台座主記

第三編



上梓の辞

宗祖伝教大師一千百五十年大遠忌を迎え、天台座主記第三編の発刊を見ることは、宗門のため詢に慶賀に堪えぬところである。

座主記は、単に座主御歴代の編年記というより御化導摂化の御情況を詳にするものであり、同時に天台宗史の重要な資料となるものであるから、機を得て逐次刊行さるべきものである。

さきに、昭和十二年比叡山開創一千百五十年法要を修せらるゝに当り、昭和十年八月二十八日、記念事業として時の学匠の努力により、校訂増補天台座主記が編纂され、正篇八巻、続第

一卷を収め、宗祖伝教大師以下第二百四十六世探題中村勝契大僧正に至っている。

その後、昭和十五年九月十日比叡山延暦寺においては、第二百四十七世探題梅谷孝永大僧正の喜寿を賀し、かつ十年間に亘る空位を続天台座主記巻二として発刊されたが、爾来編輯の機なく今日に及んでいる。

従つて梅谷座主御一人については、昭和十五年十月三十一日御辞職に至る約一年間の御事蹟が欠けており、第二百四十八世探題久田全珖大僧正以後、現天台座主第二百五十二世探題菅原栄海大僧正御在任のうち昭和四十五年十二月に至る、五世代約三十年間の御化導、合せて三十一年の長きに亘り座主記に空白を生じているのである。

幸にして、過ぐる昭和四十一年宗祖伝教大師御生誕一千二百年慶讃法要並びに千載一遇とも申すべき昭和四十六年の宗祖伝教大師一千百五十年大遠忌法要の記念事業の一つとしての図書刊行において、「伝教大師研究」及び本書「天台座主記第三編」を発売し得ることは極めて意義深きことであり、いさゝか報恩謝徳の誠を表し得るものと信ずる。

本書の編纂は、延暦寺一山、池山一切円師並びに渡辺恵孝師の手によるものであることを記し、その御努力に対し深厚なる謝意を表する次第である。

昭和四十六年五月十日大遠忌結願法要厳修の日

宗祖伝教大師千百五十年大遠忌並びに御生誕千二百年慶讃法要

事務局長 千葉照源

天台座主記第三編目次

世代	法諱	寺号	補任	辭任	遷化	頁
二四七	孝永	三千院門跡 妙法院門跡	昭和二・十一・五日	昭和十五・十・三十一日	昭和二十・一・十三日	一
二四八	全珖	真福寺 曼殊院門跡	昭和十五・十・三十一日	昭和十六・三・三十一日	昭和二十二年、二・八日	三
二四九	慈鑑	華藏院 毘沙門堂門跡	昭和十六・三・三十一日	昭和二十二・十・七日	昭和二十二・十・七日	三
二五〇	玄秀	明德院 毘沙門堂門跡	昭和二十二・十・十日	昭和三十四・十一・九日	昭和三十四・十一・九日	一五
二五一	周湛	理性院 滋賀院門跡	昭和三四・十一・九日	昭和四十五・十・二十四日	昭和四十六・二・十五日	三〇
二五二	栄海	医王寺門跡 日光輪王寺門跡	昭和四十五・十・二十四日			三三

天台座主記第三編

探題大僧正梅谷孝永 妙法院 治山十三年

本貫 福井県今立郡舟津村上鯖江 田中実 次男

師主 三千院門跡大僧正梅谷孝成

昭和二年十一月五日 天台座主に任ぜられ、以後昭和十四年十二月までの記事は続天台座主記に記載されている。

昭和十五年^{庚辰}一月八日 権大僧都猪飼行戒は支那事変に付天台宗総本山特使を命ぜられた。

一月十四日 京都左京区在郷軍人二千名が比叡山に登山して、根本中堂で皇軍武運長久の祈禱法要、又大講堂で戦病死者英霊追悼法要に参加した。

一月十九日 大僧都岩谷周円及び權少僧都福井邦純は支那事變に付き天台宗総本山特使を命ぜられた。

一月二十日 第二十七教区宝聚寺住職大僧都宝珠山慈照は安樂律院貫首に任ぜられた。

二月八日 平野觀応は三千院門跡に任命された。

二月九日 紀元節に天機奉伺のため、座主猊下は山田法務課長を随え、今朝京都駅発で御東上された。

二月十日 「国民精神運動」が実施されることになった。

二月十一日 紀元二千六百年の佳節に方り図らずも大詔を渙発され臣民翼賛の道を昭示し給った。宗徒等しく恐懼感激の裡に決意を新たにし同心協力を以て大日本国の理想の達成を期した。

二月十八日 第二十代天台座主權僧正余慶大和尚九百五十年忌相当に付き午前十時から滋賀院に於て、貫首猊下御導師の下に法華三昧一座が修された。

二月廿一日 教区長會議が滋賀院に於て開会され、内仏殿に於て天台座主猊下御導師の下に恭く戦勝祈願法楽並戦病歿者追悼法要が厳修された。

二月廿五日 朝鮮仏教会重鎮崔英煥師が日鮮天台仏教交換教授答礼使として登叡した。

三月一日 皇紀二千六百年記念事業として、本宗寺院に於ては、社会教化を主とし寺院の社会的存立性を広く認識させる記念事業を實踐し、以て奉祝の意を表す事となった。即ち、一寺一事業實踐が始められた。

三月九日 第十七教区月山寺学寮の設置が認可された。

四月一日 本山教区雙巖院住職大僧都福恵道暢は比叡山中学校長に任命された。

同日 宗教団体法並境内地処分法律に因る各種法令が実施された。

同日 新制比叡山専修院に本科と専科が設けられた。

四月四日 国民精神総動員中央聯盟では、今回、神代以来植樹に関する

る先人感謝報恩のため及び意義ある紀元二千六百年を記念するため、「植樹報國運動」と銘うち植樹造林の一大国民運動を実施することに決定し、「植樹造林報國運動要綱」を定め、仏教各宗派及仏教各団体に對し協力を求められた。仍て全宗徒挙つて本国民運動に参加し、この実践を通じて敬神崇祖、国民精神の昂揚、国土の愛護保全、資源培養の実を挙げることに成った。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法大法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方代表、一山寺院等参勤の上、普賢延命大法を以て嚴修され、玉体安穩宝祚長久を祈り奉った。結願即夜東上、御衣奉迎奉還、巻数献上等は例年の如くであった。

四月八日 蒙古留学生、蘇容すゐに、陶道とど、那斯固到爾吉なすぐどるじ、薛伊しゐ斯仍すゐんじやぶ扎佈ぢあふの四君が天台宗第四回日滿交換留学生として登叡した。

四月十一日 天台座主代理久田曼殊院門跡は御修法御衣奉還参内のため東上された。

四月廿日 天台智者大師千三百五十年御遠忌法要事務局職制が制定された。

四月廿日 延暦寺一山權僧正即真周湛は延暦寺執行に任命された。

四月自廿一日至廿三日 天台座主第五世智証大師一千五十年御遠忌法会が比叡山

阿弥陀堂（中旦）と山王院（初、結両旦）に於て嚴修された。記念事業の一として智証大師御木像を三井寺より奉迎し、山王院に安置した。

開闢 千手供之攸 於山王院

導師 十妙院 權大僧正

鏡 理性院 權僧正

吉祥院 權僧正

玉照院

壽量院

大乘院

鉞 玉蓮院

讚頭 松壽院

中日 胎曼供之攸 於阿弥陀堂

導師 貫首大僧正

唄 匿 滋賀院門跡 權大僧正

鏡 理性院 權僧正

散 華 大林院

唱 礼 星光院

讚 頭 真乘院

鉢 松壽院

逆酒水 宝積院

結願 常行三昧之攸 於山王院

導師 覺林坊僧 正

理性院 權僧正

戒定院 權僧正

大林院

寿量院

伽陀 乘実院

五月自四日至六日 日 勅額拝戴慶讃法要が総本山の根本中堂に於いて厳修された。

第一日

朝来の曇りは雨と成ったが、根本中堂は参詣の人々が堂外にあふれ随喜渴仰の敬虔さが靈堂の内外に充滿した。大導師曼殊院門跡久田全珖大僧正猊下始め各教区代表、一山住職等法要出仕者は、本坊表玄関から列を整え、奏樂の音と共に根本中堂に練り込み、先づ式衆及大導師が各設けの席に着座し、奉行が中陣に入り静かに紐をたぐると、正面に垂れ下る白絹は徐ろに取り除かれ、宮地氏が精魂を尽して謹刻した勅額「傳教」の御宸筆は白く鮮やかに神々しく正面に姿を現わし、一同自ら拝礼をなし息詰る程の有難さであった。斯くて法式は定め of 如く

始められ、大導師の誦される法則は重々しく、奉讃会長（理事荻野伸三郎博士代読）や地方長官（多田学務部長代読）の奉讃文は虔恭にひびき、声明音律堂の内外に高く低く伝わりて、聖恩を奉謝する、玉体安穩、宝祚無窮の本尊供は厳かに修された。当日の主なる参詣者は、

原宮内事務官、多田滋賀県学務部長（滋賀県知事代理）、荻野伝教大師奉讃会理事（会長代理）、田中寺門派長吏、西村真盛派管長、特別信徒鳥井信治郎氏、北河豊次郎氏夫妻等外八十余名、両坂本村長、坂本小学校長、京阪、比叡山電鉄、京都電燈、江若鉄道、太湖汽船等各社代表、各新聞記者、宗内新旧公職員等であつた。

第二日

全国から参拝随喜した多数の檀信徒や戦歿英霊の遺家族の参詣の中、法要出仕者は昨日と同じく根本中堂に練り込み、毘沙門堂門跡渋谷権大僧正が講師となり、三問一答の論義法要が奉修され、第二日の行事は停り無く厳肅裡に終つた。

第三日

快き日和の第三日の拝戴法要は午前十時、前日同様本坊玄関から列を整え、寵光愈々燦然と輝く靈堂根本中堂に参入して、浅草寺住職大森亮順大僧正の御導師の下に大般若転読の大法要が厳修された。

闍宗挙って洪大な聖恩に感泣しつつ、益々皇國恢弘に努めると共に宗祖大師の大精神顕揚に邁進を誓ひつつ、三日間の大法要を魔事なく終筵したのである。

慶讃法要薬師曼供敬白（久田門主）

謹敬白_テ秘密教主三世常住摩訶毘盧遮那如来教流布身釈迦牟尼無上大覺世尊十方三世応正等覺殊_ハ本尊界会十二大願医王善逝日光月光十二神将三部五部諸尊聖衆外金剛部天等乃至仏眼所照微塵刹土三宝境界言_ヲ方_ニ今_ニ於_テ南瞻部州大日本国比叡山根本中堂慶讃勅額拜戴_ヲ謹_ニ為_ス奉_レ祈_シ念_シ玉体安穩宝祚無窮_ヲ顯密俱伝僧侶集会嚴飾_ヲ瑜伽三密之壇場調_ス成_ス歌詠讚歎之儀_ヲ則_チ其旨趣如何者夫真言三密之教令輪者摧罪拔障之法輪即事而

理之行儀也

是故經說初發心時便成正覺，即於凡身現成仏身，
因茲

煩惱塵翳，秋露

消真如實際之大空

平等寂滅，月光

照究竟金剛之智地

然則

口誦密言，八葉覺蓮，鎮開心觀，月輪，三明智光自明

誠是

不轉阿鼻界，會現前，不超三祇，頓到正覺，秘密奧藏，円極中微者也

爰一結衆僧

宿緣有幸修此大法，切德所覃，爭無利益

是以

奉報聖朝之高恩，且為擬仏祖之謝恩，三業丹誠精進勤修

若爾

因_テ此妙業一結衆僧法界有情俱証妙法身同到密嚴土

重乞

一天泰平 四海靜謐 宝祚延長 万民快樂 伽藍安全

興隆仏法 一結衆僧 導味和合 乃至法界 利益周遍

抑_テ為_ニ令法久住利益人天一結諸衆滅罪生善

南無摩訶毘盧遮那如來

南無金剛手菩薩

慶讃文（近衛公）

惟れば歴朝の聖眷を光被せる比叡山延暦寺は昭和十二年七月特に勅額御下賜の天寵を拝受せり。聖恩洪大にして乾徳普く照輝す、一宗の栄光国民の感激洵に近古超絶の盛典たり。今茲に皇紀二千六百年の聖期に方り闔宗僧俗忱誠を傾けて莊嚴偉麗

の大法要を嚴修し、以て拝戴慶讃の至念を啓発し皇恩報謝の赤心を披瀝せらる。聖華全山に開き輝光満堂に映ず山家の緇衆宜しく此の勝縁に依り弥々鎮護国家住持仏法の祖訓を発揮して、益々皇道を翼賛し国民精神の昂揚に尽されんことを。

本日此の盛典に列り恭しく香を奠して、天恩を拝謝し、宝祚の無窮を祈り奉る。

昭和十五年五月四日

伝教大師奉讃会長 公爵 近衛文麿

勅額拝戴慶讃法要 於根本中堂

初日 庭儀薬師曼荼羅供之攸

唱	散	唄	導師
礼	華	匿	
円	一	輪王寺門跡	曼殊院門跡
乗	音	権大僧正	大僧正
院	院	徳玄	全珙
権	僧		
僧			
正	正		
恵	恵		
章	寛		

讚頭 玉蓮院 袒賢

饒 玉照院 覺誠

鉞 妙行院 円了

逆酒水 双林院 覺讓

威儀師 川喜多正円

從儀師 山中祐源

中日 三問一答之攸

講師 毘沙門堂門跡 權大僧正 慈鎧

俱匿 輪王寺門跡 僧正 慈真

散華 明德院 僧正 玄秀

三之問 大慈院 權僧正 哲道

二之問 惠日院 定真

一之問 行泉院 光觀

結願 大般若經転読之攸

導師 浅草寺 權大僧正 亮順

五月五日 勅額拝戴慶讃法要第二日の午後一時から、今次事変により
 名誉の陣歿を遂げられた護国の英霊に対する慰霊大法要が、新装成つ
 た阿弥陀堂に於て青蓮院門跡田村徳海大僧正御導師、全国教区長並び
 に延暦寺一山大衆総出仕の下に、本山独得の秘法光明供都錫杖に依り、
 盛大に奉修された。この日全国から遺家族六百余名が参拝した。

支那事変 戦病歿者慰霊法要 於阿弥陀堂

第二日 光明供都錫杖之攸

錫杖	外錫杖	導師	青蓮院門跡	権大僧正	徳海
円乗院権僧正	恵章	滋賀院門跡	権大僧正	観幢	

唄匿	三千院門跡僧	正	観応
散華	瑞雲院僧	正	寂泉
讃頭	龍蔵寺	興朝	
饒	清水寺僧	正	善照
鉸	甲山寺	光照	

同	同	讚	鏡	鉞
雙	同	頭		
巖	仏	正	覚	西
院	乗	教	林	蓮
	院	坊	坊	寺
			僧	
道			正	
暢	義	覚	英	篤
	薰	澄	巖	然

五月六日 昭和十二年比叡山開創千百五十年記念大法要の事業として
 建立された阿弥陀堂の落慶法要は、午後一時から同堂寄進の大檀越山
 口三郎氏外一族、延暦寺妙徳婦人会、一般檀信徒参拝の中、滋賀院門
 跡井深権大僧正御導師の下、厳肅裡に修行された。因に当日は京都よ
 り随喜の稚児五十余名の参列、並に落慶法要終了後餅まき行事があり
 盛大を極めた。

阿弥陀堂落慶供養

常行三昧之攸

調	滋
声	賀
	院
	門
	跡
	権
	大
	僧
	正
	観
	幢
伽	
陀	
	妙
	行
	院
	円
	了

自五月十日 皇紀二千六百年奉祝記念比叡山全国青少年鍛鍊道場が、山
至六月十日 上宿院に於て延暦寺及び天台宗務庁の主催、滋賀県学務部、京都府学
務部、大阪府学務部、奈良県学務部、京都市教育部、大阪府学
務部、神戸市教育部の後援の下に開かれた。

五月十八日 僧正平野観応と僧正中山玄秀は望擬講に補任された。
五月二十日 讃仏堂に於て午後二時から翌午前七時四十分迄の間、別
請広学堅義が嚴修された。

業 地上空仮 副 無始無明厚薄

探題 延暦寺大僧正

堅者 毘沙門堂門跡 権大僧正 慈鑑

一之間 曼殊院門跡 大僧正 全珖

二之間 滋賀院門跡 権大僧正 観幢

三之間 三千院門跡 僧 正 観応

五月二十一日 已講大僧正久田全珖は探題に補任された。

擬講大僧正渋谷慈鑑は已講に補任された。

五月二十九日 本宗社会事業指導員第一回協議会が開催された。

六月一日 権少僧都湯浅高現は、支那事変に付き総本山特使を命ぜられた。

六月四日 長講会は例年の通り、比叡山延暦寺浄土院に於いて午前十時から、座主猊下御証義の下厳修された。

六月七日 権大僧都牧野即遵、僧都鈴木恵然、権少僧都野路亮戒は、支那事変に付き総本山特使を命ぜられた。

六月八日 権少僧都小虎覚盛は朝鮮開教師を命ぜられた。

六月九日 天皇陛下が関西に行幸遊ばされ、午後五時京都御所御到着に付き、猊下には幹事を随行、午後四時大津駅へ奉迎のため御出張された。

六月十日 寺籍中左の寺院が登録された。

朝鮮京城府大和町三丁目七十九番地

(等級未査定) 太子寺

六月十一日 寛永寺本堂に於て、元貴族院議長従一位大勲位故徳川家

達公の葬儀が、初七日に相当の十一日午後一時から、輪王寺門跡長沢徳玄権大僧正大導師の下一山大衆総出仕の光明供錫杖によって執行された。

顯徳院殿歎徳章

龔以

杜鵑林梢鳴 其声非久

花藕滿池色 其嬌非長

万象尙是示改変六趣誰無懷悲傷

茲新円寂

顯徳院殿從一位大勲位公爵祥雲静岳大居士昔日值嘉幸雖無禍、近頃嬰沉痾不能癒、遽然而辭白日溘焉而入黄泉享年七十有八、月隱又雖出人逝不再還、於是親族含淚慘々、一門帶憂戚々。

噫、時哉命哉、可痛可惜

恭惟過去

覺靈者

生三卿家 幼嗣空室

奉還藩籍 翼贊皇謨

遠學海外 広求知識

祇候楓宸 能全臣節

就中

存志尊皇 至誠奉公

歷仕三朝 致蹇々誠

夙列上院 長占首班

屢赴欧米 修國際誼

加之

為赤十字社長

尽慈善博愛之道

為濟生会々長

拳厚生濟民之実

与文教諸事業

專致心於思想善導

閱公共各团体

能尽力於社会改進

其為人

天資聰明 氣宇濶達

志操堅實 千慮不惑

至公至平 裁決如流

恭儉持己 溫容接人

崇敬祖先 祭祀無怠

況又

托逸興於国技 養尚武之氣風

寄閑情於謠曲 尚古典之優雅

恂是

華胄典型 国家柱石

一代儀表 万衆軌範

以是

齡垂八旬 事功俱舉

人位天爵 不期而臻

豈是非昭之和之鳳祥 聖朝人瑞歟

宜哉

其病達

天聽畏自

三陛下賜慰問病革也昇叙從一位授大勳位菊花大綬章、及薨去被遣勅使特賜賻及誄以嘉尚生前之勤勞勲績今日臨式重賜香鳴呼天恩優渥可以瞑也

正今

埋卻六根 堅法性大地

擲下一鐮 斷無明縛繩

吉矣覺靈

十方仏土中 到處極樂刹

一道出「生死」進処涅槃場

觀夫

嚴淨非遙 喬松長杉無作嚴淨

寂光在近 高山幽谷本有寂光

佳景助梵席自証有「何惶」

乃至

法雨滴々 普潤洋々

維時昭和十五年今月今日

東叡山輪王寺門跡寛永寺現董

三部伝法大阿闍梨無障金剛徳玄敬白

六月十八日 敦賀市官幣大社氣比神社で本日から廿二日迄の五日間に亘って盛大な大祭が行われ、同社外島宮司から特に座主猊下へ参拝の招待があつたので、宗祖の御参拝の御事蹟と敬神思想昌隆の上にも、将又聖戦完遂祈念の上からも時局柄意義深き事として御高齢を推して参拝された。座主猊下には午後一時過ぎ敦賀に御到着、若林市長等の

御出迎の中、宿所真禪寺へ入られ、本堂で御法楽の後、平吹住職の案内で松原公園に風光を賞され、続いて金崎神社に御参拝され、社司の御先導で玉串の奉献があり、次で摂社絹掛神社に拝礼された。

午後七時半から供奉僧等を率いて気比神社の正遷宮祭に臨まれた。午後九時半頃から月明下に静々と御羽車に乗せられた御神体が新しい宮居に入御せられ、宮司御扉を開き幣物が弁備され、禰宜以下神饌を供えられ、宮司祝詞を奏し、次いで地方長官の幣物供進に次ぎ祝詞を奏された。参列の各員玉串を奉って拝礼して午後十時御閉扉された。

六月二十日 午前八時宿舎にて敦賀市長若林義孝氏の来訪を受け御面会の上記念の扇子等を贈呈された。午前九時から前日の如く奥深き宮居に参進定席に着かれた。午前十時過ぎ幣帛供進のため内務大臣(代理)衣冠束帯を正して幣帛を御進めし、宮司祝詞を奏し、参列の顯官貴紳夫々玉串を奉献拝礼して、正午過ぎ第二日の式典が終った。

六月廿一日 満洲国留学僧二人が来叡した。

満洲国奉天蓋平興隆寺 釈同興(廿才)

六月廿四日 新京護国般若寺前方丈満洲国仏教総会副会長澗培法師が登敎した。

七月十三日 桜井円信開教師は五台山に参拝した。

七月自廿九日至卅日 教義討究所委員会が宗務庁に於て開かれた。

八月廿一日 戸津説法が開筵された。

講師 延暦寺一山金光院住職 市川円常

九月一日 天台会修行期日の変更が布達された。

布達

高祖天台大師報恩の為天台会を例年九月廿三日、廿四日の両日修行の処、爾今十月廿三日御逮夜法要、同廿四日御正当法要を修行す。

自九月初至十一月末 寺院教会等退蔵金属品献納運動が左記趣旨により実施された。

趣旨

国際情勢の變転に伴ひ、我国物資問題の愈々重要性を加へ来り金属

資源充実の要切実となりたるにより、全国寺院教会（檀信徒を含む）に退蔵せられたる不急不用金属性用具の献納運動を実施し、最も有効に之を活用して非常時下に於ける国策の遂行に資せんとす。

九月三日 宗務庁に於て開教局参与協議会が開かれた。

九月十三日 座主猊下妙法院門跡に於て座主職の辞意を表明された。

九月十四日 権大僧正井深観幢は望擬講に補任された。

九月自廿六日一週間 皇紀二千六百年奉祝記念報恩感謝週間が天台宗社会課並天台宗社会事業聯盟主催の下、左記の趣旨により実施された。

趣 旨

興亜の聖戦ここに三星霜、挙国一致、滅私奉公の赤誠は、前線に銃後に感激の絵巻を展げて日本人ならではの痛切なるものがあります。本宗々徒も亦能く国民の本分を全うして、日夜国策に殉じつつあることは云う迄ありませんが、更に一層の精進を期すると共に、切なる報恩感謝の衷情を披瀝する為、今秋期彼岸会の好機を利し宗団を挙げて報恩感謝週間を実施する事に致しました。畏くも限りなき

御稜威の下、皇軍勇戦の賜として興亜の大業は將に成らんとして、而も銃後の吾等は一人として悲惨なる戦禍に泣く者無く、安じて業を樂しむ事を得ています。これを有難いと感謝する心は必然聖戦完遂に必要な国家総力増強の報恩行となつて展開されねばなりません。本宗教師各位はこの機会に自ら範を示して、百万檀信徒を率ひ、別記週間実施要項による感謝報恩の誠を致されん事を切望します。

実施要項

- (一) 聖戦完遂祈願、戦死者慰霊法要執行。
- (二) 前線將士並に傷病將士慰問励行。
- (三) 節米、簡素生活の実施（節米読本参照）。
- (四) 報国貯金の励行（檀信徒家庭にて毎朝全家族の仏壇拝礼を奨励。各自一銭の賽銭を献ぜしめ、以て一銭報国貯金と為さしむ）。
- (五) 神社、寺院、墓所の参拝清掃（特に青少年行事とすること）。
- (六) 檀信徒家庭に於て食事作法を実施せしむること（在家用食事作法参考）。
- (七) 青少年教化、人事相談、銃後相談、児童保育院、託児所、助葬事

業の一を、寺院隣保事業組織化への前提として必ず開始すること

(隣保館開設の案参照)。

(一) 寺院に於ける隣保事業経営に対し所属市町村と提携連絡の上協同計画を樹てること。並に所在地隣保事業の組織及実情を究明し宗務庁社会課に報告すること。

(二) 本宗僧侶は所属町内及部落の五人組、隣組部落常会等に必ず参加、精勤の実践綱に参ずると共に、これが宗教的訓練の分野を指導すること。常会未開設の町内或は部落に於ては常会組織を奨励、開設に尽力すること。

九月二十六日 比叡山無動寺谷大乘院徒弟大律師箱崎文応阿闍梨は北嶺回峯行一千日を満行した。

九月自二十九日至三十日延暦寺戒坦院に於いて、大乘円頓授戒会が厳肅に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 滋賀院門跡 権大僧正 井深観幢

教授師

雙 巖 院 権 僧 正 福慧道暢

十月自六日

法華大会広学暨義が比叡山上大講堂に於いて嚴修された。

臨 監

滋賀県知事 近藤 穰太郎

探 題

延 暦 寺 大 僧 正 孝 永

探 題

曼殊院門跡 大 僧 正 全 珧

己 講

毘沙門堂門跡 権大僧正 慈 鎧

擬 講

滋賀院門跡 権大僧正 觀 幢

会行事

大 乗 院 大 僧 都 文 諦

十月三日 仏教会に巻起された新体制促進の運動に呼応して天台三派合同の要望が高まり、今日午後一時から滋賀院門跡に於て天台三派の当局集合協議会が開催された。先づ塩入総務が座長に推され、同師から三派合同協議会に至る事情を詳細に説明、文部当局の意向も伝えて将来に対する希望を述べた。次で協議に入り相互に意見を交換し茲に天台三派合同協議委員会が成立する事になった。委員には三派の当局々員を宛て、各三派からそれぞれ二名の常任委員を選出して、毎週会

合し相互に三派合同に関する具体的な研究協議等を行う事に決定した。
天台三派協議会の出席者は左の如くである。

本庁当局 塩入総務以下全職員

寺門派当局 執 綱 直林敬範、庶務部長 滋野敬憲、

教学部長 宮城信雅、執 事 中西猷淳

真盛派当局 教務長 長谷川真達、庶務部長 藤田堯暹、

教学部長 武田円信、財務部長 前河実詮、

東京教務出張所長 岩田教円、

宗会議長 福永隆賢、教務所員 塩田貫山

十月四日 昨三日の協議会に於て申合せた三派各二名選出の常任委員
の氏名、本日各当局から夫々本庁総務局宛に通告があり、左の如く決
定した。

天台宗当局 総 務 塩入亮忠、財務部長 荒 真 了

同寺門派当局 教学部長 宮城信雅、執 事 中西猷淳

同真盛派当局 教務長 長谷川真達、庶務部長 藤田堯暹

十月自七日至十一日五日間 財団法人大日本仏教聯合会は、事変以来、軍人援護事業に協力活動をなし、仏教各宗派寺院教会に於ても亦夙に斯の事業の進展に尽瘁して来たが、今回、更に軍事保護院に於て設定された銃後奉公強化運動に対しては、左記「軍人援護に関する勅語奉戴に関する件」及び「銃後奉公強化運動実施大綱」に則り、特に「銃後奉公強化運動中各宗派として実施すべき事項」を実施し、普く檀徒信徒に對して、紀元二千六百年の意義を闡明して一層勵精該運動の趣旨を徹底させ、以て多大の成果を挙げ銃後奉公の誠を效す様切望した。

軍人援護に関する勅語奉体に関する件

趣 旨

時局に即応して銃後奉公の完璧を図るは現下喫緊の要務たるに鑑み、軍人援護に関する勅語を賜わりたる十月三日を記念し、勅語の聖旨を奉戴して大いに軍人援護精神の普及徹底を図り、官民協力以て銃後奉公の完璧を期せんとす。

銃後奉公強化運動

趣旨

光輝ある紀元二千六百年に当り大いに国民精神を作興し挙国一体前線に呼応して興亜の聖業に貢献するは現下喫緊の要務たるに鑑み茲に銃後奉公強化運動を実施し一般国民も傷痍軍人、帰郷軍人、軍人の遺家族も皆共に護国の神靈を仰ぎて其の覚悟を新にし特に昭和十三年十月三日賜はりたる軍人援護に関する勅語の聖旨を奉体して愈々銃後奉公の実を挙げ以て聖業完遂に邁進せんとす。

銃後奉公強化運動中仏教各宗派として実施すべき事項

(一) 本運動期間中各寺院教会に於て説教、講演、講習等開催の場合は本運動趣旨を強調すること。

(二) 本運動期間中可及的戦歿者の追弔法要を営み且墓参をなすこと。

(三) 各寺院門前等の掲示板に軍人援護の趣旨を掲示すること。

(四) 各寺院檀信徒等に対し「兵隊さん有難たう」運動を徹底せしむること。

十月八日 故陸軍砲兵少佐大勲位功四級北白川宮永久王親王殿下の第

五七日御相當に付き、寛永寺一山は法華三昧を嚴修して、謹んで御追福を御祈り奉つた。

尚御当日御拝遊ばされた各宮殿下、御親族の方々は左の如くである。

北白川宮大妃房子内親王殿下

王妃祥子殿下

多恵子殿下

東久邇宮妃聰子内親王殿下

竹田宮恒徳王殿下

以上皇族方御五方。

外に御親戚の方は、

立花種勝殿 同 美年子殿

東園基文殿 同 佐和子殿

小松輝久殿 同 薰子殿

徳川義恕殿 同 寛子殿

伊達冏子殿 徳川 彰子殿

園 祥子殿

北白川宮別當石川陸軍中將、水戸部御用掛、大久保女官、波多野女
官外數名

竹田宮附御附武官

東久邇宮妃御附女官 等三十名余

北白川宮大勲位永久王殿下御中陰法華三昧法則

啓建懺摩之場、御中陰薦福之處、為食受法味隨喜勝會、來儀降臨天神
地祇、當山擁護諸天冥衆、為各威權自在功德圓滿一切神分

般若心經

大般若經名

謹敬白久遠実成能仁善逝、宝塔証明多宝世尊、究竟醍醐一乘妙典普賢
妙德諸大補処身子目蓮諸声聞衆総尽空法界一切三宝境界言

方今

於南閭浮提大日本皇國東叡山輪王寺門室此靈殿恭

奉迎敵陸軍砲兵少佐大勲位功四級

北白川宮永久王殿下

三十五日御忌辰、闔山大衆等抽無二丹誠奉為追薦冥福、建法華三昧嚴儀、其旨趣如何者夫

懺悔六根方法歷淨六塵幻境供養三宝功德深徹三德果海、誠是

解脫六凡之要道証入四聖之玄關

伏惟過去

尊靈

嶠嶽鍾神秀、弥誕分天潢明珠聯宝系榮譽輝竹園

因之

幼冲入學習院進學陸軍幼年學校遂卒業陸軍大學校

加之

天資聰明學兼文武孝心維厚德遍上下生知重典禮舉止契節度

茲今

際會于支那事變勃發邁東亞新秩序建設曩奉大命遙涉滄溟朝銜鳳詔詔軍
略於漢口南京夕翻錦旗運作戰於北支蒙疆

是故

進冒三伏炎熱退凌凜軍艱苦一意報君國百戰同將兵身比於鴻毛輕義負於
泰山重

嗚呼時哉 命哉

天日無光暗雲低迷於蒙疆之空飛機墜地金枝摧折於荒漠之野
一恂是

於戰場空前恨事與萬衆千秋遺憾精忠貫天地壯烈泣鬼神
於是

至尊宸悼廢朝遏密八音非民感激嗚咽充滿四境

猗乎大哉 尊哉

偉勲照千古盛德垂竹帛生參與亞之聖戰薨為護國之神靈

正今

尊影隱雲景仰之念愈切溫容如在敬慕之情無已

依是

鳴醍醐金磬修無上白善蘋蘩之尊不厚法饗之誠維濃

若爾過去

尊靈玄回冥陞不來而來降臨三味道場不受而受遊止寂光淨刹

觀夫

秋風卷梵席白龍景漸暮清露滴宝坦金商氣既至光景適時感応何差

重乞

今上陛下宝祚無窮

仏日增輝法輪常転

皇軍将兵武運長久

戦歿英靈頓証菩提

乃至法界利益周遍

懇願旨切啓陳辞疎三宝証明納受洞鑑垂

十月九日 青蓮院大宸殿に於て、第二百二十八世天台座主青蓮院宮朝彦親王の第百五十回聖忌が久邇宮殿下の御台監を迎ぎ厳修された。

十月十一日 天台三派第二回協議会は、前回の申合に依り、この日午後一時、前記各派選出の常任委員全員、大津市別所園城寺に集合し、開催された。当宗務庁から総務、荒財務部長、都筑録事が出席し、一同打揃て智証大師廟に参拝し、翼賛体制下祈願をなした。

十月十八日 第十六教区に於ては紀元二千六百年大祝禱会並に支那事変忠霊追悼法要を宇都宮市教育会館を会場とし、特請により座主御代理大僧正久田全珧猊下御親修の下盛大に執行した。此の日猊下には午前八時二十分上野駅御発車、随行長清原教学部長、本多随行布教師、北角延暦寺幹事等を随えられ、午前九時五十二分宇都宮駅に御到着、教区長医王院菅原栄海、教区主事、宇都宮警察署長、栃木県社寺課長等の御迎を受けられ、御車で御休憩所小袋町宝蔵寺に御到着された。午前十時五十分教区長の御案内で栃木県庁、宇都宮師団司令部を御訪問、二荒山神社御参拝、寺町生福寺に安置の英霊に御参拝御回向の後宝蔵寺に御帰院され、午後零時五十分再び御出発、会場教育会館に御到着、二階日本間控室に於て御装束の後大衆を随え御入場。左記次第

により厳修された。

紀元二千六百年記念祝禱
皇威宣揚武運長久 祈願大法要

先衆僧参集、二十口、衣鉢素絹五条切袴

次衆僧入堂 午後一時

次大導師入堂 登高座

次三礼

次如来唄

次法則

次勸請

次開經偈

次普門品偈

次後唄

次大導師 下壇仮座

次祝詞 栃木県知事閣下

支那事変戦病歿将士慰靈大法要

先十方念仏 散華

大導師仮座より正面に列立せらるるを見て始経師十方念仏の句を
始む十方念仏終りて大衆平座

次安樂行品偈

次回向 大導師下壇

次大導師猊下御挨拶

次宇都宮師団長閣下御挨拶

次焼香 知事、師団長、宇都宮市長、栃木県仏教聯合会長、遺族総
代、檀徒総代

次大導師退出

次衆僧退出

次講演 本山布教師僧正本多綱祐

閉会の辞 人見貞開

今日の法会の勝縁に随喜した遺族檀信徒は午前中より入場。主なる参

列者は栃木県知事代理、宇都宮師団長代理、宇都宮検事局樫田検事正閣下、宇都宮地方裁判所長、市長代理、塚田宇都宮警察署長、其他各種団体長を始とし教区寺院住職、檀信徒総代、戦死者遺族、宇都宮市出征軍人家族等七百五十余名で、近時稀に見る盛会であり、午後三時二十分無事終了した。猊下は会場より再び陸軍病院を御訪問、院長に御慰問の御挨拶と金一封を献納された。殊に院長の特別なる懇望により大額面を即席に御揮毫献納された。尚講堂に於て傷病兵に対し本多随行布教師の懇篤なる慰問講演があり多大の感銘を与えた。更に宇都宮護国神社参拝、市長舎宅訪問の上宝蔵寺に御帰院御休憩、午後五時四十三分宇都宮駅を御出発、御宿泊所日光輪王寺門跡に向われた。一日中御休憩の御暇も無き御日程にも御疲れの御様子も無く御帰山された。

十月廿二日 天台三派第三回協議会は予定の如く午後一時西教寺門前安養院に於て開催された。当日は特に融通念仏宗当局よりも出席予約中の処、本朝電話があり腹案未だ整わぬ由で不参の旨報告があった。

出席者は左の如くである。

本宗側 塩入総務、荒財務部長、都筑録事、黒田秘書

寺門側 滋野庶務部長、宮城教学部長、中西執事

真盛派 長谷川教務長、藤田庶務部長、武田教学部長、前河財務部

長

尚本日に於ける真盛派当局側の希望意見に依れば、其の後新聞その他の影響に依り宗内の態勢に一致を欠き、従来のままの状態では此の先本会の開会も至難であるので、此際毎木曜日の定期会合を一時休止し、其の間宗内門末檀信徒等の歩調を整え、三派各必要に応じ随時招集会合をなし度い旨の申出があり、両派亦之に同意して散会した。

十月自廿六日
至卅一日六日間 時局布教講習会が比叡山麓讚仏堂に於て教学部主

権で開かれた。廿五日午後三時同所に於て開会式を挙行。参列者約四十名。当局より塩入総務、清原教学部長、都筑録事、塚本社会課長等が出席した。開会式に当り塩入総務が左記諭示を代読した。

諭示

茲に時局講習会開会に当り講習員諸子に告ぐ。惟ふに今次事變の進展に伴ひ国民精神の発露は一億一心となりて東洋平和確立の聖業に邁進しつつあるの秋客月廿七日新に日独伊三国条約の締結に当り、畏くも優渥なる詔書を渙発せさせ給ひ帝国の嚮ふ所を明にし時局に処す可き国民の道を示し給へり。聖慮宏遠恐懼感激に堪へざる所なり。謹んで、聖旨を奉体し粉骨碎身以て奉公の誠を竭す可きなり。吾等宗教教化の任にある者其の責務の重大なるを思ひ益々自律自戒して率先範を垂れ住持仏法鎮護国家の信念を確立し、以て皇運を扶翼し奉らん事を期すべし。

十月卅一日 天台座主梅谷大僧正猊下は、長期の在職且つは非常時局に際会し老軀其職に堪えないとの御理由で、本日辞職された。

探題大僧正久田全珧 在山五か月

本貫 愛知県海部郡高台寺村猪飼彦九郎参男

師主 名古屋市中川区荒子町観音寺住職澳聡全能

昭和十五年十月卅一日 任天台座主

十月卅一日 憲章従典第十四条第一項の規定に依り昭和十五年十月卅一日探題大僧正久田全琰猊下が第二百四十八世の天台座主に就職された。尚、久田猊下の天台宗管長御就任の件は十月卅一日付文部大臣の認可があった。因に久田猊下の伝燈相承式は明年五月頃執行の予定である。

十一月三日 明治節に方り、本日管長大僧正久田全琰猊下は宮内省式部職を経て賀表を捧呈された。

十一月五日 昭和十二年の盛夏東京で他界した独人、ブルノー・ペツオールド氏夫人、(世界的声楽家)ハンカ・ペツオールド女史の供養塔は、同ハンカ夫人の遺言の通り、夫君(仏教学功顕者)ブルノー氏及び令息(工学士)アーノルフ・ペツオールド夫妻に依り、真島全性師が幹旋役と成り、叡岳無動寺谷裳立山の浄地をトしその建設を企画され、漸く之が完成を見たので、この日午前十時より延暦寺執行即真周湛御導師の下、ペツ

オールド氏及び令息アーノルフ氏及同リーゼ夫人参列の上、一山大衆に依つて厳かに開眼供養が執行された。

十一月五日 天台座主久田全珧大僧正猊下は午後二時妙法院門跡に於て塩入総務、即真執行立会、荒財務部長、清原教学部長、都筑録事、黒田秘書及小森延暦寺幹事臨席して、前座主梅谷大僧正猊下より法燈並に事務の引継を終了された。

十一月八日 天台座主久田大僧正猊下は、この日午前十時三十分延暦寺に御到着、滋賀院門跡に於て御入山式を執行された。御入山式に際して座主猊下から左記の御挨拶を賜った。

御挨拶

今回不図も光輝ある法統を継承し主職の重任に就く事と相成り洵に衷心忸怩たる次第であります。

元より学徳共に乏しく其器に非る事は能く自覚致して居りますが吾宗規の命ずる処に従ひ不肖を省みず此重職を汚す事になりました。

時恰も一六〇〇年の佳辰に際会し且つ東亜新秩序建設に国家総力を

挙げて邁進せんとするの時吾等宗徒は上下一致内は特に摩擦を避け
協心戮力以て祖訓を体し大政翼賛の一翼を担ひ臣道の実践を期し、
上、聖明に酬へ奉らん事を希ふものであります。

冀くば仏天の御冥護を祈ると共に各位の御援助の下に此重職を全ふ
せん事を期するものであります。

一言述べて御挨拶に代へる次第であります。

十一月十日 今回二千六百年を機として社会事業、殖産興業、文化風
教などに関し功績ある人々に対し叙位、叙勲、賜杯などの行賞が行わ
れる事になったが、光榮に浴した本宗関係者は左の如くである。

浅草寺住職大森亮順は、夙に社会事業に意を效し、前後二十有五年
に亘り斯業に盡力した廉に依り、藍綬褒章を受賞した。

大円寺住職清田寂坦は、施薬救療事業に携る事二十年克く事業を挙
げ、又岡山県済世委員、県方面委員としての任を竭し、公衆の利益
を興した廉に依り、藍綬褒章を受賞した。

同日 紀元二千六百年に方り、宮城外苑に於て、聖上陛下の行幸を仰ぎ奉り、当日内閣主催に依り式典、翌日同所に於て紀元二千六百年奉祝会主催に依り奉祝会が挙行された。

同日 梅谷猯下は座主職の御資格を以て東京本郷駒込曹洞宗吉祥寺に於ける仏聯主催各宗管長会議に御出席された。

十一月自十一日至十一日 前主職梅谷孝永猯下は、宮城外苑に於ける紀元二千六百年式典並奉祝会挙行に際し特に天台座主の資格を以て参列を許された。

十一月十九日 久田座主猯下は御上任御奉告の為本日午前七時三十分のケ―ブルにより御登山、東塔無動寺谷、根本中堂、西塔、横川の各堂宇に順次御拜堂、同日午後四時無事御帰坊された。

因に当日の随員は塩入総務、即真執行、出口部長、延暦寺幹事、三塔院内役者並に今井(常)、白井両書記であった。

十一月廿二日 本日の臨時一山会議の決議に依り前延暦寺貫首大僧正

梅谷孝永猊下に対し十二月二日午前八時執行権僧正即真周湛、一山會議々長権僧正森川淳契、同副議長福恵道暢は妙法院門跡へ出頭の上、左の頌徳表を捧呈した。

頌徳表

昭和十五年十一月廿二日延暦寺一山會議議長権僧正森川淳契為代一山寺院住持肅啓

前延暦寺貫首大僧正梅谷孝永猊下德行高干内外道心薰干四方昭和二年上任天台座主董督延暦大寺干今十有余年嘗無一日之寧惟經咒恪揚護国済民之祖訓是以列祖之聖蹟頓加尊嚴良嶽之法幢弥增照輝達觀時運大勢洞察宗步弛張夙起馳心祖山興隆夜寐勞力三業說法若夫大小嚴儀復於旧觀祖山本領盛干今日弟子等見仰現前伝戒大和尚於戒壇院則大蘇定裡之雲儼然未散列顯密法筵之序則円覚觀前之雪宛爾仍新或飛錫南北布化東西法雨香風遍干宇内遂至使異邦緇素慕高德遊祖山嘗嚴修祖山開創一千百五十年記念法要也道俗雲集渴仰讚嘆之声盈於三塔

九院檀越喜捨淨財建立堂宇実法悦伏惟曩者 天寵重賜宗祖大師 勅額祖德赫奕宗門榮典何者加之嗚呼仰 天朝之聖眷浴仏天之冥鑑非皆因貌下高風偉德蓋無由致之矣今卒逢授印鑑於後繼自侶雲水弟子等驚愕失措悲齊於喪恃怙顧生平馴慈恩或背諭旨或瀆盛德罪直万死然而貌下寬広其德諄諄誨之不倦欲不感泣而不可得也弟子等自誓今而後永奉垂訓相胥相戒固法華一乘之信究円頓大戒之義以護持法灯仰願貌下法体嬰鑠同於金石法寿連綿一於大椿久垂慈愍茲謹奉文以頌鴻德之万一陳感恩之悃誠弟子淳契恐懼虔白

同日 朝鮮京城南山の東麓に、星野融齋師二十余年間の努力の結晶として、四千余坪の境内地に本堂四十五坪余、庫裡四十六坪余の太子寺が建立され、朝鮮に於ける本宗唯一の寺院として天台の法流を布く事に成ったが、同師は種々の都合で辞任、本山教区恵雲院住職権僧正清原恵弘が兼務住職を特命され、教学部書記雲井泰山を随へ去十一月二十日本山を出発、廿一日午後四時半信徒多数の出迎を受けて太子寺へ

入寺し、翌廿二日晋山式及び信徒へ座主猊下よりの賞状授与式を行い、廿三日から二週間信徒訪問、感謝の挨拶をなした。斯くて十二月八日京城を出発し九日帰叡した。

十一月廿六日 浅草寺住職大僧正大森亮順は渡支した。

十一月廿七日 比叡山上に於て、午後一時から宗務庁並延暦寺主催の下に今回新に大講堂に奉献安置された和氣清麿公並法均尼像に対し、井深滋賀院門跡大導師、一山大衆総出仕により盛大に開眼供養が厳修された。因に、右木像は皇紀二千六百年記念和氣清麿公顕彰会開催に際し浅草寺から献納されたものである。

十二月二日 久田座主猊下は第三十五回宗議会開会式に際し、午後六時四十五分諸員起立敬礼の裡に御臨場、左の諭示を宣せられた。

諭 示

第三十五回宗会開会の式に臨み参集の各位に誥ぐ。

恭しく惟るに紀元二千六百年の嘉辰に方り、聖上陛下優渥なる詔書

を下賜あらせられ肇国の宏遠皇謨の雄深を仰ぎ朝野一体弥よ其の本分を発揚すべき事を諭させ給ふ。聖慮深遠皇恩無窮洵に恐懼感激に堪へざるところなり。

今や聖戰茲に三年有余鴻大なる御稜威の下赫々たる皇軍の武勲に依り興亜の大業著しく進展す。皇威宇内に輝き日独伊三国枢軸提携の強化は世界に於ける皇国の使命に更に一段の重荷を加へ来れり。大陸に日夜勇戦奮闘せる皇軍將兵の労苦洵に感謝竭す所を知らず。

吾等国民の責務愈々重且大なるを痛感す。此の秋に方り吾等教化の任に在る者は時局の認識を一層深くし祖訓に則り高度国防国家に挺身協力し挙宗一心以て時艱克服の範を示して、皇運翼賛に遺憾なからしめ以て皇恩祖徳の厚きに答へ奉らざるべからず。宗教団体法実施に伴ふ宗憲宗規の改正も此新体制に即応して改廃其宜しきを得宗治の敏活寺門の興隆に資すべきものに外ならず。

顧るに前天台座主梅谷孝永大僧正は在職十四年の間銳意宗綱を張り

山規を修め大に僧儀を肅正し治績甚だ挙がる。就中比叡山開創壹千
百五十年記念法要を奉修し祖山の規模を拡張して宗運恢弘の基を固
くす。一代の功業洵に偉大なり。今や宗門の前途尚慈慮に俟つもの
甚だ夥きの秋俄かに去る十月老軀の故を以て辞意を表明さる。老衲、
宗徒と俱に翻意を懇請せるも容れられず。其の職を辞せらる。依て
老衲憲章の定むる処に従ひ法灯を継承するに至れり。

慈に宗務当局に令し宗制並に其の他の必要案件を提出せしめたり。
冀くは諸員慎重審議克く協賛の任を竭さむことを。

昭和十五年十二月二日

十二月三日 第三十五回天台宗議會に依り、前天台座主梅谷貌下に対
しては御在職十有余年今回御退職遊ばさるるに当り宗徒等報恩謝徳の
為に頌徳表を、新天台座主久田貌下に対しては慶祝文を捧呈した。

慶祝文

天台座主大僧正貌下

宗祖伝教大師の正統を相承し憲章の条規に拠り新に天台宗管長天台座主の職に就かせられ教権を総攬し一宗を統理し給ふ猗下徳誉内外に聞え教益上下に遍ねし益々宗門を紹隆し愈々宗運を発揚したまはん時恰も皇紀二千六百年を迎へ朝野一体弥よ皇図の宏遠なるを念ひ翼賛の誠を竭し興亜の聖戦完遂に邁進し、皇恩に答へ奉るべきの秋衲等抃舞恭賀の至りに勝へず益々奉公の至誠を捧げんことを誓ふ。茲に宗会の議決に依り宗徒を代表して謹で慶祝の誠意を表し奉る。

昭和十五年十二月三日

宗会議長 大僧都 山村 光 敏

頌徳文

維時昭和十五年十二月三日 宗会議長 山村 光 敏

依宗会之決議代表一宗謙奉啓前天台座主梅谷大僧正猗下猗下曩上任於山門之棟梁已來閱星霜十四今也後統以得其人禪榮職弟子等不堪銷魂之情茲頌猗下盛徳之万一回想偉績之一端有新感激焉者虔披瀝報恩

謝德微衷恭惟猗下以英俊之天資繼紹山家法統爾來台門之洪基愈肇宗
運益進教學隆昌綱紀振肅天台法燈燦增輝列祖芳躅為加其尊嚴焉是固
雖仰天朝鴻恩弘天冥鑑然又弗不因猗下持匪躬之節始終如一日祖訓體
現惜寸隙之偉德熟惟猗下持自嚴整未徒茲瞻現前大戒和尚恒自胥誠感
奮興起方時應機下教諭勵獎宗侶嚴切如師父莅弟子其誨諄乎如慈母於
赤子末徒齊慎旨无不感泣經營宗門近占盛事祖山開創一千一百五十年
記念大法會道俗雲集渴仰讚嘆之聲滿山溢谷檀越建立大堂而寄進之西
方願王慈光普照加之天朝至仁勅額下乎宗祖祖山光輝坐有追憶開創當
時親所沾於法雨五十萬之縑素均想猗下盛德所致之所以无不感激猗下
不顧高齡飛錫四方大勉宗門宣揚具當辛酸化益為洽內外善隣縑素遂至
婦高風或懇訪祖山或留鍊磨學德偉德瞻仰愈不猗下奉躬極薄積余財設
立梅谷獎德財團以充德行勸獎英才育成社会公益之資真忘己利他之菩
薩行矣天下所不堪乎感荷董延曆大寺每方於國家之大事列祖之祥忌乃
復与所久停大小法儀顯揚山門本領梃井妙門兩室繼師蹟則拮据經營一
新面目以申大孝猗下所專念者 皇謨翼贊祖意弘宣宗風作進行住坐臥

上則 皇恩中則祖德下則衆庶惠沢法謝始終又學解比於蒼海之深戒行
儔於金剛之堅文章之秀麗繼三蘇書法之精妙範二王嗚呼猗下盛德仰之
弥高詢僧林之龜鑑仏家之典型矣天寵荐加非無故也 皇国今也邁進時
艱克服有須道念厚人之功者冀猗下為邦家及宗門矍鑠之法体更加榮保
椿齡之歲永弟子等之上回慈愍之眚恐懼頓首

十二月五日 去十一月廿四日午後九時五十四分、享年九十二歳を以て
薨去された正二位大勲位公爵西園寺公望氏は畏くも国葬を賜わり、近
衛総理大臣を葬儀委員長として東京日比谷公園に於て執行の本日、午
前十一時座主久田大僧正猗下は一山大衆を随え延暦寺本坊内仏殿に於
て、目下宗会参集中の大森、水尾、両顧問以下精查局員、宗會議員、
当局員及延暦寺事務所等全員参列の上追悼法要を厳修した。

十二月十五日 久田座主猗下は宮内省始め各宮家並に關係各方面へ御
就任御挨拶のため三崎財務部長、小森延暦寺幹事、森下随員を随え、
この日午前九時三十七分京都駅発鷗で御東上された。

十二月廿日 帰国報告中の桜井円信開教師は渡支した。

十二月廿四日 大蔵省では昭和十四年法律第七十八号「寺院等に無償にて貸付しある国有財産の処分に関する法律」の規定に基き寺院境内地処分審査会を設置し、寺院境内地の譲与、譲与処分に対する訴願の裁決等を行う場合に此の委員会で審議する事と成ったので、寺院境内地処分審査会に関する勅令案を本日の閣議に附議し承認を得た。この勅令は一月中に公布施行されるが同時に大蔵大臣を会長とする委員が任命される筈である。

昭和十六年^{辛巳}一月六日 昨春以来着々草案起草中の単独宗制も、昨年九月以降の国内情勢の急激な変化に伴い、主務省の指導方針も宗教団体の法に基く単なる宗制々定の範圍を飛越え、原則的に宗祖を一つにする天台宗三宗派の合同要望と成り、一月六日文部省に於いて、河原宗教局長から三宗派当局者へ、合同に関する指示要綱の正式示達があった。次で同廿八日坂本真盛派本山西教寺に於いて、宗教局河村理事官から、同じく三宗派当局者への右指示要綱に関する解説があり、協議等を経て茲に本宗並寺、盛二門三宗派共々歩調を揃え、来る三月末日を目指

し単独宗制に併行して合同宗制の草案に着手する事と成った。
一月八日 年頭拝賀式に際し猊下から左記の御言葉があった。

貫首猊下式辭

今上聖代御十六新春を迎ふるに当り宗徒と共に先づ 皇室の弥栄を
壽ぎ奉り遠く国を離れて東亜共栄圈確立の爲めに身命を堵して活躍
して下さる陸海空軍の將兵に謹みて感謝の意を表し併せて傷痍軍人
の方々の速かに平癒せられん事を祈ると共に国家の爲護国の英靈と
なられた方々の御遺族に対し衷心敬意を表する次第であります。

光輝ある紀元二千六百年を多事多端の内に送りました我国として今
年は一層国民の協心戮力を必要とするものであります。宗徒とし
てもよく今日の世界及日本の情勢を認識して一日も早く円満裡に国
家新体制に即応したる新宗制を制定し一宗の基礎を確立し以て祖山
の興隆を図ると共に寺門各々其機能を發揮して職域奉公の実を挙げ
宗門として僧侶として国家に尽し国策の遂行に協力せなければなら
ぬと思ふ。

諸師宜しく老納の意を体し此の光輝ある時代の一員として相共に奮勵せられん事を希望する次第である。

昭和十六年一月八日

一月十二日 駐劄日本帝国満洲帝国特命全權大使李紹庚氏は本日午後二時参事官山梨武夫、理事官補山本宗次外二氏と共に登山、小森幹事の案内で根本中堂及び諸堂を巡拝され本坊書院で休憩、即真執行の挨拶を受けられ記念揮毫をなし、同三時三十分坂本側ケーブルにて下山された。因に同大使は非常な仏教信者であり、靈山の尊嚴さに一入感じられた由である。

一月廿七日 塩入総務は、転地御療養中の久田座主猊下を第八教区愛知県額田郡岩津町真福寺に御見舞申上げた。

二月七日 二月六日附勅令第百廿号寺院境内地処分審査会官制は、二月七日官報第四千二百廿五号を以て左の通り公布された。

勅 令

朕寺院境内地処分審査会官制を裁可し茲に之を公布せしむ

昭和十六年二月六日

内閣総理大臣 公爵 近衛 文麿

大蔵大臣 河田 烈

二月八日 去二月六日勅令第二百十号を以て公布された寺院境内地処分審査会委員は、翌二月八日官報第四二二六号を以て発令を見たが、本宗からは大僧正大森亮順が委員を仰付けられた。

二月廿六日 天台三宗派合同協議委員会を代表して、塩入総務、三崎財務部長及び寺門宮城教務部長、盛門岩田東京出張所長の四名は、過日の河村理事官西下来坂の答礼に併せ、其の後の三宗派合同協議委員会の経過中間報告の爲上京、主務省に出頭し、諸般打合の上三月一日各帰還した。

三月二日 東京上野輪王寺に於て午後三時故竹田宮妃昌子内親王殿下御壺周忌を迎え、門跡長沢大僧正導師の下一山総出仕の法華三昧を厳修し奉った。

御成りの官方は、

竹田宮恒徳王殿下、同妃殿下、北白川宮大妃殿下、同妃祥子殿下、同多恵子殿下、東久邇宮妃聡子殿下の御六方で、その他別当、事務官、女官等も随行参拝された。

三月十五日 大阪四天王寺が大鉄沿線藤井寺に悲田院を再興して養老事業を開始してから足かけ五年に成るが、今回新たに紀元二千六百年を記念するために同所に育児事業を開設する事に成り着々準備の完成を計って居たが、この程竣工したのでこの日午前十一時から落成式を挙行した。因に同事業所は敷地八〇〇坪、建坪三〇二坪、寮三棟の外に数棟の附属建物があり、収容定員は七〇名で、救護法に依るものとそうでないものとの両者を収容する事になって居り、十三才以下の幼児々童で保護者の無い者、又は之に等しい境遇に在る者は市区町村長、方面委員、各種団体の斡旋で身元証明書並戸籍謄本を持って行けば調査の上収容する事になった。

三月十七日 天台宗三宗派合同案はこの日滋賀院に於ける三宗派合同第七回協議委員会に於て円満妥結し、賛成喝采裡に午後八時五十分最

後的協議委員會を終了した。

記

- 一、天台宗三派合同の件
- 二、天台宗宗制の件
- 三、天台宗派合同に関する協約書の件
- 四、天台宗三宗派合同に関する経費の件
- 五、昭和十六年度予算

三月廿日 昭和九年の台風によって倒壊した四天王寺五重塔、仁王門の再建に尽力した左の者に対して三諦章附大五条の贈与があり、其の功を賞された。

第六教区

権僧正	森田潮応
大僧都	坂本実哲
〃	出口常順
〃	奥田慈応
僧都	塚原徳応

第六教区

僧 都 下和佐宏海

三月廿四日 久田主職猊下（代理滋賀院門跡井深大僧正）は第三十六回宗議會開会式が午後一時二十分挙行されるに当り、御臨場左記の諭示を宣せられた。

諭 示

第三十六回宗會開会の式に臨み参集の各員に誥ぐ。

恭しく惟るに 聖上陛下畏くも曩に優渥なる詔書を渙発せられて皇國の宏遠にして皇謨の雄深なるを諭させ給ひ臣民翼賛の道を昭示し給へり聖慮深遠 聖恩無窮洵に恐懼感激の至りに堪へず。今や皇威八紘に洽く 皇恩六合に垂る。謹みて宝祚無窮 聖寿万歳を祈り奉る。現下皇國は鴻大なる御稜威の下東亜新秩序建設の偉業に邁進し東亜共榮圈確立の聖業に精進しつつあり赫々たる皇軍の武勲烈々たる將兵の勞苦洵に感謝竭す所を知らず。国民の責務愈々重且大なるを痛感す。此秋に丁り吾等教化の任に在る者は更に時局の認識を深め住持仏法鎮護國家の祖訓に則り高度国防國家の建設に挺身協力し

挙宗一心以て時艱克服の範を示し臣道を實踐し以て 皇恩祖徳の厚きに答へ奉らざるべからず。茲に宗務当局に令し時局対応の途を講ぜしむると共に必要なる予算及天台三宗派合同に伴ふ宗制案其他重要案件を提出せしめたり。

冀くは諸員慎重審議し克く協賛の責務を竭さむことを。

三月卅日 久田座主猊下には今春以来御病床に在り其御回復には尚長日を要する見込であるため辞意を表明された。

三月卅一日 宗門多事の際久田座主猊下の其御職務の執行の御困難である実情を拝承し、依って宗務当局は延暦寺事務所当局と合議の上本日右御退職の手續を執行した。

同日 天台宗三宗派合同に関する協約書の件は宗会の賛同を経て布達された。

探題大僧正渋谷慈鎧 在山六年六か月

本貫 岡山県久米郡加美村大字越尾 森定良観次男

師主 同県同郡倭文東村福田下 真光寺住職蓮池慈順

昭和十六年三月卅一日 任 天台座主

三月卅一日 官報に告示された宗制認可及管長貌下御就任の件は左の如くである。

記

文部省告示第五百十四号

宗教団体法第五条第一項の規定に依り天台宗、天台宗寺門派及天台宗真盛派合併に因り左の宗派を設立するの件昭和十六年三月卅一日認可せり。

昭和十六年四月十二日

文部大臣 橋田邦彦

宗派の名称 天台宗

事務所の所在地 滋賀県滋賀郡坂本村大字坂本千七百七十一番の一

文部省告示第五百十五号

宗教団体法第四条第四項の規定に依り渋谷慈鑑天台宗管長に就任の件昭和十六年三月卅一日認可せり。

昭和十六年四月十二日

文部大臣 橋田 邦彦

同日 天台宗設立の件は主務大臣の認可があったから宗教団体法第卅一条に依る天台宗宗制は茲に施行された。

同日 大僧正渋谷慈鑑親下は総本山延暦寺住職に御就任、第二百四十九世天台座主に御上任された。

大僧正田中道淳親下は天台宗宗制第五百二十三条に依り総本山園城寺第五百五十九世長吏に御就任された。

大僧正西村問念親下は天台宗宗制第五百二十三条に依り総本山西教寺第三十七世貫首に御就任された。

探題権大僧正渋谷慈鑑猊下は旧三宗派管長の推薦に依り本日附を以て天台宗管長に御就任、同時に宗制第三百十八条に依り大僧正に御昇級された。渋谷管長猊下は御就任に当り左記の教諭を宣せられた。

教諭

曩に宗教団体法の実施せらるるや天台宗、天台宗寺門派及天台宗真盛派は時局の重大と立教の本旨とに基き三宗派合併の時機相応せるを認め各其宗会に提案して天台宗合同委員会を設置し審議を重ねたる結果天台宗の設立及天台宗宗制の成案を了したり。依て各其宗会の議決を経昭和十六年三月卅一日を以て文部大臣の認可を得たり。仍て之を一宗に布達す。

惟ふに世界の大局愈々重大にして東亜の情勢益々多端なり国運隆替の岐るるところ係って一に民心の趨嚮に存す教家の責務重きこと今より大なるは莫し。天台宗三宗派亦宗制を制定して一宗に還り新に天台宗と称す。蓋し立教開宗の真意に基き非常時局に対応して宗門

の機構を革め体制を整へ教化機能を高揚して協力奉公の赤誠を效さんとするに存す。誠に是れ宗門未曾有の革新なり。

此の秋に方り小職菲徳を以て叨りに天台の法統を継ぎ推されて天台宗管長の任に就く。其の任甚だ重く其の責孔大なり。依て専ら宗務当局を督して宗門将来の大計を立てしめ三派統合の実を挙げ祖風を顕揚して国運の隆紹と宗勢の発展に努め以て其責を尽さんことを期す。希くは闡宗の同法縑素世局の変遷を察し速かに陋習を蕩滌し大道に堂徹して俱に忘己利他の祖訓を實踐して正法護国の宗意を恢弘し以て天業を翼賛し罔極の皇恩に報い奉らんことを望む。

昭和十六年三月卅一日

天台宗管長大僧正 渋谷 慈 鑑

宗務総長権僧正 塩入 亮 忠

四月一日 宗教団体法が実質的に発動する昭和十六年の四月一日を期し神道各教及び仏教各宗派は一派も余さず卅一日迄に教規（神道）、宗制（仏教）の届出を為したが、卅一日の日付を以て文部大臣より全部認可

され、この外新たに宗教団体としての資格を得るに至る様未認可の教団も何れ数日中には認可の指令に接するであろうが之を機として同一宗派内の合同へと進み（神道十三派はそのまま）仏教に於ては旧来十三宗五十六派あつたものが一挙にして十三宗二十七派に半減し我が国仏教史上劃期的な新分野を拓いたものと見られる。

四月四日 聖上御衣は滋賀県庁から自動車で出口教学部長、北角幹事護持、県社寺兵事課長中井善一事務官及大津警察署長同乗警衛のもと、附近学校生徒及町民奉迎裡に午前十時半延暦寺本坊に到着、同十一時半のケーブルで細雨烟る根本中堂宝前に奉安された。尚宗務庁より都筑録事等が参列した。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度御修法は、比叡山根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、鎮將夜叉大法を虔修して、玉体安穩、宝祚長久を祈り奉った。

四月十一日 去る四月四日夕座より根本中堂に於て奉修中の御修法は本日昼座を以て結願し奉り、午後一時 御衣を滋賀院門跡に仮奉安の

上、同夜十時四十六分大津駅発で渋谷主職猥下が御衣を捧持し東上した。出口教学部長、北角延暦寺幹事が随行した。

四月十四日 宮幣大社日吉神社の恒例大祭が執行され、古例に準じて午後二時から天台座主の正式参拝があった。因みに座主猥下は御東上中であるから即真執行が御代理と成り参拝した。

四月十五日 御修法御衣奉還の爲め御東上中であつた座主猥下は無事御帰山された。

四月十九日 渋谷座主猥下は本日午後一時即真執行、北角幹事を随え、京都御所御駐輦中の皇后陛下の天機奉伺のため参内された。

座主猥下は本日妙法院門跡に前天台座主梅谷大僧正を御訪問、就任の挨拶をされた。

四月廿日 皇后陛下は関西行啓の御予定を滞りなく終えられ本日大津駅を御通過遊ばされるので、管長座主猥下は北角幹事を随え、御奉送申上げた。

四月廿二日 大阪四天王寺に於て、聖徳太子千三百五十年聖霊会法要

が座主猊下の御臨席、延暦寺一山大衆並四天王寺一山僧衆出仕の下に盛大に嚴修された。

四月廿四日 泰、仏印停戦協定条約の成立を見、帰国の途にある泰国内閣主席全権ワラワン殿下一行が御登山、根本中堂始め諸堂を御巡拝後、京都側に下山された。

四月廿五日 靖国神社臨時大祭が行われる、国民黙禱の時間午前十時廿五分を期し、滋賀院に於て一山大衆総出の下に法要が修行された。

四月廿六日 去る四月十日六十七才で遷化した本山宝珠院住職故奥野玄順大行満の本葬儀は、午後一時から無動寺谷宝珠院に於て、座主猊下御導師の下一山大衆出仕して嚴肅裡に執行された。

四月廿七日 前天台座主久田大僧正の御病氣御見舞旁々就任の御挨拶のため、座主猊下は即真執行、小森幹事を随えられ三河真福寺を御訪問された。

同日 満洲国仏教同願会訪日視察団一行が登山、諸堂を参拝さ

れた。

四月廿九日 新天台宗初代内局の任命式はこの日滋賀院門跡に於て午前十時挙行された。因に新天台宗宗務本庁役員名は左の通りである。

宗務総長 僧 正 塩 入 亮 忠

旧天台宗総務

参 務 僧 正 藤 田 堯 暹

旧天台宗真盛派教務長

参 務 僧 正 宮 城 信 雅

旧天台宗寺門派教学部長

財務部長 権僧正 三 崎 良 泉

旧天台宗財務部長

庶務部長 権僧正 中 西 猷 淳

旧天台宗財務部長

社会部長 権僧正 十 河 泰 隆

旧天台宗真盛派宗會議員

教学部長 大僧都 出 口 常 順

旧天台宗教学部長

録 事 大僧都 都 筑 玄 妙

旧天台宗録事

出張所長 権僧正 神 田 尚 順

旧天台宗出張所管事

同日 天長節に方り、本日管長大僧正渋谷慈鑑猊下は宮内省式部職を経て賀表を捧呈された。

五月一日 前天台座主梅谷大僧正猊下は昨秋より御病気で御静養中の処、此の程久邇宮家から御見舞の菓子を御下賜になった。

五月六日 旧天台宗寺門派宗務所から宗務本庁への宗務の事務引継は、宗務本庁に於て宗務総長、各部長、掛員立会の上完了した。

五月九日 天台座主渋谷大僧正猊下は出口教学部長、大角幹事を随え、午前十時二十分京都山科毘沙門堂門跡を御出門、同十一時塩入総長、即真執行、各部長、延暦寺各幹事、天台宗務本庁各職員、延暦寺一山在山住職者、延暦寺事務所職員、専修院、叡山学院職員生徒等の奉迎

を受けられ午前十一時延暦寺に御到着、仮御入山式を挙行された。

五月十一日 塩入宗務総長は御療養中の久田大僧正猗下御見舞のため愛知県真福寺に参上し、同日帰庁した。

五月十三日 渋谷大僧正猗下は天台宗管長並に天台座主に御就任されたので御機嫌奉伺旁々御礼言上並に諸官庁、伝教大師奉讃会並に関係各方面に対し御挨拶のため、午前八時五十五分大津駅発列車で塩入宗務総長、大角延暦寺幹事其の他の随員を随え、御東上、左記の通り参殿又は御訪問され、御予定通り御用を御済ませになり、十六日午後八時五十二分京都着列車で無事御帰山された。

記

五月十四日、十五日

天台宗管長の御資格を以て

宮中

大宮御所

東宮御殿

文部大臣、文部次官、宗務局長、宗務課長荻野仲三郎、酒井忠正伯、三井同族会

天台座主の御資格を以て

秩父宮御殿を始め各宮殿下御殿

柳原御局邸、近衛公爵邸、宮内大臣、宮内次官、侍従長、侍従武官長、広幡皇后宮太夫、入江皇后宮事務官、宮内省総務局長、徳川公爵邸、原嘉道子爵邸、岩崎家、高島家

五月廿八日 総本山園城寺に於て、園城寺金堂で長吏田中道淳大導師の下合同報告法要が厳修され、宗務本庁より、塩入宗務総長、参務、各部長、録事が参拝した。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて午前十時から、座主猊下御証義の下厳修された。

六月七日 宗務総長僧正塩入亮忠は渋谷管長に辞表を上呈した。

六月十八日 京都市東山区粟田口三条坊町青蓮院旧仮御所は史蹟天然

記念物に指定された。

六月十九日 総本山西教寺に於て、西教寺祖師堂で貫主西村岡念大導師の下合同報告法要が厳修され、宗務本庁より、塩入総長、参務、各部長、録事が参拝した。

六月廿四日 大阪、鳥井氏案内のもと、風間前司法大臣他三名が登山、近衛公のため一百日間の御祈禱を依頼され、午前十時から根本中堂に於て渋谷座主猊下御導師の下その初日奉修があったが、一行はそれに参拝の上、書院に於て中食の後下山された。

六月廿六日 旧天台宗真盛派教務所の事務引継は宗務本庁に於て宗務総長、各部長、掛員立合の上完了した。

六月卅日 明德院住職中山玄秀は毘沙門堂門跡に任命された。

七月一日 大僧正大森亮順は宗務総長に任命された。

七月八日 大森宗務総長外各部長、録事は三総本山に参拝して、就任の挨拶をした。尚この日塩入前宗務総長、外各部長、録事は三総本山に参拝退任の挨拶をした。

新任宗務本庁役職員名簿

宗務総長	大僧正	大森亮順
参務	僧正	藤田堯暹
参務	僧正	宮城信雅
庶務部長	僧正	青木道晃
社会部長	権僧正	武藤舜応
財務部長	権僧正	中西猷淳
教学部長	権僧正	十河泰隆
録事	僧都	木下寂元

七月廿三日 昭和十六年七月廿一日、廿三日の関東地方風水害による被害教区へ本庁から見舞状を発送すると共に被害寺院に対し左記の如く見舞金一封を呈した。

第十六教区（三十八箇寺）

城固寺	東光寺	龍正寺	常光寺
昌福寺	正寿寺	龍金寺	神光寺

西	福	寺	高	福	寺	真	城	寺	円	勝	寺
善	光	寺	長	寿	院	德	星	寺	隆	星	寺
東	光	院	普	明	院	常	蓮	寺	南	陽	院
滝	水	寺	勝	蔵	院	泉	倉	寺	光	明	寺
多	聞	院	福	満	寺	歛	喜	院	西	福	寺
西	光	寺	東	大	寺	西	定	寺	最	勝	寺
本	明	院	宝	泉	院	円	林	寺	東	光	院
光	明	寺	安	養	寺						

第十九教区（二箇寺）

如意輪寺

第二十一教区（七箇寺）

正	法	寺	妙	林	寺	永	蔵	寺	法	光	寺
宝	蔵	寺	日	輪	寺	円	寿	寺			

七月廿九日 大森宗務総長は大政翼賛会調査委員を依嘱された。

七月卅一日 本年四月満洲国仏教総会から日本仏教の現状見学のため

一年間比叡山、高野山、永平寺の三山を巡回留学を命ぜられ来朝した六名の留学僧達は、第一回交換のため、高野山及び永平寺からそれぞれ代表者引率の下に比叡山に集合、交歓の後分班離山した。因みに比叡山住山の留学僧は左の如くである。

超然 新京護国般若寺 廿八才

明達 同 廿七才

八月四日 東京上野輪王寺門跡に於て午後三時、故北白川宮永久王殿下御一周忌を迎え、長沢大僧正導師の下一山総出仕で光明供錫杖を厳修し奉った。

御当日御成りの宮様方は、

竹田宮妃殿下

北白川宮大妃殿下

北白川宮妃殿下

の御三方で、外に立花美年子殿、徳川義恕殿、徳川寛子殿、園祥子殿及び別当、事務官等が参拝された。

八月自五日至九日五日間 比叡山延暦寺主催、大阪毎日新聞社後援で、比叡山上大宿院を会場として比叡山夏期宗教大学が開かれた。

講師並講題

日本仏教の特色

大正大学教授
文学博士

椎尾弁匡師

鎮護国家

顯真学苑長

梅原真隆師

唱題生活の妙味

立正大学教授

馬田行啓師

日本仏教と禅

臨済宗大学々長

後藤瑞巖師

国史に於ける叡山の功績

京都帝国大学教授

中村直勝氏

生物と比叡山

京都帝国大学教授

川村多実二氏

日本精神と外国文化

文学博士

谷本 富氏

法華經の三宝

比叡山専修院長

田村徳海師

大政翼賛と叡山の仏教

比叡山専修院教授
大谷大学講師

山口光円師

信仰座談

天台宗本山布教師

浜中光暢師

叡山学院講師

古川英俊師

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山吉祥院住職佐井紀皎覚は戸津説法を勤仕した。

九月五日 奈良県吉野郡吉野町金峯山寺住職修驗道管領長尾寂泉は病氣のため辞職したので、埼玉県吉祥寺住職権僧正三崎良泉が後任に転任職特に申し付けられ、新管領に就任した。

九月自廿六日 第三回本庁報恩感謝週間が実施された。

実 施 要 項

(皇紀二六〇〇年を記念して実施されたもの)

- 一、興亜大業完遂祈願会、戦死者慰霊法要執行
- 一、傷病将士並軍人遺家族慰問
- 一、合掌運動の励行
- 一、隣組常会布教の実施
- 一、護国道場開設
- 一、子供隣組の結成

九月廿一日 予て新京天台宗比叡山延暦寺別院内に設立されていた蒙古実務学院は既に第五期の卒業生を送り、東亜の各地区に亘り蒙古民族としての重要な役割の一を果しつつある現状である。而して目下第六期生の教育中であるが今回満洲国当局の補助金の下附を蒙り且蒙民

厚生会及び蒙民裕生会の後援の下に収容人員四十名の教室二室を有する校舎一棟の増築が完成し、盛大な落成式が挙行された。

九月廿二日 本庁報恩感謝週間行事の一として、大津臨時陸軍病院に白衣勇士を慰問した。午前九時武藤社会部長慰問の辞に引続き古川英俊布教師の慰問講演があり、十時半から天台宗知名の師の臨場を仰ぎ、勇士の需に応じ色紙、短冊に揮毫をなした。

九月廿三日 本庁報恩感謝週間行事の一として、国禱会を根本中堂に於て執行し、慰靈法要を阿弥陀堂に於て厳修した。

九月末 満洲国留学僧四名は三箇年の予定で派遣され、比叡山中学に入学し、予備科で教育を受けることとなり、比叡山戒蔵院に留錫した。因みに、本宗に留学中の留学生は現在十七名を数える事となった。

満洲国僧

九名

一名 大正大学在学中
八名 比叡山中学在学中

蒙古喇嘛留学僧五名

四名 比叡山中学在学中
一名 比叡山無動寺建立道場在学中

蒙古人

三名

比叡山中学留学中

尚比叡山無動寺建立道場には他に朝鮮僧三名が留学中である。

本宗多年の満洲留学僧訓育に対し、満洲国仏教総会長釈如光法師は今回左の如き感謝の熱意を籠めた書簡を宗務総長宛に送られた。

敬啓者滄波雖遠一葉可通

発字睽違停雲在望前者敝会派遣僧侶前赴貴寺参学既蒙

鼎力玉成復承

熱心指導本仏陀度生之宏願依宗教提携之精神厚誼隆情感荷奚似今後

尚祈

時錫教誨俾有成就是为至禱專肅伸謝順頌道綏

満洲国仏教総会長 釈如光 和南

十月一日 国家の非常時体制に即応し、国民挙って臨時態勢を整え、不動の信念を以て奉公の誠を致そうとする時に当り、管長猊下は特に教諭を発して宗徒の嚮う所を示された。

教 諭

惟ふに宗祖伝教大師鎮護国家を旨として日本天台の一宗を弘め吾等

法孫亦祖意を承継して道心の啓培に努む偏に是れ護国済人の為なり。今や我が国世界情勢の激変に応じ東亜新秩序の建設を期し国家総力戦の体制を立つ。洵に国運隆替の判るる所曠古の非常時局なり。皇国臣民齊しく私を捨て己を忘れ身命を捧げて奉公報国の誠を竭す正に此の時に在り。

況んや護国済人を宗とし大師の法流を汲む吾等法孫は深く思を宗祖の彝訓に致し自ら肅み衆を導き率先身を挺して 皇国臣民の大義を実践躬行し以て 天業を翼賛し奉らざるべからず。

闍宗の宗徒須く心を一にし力を協せ時艱克服に邁進せんことを望む。

昭和十六年十月一日

天台宗管長 大僧正 渋谷慈鎧

宗務総長 大僧正 大森亮順

十月一日 天台宗三宗派が合同し、新宗制が發布されて最初の宗会議員総選挙は左記区割により、執行された。

延暦寺法流選挙区域

第一選挙区

三人

第一教区(滋賀県)

第二教区(京都府)

第三教区(大阪府、和歌山県、奈良県)

第十教区(三重県)

第四教区(兵庫県)

第二選挙区

三人

第五教区(岡山県)

第六教区(広島県、山口県、鳥取県、島根県)

第七教区(徳島県、愛媛県、高知県、香川県)

第八教区(大分県、宮崎県、鹿児島県)

第三選挙区

二人

第九教区(福岡県、佐賀県、熊本県、長崎県)

第十一教区(岐阜県、愛知県、静岡県)

第十二教区(福井県、石川県、富山県)

第四選挙区

二人

第十三教区(長野県、新潟県)

第十四教区(神奈川県、山梨県)

第五選挙区

四人

第十五教区(東京府)

第六選挙区

三人

第十六教区(千葉県)

第十七教区(埼玉県)

第十八教区(群馬県)

第七選挙区

三人

第十九教区(茨城県)

第二十教区(栃木県)

第八選挙区

二人

第二十一教区(福島県)

第二十二教区(宮城県、岩手県、青森県、北海道)

第二十三教区(山形県、秋田県)

園城寺法流選挙区域

第一教区(滋賀県)

第十教区(三重県)

第十一教区(岐阜県、愛知県、静岡県)

第十二教区(福井県、石川県、富山県)

第一選挙区

一人

第十四教区(神奈川県、山梨県)

第十五教区(東京府)

第二選舉区

一人

第十六教区(千葉県)

第十七教区(埼玉県)

第十八教区(茨城県)

第十九教区(長野県、新潟県)

第二十教区(群馬県)

第二十一教区(栃木県)

第二十二教区(福島県)

第二十三教区(宮城県、岩手県、青森県、北海道)

第二十四教区(山形県、秋田県)

第二十五教区(京都府)

第二十六教区(大阪府、和歌山県、奈良県)

第三選舉区

一人

第二十七教区(兵庫県)

第二十八教区(岡山県)

第二十九教区(広島県、山口県、鳥取県、島根県)

西教寺法流選舉区域

第一選挙区 四人

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---------------------|--------------------|------------------------|------------------------|---------------|---------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------|---------------|------------------------|---------------|---------------|
| 第十五教区
(東京府) | 第十四教区
(神奈川県、山梨県) | 第十三教区
(長野県、新潟県) | 第十二教区
(福井県、石川県、富山県) | 第十一教区
(岐阜県、愛知県、静岡県) | 第十教区
(三重県) | 第九教区
(福岡県、佐賀県、熊本県、長崎県) | 第八教区
(大分県、宮崎県、鹿児島県) | 第七教区
(徳島県、愛媛県、高知県、香川県) | 第六教区
(広島県、山口県、鳥取県、島根県) | 第五教区
(岡山県) | 第四教区
(兵庫県) | 第三教区
(大阪府、和歌山県、奈良県) | 第二教区
(京都府) | 第一教区
(滋賀県) |
|----------------|---------------------|--------------------|------------------------|------------------------|---------------|---------------------------|------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------|---------------|------------------------|---------------|---------------|

- 第十六教区(千葉県)
第十七教区(埼玉県)
第十八教区(群馬県)
第十九教区(茨城県)
第二十教区(栃木県)
第二十一教区(福島県)
第二十二教区(宮城県、岩手県、青森県)
第二十三教区(山形県、秋田県)

十月二日 昭和十六年十月一日、二日、西日本風水害に際して宗務本
庁から第六、七、八、九各教区全寺院及檀信徒に対し不取敢見舞状を
発送すると共に調査の結果左記被害寺院に対し見舞金一封を呈した。

西日本風水害調(六、七、八、九教区)

教区

被害状況

寺院名 氏 名

六 門番所小屋半壊、本堂少々

観音院 田 尻 光 暢

板塀樹木倒壊、屋根瓦破損	大雲院
本堂並鐘樓堂破損	万灯寺
本堂庫裡全部流失	天念寺
田地荒廢並浸水、参道崩壊	靈仙寺
境内、田畑、参道流失	両子寺
田地六畝十一歩荒廢	実相院
山林三段決潰、田九畝二歩流失、復旧見込なし。田五畝二歩埋没復旧五年	神宮寺
観音堂大破、小屋、田畑流失若は崩潰	応曆寺
田二段歩復旧見込なし、二段歩半作	清浄光寺
田一畝、四畝十九歩、一畝十七歩流失、復旧見込なし	千灯寺
山林五畝流失、復旧見込なし田五ヶ所流失	大万坊
宅地十坪、田二畝二歩五割流失、田三步全部流失、田四畝十三歩流失、田四畝三步七割流失、何れも復旧見込なし	成仏寺
護摩堂床浸水の為落つ、小作田相当の被害を蒙る	岩脇寺
田二段十六歩、畑三畝六歩、参道二十間水害	行入寺

大雲院	黒田真良
万灯寺	桑原正道
天念寺	青山映道
靈仙寺	寺田豪舟
両子寺	青山聖覚
実相院	虎熊文城
神宮寺	大嶽順道
応曆寺	上園澄尊
清浄光寺	今熊豪開
千灯寺	松岡澄善
大万坊	安部順徹
成仏寺	郷司賢静
岩脇寺	行入寺
行入寺	隈井文道

田三段皆無、五畝流失、復旧見込なし、三畝
流失 崇福寺 土谷 映任

田四畝二三歩皆無、田八畝二十一步五割程度瑠璃光寺 藤園 豪賢

本堂庫裡大被害 万福寺

本堂庫裡浴場破損 大安寺 近藤 映勝

本堂庫裡倒壊 実相坊 脇山 慶舜

本堂廊下山門屋根破損 岩蔵寺

護摩堂、庫裡破損、立木倒木 宝地院 倉永 円海

本堂庫裡屋根破損 月明寺 堤 澄慶

本堂庫裡破損 真源坊 伊藤 伝伍

立木破損 妙覚寺

妙観院

西持院 瀬戸 円慶

護摩堂大破 別当坊 中村 清心

本堂大破 本蔵院

本堂庫裡破損、立木倒木 宗栄寺 今林 定俊

〃 〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃 〃

十月四日 臨時事務局成立後に於ける一宗臨戰活動の最初として、十月四日夕座から六日日中座に渉る二夜三日間、比叡山根本中堂に於て臨時御修法を奉修して、玉体安穩、宝祚無窮を懇禱した。勤仕者は左の如くである。

大阿闍梨

天台座主大僧正

護摩供

滋賀院門跡 大僧正

十二天供

正觀院 權大僧正

聖天供

輪王寺門跡權大僧正

神供

三千院門跡 僧正

燒錢供

円教院 僧正

吉祥寺 山崎 智孝
独鈷寺 松沢 定本
大日寺 平野 教学
海雲寺 平野 靈樹
種因寺 井上 亮俊

鉦 鐃

大覺寺 僧正

一音院 僧正

毘沙門堂門跡 僧正

伝供

觀樹院 權僧正

同

円乘院 權僧正

十月五日 比叡山々上宿院に於て正午から、宗務本庁主催の布教師会
が左の如く開催された。

正午

御法樂(大講堂)

午後一時半

教諭(書院) 訓示(宗務総長)

指示事項(教学部長)

午後二時より四時まで

協議(宿院)

協議案 臨戦態勢特別布教の件

出席者 浜中光暢、半田孝海、浜名徳潤、山口光田、出口常順、水

谷教章、田口裕順、藤田道貫、市原広界、瀬瀬澄順、奥田

慈応、落合寛茂、穴穂行満、三崎良泉、小作貞準、田村貫

雄、国光晋道、片岡順道、鈴木堯徳、小笠原観念、青峯良
晶、松山行慶、砂原円長。

十月六日 臨時御修法結願の六日、午前十時から戦勝祈願の大国禱会
が比叡山文殊楼上に於て厳修された。同国禱会で修された八字文殊秘
法は慈覚大師が相伝将来されたもので数度の国艱に際し奉修された事
がある。渋谷管長猥下御導師の下に宗務本庁役職員、教区宗務支所長、
宗會議員、本山布教師等全国から参集した衆僧が奉仕し、冽々たる願
意を凝めて転読される大般若六百巻の法音は、敵国降伏の感激となつ
て、参拝諸員の胸を打ち盛儀を極めた。この国禱会に際して、伝教大
師奉讃会長近衛文麿公は同会理事荻野仲三郎博士を派して、左記の如
き奉讃文を代読させられた。

天台宗国禱会祈願文

宗祖伝教大師は一千百五十有余年の昔、桓武天皇の明詔を畏み鯨波
を凌て大陸に渡り教学の真諦を会了して帰朝し比叡山延暦寺に居し
て宗を立て内には開顕実相の大乘を敷き外には鎮護国家の大施を翳

し以て平安新政の皇謨を翼賛し奉れり。爾來嫡々相承師資相契して今日に及び日本仏教の一大根幹をなすに至れり。其の間時に隆替なきに非ずと雖も歴代朝廷の崇敬愈々深厚にして他に異なるものあるは畢竟本寺が、天子本命の道場として幾多の勅会を嚴修し来りたるに因由するものなり。従て一朝国家非常の変事に際しては国界守護の祈誓を捧け国難消滅の懇祈を凝らすは満寺総衆の負荷にして是れ即ち宗祖の提奨に相和すところなりとす。茲を以て文永弘安の間蒙古の襲来するや異国降伏の秘法を修せしこと一再ならず。又幕末嘉永年間異国船我が辺土に迫るや勅に依りて天下静謐の大法を嚴修し近くは日露の役起るに及んでは文殊楼に於て怨敵調伏の秘法虔修せられたり。今や世界は挙げて動乱の渦中に在り我国は夙に東亜の安寧と新秩序の建設に邁進し皇軍は高く大義の旗幟を掲げて随處に赫々の武勲を輝かせり。然れども此の間猶聖戦の本旨を解せず徒に抗争蠢動するものあり。或は東亜共栄圏の攪乱を企図して我が行動を阻止せんとするの国ある等四囲の情勢頗る錯雜且つ緊迫せるものあり。

茲に於てか天台一宗を挙げて山上の文殊楼に大国禱会を開き古制に則りて伏敵の大法を嚴修し以て国難の打開を懇禱せんとするは寔に時宜適切の行事と謂はざるべからず。

抑も文殊楼は慈覺大師の本願に拠りて貞觀十八年勅許を得て創建せられ本尊文殊菩薩の像を安置し大聖の応化によりて国家を鎮護し黎庶を利益せんとせるものなり。爾來國家擁護の道場として一宗尊崇の靈閣たり。而して創立ここに一千六十有余年國家非常の時局に際会して大聖文殊菩薩の感應を仰ぐや切なるものありと謂はざるべからず。惟ふに今日の嚴儀たるや一日にして熄むべきものに非ず。一宗の縑素常住不斷の信念を凝結して一味同心國難に処して不退轉の決意あるを要す。時局は正に重大なり。満山の僧衆宜しく内に愈々法華一乗の信仰を固め外に益々國威宣揚の大願を成就せんことを冀ひて歎まず。

茲に國禱の大会を嚴修せらるるに當り虔んで讃仰の微忱を表し奉る。

昭和十六年十月六日

伝教大師奉讃会長 公爵 近衛 文麿

十月十日 臨時教師鍊成規程が定められ布達された。

十月^{自十三日}至^{自十一日} 大津市総本山園城寺山内円満院門跡に於て第一回中央

教学講習会が開催された。講習は鍊成を目的とし、起居動作等厳格に行い修了者は卅名であった。因みに講師は、岩田教円、中村直勝、裕慈弘、梅原真隆、宮城信雅の五師であった。

十月十二日 北支済南に建立された浅草寺観音堂の本尊開眼並に落慶法要執行と併せて北京出張所視察の爲、塩入前総長は随員を滞同渡支し、同月廿八日帰庁した。

十月^{自廿三日}至^{自廿四日} 時局下教化活動の第一線部隊である四十歳以下の本宗教師に、臨戦態勢下の明確な時局認識を与え、教師の本分遂行に挺身す可き覚悟を促す臨時教師鍊成会実施に関しては、廿三、四日の両日、宗務本庁に於て鍊成指導員の打合会を開催、鍊成目的、指導理念、実践要目、鍊成心得等の鍊成要項と、各指導員担任教区とを決定、各指導員は直ちに担任教区宗務支所長と緊密な連絡を保ち、鍊成会実践の

計画並に実施を致すことになった。

本錬成会は將に活潑な一宗護国運動展開の劈頭に実施される全教師殉国精神高揚の一大運動であり、その成果を期して待つため、臨時事務当局は本錬成に関し相当額の経費を投じ錬成費を本庁負担とするほか、宗務総長名を以て、四十歳以下の全教師に対し、前例のない錬成会参会令書を交付して、病氣以外の理由による欠席を認めず、特に全員参会錬成をうける様厳達された。尚本錬成会は遅くとも本年一杯に各教区とも実施を了り、これによって覚悟を新にした教師により、敬服す可き実行力を以て明春早々より華々しく護国運動が展開されることが期待され、当局に於ても各教師の活動に備えて護国運動指令並資料を本年内に各教師に配布する様準備を急いだ。

臨時教師錬成指導員会打合事項。

一、臨時教師錬成会実践要項

二、錬成日程案

三、護国運動趣旨

四、護国運動大綱

五、同 本年度指令

臨時教師鍊成指導員

一教区	滋賀県	権大僧都	赤松	円瑞
三教区	大阪府	大僧都	大西	円照
三教区	大阪市	大僧都	出口	常順
四教区	兵庫県	僧都	幹	覚盛
六教区	島根県	権僧正	山村	光敏
七教区	香川県	権大僧都	青峯	良晶
八教区	三重県	僧正	砂原	円長
十教区	三重県	権大僧都	萩野	性本
十三教区	長野県	僧正	半田	孝海
十五教区	東京市	大僧都	黒田	亮文
十五教区	東京府	権大僧都	高木	亮範
十五教区	東京市	僧都	今井	祐申

十七教区	埼玉県	権大僧都	大島	見道
十七教区	埼玉県	権少僧都	坂戸	公隆
十八教区	群馬県	権大僧都	千葉	照源
十九教区	茨城県	権大僧都	黒田	坦海
十九教区	茨城県	大僧都	落合	寛茂

臨時教師鍊成会実践要項

目的

教師鍊成会は肇国の精神に基き本宗教師をして嚴肅なる行的生活を通じて臨戦態勢下に於ける教師の本分を自覚し率先垂範以て護国運動に挺身せしめんとす。

指導理念

一、吾等宗徒は国体の本義に則り、天業翼賛の使命に徹し、本宗教師、全個一体となり、現下皇国の聖業たる大東亜共栄の完遂を期し、挺身奉公の赤誠を效さんとする。

二、吾等宗徒は、管長の教諭を体し、時局下に於ける教団の実状に

鑑み、旧弊一擲自肅自戒、守護国家住持仏法の祖意を恢弘せんとす

実践要目

- 一、尽忠報国 凡ゆる生活行動は至誠を以てすべし
- 一、敬神崇祖 神明を敬ひ祖先を崇め敬虔なる心を持すべし
- 一、篤敬三宝 三宝礼拝如法たるべきこと
- 一、礼節和合 師長を敬ひ同侶相信じ和氣霽々たるべし
- 一、捨我精進 悪事を己に向け好事を他に与へ進んで下座の行をなすべし
- 一、知足謝恩 感謝報恩の念に住し苟しくも不満の態度あるべからず
- 一、規律節制 旺盛なる気魄を藏し規律を厳守し指導者の命に悦服すべし
- 一、不言実行 不要の言を為さず黙々事に当るべし

十一月十五日 管長猊下は左の如く全国の主要都市を御巡教、淳々と

時局の重大性を御説示、懇に日本臣民としての僧俗の嚮ふ所を諭され
た。

十一月十五日 午後一時

東京 寛永寺 本 多 綱 祐 近教区寺院住職並教師檀信徒 約六百人

十一月十六日 午後一時

東京 浅草寺 本 多 綱 祐 同 約六百人

十一月十九日 午後一時

大阪 四天王寺 蛭 薙 詮 順 同 約千二百人

十一月廿二日 午後一時

福井 引接寺 蛭 薙 詮 順 同 約千二百人

十一月廿四日 午後一時

京都 青蓮院 山口 光 円 同 約四百人

因に、今回の御巡教に際して東京では男爵大倉喜七郎氏、大阪では大鉄専務取締役猪飼九兵衛氏等が管長猊下に答詞を申上げ、一同鉄石の意思を以て挺身報国を堅く誓った。

十一月廿九日 天台宗合同第一回宗会が午後一時三十分開会されるに際して、主職猊下は開会式に御臨場、諭示を宣せられた。諭示は左の如くである。

諭 示

天台宗合同第一次宗会開会の式に臨み参集の諸員に告ぐ
本宗曩に時運の趨勢に鑑み法乳一味三派合同して新に宗制を定め内綱紀を正し外教線を張り愈々鎮護国家の宗旨を顕彰せんとす。

時局は今や極度に急迫し国民思想の動向は直に国運の隆替を判つ教化の任務真に重大なり吾等宗徒各祖意を体し挙宗一致報国の大義を尽すは今正に是の時なり。

乃ち宗務当局に命じ時局対応の方法を講ぜしめ並に必要の予算其他重要な案件を宗会に提出せしめたり。

希くは諸員慎重審議其任を竭さんことを望む。

昭和十六年十一月廿九日

天台宗管長 大僧正 渋谷 慈 鎧

天台宗合同第一回宗会が午後二時卅五分日程に入るに先だち中島亮仁師から左記要旨の緊急動議があつて満場一致可決した。

「支那事変始まつて五年、世界情勢の変転甚だしく我が東亜新秩序建設を妨害せんとする第三国の敵性は益々露骨となり殊に日米交渉の推移は予断を許さざるものあり。此秋に方り我が国内体制は新しき政治経済組織に依り新たなる発足をなし国民の決意弥々鞏固なるものあり。又外には防共枢軸三国同盟参加国日を逐ふて多きを加へ支那事変の進展と共に国威愈々八紘に輝き亘る是れ御稜威の然らしむる所なると共に懸軍万里困苦欠乏に耐へて活躍し居らるる皇軍の御努力の賜である。一億国民感謝措く能はざる所仍て本宗会は宗徒を代表して皇軍に感謝の決議を贈りたいと思ふ其決議の案文及伝達方法は議長に一任したい。」

右動議に基き左の案文起草して直に左記宛発信した。
茲に天台宗宗会は皇軍將兵諸士の忠勇義烈なる奮闘に対し深甚なる感謝の意を表す。

昭和十六年十一月廿九日

天台宗宗會議長 青山映道

発信先

支那派遣軍総司令官閣下

北支派遣軍最高指揮官閣下

中支派遣軍最高指揮官閣下

南支派遣軍最高指揮官閣下

仏印派遣軍最高指揮官閣下

支那方面艦隊司令長官閣下

北支方面海軍最高指揮官閣下

中支方面海軍最高指揮官閣下

南支方面海軍最高指揮官閣下

関東軍司令官閣下

十二月六日 合同天台宗の初代管長に御就任、又天台宗第二百四十九世の座主に御昇任された管長猊下の御上任式は、春を偲ばせる冬晴の

本日午前十一時から比叡山讃仏堂に於て執行されたが、この日参列の榮に浴した人々は宗機顧問を始め各門跡、宗會議員、宗務支所長及び各宗代表者其の他滋賀県知事、各種名誉職檀信徒等六百余名で、左記次第の通り、先づ猊下の御懇篤な御挨拶に対し総本山園城寺長吏、総本山西教寺貫主、大森宗務総長、即真延暦寺執行、青山宗會議長、宗立学校代表、檀信徒代表(北河豊次郎)等交々祝辞を申上げ、最後に大森宗務総長が挨拶を為し、茲に上任式は目出度く終った。

天台宗管長上任式

次第

天台座主伝灯相承式

第一番鐘 式衆集会所参集 午前十時

第二番鐘 式衆装束 午前十時半

此の間参列者入場着席

第三番鐘 猊下御入場 奏楽(越天楽)

先 会奉行、次 伶人、次 引頭、次 式衆、次 御相承譜、
次 猊下、次 宗務本庁、延暦寺役員、次 法類、親近者等

先国民儀礼

次猊下御登壇

奏楽（嘉祥楽）

次唄 匿

次散 華

奏楽（伽陵頻）

次啓 白

次御相承御儀式

次御法楽

次猊下御降壇

奏楽（胡飯酒）

次猊下御挨拶

次賀辞捧呈

次宗務総長挨拶

次猊下御退場

奏楽（陸王）

十二月八日 「帝国陸海軍は今八日未明西太平洋に於いて米英軍と戦鬪状態に入れり。」との大本営陸海軍部の発表に依り折柄宗会后休暇中の全庁員を非常招集し一同は宮城を遙拝、無上の感激を以て 宝祚の

無窮と大東亜戦争必勝を祈念の上万歳を三唱し直に決戦態勢に入った。予て臨戦態勢に即応し管長の特別布教、又は教師の再教育と殉国精神鍊成を主眼とした臨時教師鍊成会、其他教師性能調査等、決戦態勢に突入する準備万般が完了し待機中の際であるから、開戦の大詔を拝すると直に決戦局議が開催され、懇篤な管長の教諭、大森宗務総長の令達はその日の中に宗報号外で全寺院に発送され、更に「本宗教師及僧侶の心得べき要綱について」と題する印刷物は各宗務支所長及各教区主事凡そ三百余名に速達便で急送され、速かに応戦態勢の確立を全宗徒に促した。

教諭

本日畏くも米国及英国に対し宣戦の大詔を渙発せらるるを拝す納等誠に恐懼感激に堪へざる所なり

曩に教諭を以て重大時局に対する宗徒の覚悟を促したり今や即一億一心金剛不退の鉄石心を以て決然平和攪乱の魔群たる彼等敵国を折伏せざるべからず

恭く惟るに吾 皇国は有史以来戦へば必ず勝ち攻むれば必ず取り
だ曾て外敵の為に侮りを亨けたるを聞かず是れ畏くも 大御稜威の
致す所寔に万邦無比の美を成す所以なり

此の日斯の時闔宗々徒たるもの宣く祖訓を体して至心至誠の丹誠を
抽んで内各嚴儀の作法に則り不惜身命の三昧に入り敵国降伏の持咒
祈願を籠め外一般大衆と共に所有作業に奔走し真俗一貫奉公報国の
誠を效さんことを望む

昭和十六年十二月八日

天台宗管長 大僧正 渋谷 慈 鑑

宗務総長 大僧正 大森 亮 順

令達第八号

対米英宣戦の 大詔渙発せらるるや管長猊下特に教諭を發して宗徒の
嚮ふ所を示さる。宗徒は宜く慈慮を体し各自一層教化活動に精進し克
く冷靜忠実に己が職分を遂行し率先垂範、皇国臣民の儀表たらんこと
に努め、特に左記要項は必ず之を遵守すべし

一、総本山に於て夫々古例に則り八日より十四日に至る一七日間敵国降伏の大祈願会を勤修し結願の日午前十時比叡山根本中堂に於て大護摩供修行せらるるに付各寺院及教会に於ては其の期間特に適宜の祈願会を勤修すること

二、教師たるの本分を深く体認し其の職分に応じ各所属地区に於て率先挺身、職域奉公に全力を傾注すること

三、所属の檀信徒をして必勝の信念を堅持せしめ、皇国伝統の尽国精神発揚に努むること

四、寺院、教会の境内又は建物は進んで戦時下の各種事業に供用すること

五、建築物、什宝物等の管理に万遺憾なきを期すること

昭和十六年十二月八日

宗務総長 大僧正 大 森 亮 順

十二月八日 決戦局議により決定をみた国禱会専修の儀は直に三総本山に通達されたが、延暦寺、西教寺、園城寺では重役会議を開き、国

禱会奉修次第、差定を決定、之を本庁に復命すると共に準備を整え、八日夕座から同時に国禱の厳儀は開白された。潔斎した三総本山大衆は大東亜の興廢を賭けた此の一戦の必勝を敬虔に祈誓した。不惜身命の修法は十四日迄昼夜三時に続けられたが、伝え聞いて随喜する信者も共に祈願する姿は日本臣民の至情の表象として感銘深きものがあった。

十二月十四日 愈々結願大祈禱の日である。三山の貫主始め総衆は修法の疲れか、頬に瘦れをみせながらも怨敵を降伏させんとの意志の強さを焔々とした眼光にしのぼせ、午前八時日吉神社に参集戦勝を祈願し、引続き登山して根本中堂に向った。

午前十時、管長猊下大導師の下、三山長吏、貫主、宗務総長始め宗務本庁役職員、三山重役等勤仕、潔斎の法服に威儀を正して根本中堂に参入した。保延四年七月、鳥羽上皇の院宣に依り当中堂に於て厳修し奉った歴史ある三壇秘法を奉修し、敵国降伏を至心に祈誓した。大衆が如来神力品を誦誦して祈る法音は全山を圧して参拝諸人の胸をつき、

愛国の至誠は暫し靈嶽に沸きたった。修法の結願に先だち勝報の頻々として伝えられるのを聞く時、宗徒の感激殊更に深きものがあつた。

比叡山根本中堂に於ては、十二月十四日敵国降伏の祈願会結願と同時に臨時三壇御修法が開筵された。この三壇御修法は根本中堂で開白し、各壇を根本中堂、西塔釈迦堂、横川中堂に持ち分れ、根本中堂では薬師護摩供、釈迦堂では十二天供、横川中堂では如意輪加星供を、毎日午前十時から戦争の終る迄厳修される事になった。

宣戦の大詔を拜して去る八日から一週間比叡山根本中堂に於て戦捷と敵国降伏の大祈願を親しく虔修された管長猯下は十四日満行の夕、天機奉伺と陸海軍へ護摩札献納のため御東上、直ちに参内して天機を奉伺され、次で陸海軍省参謀本部、軍令部を御訪問、護摩札を献納され、次いで明治神宮、靖国神社に御参拝、十六日午後帰山された。

十二月十七日 管長猯下は、本庁役職員を従えられ伊勢大神宮（内宮、外宮）に正式参拝された。

十二月廿二日 文部省では未曾有の大戦争を迎え全国三十万宗教家を

総動員し、以て宗教報国に邁進させることになり、午前十時から東京市真言宗務所で宗教団体戦争事務局長打合会を開催された。本宗からは東京出張所長神田尚順師が出席し、布教目標、必勝信念の昂揚、戦時生活の確立、挺身奉公の実践の外左の事項を協議した。

一、宗教団体の戦時体制強化に関する件

イ、戦時機構及施設の整備

ロ、戦時布教の目標及び其の実施

ハ、所属団体の活動及び其の指導

ニ、連絡機関の設置

二、東亜宗教工作に関する件

三、宗教団体の自粛に関する件

四、その他

十二月廿五日 本庁令達第九号。

今次大東亜戦争開戦に方り宣戦の詔勅を拝するや管長親下は特に教諭を發して宗徒の嚮ふ所を示され本職亦其の要項を達示し置きたるが、

今般各宗教団体の申合に依り左記事項を決定したるに付、本宗寺院及教会は必ず之を励行し戦時下に於ける仏教報国の任を全ふするに努むべし

記

一、毎月八日（大詔渙発記念日）適宜の時刻本尊宝前に於て戦勝祈願国禱会を厳修すること。

二、前項の国禱会には檀信徒其の他成るべく多数の会衆を参列せしめ本宗所定の国禱式に依り祈願を行ふこと

三、国禱会終了の後参会者に対し左の要項に準じ布教を行ふこと。

（イ）、必勝信念の昂揚

天佑を保有したまへる御稜威の尊嚴、皇軍将士の勇武及適確なる作戦行動、国際道義の觀念等を懇切に説示し必勝の信念を昂揚すると共に苟くも国民の士氣を沮喪するが如き流言飛語の根絶に努むること

（ロ）、戦時生活の確立

無駄を省き、不足を忍び、貯蓄を強化する等統後国民日常の生活を一層緊張せしめ聖業目的完遂の時まで如何なる困苦欠乏にも屈せざる堅忍持久の精神を自発的に奮起せしむること

(ハ)、挺身奉公の実践

教師僧侶は自ら率先範を垂れて戦時奉公の実践に当るは勿論なるも尚檀信徒に対しても勤労作業、救護施設其の他戦時下国民の急務に付他の模範となるべき事業の実践を適当に指導するにと。

昭和十六年十二月廿五日

宗務総長 大僧正 大森 亮 順

昭和十七年^{壬午}一月十日 官庁令示第六号

今般官文一号を以て文部次官より左記の通り通牒ありたるに付右通達
の趣旨徹底を期せられたし。

昭和十七年一月十日

宗務総長 大僧正 大森 亮 順

記

大詔奉戴日設定に関する件

一、趣 旨

皇国の隆替と東亜の興廃とを決すべき大東亜戦争の展開に伴ひ国民運動の方途亦劃期的なる一大進展を要請せらるるを以て茲に宣戦の大詔を渙発あらせられたる日を挙国戦争完遂の源泉たらしむる日と定め曠古の大業を翼賛するに違算無からんことを期せしめんとす。

二、名 称

大詔奉戴日

三、期 日

八日

四、実 施

昭和十七年一月より大東亜戦争中継続実施するものとす。

五、昭和十四年八月八日閣議決定に依り設定せられたる興亜奉公日

は之を廃止し其の趣旨とする所は 大詔奉戴日に発展帰一せしむるものとす。

大詔奉戴日実施要項

一、方 針

大東亜戦争完遂の爲必勝の国民士氣昂揚に重点を置き健全明朗なる積極面を発揮すること。

二、実施項目

(一)、 詔書奉読

官公衙、学校等に於ては詔書奉読式を行ふこと。

詔書奉読式の時刻は業態、交通等を考慮し適宜定むること。

(二)、 必勝祈願

寺院教会等に於ては必勝祈願の行事を行ふこと。

但一般信徒に対しては其の職場に於て祈願せしむるものとし殊更に祭式に参列を強制せざること。

(三)、 国旗掲揚

国旗を掲揚すること。

(四)、職域奉公

各自職域の奉公に励精し殊更に当日を休業とする如きは採らざることを。

三、備考

日曜日に際会せる場合当日業を休む官公衙、学校、会社、工場等に於ては殊更に出勤、出校せしむるにも及ばず家庭人として又市町村民として当日を意義あらしむる様措置すること。

二月十日 伝教大師奉讃会長近衛文麿公は同会評議員会に出席のため十日入洛、同日都ホテルに於ける同会に出席し、奉讃会の財団組織について協議を重ねられた。

二月十一日 近衛公は引続き比叡山に登り、昼餐の後近江神宮に参拝の上再び京都に向われた。

二月十五日 新嘉坡陥落の快報発表と同時に日本全国国民の祝意は厳粛な裡にも限らない慶びを籠めて津々浦々に一斉に繰り延べられた。

神国日本、大乘仏教国日本が新世紀創造への発足を厳かに宣した感激の日である。本宗総本山に於ても国民奉祝日が決まると直に延暦寺、園城寺、西教寺全山に檄し、十八日午前十時滋賀院仏殿に参集を乞い、本庁役職員一同、専修院、叡中生一同之に参加随喜し、渋谷管長猊下の御導師の下に魔城陥落祝禱感謝の大法要を行った。此の日午後、叡麓坂本村に於て行われた全村各種団体合同の奉祝会にも、山徒、宗務庁員、学生一同が奉祝旗行進に参加し、日吉神社に祝禱の誠を披瀝した。

三月十日 時局に鑑み本宗に於ても予て春秋彼岸に実施された「報恩感謝」週間を、今回は「宗教報国運動」の実践週間として普く宗内全寺院に檄し、宗内教師の一斉奮起を促し、報国運動の展開に関し左の実施要項を示してその実践を強調した。

実施要項

一、報国法要必修

二、行事肅正、信仰生活の実践

三、信仰常会の実践

イ、感謝運動

ロ、在家勤行の勸奨指導

ハ、合掌運動

ニ、箸紙普及運動

四、托鉢行道の実践

五、其の他

イ、国民錬成の護国道場開設

ロ、青少年教化の実践

三月十日 大東亜戦争の必勝のためには人的要素の完備と共に物的要素の自給自足又切実に痛感されるのであるが、就中金属資源の充実にそは特に急務であるので、寺院、教会に対する金属特別回収の運動が機宜を得て実施されることに成った。

寺院、教会に対する金属類特別回収標準（大日本仏教会の通牒に依る）

一、宗教用具

イ、梵鐘 二個以上ある寺院は一個を除き他は之を供出すること、

ロ、半鐘 一堂に一個を存し他は之を供出すること

ハ、経鑿 同上

ニ、伏鉦 同上

ホ、灯籠 堂内境内の莊嚴風致を欠かざる程度に於て之を供出すること

ヘ、花立 蠟燭立、香炉、灯明用具、護摩用具等、祭典法要儀式に直接支障を来たさざる程度に於て之を供出すること

ト、簾附属品 全部供出

チ、賽銭箱銅板 同上

リ、供物皿 同上

二、境内工作物

イ、鉄柵 全部供出

ロ、金属塔 信仰を損せず又寄附者ある場合に於ては其の了解を得たる上之を供出すること。

ハ、金属の手洗 全部供出

ニ、天水受 代用品あるもの又は代用品を使用し得るものは全部供出

ホ、門扉 全部供出

三、什器類

イ、火鉢 ロ、燭台 ハ、鉄瓶 ニ、薬罐 ホ、華器生花器

ヘ、茶卓

予備品あるもの、代用可能のもの、使用を中止し得るものは全部供出すること。

四月^{自十四日}_{至十一日} 御修法大法は、四日夕座から十一日日中座迄十七日間、根本中堂に於て四箇大法の一である熾盛光法を以て奉修された。勤仕者は座主親下始め各門跡、地方代表等であつた。御衣奉迎奉還、巻数献上等、例年の通りであつた。

四月廿日 戦時国策に対応する特別の宗務を処理し、宗門報国運動を強化するため宗務本庁内に戦時事務局（職制）が設置された。

五月八日 午後二時から京都華頂会館で物心一如の宗教報国を期する大詔奉戴宗教報国近畿大会が開催された。文部省から阿原宗務局長、吉田宗務課長、川村理事官、その他師団長、府知事、市長、大政翼賛会等から多数の来賓があり、神仏基三教の教師、信徒等千二百余名が参加して洵に嚴肅そのものの裡に決戦下に於ける宗教報国の決意を披瀝した。

五月十二日 宗教報国鎮護国家を如実に顕示される猊下は、決戦下弥々臣道確立聖戦完遂の御懇情を一般宗徒に明示されるため、全国御巡錫を念願されていたが、今回四国地区を選んで御巡錫の御一步を力強く印せられた。即ち五月十二日、香川県金倉寺に於て英靈追悼大法要を親しく虔修された。これより先き午前九時三十分御宿所を御出発、

十河教学部長、浜中随行布教師、北角延暦寺幹事、青峰宗機顧問、黒田元財務部長、其の他教区内長老等を随えて善通寺師団、同陸軍病院を訪問、懇ろに御挨拶又は御慰問され、次いで護国神社に御参拝の上会場に御到着、直ちに祖師堂宝殿で御法楽。御中飯の後、午後一時か

ら金堂で猊下御調声の下教区内寺院住職出仕で護国英靈追悼大法要を営まれた。参会するもの千余名堂に満ち溢れた。参拝の善男善女は雨中傘をさして去る事もなく法浴に浸り感激の坩堝と化した。御教諭に次いで浜中僧正の御教諭布演の獅子吼、中坂海軍大尉の「大東亜戦争と国民の覚悟」と題する熱弁は聞く人々の挺身報国の信念を昂揚させるに十分であつた。

五月十三日 早朝より香川県庁に知事を訪問され、次いで本宗檀徒山口嘉次郎夫妻が皇紀二千六百年を記念して百万円の浄財を提供して創立した興亜中学を御視察された。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下厳修された。

六月^{自廿六日}二週間 本宗宗徒中央鍊成会は、比叡山山上宿院に於て、二週間に亘て行われた。宗風の確立と重大な時局に捨身奉公を誓ふ指導員廿八名は、相当長期に亘る鍊成であつたにも拘らず、終始一貫私心を去り黙々として苦行苦修に鍊磨を重ね、国家の要請に即時蹶起し得る宗

教戦士としての確信を得たのである。此の日、管長猊下御臨場の下に開会式が挙行され、猊下より懇切なる諭示を賜った。

諭 示

惟ふに夫れ忍苦精進仏道修行の常規鎮護国家は我宗開立の本旨なり
今や皇国大東亜建設の聖戦を興し

大御稜威の下精銳無比の皇軍は開戦半載にして既に広漠たる亜細亞
大陸及南洋諸島渺茫たる太平洋度の両洋を制圧して敵国米英専恣の
霸權を駆逐し武威世界を震撼す然りと雖も米英は俱に列強最大の富
国なり其真に皇化に帰順するの日前途遼遠ならん此秋に方り国民を
して一層必勝の信念を固くし戦時生活に徹して一切の艱苦に堪へ堅
忍持久以て聖業を翼賛し奉らしむるは正に我等教化の大任なり。

仍ち宗門全教師の総動員を命じ各自高度の錬成を行はしむ各員は思
を鎮護国家の宗旨忘己利他の祖訓に駆せ刻苦精進深く自ら修め能く
他を導き仏教報国の誠を效すに遺憾なからんことを期せよ。

昭和十七年六月二十六日

鍊成会の組織

中央鍊成会は戦時事務局幹事が一切を統理し、その統理下に鍊成長と事務主任があつて、鍊成長は此の鍊成会につき責任を以て鍊成を総理し、鍊成長の命を承けて鍊成主任が一切の指導に率先垂範之に當つた。

天台宗管長 大僧正 渋谷 慈 鎧

鍊 成 長

僧 正 半 田 孝 海

鍊 成 主 任

権 大 僧 都 赤 松 円 瑞

道 場 主 任

権 僧 正 森 川 淳 契

鍊 成 係 員

権 大 僧 都 太 田 昭 澄

〃

権 少 僧 都 大 森 良 昌

鍊 成 道 場 係

律 師 鈴木 亮 善

教師鍊成会実践要項

目 的

教師鍊成会は肇国の精神に基き本宗教師をして嚴肅なる行的生活

を通じて決戦下に於ける教師の本分を確認し率先垂範以て報国運動に挺身せしめんとす。

鍊成綱領

一、吾等宗徒は国体の本義に則り、天業翼賛の使命に徹し、宗団一体となり、現下皇国の聖業たる大東亜共栄の完遂を期し、捨身奉公の赤誠を效さんとす。

二、吾等宗徒は、管長の教諭を体し、時局に鑑み、旧弊一擲自肅自戒、守護国家住持仏法の祖意を恢愜せんとす。

七月廿三日 四天王寺貫主木下寂善大僧正は京都大仏方広寺に於て遷化した。本葬は八月四日午前十時から四天王寺本堂に於て管長猥下御導師の下宗内外官民多数の追悼裡に厳修された。

七月廿八日 僧正青木道晃は天台宗宗務総長に任命された。

自七月廿九日 至八月二日 五日間 明治天皇尊儀第三十週年聖忌御正当に付き、三千元宸殿に於て古来の厳儀に準拠して御饗法講が奉修され、尊儀の御冥福を奉薦された。宗徒一般は御法会の趣旨を体し皇恩報酬のため応分

の香資を献備した。

七月卅日 午後一時半、比叡山横川中堂が落雷によって炎上し、折悪しく横川中堂に輪番代井川恵昭師と四季講堂に寺男が一人居たのみで、電気も無く、水も無く、車も通じない全く不便な土地柄のために、何等早急に施す手段もない儘、痛惜の裡に、無残全焼したのであった。因みに、本尊聖観音像と脇侍不動明王像並に毘沙門天像は井川師の必死の搬出によって難をまぬがられた。

七月卅一日 善光寺大勸進を病のため辞任した水尾寂暁師は坂本会心庵で遷化した。

八月四日 満洲国仏教總會派遣本年度留学僧七名が協和会中央本部坂井栄三郎氏引率の下に来山、直に祖廟に参拝し、満洲留学僧寄宿舎に旅装を解いた。尚一行は同日午前大阪四天王寺に於ける故木下大僧正の本葬に参列恭しく拈香礼拝して弔意を表した。因にその氏名は左の如くである。

新京護国般若寺内

釈 明 詮 (廿二才)

同

釈 性 海 (廿四才)

同

釈 心 培 (廿六才)

錦州市地藏寺内

釈 空 我 (廿五才)

新京仏教総会内

釈 仁 舟 (廿四才)

四平省天佑寺内

釈 興 禪 (廿九才)

奉天市万寿寺内

釈 顕 密 (廿一才)

八月八日 軍事保護院では、第九回大詔奉戴日を期し、東京九段軍人会館に於て仏教各宗派管長を招き、軍人援護運動の強化実践につき懇談協議を行った。当日は主催者側より本庄総裁以下藤原副総裁、曾我援護局長、伊関指導課長、錫田理事等が出席し、別に陸軍の倉本恩賞課長、海軍省人事局富永第二課長が出席して、今次の軍人援護強化運動に就いての趣旨並に主眼、実施要領の各項につき詳細の説明があり、陸軍省の倉本恩賞局長は寺院及寺庭婦人を通じての遺児及軍人未亡人の援護を特に希望した。かくて十四時同列にて靖国神社に参拝恭しく天機を奉伺して退出した。因に本宗からは壬生雄弁師が出席した。

各管長申合せ

軍人会館の懇談会に於て左の如き力強き申合せを行ひ愈々強化実践に邁進することになった。日本仏教各宗管長は来るべき政府主催の軍人援護強化運動実施に当り全国八万の寺院教会及び十八万の僧侶を動員して同心戮力愈々銃後奉公の誠を效すと共に一層傷痍軍人及軍人遺家族に対する援護運動の強化実践を計り以て軍人援護に関する聖旨に奉答し、大東亜戦争の完遂を期す。

八月自廿一日至廿五日 千妙寺住職藤平遵田は戸津説法を勤仕した。

八月自廿七日至廿八日 両日中国、九州地方を襲った颱風による被害が甚大であ

ったので、本庁から至急関係支所長、支部長、主事に対し本宗関係寺院及檀信徒の被害状況調査方依頼打電した。而して本宗関係のもの被害は幸に軽少であった旨の報告を受領した。

八月卅日 渋谷座主猊下は七条袈裟三十領を新調して延暦寺事務所へ御寄附された。

九月十日 昭和十七年九月十五、十六両日執行の満洲建国十年祭に際

し、渋谷管長猊下には特に満洲国からの招請により大日本仏教界を代表し九月十日大津駅を御出発、随行員として本宗庶務部長落合寛茂、総本山延暦寺幹事大角実光を伴われ、渡満の途に着かれた。

九月十一日 管長猊下御一行は朝釜山御安着、特別仕立ての列車で大日本側参列者二百数十名と共に十三日夜新京駅に御到着。日満天台宗僧侶並に駐満各宗別院代表数十名信徒多数の出迎をうけられ、満洲国差廻しの自動車で国都ホテルに落ち着かれた。

九月十四日 猊下御一行は早朝御出発、護国般若寺に至り満洲国仏教総会各役員の出迎えをうけ本殿に至り、如光法師、樹培、善果法師等に面謁され、予て建国十周年祭典を機に全満より参集した満洲僧千八百余人着座を前にして日満天台提携十年を記念し且つその功に酬ゆるため、特に如光法師に僧正位特補の儀式を厳肅裡に挙行され、記念品赤地金欄の輪袈裟を猊下御手づから如光法師の首にかけられると、法師感極まってか落涙し、参列千数百人の満洲僧皆その眼を輝かし、おみとふ（南無阿弥陀仏）を唱う。次で五人の長老に記念輪袈裟の授与

があり、終つて落合庶務部長から約三十分に渉り全満僧侶に対し、日満天台宗提携十年の歴史及び将来の提携強化を説き感銘を与え、日満天台宗史上劃期的な式を閉じた。

御帰路、惠民路本宗別院並に蒙古学院に立ち寄られ各々御訓辞があり、帰宿された。

九月十五日 曠古の建国記念大祝典日である。朝来一片の雲なく、特に許されて本日昇殿の栄を担われる管長猥下には政府さし廻しの自動車で参殿、既に早朝来整然と着席していた一般代表者一万二千人の注目裡に玉座近く親任官、大將其の他功勞者と昇殿された。紫衣緋紋白大五条の御服装は殊に衆人の耳目を聳動し一般代表席に特に全満仏教界を代表し参列の栄を担った如光、善果二法師は昨日日本天台宗から授与された金欄の輪袈裟をかけ、この印象的な管長猥下の御昇殿に一入感激の眼をそば立てた。

九月十六日 前日に引続き御招宴日、前日同様御昇殿、玉座の傍近くで御饗宴にあづかり、次で觀兵式の陪觀の栄に浴し、御満悦御帰宿さ

れた。

九月十七日 新京駅に多数の日満僧及び信徒の見送りをうけ御帰路に着かれ、途中朝鮮御視察の上、廿六日無事御帰山された。

九月廿日 徳川初期の名僧天海大僧正を中興とする川越市喜多院に於て、十三時から天海大僧正の三百年御遠忌を厳修した。因に、長沢輪王寺門主の講演があり、同廿二日には十二時から護国英霊の追悼会を奉修、小笠原中將の講演があり、寺内には歴代住職の肖像画を展覽した。

十月四日 東叡山輪王寺門跡に於ては午後二時から、北白川宮故永久王殿下の御三周忌を迎え奉り輪王寺門跡大僧正長沢徳玄大導師の下山大衆総出仕で法華三昧を厳肅裡に勤修申上げた。因に、北白川宮大妃周子内親王殿下、同宮妃祥子殿下、東久邇宮妃殿下、竹田宮殿下、同妃殿下の御五方御成り遊ばされ、御近親東園子爵、立花佐和子殿、徳川圀禎殿、同多恵子殿、徳川寛子殿、園祥子殿が御参詣された。

十月十日 権僧正福恵道暢は延暦寺執行長に任命された。

十月廿日 別格大寺四天王寺後董として前社会部長権僧正武藤舜応が全票で当選した。

同日 本宗開教総監として権僧正山口光円が任命された。

十一月三日 満洲国民生部厚生司長曲秉善氏は本宗興亜局に於ける満洲留学生の状況視察のため登叡し、親しく留学生に面接し種々歓談の後、青木宗務総長の案内で管長猥下に面謁、留学生指導に対する御礼の言葉を申述べられ、宗務総長を始め留学生一同と記念写真を撮り、十五時京都に向った。

十一月八日 華北に於ける中国仏教徒の唯一の結合機関である仏教同願会の訪日視察団一行六名は、日本仏教見学のため東西各地の著名寺院を見学中の処、本日比叡山に登り中堂其の他の諸堂に参詣、貴賓館で管長猥下に面接し中食の後下山した。因に一行は左の如くである。

團長 仏教同願会理事長
北京拈花寺退居 全 朗

團員 仏教同願会理事 王 永 宗

同 仏教同願会理事
内務総署科長 張 翰 藻

同

仏教同願会理事
北京応慈寺住持

瑞祥

同

仏教同願会会員
北京応化寺仏教学院監学

海峯

同

仏教同願会青年会員
北京法源仏学院主任

仏悦

通 訳

中国仏教学院助教授

孫元帝

輔 佐

興亜院属

大塚新

十一月廿六日 畏くも天皇陛下には、大東亜戦争下政務殊のほか御多

端に渡らせられるにも拘らず宗教教化に大御心を垂れられ、本日午前
十時宮中西溜の間において全国各教宗派管長、教団統理者等四十名及
び橋田文部大臣、菊池文部次官阿原教化局長等に列立拝謁を仰付けら
れたので、座主猊下は天台宗管長の資格で拝謁の光栄に浴された。

十二月一日 全国宗教団体代表者が各その管長及び教団統理者の資格
で拝謁を仰付けられた如き事は実に空前の光栄であり、今や大東亜戦
下東亜建設の一翼としてわが宗教界の使命重大なる秋、猊下が龍顔を
拝されたことは洵に恐懼感激の至りである。百三十万の宗徒も又此の
宏大無辺な聖恩に感泣し、決戦下弥々宗教報国の決意を新たに致さね

ばならないが、茲に於て本日重大なる教諭を布達された。

教諭

昭和十七年十一月二十六日 天皇陛下宮中に於かせられ各教宗派教団の代表に対し謁を賜ふ慈鑑亦共に天顔に咫尺し奉る曠古の榮譽を拝す 天恩無窮 聖慮深遠宗門の光榮之に過ぐるものなく至恐至惶感激措く能はざる所なり宗徒一般須く朝眷の優渥なるを銘記し奮勵興起各々其の本分に顧み時局に善処して遺憾無きを期すべし

大東亜戦争の 大詔渙発せられて茲に一週星皇軍の威武八紘に輝き肇国の 皇謨四海に光被すと雖も聖戰完遂の前途未だ俄に予断を許さざるものあり此の秋に方り宗徒たるもの心を一にして偏へに祖訓を顕彰し宗風を宣揚し自肅自戒護国の正法を提げて率先範を示し銃後に対しては更に堅忍持久百世不動の信念を培ひ進んでは方外の民をして洽く 皇化に浴せしめ 天業翼賛教化報国の丕績を挙ぐるに匪躬の節を持し勇往邁進以て罔極の 皇恩に酬い奉らざるべからず茲に特に教諭を発し無上の光榮を頒つと共に宗徒一般益々磅礴の誠

を竭さんことを望む

昭和十七年十二月一日

天台宗管長 大僧正 渋谷 慈 鑑

十二月一日 管長猊下には賜謁の光栄に恐懼宮中を退出御帰山されるや、直ちに宗務総長に命じて聖旨拝戴記念法要を厳修することに決定され、本日折柄第二回宗会開会中であるが、特に休会、比叡山根本中堂の宝前に於ていとも厳肅に賜謁の日の光栄を感激の裡に御報告致され、一般宗徒に対しては此の光栄、畏くも戦時下国民信念の昂揚に大御心をくだかせ給う有難さを頒たると共に御軫念の尊さの程を伝えられ、終つて益々一致協力聖旨を奉戴して感奮興起匪躬の誠を致し、国民志操の醇化作興時艱の匡救指導に努め天業を翼賛し奉る決意を新にする様不惜身命の実践を促された。此の日参集の光栄に浴した者は各宗会議員、各教区宗務支所長、各地区支部長、総本山役員、宗務本庁役職員等百余名であるが、式中厳として声なく、皆生氣に輝く決意の血走る厳肅な感激の面持で、唯々宏大深遠なる聖旨を畏み新に責務

の重大なるを感じ七生報国の強き念弥が上にも燃え上り、満堂感激の裡に報告法要を終了した。

(本山に於ける伝達式)

十二月一日

於比叡山根本中堂

午前十時

聖旨拝戴記念法要

午後一時

宗會議員、支部長、支所長協議会

(各教区に於ける伝達式)

全国各教区毎に左の通り聖旨拝戴記念法要を挙行する事に決定されたので、各寺院住職は支所長の指令に基き万障繰合せ参加する事となった。

期 間 十二月一日—卅一日

伝達者 管長代理(各門跡 大寺貫主) 臨場

布 衍 戦時特別布教師を派遣

参加者 各教区住職及檀信徒総代

宏大深遠なる聖慮を畏み、管長猊下の深旨を体して全国宗門の宗侶檀

信徒に一人も余さず聖旨を、伝達し様と、各教区に一ヶ所乃至二ヶ所聖旨奉戴記念檀信徒大会が開催されて、各会場には、猥下が親しく臨場される会場以外は総本山住職、各門跡寺住職、大寺住職等が管長代理として臨場された。各教区の会場には特別布教師の布衍があつて、その教区宗務支所長、各地区支部長等の尊き努力と苦心により、各会場とも全く前古未曾有の盛況感激裡に、宗教報国に挺身し様とする烈々とした真情に燃え上った。

因に管長猥下は左記の地区に御親臨された。

十一日 京 都 青蓮院門跡

十三日 本 山 讃 仏 堂

十七日 名古屋 養 老 寺

十九日 東 京 寛 永 寺

廿 日 川 越 喜 多 院

廿三日 岡 山 鶴 鳴 館

十二月八日

令達第三号

本日畏くも大東亜戦争宣戦の大詔渙発一週年記念日を迎ふるに際し謹みて一門の宗徒に示す

惟ふに鎮護国家は山家の宗謨にして道心報国は祖訓の神髓なり曩に大詔渙発せられしより闔宗の宗徒戮力一心 叡慮を体し大義に依準し以て専心報公の赤誠を竭し兵馬倥傯の間に於て能く教化の責務を全ふし不惜身命以て祖意の躬行を效せり今や皇軍の貔貅は北海の滄溟より南十字星下の赤道に亘り懸軍万里して武威を中外に震駭し旭日燦として大東亜に徧し皇軍の克勝頻に至るも前途遙かにして有終の美を収むるに試煉の嵐尚ほ猛るべし実に曠古の非常時態にして国運泰否の係るところなり

茲に大東亜戦争一週年の銘記すべき日山家の宗徒たるもの宜く思を深く立教開宗の祖意に廻らし至心至誠の丹誠を抽んじて聖業完遂敵国降伏の祈誓を籠め愈々堅忍持久して職域に励精し折伏の智劍能く禍根を芟除し摂受の大慈以て一隅を照らし倍々鎮国護法の赤誠を披

瀝して 皇猷を翼賛し奉り道心報国の実を全ふせられんことを

昭和十七年十二年八日

天台宗宗務総長 僧正 青 木 道 晃

十二月十三日 第一教区檀信徒大会は午前十時から比叡山麓延暦寺讃
仏堂で開催された。朝来無風の小春日和で参会令書を手にした住職が、
モーニングや羽織袴に身を正して今日の盛儀に駆せ参じた檀信徒総代
を引率して、続々会場に到着し、さしもの広大な讃仏堂もために満堂
立錫の余地なく、定刻から主職猊下御導師の下に報告法要が厳修され
た。終って、赤松指導員の司会で、大会が開催された。此の日滋賀院
門跡井深大僧正以下住職並に教師四百名、各寺院檀信徒総代五百名が
参列した。主なる参会者は参務福家守明、社会部長滋野敬憲、教学部
長北村実仁、延暦寺執行長福恵道暢、西教寺執事長藤田堯暹、滋賀県
会議長前田節の諸師であった。

十二月廿日 宗務総長引率の下に滋野社会部長、木下録事、谷実践部
長、都筑、谷、宮島の各主事、駒野、高橋、平野、岡見、橋井、水上、

島田、岡本各職員外四天王寺高女職員生徒（三十七名）等は心尽しの美花並に四天王寺高等女学校生徒の丹誠を尽した慰問綴方を持参して午前十時陸軍病院に到着傷病兵士を慰問した。

午前十時から三班に分れ病室の美化、繕ひ等を終えて用意の草花を各病室に捧げて午前中の慰問の行事を終り、午後一時から予て管長猊下を初め各門跡大寺の御住職から特に病院慰問用に寄贈された丹誠の御揮毫七百余を贈呈すると共に同病院大講堂に参集の勇士に対し四天王寺高女学生の心尽しの綴方を講堂入口で手渡し、舞踊、音楽の催しを開き、和やかに午後の慰問を終った。一同は病院の当直将校と共に記念撮影をなし、此の善き日に一日を傷痕の勇士と和やかに過し得た事を感激し、専心平癒の一日も早き事を祈念して散会した。

昭和十八年^{癸未}一月十六日 本日付大阪朝日新聞の報ずる所に依れば、一千年前宋代に支那に渡られた成尋阿闍梨の入唐遺蹟が華北省交通情報課の青年社員三好鹿夫中尉の手に依り調査を進められ、遂に開封城内東北隅に在る碑文によって茲にその遺蹟が判明した。

成尋法師は六十二才の時大陸に第一步を印し、入唐後訳経その他支那の為に尽し、神宗皇帝より善慧大師の称号を与えられる等の事もあり、しかも我が国威を大いに発揚して七十一才宋の都汴京（今の開封）の地で遷化し、皇帝の勅命により天台山国清寺に葬られ、国清寺内には特に塔を建て、表に「日本善慧国師の塔」と銘記された事になって居るが、日本に経文を送った事から経文を携えて帰国したとする異説も現れ、殊に開宝寺の遺蹟も定かでなかったが、この度の開封城内の鉄塔の中から発見された重修鐘樓碑の碑文によって、此処こそ成尋阿闍梨が日本人として最初の骨を埋めた遺蹟だと推定されるに至った。同碑は既に陳南省長等の出費によって保存施設を講ずる事になったが、之を伝え聞いた一万在留邦人は、これこそ我々の龜鑑であると遺蹟顕彰運動を起し、三好中尉のかつての上官河南塩務局鎌田指導官等の提唱で現場に建碑した上に今春日華合同の大法要を営む事に成った。

自二月十一日
至四月末日

大政翼賛会、大日本翼賛壮年団及び中央林業協力会共同の下に軍需、造船供木運動が実施される事と成った。本宗に於ても所

属寺院を督励し規定による協力方を通達した。

趣 旨

大東亜戦争の重大なる機局を迎へたる本年こそは国家の総力を集中して敵軍粉碎のため軍事の遂行に些の支障なからしむるの要愈々切実なり。然るに近時兵器、艦船、車輛等の特殊用材の蒐集は事火急を要するに拘らず容易ならざるものあり。

依て茲に關係官庁と緊密なる連絡の下に軍需、造船供木運動を展開し広く国民の愛国心に訴へ輸送力緊迫せる折柄比較的搬出の容易なる屋敷林（官公衙、学校、会社、工場敷地内林を含む）公園、社寺境内林、並木、平地林等の林木にして苟も其等目的の用材たり得るものは伝来あるものと雖も之を応召せしむるの心情を以て供出或は献納するの氣運を醸成促進し以て国家の要請に資せんとす。

二月廿日 大東亜に於ける宗教事情及び宗教文化に関する事項を調査し、興亜仏教々学の確立其の他開教に必要な事項を調査研究するため、

天台宗戰時事務局内に大東亜教学研究所が開設された。

戰時事務局長僧正青木道晃は大東亜教学研究所長に任命された。

戰時事務局員、大森亮順、権大僧正滋野敬憲、権僧正三崎良泉、権僧正北村実仁、権僧正神田尚順、大僧都落合寛茂、開教総監権僧正山口光円、大僧都谿慈弘、大僧都福井康順、僧都古川慈良、大律師板沢武雄、各々大東亜教学研究所員を命ぜられた。

戰時事務局実践部長僧都谷堯昭は大東亜教学研究所幹事を命ぜられた。

四月一日 昨年文部省の学制改革に依り中学校は一ヶ年短縮されて四ヶ年制となった。従来、全国唯一の三ヶ年制の指定中学としての名誉ある伝統を捨てて、時局即応のこの学制体制に準じ、本年度より四ヶ年制に変更と決定され、主務省に対し必要手続を了した。この変更に伴い入学資格、其の他に就いても変更された。これは本宗僧侶養成のみを目的とする中学は戦時下に於いては設立の認可も学則の改正も許

可されないので、ここに国家の要請に基いて一般に開放することに成ったのである。

四月^{自十四日}至十一日 決戦下殊に政務御多端に渉らせられる 聖上階下の玉体安穩を懇禱祈念し奉る恒例の御修法は、比叡山根本中堂に於て、座主猊下御導師の下に各門跡他出仕して嚴肅裡に七仏藥師法を虔修された。御衣は四月四日午前十時滋賀県庁を御出門、一路陽光和らぐ近江路を滋賀県知事が奉持甲し上げて同三十分滋賀院門跡御着、十一時三十分日吉馬場から坂本ケーブルに乘車申上げ、十二時三十分根本中堂に御着、直ちに宝前に御安置、莊嚴なる御修法は一七日の間参勤者の斎戒沐浴と懇誠を尽しての御祈念に魔事無く結願申し上げ、同十一日二十時四分大津駅発で、管長猊下が奉持されて宮中へ奉送申上げた。

四月廿一日 南濠の海に不滅の勲を残し全日本に感動の嵐を渦巻かせた十勇士の一人忠烈無双なる殉忠の精華大森猛特務少尉の英靈を故山に迎えての公葬儀は午前九時半から兵庫県美方郡大庭村忠霊塔前で

管長狛下御導師の下三十余口の衆僧出仕して盛大に執行された。

因みに、大森少尉の公葬に臨まれた管長狛下は、公葬に先だち大庭村の各遺族宅に使徒を派遣され、各英靈の殉忠に懇篤なる回向祈念を傾けられ、記念品を贈呈された。

四月自二十三日起至二十九日七日間 文部次官よりの通牒にもとづき軍人援護精神昂揚運動が実施された。

趣 旨

今や大東亜戦争の決戦的段階に突入せるの秋銃後国民 大御心を奉戴し克く前線將兵の奮闘労苦を偲び愈々軍人援護精神を昂揚して銃後の護を鞏固にし真に前線銃後一体となりて国家総力を發揮し以て大東亜戦争完遂を期せんとす。

四月二十六日 昨秋畏くも拝謁の光栄に浴し戦時下宗教に垂れ給う大御心の程に恐懼感激した宗教団体戦時中央委員会に於いては 聖旨奉戴記念事業実施項目に就き数次会合を重ね検討した結果、この日文

部省第一会議室に於いて開催、各教宗派代表者参集して活動方針に就いて具体的に協議した結果、左記要綱を満場一致賛同して茲に各宗各派その全能力を尽して報国活動に邁進することになった。

昭和十一年度 宗教団体戦時活動実施要目

実施要目に関する事項

各教宗派教団に於ては左の諸事項に関し夫々実状に応じ之が実施に適切有効なる方途を講じ其の成果を挙ぐるに万全を期すること。

一、教化活動の強化に就て

- (1) 特別布教の実施に関する事項
- (2) 家庭と信仰との融合に関する事項

二、宗教施設の活用に就て

- (1) 鍊成道場の開設に関する事項
- (2) 託児所の開設に関する事項

三、報国会の整備拡充に就て

(1) 報国会員の鍊成に関する事項

(2) 勤勞奉仕に関する事項

四月廿六日 大日本仏教青年会連盟では、大東亜が主として仏教を信奉する共栄圏であるに鑑み、共栄圏内の仏教青年を打って一丸とし緊密なる提携の下に大東亜戦争の完遂新秩序建設に挺身協力す可きであるとの趣旨に依り、今回大東亜各地から仏教に有縁の青年を招いて七月四、五日の両日東京に於て大東亜仏教青年会を開催する事になり、関西に於て協議会を開催した。本宗からは落合庶務部長が之に臨み種々意見を交換した。

五月二日 今般、財団法人修養団婦人会員の手により発願された護国の英魂を鎮めます一大忠霊塔は、千有余年の法灯輝やく天下の霊場比叡山に建設する認可を得て、工費一万五千円を以て竣工したが、その忠霊塔の開眼供養は桜花の馨り全山を包む比叡山上に於いて厳肅に営まれた。この日近府県より参拝の遺族を初め滋賀県知事、中部軍司令官、大津連隊区司令官等百数十名及び前蔵相小倉正恒氏他一般参拝者

五百余名も此の盛儀に参拝して随喜の涙に咽び、藤沢繁登一氏の経過報告、献納挨拶に続き開眼式、次いで青木宗務総長、中部司令官代理等来賓の祭文、焼香があつて一同「海ゆかば」を斉唱して黙禱、福恵延暦寺執行長の挨拶で厳肅裡に式を閉じた。因に青木宗務総長の祭文は左の如くである。

祭 文

比叡山忠霊供養塔開眼供養会に臨み一宗を代表し聊蕪詞を捧げ以て忠魂を鎮め奉らんとす。

曩に修養団関西講習会婦人部の諸姉連年比叡山に開講せる緣由に依り鉅資を募り忠霊供養塔の建設を企画し拮据經營歲月を閲して其の工を竣り今之を延暦寺に附し永遠に忠霊を供養し皇国民の懇誠を披瀝して厥の終り有らしめんとす。

由来比叡山は鎮護国家の道場海内無比の淨域にして茲にこの塔婆を瞻仰す芳を千載に伝ふる忠霊を安ずるに恰もその処を得たるものと云ふべく而も一宗一基に限らるる忠霊塔建設の祖山に公許せられた

るは本宗々徒の忠靈供養の方途茲に定まるの概あらしむ本塔落慶の意義詢に偉なるものあるを知ると共にその発願に対し満腔の敬意を表し併せて甚深の感謝を捧ぐ。

願れば松柏枝を垂れて我此土安穩の姿を現じ群禽梢に轉りて天人常住満の想をなす冀くは忠靈速に無上大菩提を証し来りて長へに法饗を享け給はんことを。

昭和十八年五月二日

宗務総長 僧正 青 木 道 晃

五月廿日 昭和十八年度国民貯蓄増強方策要項が発表された。

六月二日 円乗院権僧正渡辺恵章は延暦寺執行に任命された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて例年の長講会が、午前十時から座主猊下御証義の下厳修された。

六月十日 第三回宗議会は午後四時開会され、猊下は開会式に御臨場、諭示を宣せられた。

諭 示

第三回宗会開会の式に臨み参集の諸員に誥く

皇師善謀勇戦威武倍々揚り忠烈の士千艱万苦を甘喫して勇躍身を捧ぐるの赤誠克く外夷を震撼して余りなし、然るとき戦局刻々激化し皇国の隆替を決するの機遂に到る。茲に於てか愈々一億の総力を結集し戦力増強に全魂を傾注すべきは言を俟たざるところ教家たるもの亦断乎一切の障碍を破砕し以て国民皆戦の先駆として挺身邁往せざるべからず

特に鎮護国家を宗謨とする本宗此の秋に方り宗門の節儀を完ふし闔宗の法孫齊しく全力を奮って教化報国の実践に徹して万遺憾なきを期すべきなり。

乃ち宗務当局に令し難局対処の案件及必要の予算を提出せしめたり。諸員慎重審議協賛の任を竭さんことを

昭和十八年六月十日

天台座主 大僧正 渋谷 慈 鎧

六月廿六日 山口光円を比叡山中学校長に任命する件は本日付を以て

滋賀県庁より認可があつた。

七月十七日 「寺院、教会の境内地、構内地の利用に依る食糧増産に関する件」に關し左記の通り文部省教化局長から通牒が有つた。宗務庁はその趣旨に協賛し、所属寺院に対して其の成果を挙げる様協力方依頼通達した。

記

一、境内地、構内地として支障を来さざる限り努めて利用せしむること、但し史蹟名勝天然記念物保存法に依り指定又は仮指定を受けたるもの及び指定申請中のものは之を除くこと。

一、境内地、構内地の利用に当りては宗教団体法施行令第十八条の認可を受けしむるの要なきも将来当該地の原状回復を為さしめられたきこと。尚当該寺院、教会以外の者をして利用せしむる場合は原則として使用料を徴せしめざる様せられたきこと。

八月三日 擬講権大僧正井深觀幢は己講に補任された。

八月十四日 満洲国仏教総会から派遣の留学僧五名は、満洲別院藤本

師引率の下に來叡し、本宗に留学することになり直ちに滿洲寮に入寮した。

滿洲国仏教總會派遣

積 普 智 (二十三才)

積 笑 善 (二十六才)

積 修 傑 (二十五才)

滿洲帝国仏教總會

姜 誠 海 (二十八才)

孫 高 苑 (三十才)

八月廿日 寺院教会故綿類供出運動実施に關する件、文部省教化局長から通牒があつた。即ち、今般財団法人戦時物資活用協會に於て別紙要項に依つて、寺院、教会に於ける退死蔵の故綿類供出運動が実施される事となつた。従つて宗務本庁に於ても本運動の趣旨を了承して、所属寺院に対し本運動に協力方を通達した。

寺院教会故綿類供出運動実施要項

今次事変勃発以来纖維原料の輸入杜絶に依り著しく之が資材の減退を來したるも、現下の情勢に在りては未だ南方物資に依存し得ざるのみならず、一面軍需産業徵用工用寢具、作業衣、兵器拭布を始め各方面に於ける製綿及綿布の需要亦増嵩しつつあるを以て之等緊急需要の充足を図る為茲に全国寺院教会の故綿類供出運動を展開し各寺院住職、教会主管者等の愛国精神の昂揚に依り積極的供出を得て之が回収の徹底を期すると共に刻下の決戦体制強化の目的達成に資するものとす。

八月自廿一日至廿五日

延暦寺一山恵雲院、僧正清原恵弘は戸津説法を勤仕した。

九月八日 総本山延暦寺根本中堂に於いて、本日から十二月十八日に至る壹百日間、謹しんで玉体安穩、宝祚無窮、聖戰完遂を懇禱し奉る臨時御修法が開闢された。この御修法の趣が畏くも天聴に達し有難き御沙汰を拝し、恩召を以て御真影を御貸下げあったのは洵に恐懼感激畏き極みである。開闢に当っては結果も厳に、先づ壇上に 聖上陛下の御真影を奉安し、四天王合行大秘法の壇を刷い、護国三部大典読誦

の座を設けられた。之より猯下は昼夜三時の国禱大法を厳修、熱禱を捧げられ、護国三部の妙典誦誦の榮に浴した不斷經參勤者は二六時中猯下の真摯な懇禱に随順して齋戒沐浴不眠不休の熱禱を籠め奉った。

九月十日 本夕突然鳥取県地方に大震災があつたので、宗務庁に於ては直に慰問使三名を特派し、鳥取県庁、市役所並に本宗市内寺院に災害見舞として金一封を呈し慰問すると共に実情を視察させた処、其の被害甚大であり関東大震災にも匹敵するものである。聖戦下復興の急を要するに鑑み、罹災者に深甚なる同情を趨せ、速に慰藉の資を贈て救恤復旧に協力した。因に、管長猯下は金壹百円を本庁に寄託された。九月十四日の第一回慰問使は、雲井泰山、高橋良暢、佐々木秀清の一行であり、九月廿四日の慰問正使は、庶務部長落合寛茂及び大橋良仁、川合暹曜の一行であつた。判明せる被害左の如くである。

大雲院 弁天堂倒壊、鐘樓堂大破、表門倒壊、本堂屋根破損、庫裡大破

九月十七日 本庁より左記令達があつた。

天皇陛下玉体安穩、聖戦完遂祈願のため百日間、総本山延暦寺根本中堂に於て臨時御修法奉修せられつつあり、而て茲に左記期間を国難突破、聖戦完遂熱禱運動の期間と定め実施要綱を別記の通り定めたり。依て之に準ひ必ず実施すべし。

右通牒す。

昭和十八年九月十七日

宗務総長 僧正 青 木 道 晃

記

一、期間

自昭和十八年九月廿日
至同 十月三日

一、実施要綱

- (一) 国禱並に英霊追弔の写経
- (二) 戦時特別布教の実施
- (三) 出征遺家族の慰問
- (四) 白衣勇士の慰問
- (五) 産業戦士に対する感謝觀念の培養

(六) 保育所開設の促進

(七) 檀信徒報国会の整備強化並に結成

(八) 飛行機献納運動の強化

十月自三日
至八日六日間

先般「軍人援護強化運動実施」に関し昭和十八年九月六日附文部次官より通牒があり本日より実施となった。

軍人援護強化運動趣旨

戦局の苛烈深刻なる情勢に対応し全国民真に一丸と成り大東亜戦争の完遂に邁進すべきの秋、茲に軍人援護強化運動を実施し、愈々国民の戦意を昂揚し、相率いて戦力増強に努め、前線将兵をして後顧の憂なからしめ、益々軍人援護の強化を図り以て、聖旨に応へ奉らんとす。

十月廿日 今般蒙疆に左記天台宗蒙疆出張所を開設した。同出張所には西弘道開教師が在勤中である。

蒙疆宣化省張家市後堂巷衛一号

天台宗蒙疆出張所

十一月十日 鳥取地方震災合同慰靈祭は観音院に於て午後一時から管長代理 山村光敏御導師の下法華三昧を以て厳修された。一

十一月廿四日 東伏見伯爵は今回宗徒が至誠を籠めて根本中堂に参籠古例に則り玉体安穩敵国降伏の大熱禱を捧げ聖戦完遂に身命を堵して奉公中なることを聴かれ、早くより登叡祈願の御内意ある趣を拝した処、本日御登叡、根本中堂中陣に御参籠、宝祚無窮を御祈念された。

この日青木宗務総長以下宗務本庁各役職員、其の他三総本山主職本山役員一宗公職等が伯爵を出迎え聖業完遂への懇禱を捧げた。午後二時御登叡になった伯爵は書院に於て管長猊下と種々御対談され、午後三時修法のため猊下が入堂されると、伯爵は宗務本庁各役職員、延暦寺執行所各役職員、宗機顧問、宗務支所長、西教寺園城寺代表、延暦寺一山住職等に対面を許された。

十一月廿五日 今般九州地方に風水害があったので、社会部長小笠原観念は川合本庁員を随え、之が慰問見舞のため、本日九州災害地に出発し、延岡市善正寺、両子寺、応歴寺を視察慰問し、又檀信徒中の罹

災者を訪問し、金一封を贈呈して慰問した。

十二月十一日 国難突破 聖戦完遂 熱禱週間が実施された。去る九月八日から総

本山延暦寺根本中堂に於いて、畏くも天皇陛下の御真影を奉安し恭しく厳修されつつある玉体安穩聖戦完遂懇禱の臨時四天王合行御修法は本月十八日を以て所願の壹百日を満了することになって居るが、殊に同十一日日中座から十八日朝座に亘っては、後七日御修法大法が奉修されるので、宗徒一般も齊しく改めて這次御修法虔修の本旨を体して別記に準ひ格段の熱禱を捧げることと成った。

国難突破 聖戦完遂 熱禱週間実施要綱

一、期 間

自昭和十八年十二月十一日

至同 十八日

二、実施要綱

(一) 寺院及び教会に於ける祈願会

各寺院及び教会に於ては期間中日々必ず護国三部経を輪読して

天皇陛下玉体安穩、国難突破、聖戦完遂の祈願を籠むること

(二) 檀信徒報国会常会の開会

適宜の日を選び各寺院又は教会に所属の報国会員を参会せしめ、這般奉修の臨時御修法の趣旨を布演し参列者一同にて国禱祈願を為し終て常会を開催し、報国会の強化拡充、寺檀協力体制の確立、戦時宗門報国運動の実践、報国会の運営其の他に付協議し、活発なる運動の展開を期すること。

(三) 報国会結成の督励

報国会未結成の向に在りては此際必ず之を結成すること。

(四) 出征軍人及び応徴者援護強調

イ、出征軍人及び応徴者に対し慰問激励の辞を贈り、又は適宜慰問品を贈呈すること。

ロ、檀信徒中の出征軍人遺家族及び応徴者の家庭を訪問して慰問を行ひ各種の銃後相談に積極的に参与すること。

ハ、殉国英靈の家庭を弔問し至心に回向を捧げ且遺家族の慰安

に格段の誠意を披瀝すること。

(五) 報国貯蓄組合の設立

寺院及び教会に於て檀信徒を中心とせる貯蓄組合の結成を計ること。

十二月十二日 畏くも、征戦下未曾有の神宮御親拝を仰ぎ奉ってより茲に一年、大御稜威の下国運愈々隆昌にして、皇威が大東亜の天地に洽く行き渡ろうとしている。然し乍ら米英は飽迄も聖業の達成を妨げ様として凡ゆる犠牲をも顧みず、愈々熾烈大規模なる総反攻の挙に出て、戦局將に苛烈深刻を極めるに至った。この秋に当り一億蒼生は御親拝日の恐懼感激を新にしつつ、肅正総神拝を行い億兆一心神国必勝の熱禱を捧げ、神明照覧の下益々戦力増強に挺身し、誓って敵国を撃滅し以て宸襟を安んじ奉らんことを期している。本宗に在っては特に「聖旨奉戴一億総神拝」の趣旨により本日左記の神宮に夫々管長代理を特派して聖戦完遂の熱禱を捧げた。

記

伊勢大神宮、平安神宮、橿原神宮、吉野神宮、宇佐神宮、明治神宮、
日吉神社

十二月十八日 百日住山只管玉体安穩、聖戰完遂を祈願、一心丹誠の願業を円成された猊下は、御修法を結願されると、休む暇も無く、御真影を奉持して一路東上宮内省に奉還申上げられた。

十二月廿日 全国学徒に対する徴兵猶予が停止されるや吾が宗門学徒は秋正に到ったと、勇躍学窓より征途に上り、鎮護国家の祖訓を、身を以て戦場に生かすことに成った。管長猊下は、本宗所属の子弟であり大正大学を始め帝国大学、早稲田、日本、明治等の各大学に在学の入営者に対し、御懇篤な激励の御訓示に副えて、記念袈裟各巻領を授与し出陣の餞けとされた。

十二月廿四日 望擬講中山玄秀は擬講に補任された。

本年執行予定の法華大会広学豎義は戦時非常時下のためとり止めとなった。

昭和十九年^{甲寅}二月末日 企業整備令に依つて、比叡山の京都側のケーブ

ルが閉鎖され、山上のホテルも撤去された。

四月^{自十四日至十一日} 本年度恒例の御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主

猊下始め各門跡、地方代表、山内住職等が参勤して、普賢延命秘法を
厳修して、玉体安穩宝祚長久を祈り奉った。御衣の奉迎奉還、巻数の
献上等は例年の通りであつた。

四月^{自五日至九日} 五日間 総本山西教寺に於て、該山開祖慈摂大師真盛上人
四百五十回忌大遠忌法要が奉修された。依つて本宗々徒は応分の奉讃
の誠を捧げて香料を献備した。

四月十一日 昭憲皇太后尊儀御三十周年聖忌御正当に付き、本日から
三日間魚山に於て古来の厳儀に準拠した御懺法講を奉修して、尊儀の
御追福を祈り奉った。

四月廿五日 管長渋谷慈鎧大僧正猊下の御任期满了に付き、次期管長
推薦の為本日宗機顧問会が開会され、次期管長として園城寺長吏大僧
正福家守明猊下を推薦した。

五月九日 総本山園城寺第百六十世長吏大僧正福家守明猊下は、四月廿五日宗機顧問会の推薦に依り、本日主務大臣の認可を得て、天台宗管長に就任された。

五月廿日 戦局今や凄絶苛烈を加うるの秋、都市人口の疎開は急務中の急務として要請されているにも拘らず、ややもすれば疎開の真意を解せざる者、疎開先に窮する者或は障害に阻まれ急速に実行し得ない者があるのは、国防上洵に遺憾に堪えない状態である。茲に全国寺院教会中、未だ鍊成道場等の公共の用に供しない寺院教会の一部を開放し、関係官庁の熱烈なる賛同を得て、之が隘路打解に資助する様にとの公告が宗務総長から一宗に出された。

五月廿三日 僧正清原恵弘は延暦寺執行長に任命された。

六月一日 本年六月を期し政府の企画した国民総蹶起運動に呼応して、仏教徒総蹶起報国運動が実施された。

趣 旨

戦局の推移は愈々苛烈重大となり国運の隆替民族の興亡は將に本年

に於て決せられんとする秋生を皇国に受け教を仏門に奉ずる我等は茲に千三百余年に亘る日本仏教の伝統を提げて総蹶起し必勝不退の信念とその全生命を捧げて永く君国を護持壯嚴し以て荷負の大任を果さざるべからず惟ふに決戦下生産の拡充と云い戦力の増強といふもその基盤となる国民精神の昂揚は究竟するところ深奥なる宗教的信念の発現に在り、已に各宗は克くその教義の綱格に則り関係諸団体亦よく物心二面にわたりて時局活動の上に貢献するところ多大なるものあるも今や一億国民敢闘出陣の際に当り国家の絶対要請に呼応して率先茲に全仏教徒を中核とする強靱なる組織的国民総蹶起教化運動を展開し其の総力を挙げ誓つて国難打解米英折伏に邁進し以て聖旨に奉答せんとするものなり。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下厳修された。

六月廿六日 去る六月十五日、畏き思召を以て各門跡寺院に対し従来下賜されていた年金の外別に特別賜金御下賜の御沙汰を拝し、各門跡

の榮譽は勿論宗門の光榮之に過ぎるものは無く、朝簪の鴻遠洵に恐懼に堪えない所であるが、御沙汰を拝したので管長猥下は本日門跡代表として上野輪王寺及円満院両門跡、青木宗務総長、神田庶務部長、岸巖東京出張所長等を御帶同御参内の上右の御礼を言上された。各門跡に於ては、聖上陛下玉体安穩、皇恩奉答に一層の誠意を捧げて居るが、特に八月一日から一三日間総本山延暦寺根本中堂に門跡及び本庁役員、総本山役員等が参籠し、皇恩奉答聖戦完遂祈願の大法会を厳修し、四天王合行秘法並に護国大典誦誦の熱禱を籠め四日日中座を以て満願を迎え、即夜門跡代表として中山毘沙門堂門跡東上参内、謹而天機を奉伺し御牘を献上した。

八月四日 今回本宗戦時事務局評議員会の開会を機として帝国の当面している未曾有の難局に対処し宗風の一層の発揚を高調して宗徒の奮起を策励する為管長猥下は特に教諭を発せられた。

教諭

現下 皇国は今次の聖戦遂行に方り最も重大なる難局に直面し国家

隆替の岐路に立つ局面を打開し一挙戦捷の端緒を把握するの要実に急なるものあり。

前内閣曩に時局の緊迫に鑑み非常の決戦期に当り人心の一新を意図して総辞職を決行し機を失せずして組織せられたる後継内閣は直ちに国民の大和一致を求め必勝信念の高揚堅持と国民道義の自覚発揚とに格段の潜心工夫を要望し以て物心両面の戦力増強を策し一億の闘魂を凝集して一路究極の勝利に驀進するの決意を示明して国民に在めり。

大東亜戦争の目的は既に、宣戦の大詔に炳然たり。御稜威の下、皇軍の善謀勇戦克く大局を先制し赫々の戦果を寰宇に昭輝し邪は竟に正に勝たざるを顕現せりと雖も戦局の推移起伏毫末の予断を許さず、時に或は北溟に或は南海に第一線皇軍将兵全員戦死の悲報を耳にし在留の皇民亦悉く之に殉じて皇土の一角戎夷の足下に汚さるるの現実に接す皇国民たらんもの誰か決死の覚悟を新にし眦を決して敵反抗の撃擢に奮起し神州護持の大任を自覚せざらん。納等亦皇国臣民

として殊に一身を教導の任に捧ぐるもの須く率先垂範敢然として其の本分に挺身せざるべからず。

惟ふに、宗祖根本伝教大師

桓武天皇の勅願に契ひ法華一乗の大幢を樹立して国体相応の大乗仏法を實現し真俗一貫道念の開発を肝要とし日本国大和合の本義を顕揚し国家興隆の洪基を国民道義の高揚に固うし給ひしより悠久一千余年開宗の法輝儼然として存し恒に皇国の隆昌に伴随して今日に及べり。

衲等今や国家曠古の重大時局に際会す。洵に思を深く宗祖の古に潜めて道俗一体大和合の真隨に透徹し明かに国内態勢の諸相を省察しては益々道念高調の宗風を隨所に発揚し万難敢て勇を鼓し己を忘れて他を利し真実の菩薩道を行じて国民道義の儀表と為り以て国家喫緊の要望に対へ報国の赤誠を抽揮せざるべからず。

昭和十九年八月四日

天台宗管長 大僧正 福家 守明

八月廿日 天台宗報国運動が実施された。

実施要綱

寺院教会に於ける事業

一、長日国禱会及び長日報恩会修行

イ、長日国禱会

ロ、長日報恩会

ハ、戦時食糧非常増産計画

二、軍事援護の強化

(1) 軍人援護に関する勅語を拝読し聖旨の存する所を一層深く服膺する事

(2) 慰霊祈願及び遺烈の顕彰

(3) 前線将兵、傷痍軍人、遺家族及び遺族に対する精神的慰安及び慰問に一層の力を尽すこと。

(4) 傷痍軍人に対し感謝の觀念の徹底に努むること。

(5) 檀信徒中軍事援護に付他の範とするに足る者ある場合は管

長にその顕彰を申請すること。

三、保育事業の拡充と戦時化

イ、農繁期託児所の倍加

ロ、戦時託児所の開設

四、戦時に於ける寺院の活用と開設

疎開者受入

五、戦時青少年教化運動の新展開

イ、少年報国道場の開設

ロ、青年修鍊道場の開設

ハ、産業工場等紙芝居、活映機慰問

ニ、産業工員補導施策の確立と鍊成

八月自廿一日至廿五日 大覚寺僧正雲井行善が戸津説法を勤仕した。

九月卅日 僧正清原恵弘は再び延暦寺執行に任命された。

十一月十八日 延暦寺一山理性院住職即真周湛は滋賀院門跡に任命された。

十一月廿一日 曩に大日本戦時宗教報国会が結成され官民一体の機構を整え、各教宗派及教団は各々立教の本旨に基き其の特色を発揚し、協同の総力を結集し没我奉公尽忠報国の信念に徹し、戦時宗教々化活動の展開を要望された。今その新発足に方り、本宗に於ては宗風一層の発揚を高調し、宗徒の蹶起を策励する為に特に教諭が発せられた。

教 諭

大東亜戦争現下の戦局は愈々凄愴苛烈を極め驕虜撃滅の神機漸く熟せんとするものありと雖も、皇国の隆替と大東亜の興亡とは正に其の岐路に立ち一瞬の苟安を許さざるものあり、深く戦力増強の根基に培ひ戎夷反攻の兇鋒を撃砕し速に危局を克服して、聖戦の目的完遂に奮進せざるべからざるの秋なり。而して戦力の増強は国民道義の醇化高揚を根幹とし国民道義の作興は宗教的心念の啓発に俟つ。政府茲に觀る所あり。曩に大日本戦時宗教報国会を結成し三教を一丸としてその総力を結集し国家と表裏一体清新強力なる教化活動の展開を勸奨せり。誠に能く納が宿志に契ふ所にして感激転た禁ぜざ

るものあり。

由来我が国の宗教は皇道に遵ひ各立教の本旨を顕揚して国民を教化し無窮の皇運を扶翼し奉らんことを期せざるなし。殊に本宗は恒に鎮護国家済生利民の祖訓を恪揚し皇民をして悠久の大義に生くるの信念に徹せしめ克く報国の赤誠を披瀝して今日に及べり。而して時局は教家協同の総力を挙げてその本分に挺身し以て宗教の崇高なる使命達成を要望し一刻の猶豫を許さざるあり。衲等茲に昭和十七年十一月二十六日各教宗派管長並に教団統理者に対して、畏くも宮中に謁を賜ひし記念の日を目睫に迎ふ。聖慮朝眷の深厚なるに惶懼せし当時の感激を新にし自省自戒責務の重大なるに顧み愈々匪躬の節を堅持し邁往以て教化の実績を挙げ国策に対応して宗教報国の熱誠を捧げんことを期すべし。

昭和十九年十一月廿一日

天台宗管長 大僧正 福家守明

昭和二十年乙酉 一月十三日 前天台座主大僧正梅谷孝永猊下は本日御遷化

された。

一月十五日 前天台座主梅谷孝永大僧正猥下の密葬が、京都妙法院門跡大書院に於いて平野三千院門主御導師の下執り行われた。

一月廿六日 去る一月廿日京都妙法院門跡境内に米軍飛行機により誤って爆弾が投下される事件が発生した為に執行が延期されていた第二百四十七世天台座主大僧正梅谷孝永猥下の本葬儀は、この日同門跡宸殿に於いて、渋谷座主猥下御導師の下天台宗葬を以てしめやかに執行された。宗内外その他各界から多数の会葬者があつた。

三月廿日 比叡山の坂本側ケーブルも遂に営業が停止された。因みに、同ケーブルは、五月大津海軍航空隊によって接收され、又六月には、海軍工作隊が進駐して、比叡山東塔が特攻隊基地として生れ変わり、南谷の墓の下が削られ、飛行機打出しのカタパルトが完成し、ケーブルはその為に使われることと成った。

四月自十四日至十一日 本年度恒例の御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猥下始め各門跡、地方代表等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩

宝祚長久を祈り奉った。御衣奉迎奉還、巻数献上等は例年の通りであった。

五月卅日 望擬講田村徳海が擬講に補任された。

六月四日 例年の通り長講会が比叡山上浄土院で座主猥下御証義の下
厳修された。

六月八日 壬生雄舜が妙法院門跡に任命された。

六月廿日 福家管長猥下は本日時局に関し特に教諭を発せられた。

教 諭

戦局の大勢我に利あらず。皇国の危機急迫を告ぐ。皇軍の各戦線に於ける敢闘力戦は益々その精華を発揮せらるるありて詢に感激措かざる所なりと雖も敵国はその尨大なる物量を持みて漸く我を圧倒せんとし我が国土に対しては兇猛人道を無視せる襲撃を敢てし思想謀略の魔手亦之を延べ専ら皇民の戦意碎折に燥急し遂にその手段を選ばざるに至る。之れ敵国自ら蒙りつつある損害の苦悩を暴露し短期決戦を意図せるの挙に外ならず此の時に処し一億皇民は唯更に深く

最終の勝利獲得の信念に徹し愈々堅忍持久百折不撓の闘魂を振作し聖戦完遂の為にその職任に殉ずるの覚悟を新たにし勇往邁進危局の克服に当り敵国をして乗ずるに闕隙なからしむべきは言を俟たずと雖も又以て現下機に臨んで適切喫緊の籌画を同らし戦勢轉換の契機たらしめざるべからず。即ち戦局利有らず。敵の大陸接岸或は我が本土侵寇は目睫の時期に於て必死ならんとし戦災愈々酷烈に皇土の全域に及ぼんとするの秋に方り最も誠心を要するは国民戦意の挫折に在り。今或は誤て一人の戦意を喪うものあらんか同胞の結束茲に破綻し最悪の終局を齎さんこと必せり。今日一人一瞬の偷安は皇民一億の亡滅を招来し皇国悠久三千年の光輝ある国史は茲にその終りを告げ延いて大東亜十億の民族は永遠にその自由を失うべし。而て戦意の喪失は道義の頽廢道念の弛緩に萌す。衲曩に道念の啓培昂揚を以て教化の中核とし時局に対処すべきを屢述し教諭せり。宗徒一般亦克く衲が意を諒し皇国仏教の本義に則り祖訓を顕揚し報国の丹誠を抽んずる所あり。衲の深く之を怡ぶところなりき。然れども熟

々邦家の現状を顧みるに戦局不利の推移に伴い戦災随所に猖獗を極むるに及び国民道義弛廢の兇兆覆うべからざるものあり。後方秩序抔乱の敵手に好機を与ふるの懼れなしとせず誠に遺憾の極みにして又憂慮に堪へざる所なり。仏祖の照鑑上に在り、宗徒一般須らく納と共に直ちに蹶起して自省自誠己を空うし道義の振作と戦意の昂揚を図らんがための教化の徹底滲透に挺身し皇国仏徒の真面目を発揮し誓って現下緊迫せる危局を克服して聖戦の完遂に資し一は以て宸襟を安んじ奉り一は以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉らんことを期すべし。

昭和二十年六月廿日

天台宗管長 大僧正 福 家 守 明

七月五日 延暦寺一山真藏院権僧正森川淳契が延暦寺執行に任命された。

七月廿七日 予てより本宗に御入門の御内意を拝していた伯爵東伏見邦英閣下は、本日御因縁深き洛東青蓮院門跡に於て御得度式を厳肅裡

に執行された。因に、当式の戒師は天台座主渋谷大僧正猊下、教授師は真如堂福恵道暢貫主であり、宗務本庁役職員、近隣門跡、教区職員等が御随喜申し上げた。

同日 太田深澄は宗務総長に任命された。

八月十四日 大東亜戦争は、科学史上未曾有の惨虐なる原子爆弾の投下と突如として起ったソ連の参戦とによって、決定的段階に追い込まれ、遂にその目的を達し得ずして、終戦の大詔が渙発せられ、戦争を終結するの止むなきに到った。

八月十五日 終戦の詔勅はこの日正午よりラジオを通じて日本全国民に発せられた。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山円乗院住職権僧正渡辺恵章は戸津説法を勤仕した。

十一月廿日 戦災者慰問用品募集運動が左記趣旨に拠って実施された。

趣 旨

旬月ならずして嚴冬を迎へ戦災者の救護は睫眉に迫るものありて真

に同情に堪えざるものあり。衣、食、住共に明日を期し得ない悲痛なる境遇にある。これら罹災者の援護は国民全体の責務なりとは言へ仏道に精進する我等又黙視するに忍びず。茲に亡己利他の御祖訓を体し自らの不自由に堪えつつ猶この援護に挺身し以って刻下の民心安定に寄与するところあらんとす。

昭和二十一年

丙戌

一月卅日

一月廿八日開会された宗会の議を経て、寺門

法流及盛門法流に属する寺院、教会、宗教結社、及教師僧侶等は本日本宗から分離した。

一月卅一日 右分離に依り管長大僧正福家守明猥下は一月卅日付で自然御退任に付き、宗制第四十四条に依り即日宗機顧問中最上位の大僧正大森亮順猥下が管長代務者に御就任の所、一月卅一日宗機顧問会に於て天台座主大僧正渋谷慈鑑猥下を管長に御推薦と成り直に御就任された。

二月十五日 法人天台宗設立の件につき宗会の賛同を経、宗教法人令第四条に依る登記を了り本日をして以て次のような内容の天台宗規則を施

行することになった。

天台宗規則(宗制)目次

第一章 目的及教義

第一節 目的

第二節 教義

第二章 名称

第三章 事務所の所在地

第四章 財産管理其他財務に関する事項

第一節 財産

第二節 賦課徴収

第三節 予算及決算

第五章 主管者代務者其他の機関に関する事項

第一節 主管者

第二節 管長の代務者

第三節 特別代理人

第四節 宗機顧問会

第五節 宗教本庁

第六節 天台宗宗務本庁出張所

第七節 教区

第八節 宗会

第九節 教学審議会

第十節 審理局

第六章 所属寺院及教会に関する事項

第一節 法人たる寺院及教会

第二節 法人に非ざる寺院及教会

第三節 寺院及教会の主管者

第四節 教師及僧侶

第五節 檀徒、信徒及び其の総代

第六節 褒賞及懲戒

第七章 公益事業に関する事項

第八章 規則変更に関する事項

第九章 補則

二月廿五日 第三教区金峯山寺住職僧正三崎良泉は宗務総長に任命された。

三月十三日 天台座主渋谷慈鎧猊下は比叡山専修院々長に任命された。

三月廿七日 太田深澄が青蓮院門跡に任命された。

四月一日 延暦寺一山円乗院住職僧正渡辺惠章は望擬講に補任された。

同日 喜多院住職権大僧正壬生雄舜は望擬講に補任された。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、

座主猊下始め各門跡、地方代表、山内住職等参勤して、熾盛光法を厳修して玉体安穩宝祚長久並に鎮護国家世界平和を祈り奉った。

御修法終了後進駐軍の護衛にて東上し宮内省へ御衣を奉還し巻数等を献上した。

五月四日 擬講中山玄秀は己講に補任された。

五月九日 延暦寺一山円乗院僧正渡辺惠章は延暦寺執行に任命された。

六月四日 例年の通り長講会が比叡山上浄土院で天台座主猊下御証義の下厳修された。

六月廿四日 望擬講大僧正大森亮順は擬講に補任された。

八月五日 今般文部次官より「連合国占領目的に有害な行為に対する処罰等に関する件の宗教団体に対する徹底について」に関し左記の通り通牒があった。

「連合国占領軍の占領目的に有害な行為に対する処罰等に関する件の宗教団体に対する徹底について」

連合国最高司令部より発せられた昨年十二月十五日付の指令「国家神道、神社神道に対する政府の保証、支援、保全、監督及び弘布の廃止に関する件」に就いては同月廿日付通牒でその趣旨の徹底について御配意を煩したが、本年六月十二日勅令第三百十一号「連合国占領軍の占領目的に有害な行為に対する処罰等に関する件」が公布され七月十五日より実施されているが、連合国司令部より従来発せられた指令及び今後発せられる指令、又これらの指令に基いて政府

の発する勅令又は省令等に違反した場合に、本勅令が嚴重に適用されるので、貴派並びに貴派所属の神社、寺院、教会等に対しては勿論、氏子、崇敬者、教壇信徒に対しても、この際重ねてその趣旨の徹底に努められて万遺憾のない様にせられたい。

八月七日 大津市坂本の「坂本ケール」は、車輛等を復旧して營業を開始した。

九月三日 官庁令示第三号内務省警保局長及び厚生省衛生局長より警視總監及び各都道府県長官宛「墓地の新設に関する件」に関し左記の通り通牒があった旨宗務課長より次のような通牒があった。

墓地の新設に関する件依命通牒

墓地の新設に関しては、明治十七年内務省達乙第四十号細目標準第一条により、原則としては許可をせず、やむを得ない事由がある場合は、昭和十二年十二月十七日付警保局警発甲第一五四号通牒により、市町村等公共団体には、その必要な限度に於て認めるが、個人又は特殊の者の専用に供するようなのは、その理由の如何を問わ

ず認めない方針であった。その為神道及びキリスト教等の新興宗教団体にとって、墓地の使用、設定上種々の不便があり、之が緩和方が要望されるに至った。しかし墓地の新設、拡張は、成るべく限定して行い、必要已むを得ない場合を除き、荒蕪地を用いることと致したい。

よって今後、おほむね左記要項に基いて墓地使用上の指導をすると共に、その新設拡張をも許可するよう取り計らはれたい。

記

一、現在ある共同墓地については、総べての宗教の信者は各自の宗教の宗義に従って死者を葬らねばならぬという原則に従って、墓域内に各派毎に整然たる区劃を設け、神道、仏教、キリスト教等の信者の埋葬に支障なからしむること。

二、使用者の増加又は区劃整理等の為従来の墓地著しく狭隘となり新設の必要ある場合は、市町村等公共団体に共同墓地としての許可を与へ、区劃を設けて神道、仏教、キリスト

教等の信者尚信仰不明の死者の為の埋葬場所等を明らかにし、使用上支障なからしむること。

三、市町村等公共団体の管理に属する共同墓地の新設不可能にして、事情已むを得ざる場合は、寺院、教会等にも、其の必要とする範囲内に於て新設を許可するも支障ないこと。

四、墓地の新設を許可すれば支障があると認められるやうな場合、寺院、教会等の境内に納骨堂の設置を許可するよう考慮するは支障ないこと。

五、山間等人里遠く離れた場所で、墓地の設け全く無く新設の必要ある場合は個人に許可するも支障ないこと。

六、墓地新設の許可にあたっては、宗教の如何により、差別的な取扱いをしたと疑われないよう留意すること。

九月廿一日 中山玄秀が比叡山専修院々長に任命された。

十月十日 宗務総長は「執行長」と改称される事になり、従って宗務総長僧正三崎良泉は執行長に任命された。

十一月三日 本日の新憲法公布の佳き日に當つて、猊下から特に教諭を發せられ、宗風を昂揚するよう宗徒の一大奮起を促された。

教 諭

本日明治節の佳節に當つて新憲法の公布を見茲に優渥なる勅語を賜うて我等國民の嚮ふべき所を昭示し給ふたことは寔に恐懼感激に堪へない所である。

惟うに聖旨を経とし國民の総意を緯とせる新憲法は人類普遍の道理に基いて國民の自由と平和とを將來する眞の文化國家の建設を意図せられたものである。

我が全宗徒は此の一大變革に際会して宜しく大局に着眼し過去の陋習を打破して自己の節度と責任とを重んじ殊に清新潑刺たる宗教運動を展開して國民悉くをして宗祖大師所願の菩薩道の體驗者とすることに努めなければならぬ。

是れ偏へに宏大なる聖旨に對へ奉りて速かに新憲法所期の世態の實現に資するものであり又以つて宗祖大師立教開宗の精神を紹述開展

する所以であると信ずる。

昭和二十一年十一月三日

天台宗管長 大僧正 渋谷 慈 鑑

十一月十一日 延暦寺一山玉蓮院住職大僧都稻田祖賢阿闍梨は北嶺回峯行一千日を満行したので、旧儀を復興して、この日京都御所へ土足参内して玉体加持を奉修した。

十二月自廿三日
至廿七日 大正天皇尊儀御二十周年聖忌御正当に付き、この日か

ら五日間魚山に於て古例に準拠し御職法講を奉修して御尊儀の御追福に資薦し奉った。宗徒も古例に依って当法会の趣旨を体して応分の香資を献備した。

昭和二十二年丁亥二月三日 従来管長から授与していた院号の取扱は本日

限り廃止となった。

但し宗制第三百九十七条（篤信にして檀信徒の亀鑑となる者や、寺院教会の永続維持に特別の功勞あつた者等に対する褒賞規定）に該当する院号授与は従前通り変りは無い。

二月八日 第二百四十八世天台座主大僧正久田全琬猊下はこの日御遷化された。

二月十二日 前天台座主久田全琬大僧正猊下の密葬が、京都曼殊院門跡に於いて即真滋賀院門主御導師の下執り行われた。

二月廿二日 去る二月八日御遷化された第二百四十八世天台座主大僧正久田全琬猊下の本葬の儀は、京都曼殊院門跡に於いて、渋谷座主猊下御導師の下、天台宗葬を以てしめやかに執行された。宗内外その他各界からの多数の会葬者があつた。

二月廿八日 日光一山菅原英信は日光輪王寺門跡に任命された。

三月一日 道義昂揚月間運動が実施された。

要 領

一、趣旨

再建日本に於て最も重大なる心的方面の問題は、將に地に墜ちんとする道義の昂揚にあり、此の大問題に対する宗教家の責務と活

動は実に世の渴望しつつある所である。依って今般仏教連合会では各宗派各界と協議の上『道義昂揚月間運動』を全国的に展開することとなり本宗に於ても之に呼応して全宗徒の奮起により本運動の目的達成に努力を捧げんとするものである。

四月一日 高木亮範が比叡山高校々長に任命された。

四月自十四日至十一日 本年度御修法は比叡山上根本中堂に於いて、座主猊下、

各門跡、地方代表等参勤して、七仏薬師大法を厳修し玉体安穩宝祚長久並に鎮護国家世界平和を祈り奉った。御衣奉迎奉還、巻数献上等は宮内庁京都出張所長を通じて行われることになった。

四月十一日 山口光円は曼殊院門跡に任命された。

四月廿二日 管長猊下は、本日より二日間浜中随行布教師、今出川随行長、森定随行員を随えられ第十二教区福井県国分寺に御親教され、御導師の下天台大師一千三百五十年御遠忌、並びに国分寺開創一千二百五十年法要、並びに薬師如来御前立像開眼法要、並びに戦死者追悼

法要を厳修された。

五月六日 権僧正山田惠諦は延暦寺執行に任命された。

五月十三日 管長猊下は本日より三日間第四教区満願寺本堂落慶法要に浜中随行布教師、今出川随行長、森定随行員を随えられ御親教され、戦歿者追悼会を厳修された。又、剃度式、説教等の事があった。

五月廿一日 讃仏堂に於いて午前十時から同日午後十一時半迄の間、別請広学堅義が厳修された。

業 尔前身土 副 三諦勝劣

探 題 延暦寺大僧正

堅 者 浅草寺大僧正 大 森 亮 順

一之問 毘沙門堂門跡権大僧正 中 山 玄 秀

二之問 滋賀院門跡僧正 即 真 周 湛

三之問 円乗院僧正 渡 辺 恵 章

五月廿二日 己講中山玄秀は探題に補任された。

同日 擬講大僧正大森亮順は己講に補任された。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下で厳修された。

八月十九日 延暦寺一山雙巖院住職僧正福恵道暢は望擬講に補任された。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山真藏院住職僧正森川淳契は戸津説法を勤仕した。

九月一日 金峯山寺大僧正三崎良泉は妙法院門跡に任命された。

九月十二日 望擬講僧正渡辺恵章は擬講に補任された。

九月自十三日至十四日 天台宗教学大会が比叡山上宿院に於いて午前十時から開かれた。研究発表者の氏名は左記の通りである。

記

天台宗教学研究所長
大正大学教授

塩 入 亮 忠

大正大学教授

坂 戸 智 海

同

福 井 康 順

同

平 了 照

同

関口 慈光

同

古江 亮仁

比叡山専修院教授
同 専門学院教授

山口 光円

同

中山 玄雄

同

三浦 義薫

同

森 観濤

比叡山文庫主任

福吉 円鈔

九月廿五日 讃仏堂に於いて午前八時から同日午後三時四十五分迄の間別請広学堅義が厳修された。

業 権乗下種 副 龍女分極

探題 毘沙門堂門跡権大僧正 中山 玄秀

堅者 円乗院僧正 渡辺 恵章

一之間 浅草寺大僧正 大森 亮順

二之間 滋賀院門跡僧正 即 真周 湛

三之間 真正極楽寺僧正 福恵 道暢

同日 已講大僧正大森亮順は探題に、擬講僧正渡辺惠章は已講に補任された。

九月二十八日 望擬講僧正福惠道暢は擬講に補任された。

九月自廿九日
至卅日 比叡山上戒壇院に於いて大乘円頓授戒会が嚴肅裡に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 滋賀院門跡僧正 即 真 周 湛

教授師 真藏院僧正 森 川 淳 契

十月自一日
至七日 法華大会広学豎義が比叡山上大講堂に於いて嚴修された。

臨監 勅 使 掌典 庭 田 重 行

探題 延暦寺 大僧正 慈 鑑

探題 毘沙門堂門跡権大僧正 玄 秀

探題 惠心院 大僧正 亮 順

已講 円乗院 僧正 惠 章

擬講 雙巖院 僧正 道 暢

会行事金台院 大僧都 円 瑞

十月七日 第二百四十九世天台座主大僧正渋谷慈鑑猊下は今日午前八時三十分御遷化された。

宗制第九条及び第十条の規定に基づき探題大僧正大森亮順猊下が天台宗管長代務者に就職された。

探題大僧正中山玄秀 在山十二年

福井県福井市和田東町 大橋忠太夫 三男

師主 延暦寺一山明德院 中山玄親

昭和二十二年十月十日 任天台座主

十月十日 この日新規則施行に伴い宗法第十五条第一項の規定に基づき前任探題総本山延暦寺住職大僧正中山玄秀猊下が第二百五十世天台座主に就職され、今十月十日午前十時から滋賀院内仏殿に於いて天台宗本庁役職員、延暦寺役職員、一山寺院住職等随喜の中に上任式を挙

行された。

同日 第九回臨時宗会に於いて多年の懸案であつた宗務機関一元化の天台宗規則（宗法、宗制）が議決され、九月卅日布達され、十月十日から総本山延暦寺を主体とする宗務の運営が行われる事に成つた。新宗法、宗制の施行に因り、天台宗宗務本庁を天台宗本庁と改称し、その職制改正に伴い、臨時に執行長、執行の役職が設けられた。

十一月二日 渋谷猯下が御遷化されてから四七日相当のこの日、延暦寺本坊内仏殿に於いて厳かに御本葬の盛儀が執行された。霜錦愈々酣ならんとする祖山は愁色殊更に深く「山門不幸」の門表は遊山参詣の諸人にさえ一入哀愁を誘わしめた。

会葬者は、園城寺長吏、東西本願寺、西教寺等各本山代表を始め、宗内各門跡、教区長、精査員、宗會議員等の宗内各種代表関係、学校関係者、仏連代表者、学会代表者其の他宗内公職員、各種団体代表、新聞社、特別信徒及び一般信徒等であり、式場に満ち溢れた。午前十時から中山座主猯下が御導師、精査員、宗會議員が式衆となつて光明供

を修し、午後一時から座主猊下御導師、延暦寺一山大衆によって庭儀式がしめやかに執行された。弔辞は各本山代表園城寺長吏福家守明その他であった。

十一月廿二日 故渋谷猊下御遷化尽七日相当の日に当り午後二時から、中山座主猊下大導師の下一山大衆によって金曼供法要が厳修され引続き慈眼堂歴代墓所で埋葬の儀が行われた。

十二月一日 荒真了は東京上野輪王寺門跡に任命された。

十二月十八日 中山座主猊下は聖徳太子本廟に御参詣され、天台の法灯相承を御報告されると共に躬を以って全国を行脚する事を誓われた。
昭和二十三年^{戊子}二月廿四日 第一回宗会開会式の挙行に際して、座主猊下は親しく御臨場の上諭示を宣せられた。

諭 示

我れ第一回宗会開会式に臨み同法諸員に告ぐ。爰に本庁は緊急の件々を提示したり。夫れ宗是の恢弘を謀る一に係りて全員緇流の雙肩に在り、宜しく大師開創の本義に基づき宗門の将来に洞視し卑近を

斥けて高遠に慮り審議克く協賛の任を全うせんことを。

昭和二十三年二月廿四日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

二月廿八日 千百有余年不滅の法灯輝く比叡山延暦寺天台座主第二百五十世の伝灯を相承された中山玄秀座主猊下の伝灯相承式はこの佳日をトし古典儀も床しく比叡山麓讃仏堂で挙行された。

この日猊下には滋賀院本坊正面より先弘行事引頭伶人式衆(八口)布衣護持僧

御相承譜(執行)

弟子猊下 弟子布衣朱傘持 執行長 天台宗本庁役員内司法類近親等

の行列を整えて讃仏堂へ入堂し、宗祖大師の御像前に進み敬白の誦誦

に始まり「八舌の鍵」及び歴代座主護持の「一字金輪塔相承譜」とそ

の秘法器具並びに大乘戒伝授に必要な「舍利塔」を伝承され次いで猊

下から宗徒に対し教諭が発せられ、引き続き三崎執行長、山田延暦寺

執行、木下宗会議長の賀詞奉呈、三崎執行長の挨拶があつて相承の典

儀は全く終了した。主な来賓者は次の通りであつた。

東西本願寺執行長、園城寺長吏、三宝院門跡、実相院門跡、智恩院執

事長、西教寺総務等の各宗派門跡代表等、滋賀県知事代理地方事務所長、大津、堅田両警察署長、大津駅長、各交通会社代表、村内各団体、宗會議員、精査院議員、教区長、特別信徒、一般信徒、内司関係、縁故者等、内外約五百余名。

天台座主伝灯相承式次第

第一番鐘 式衆集会所参集 午前十時

第二番鐘 式衆装束 午前十時半

第三番鐘 猊下御入場（奏樂 越天樂） 先会行事、次伶人、次引頭、次

式衆、次御相承譜、次猊下、次宗務本庁 延暦寺 役員、次、法類 近親者 等

次猊下御登壇 奏樂（嘉祥樂）

次唄 匿

次散華 奏樂（迦陵頻）

次敬白

次御相承御儀式 奏樂（賀殿）

次御法樂

先開經偈

次誦經（神力品）

次六種回向

次猊下御降壇

奏樂（胡飲酒）

次猊下教諭

次賀辞捧呈 執行長、延暦寺執行、宗會議長、総本山檀信徒代表

次執行長挨拶

次猊下御退場

奏樂（陵王）

次参列者退場

教諭

宗祖大師叡岳に登りて、一乗止観院を創建し、延暦聖皇の勅を奉じて大唐に入り法華の正統を求めて還る。帰朝の後盛に円密禅戒の教法を弘め、顯密二教鳥翼車輪に比し以って濟世利人の大旨を定め玉ふ。爾來隆替あり法に消長無きに非ずと雖も列祖克く宗祖立教の本旨を継承して宗基を恢弘し玉ひ今日に至る。宗徒各員深く此に鑑る

所あり。宗祖の遺訓に遵い列祖の軌範にならない各自ら戒行を嚴にし精進を怠らず末法を正法に復し鎮護の宗是を永遠に墜すなからんことを以って己が任と為すべし。これ深く宗徒に望む所なり。

一乗沙門玄秀茲に宗法に則り天台座主の職に就き伝灯を相承し奉る。惟ふに老納夙に宗祖鵠瓶の法水を汲み解行に専念すと雖も尚未だ欠くる処多し。ただ仏天の冥感宗祖の照覽を仰ぎ、且つは宗徒の協助を以って此の大任を全ふせんことを期す。

願くば我が同法、深く世情を達觀して慈悲利物の実を挙げ以って宗祖に答へ奉ると共に又己が本分を尽さんことを。

昭和二十三年二月廿八日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

三月十九日 川原田円匡は毘沙門堂門跡に任命された。

三月廿五日 比叡山にて修行院が初めて開始された。

目的

本宗の教師である者の内、學歷、年令を問はず、希望に応じて、祖山延暦寺の山上諸堂舎に於いて、宗祖学生式の精神に則り行門の実習を為さしめる。

内容

院長、指導員、教授及び職員には夫々の權威者が之に当り、一宗最上の実践学校となし、修行期間は三ヶ月乃至六ヶ月とする。

特典

修行中は食費一切及び行院費等は徴収せず、すべて無料となし、その成績によって修行後教師一級を昇補される。

三月廿八日 滋賀教区に於いては予定の御親教の第一期として取敢えず左記の日程で親修された。

記

三月十八日 滋賀部 来迎寺

三月廿四日 甲賀南部 嶺南寺

三月廿七日 坂浅部 成菩提院

三月廿八日 蒲生北部 東南寺

猊下には御高齢にも不拘至極御元気で教学部長、駒田滋賀教区長、延曆寺幹事、浜中、橋野布教師等を従えられ、座主旗を先頭に定刻会場に御到着、各部内諸寺院住職、徒弟等の挨拶を受けられ、御休憩の違もなく御親修法要、諭示に次いで親授円頓戒或は剃度式等夫々所定の如く執行され、万般魔事無く進行した。各会場は予定の人数を遙かに超える受戒希望者があって係員を狼狽させる盛況で、其の数実に延べ千五百人に達して幾多堂外に溢れ、浄心の発露する所只管稀有の勝縁を喜び、聞法に受戒に剃度に極めて静粛且つ厳粛に一日を浄業に終始した。

三月卅一日 中山玄秀大僧正猊下は古儀に則って山上諸堂に参詣され座主就任の御報告をなされた。

四月^{自四}_{至十一日} 本年度恒例御修法大法は総本山延曆寺根本中堂に於いて座主猊下始め各門跡、地方選抜代表、山内寺院等参勤の上普賢延命大法を厳修し、玉体安穩宝祚長久並に鎮護国家世界平和を祈り奉った。

自四月十五日
至五月卅一日 比叡山文化展覧会が開催された。

四月自十七日
至十八日 東海教区岐阜県可児郡御嵩町願興寺に於いて、万靈供

養会並剃度式及褒賞状親授が執行された。猊下は十六日延暦寺一山僧
正渡辺恵章、本庁大森布教課長、随行布教師滝本慈選、出迎えの傍島
東海教区長及び宗会議員森下全哲等の諸師を従えられ会場寺へ御到着、
春雨煙る十七日は午前十時から国宝靈仏廿四躰安置の宝前に於いて怨
親平等万靈供養会を厳修され、尚晴れやらぬ午後二時から戒弟子百余
名に対し猊下親しく御剃度を執り行われた。十八日は晴天に恵まれ十
二年一会の本尊靈仏開扉中日の勝縁に結ばれ様と近郷から参詣した善
男善女の人の波でさすがの広い境内も埋れた。午前八時、願興寺独特
の稚児念仏組の練込があつて、猊下からそれぞれの組に対し褒賞状を
下附された。

四月廿八日 予て本宗教義に特別の信仰と関心を持っていたペッツォ
ルト、ブリンクリー両師に対し今回僧階を贈与することとなり、その
伝達式が本日午後二時から東京浅草寺に於いて三崎執行長、浜名総務

部長出席のもとに左記の通り執行された。

先唄 散華 啓白文

次開会辞 坂戸智海師

次階位贈呈 主職代理 福田大僧正

次祝辞 大村正大学長

次同 花山文学博士

次挨拶 三崎執行長

次閉会辞 浦井出張所長

尚一般参列者として各宗会議員、教区長、学校関係者、浅草寺大森執事長、壬生浅草寺教学部長、塩入亮忠師、赤沼東京出張所主事等が随喜した。

五月廿五日 今年は皇慶阿闍梨の九百回忌に相当するので、本山及び阿闍梨の旧跡である丹波池上院に於いて報恩行事が次の通り厳粛に執行された。即ち五月廿五日丹波池上院に於いては、本庁から三崎執行長以下各部長、延暦寺から執行以下各幹事各灌室当役、院内役者等一

行約二十名が参列して光明供を奉修した。此の日全檀徒が随喜して台密中興の祖師の遺跡たる菩提寺に対する認識を新たにした。

六月四日 例年の通り長講会が比叡山上浄土院に於いて厳修された。

六月廿六日 延暦寺に於いて、前記皇慶阿闍梨報恩行事各関係者が参列、池上院穴穂住職以下檀徒総代も遠路参詣して、曼供法要を厳修した。終つて阿闍梨に関する講演会を開催した。

六月廿八日 本夕北陸地方を襲った地震は近來稀なる猛威を振り殊に福井地方に於ける災害の甚大さは、実に言語に絶するものがあるので、天台座主猊下は直に教務課長大橋良仁及び延暦寺幹事小森文諦を慰問使として特派し、福井県庁、市役所並びに本宗関係寺院に災害見舞として金一封を贈り慰問に当らせると共に、被害の実状を視察させられた。

本宗寺院の災害は左の通りである。

光照寺(福井市) 倒壊

西厳寺 同 同

自性院 同

不動寺 同 本堂大破

善林寺(徳光村)
交通遮断の為不明なるも情報の傳達に依れば倒壊の由

西得寺(丸岡町)、高岳寺(長畝村)、西照寺(高棕村) 右三個寺は九頭龍川の橋、鉄橋、電信電話等交通通信共に不通の為詳細は判明しないが入手した情報に依れば三個寺とも倒壊の由である。尚、西得寺は焼失した様である。

西蓮寺(上文殊村) 門倒壊

宗徒一般からも応分の義捐金を募集し以って慰問の資と為した。因に総本山延暦寺は金壹万円也を災害見舞として贈った。

六月卅日 本山に古典法儀並びに音用の保存及び時代即応の新法式と其の音楽化とを研究し制定する為に、音律研究所が設置され本宗斯道の先輩多紀道忍を顧問とし、声明大成の共編者である吉田恒三、邦楽の泰斗である京大教授大築邦雄、斯道の新進学者である片岡義道を囑託し、本山からは福吉円鈔、中山玄雄の両名之を担当して、関係者一

同熱心に之が研究に当る事と成った。

七月十五日 本山と末寺とを直結する一事業として叡山講が左記の要領で結成された。

要 領

一、各寺もれなく即時叡山講支部を結成の上、講元、世話方の選定並びに講員名簿の作製と提出等至急手配相成度い。且つ各教区に於いてもそれぞれ教区本部を至急に設置せらるる様相願いたい。

一、各布教師は、布教の都度必ず叡山講員の勧誘を法話の中心となる様努められたい。

一、叡山講員にして祖山へ特別の寄附をせられたる方に、座主猊下或は宗内門跡及び大寺高德者の揮毫品を贈呈する準備があるから、御含みの上、精々勧募せらるる様相願い度い。

一、目下祖山に於いて一般信者のため、北谷に結縁灌頂の道場を作り常設する予定であるから利用せられたい。

一、叡山講員の祖山参拝の節は教区担当の連絡員が、御世話や便宜

をとりはからう。

一、叡山講員の団参の節は、本山駐在布教師が講話をする事になって居る。

一、叡山講員の団参の節は、滋賀院で御座主猊下から親しく御十念の御授をうけ、なお、御対面、御言葉を賜ることになっているから滋賀院へお参りになる様。

一、叡山講各教区担当連絡員が左記の如く定まったから承知相成た
い。

叡山講教区担当連絡員名簿

担当教区	本山住職寺名	氏名
滋賀教区	妙行院	梅山 円了
京都教区	実蔵坊	尾崎 光尋
近畿教区	寿量院	獅子王 円信
近畿(和歌山、大阪、奈良)教区	金台院	赤松 円瑞
兵庫教区	戒定院	山田 恵諦

同	戒光院	桜井恵暢
岡山教区	護心院	葉上照澄
同	華藏院	森定慈紹
山陰教区	無量院	池山一切円
四国教区	大林院	今出川行忍
九州東教区	松寿院	武覚円
九州西教区	行泉院	喜里山光観
三重教区	千手院	生田孝憲
東海(愛知、静岡)教区	大仙院	滝藤尊教
同	真藏院	森川淳契
同(岐阜)	円乗院	渡辺恵章
北陸教区	善学院	福吉円鈔
信越教区	双巖院	福恵道暢
神奈川教区	唯心院	渡辺恵進
東京(下谷、浅草)教区	仏乗院	三浦義薫

同
牛上
込野
目城
黒北

北総教区

南總教區

埼玉教区

群馬教区

同

茨城教区

同

栃木教区

福島教区

陸奧教區

山形教区

同日 曩に北陸地方震災の報が伝わると、堀下はいち早く大橋課長、小

森幹事の両名を派遣され慰問並びに状況を視察させられたが、親らも御親教を仰せ出され教区としても欣喜してこれを御迎えする事になり、

猊下は森川教学部長、大橋教務課長、その他随員を随えられ、この日午前九時大津駅を御出発、同四時鯖江に御到着、直ちに教区長の住職寺である中道院に趣かれ、御休憩の暇もなく西村教区長から被害状況を御聴取された。

七月十六日 午後一時から福井市中央広場に於いて横死者慰霊の大法要を厳修、参詣の老若約五千を数えるの盛儀であった。終って、市役所、県庁、新聞社その他を御訪問され、金一封を呈して御慰問の言葉を述べて夕刻中道院に御帰着された。翌十七日午後五時無事御帰山された。

七月卅日 祖山に於いて、かねて要望の声高かった天台宗布教師会が結成された。当日の参集には東京、岡山、長野、名古屋、群馬、兵庫、京都、滋賀の各府県から約二十名の布教師の出席があり、発起人代表荒樋栄実の開会の辞、次いで座主猊下の御言葉、森川教学部長の挨拶、山田延暦寺執行の祝辞、次いで発起人代表の経過報告等があり、座長に曼殊院門跡山光円、副座長には荒樋栄実、水谷教章を満場一致で

選出し、本部役員の選挙等が行われ、議事に入ったが、座主猥下に於かれても長時間に渉り御聴論された。

八月一日 浜名徳潤が執行長に任命された。

八月^{自廿一日至廿五日} 妙法院門跡大僧正三崎良泉は戸津説法を勤仕した。

九月十八日 座主猥下には近畿所在の仏教各宗主管者と共に第一軍団司令部に出頭し、軍政部長バーンズ大佐から「日本国の民主化徹底に協力せられたい」との請願を受けられた。

九月廿七日 滋賀教区では今春来全部内に亘り御親教を申請、その大半を終わったが、残り愛犬部及蒲南部の御親教は九月廿七日と十月二日に夫々行われた。猥下には森川教学部長、梅山延暦寺幹事、山口、荒樋両布教師、駒田教区長以下を随えられ部内各寺院、檀信徒御出迎の中に定刻会場御到着、予定の次第に随って滞り無く一切の行事を終了された。両会場とも剃度者は予定の人数を遙かに越えた。

十一月廿四日 延暦寺仲座職法眼山中祐源が他界した。

昭和二十四年^{自八月至九月}乙丑二月 滋賀院本坊に於いて、叡山講総本部会議法に

基づき代議員会が開催された。当日出席の代議員氏名は次の通りである。

教区名	氏名	教区名	氏名
本山	北河豊治郎	滋賀	田中弥市
京都	洲崎作平	近畿	熱川裕通
兵庫	畑和孝	岡山	山本猛
山陰	植田美実	三重	浦田平蔵
東海	田中平六	北陸	久島治良助 代熊野九郎右衛門
埼玉	岸野個太郎	福島	二階堂権兵衛
宗会 代表	木下寂元	宗会 代表	滝本慈選
宗会 代表	大樹承算	教区 表長	高柳亮真
教区 表長	内藤広隆	教区 表長	筧堯海
局長 推薦	三崎良泉		

以上十九名により次の如き日程で会議が行われた。即ち八日は十時三十分開会、仮議長の指名により議長は兵庫の畑和孝、副議長に埼玉の岸野個太郎が夫々当選別室に於いて座主猊下から任命の辞令を受け、続

いて内仏に於いて座主猊下の御導師で音楽法要があり、続いて猊下から諭示を賜わった。

諭 示

熟々現下の世相を觀るに既に戦後第四春を迎へたるに未だ人情輕薄道義頽廢民心徒に諍争を事とし或は己を利するに急にして国家の再建と国基培養の大局を顧みざる者尠しとせず、我国の前途轉た寒心に堪へざるものあり本職の顧念憂懼して片時も安ぜざる所なり。

抑々今次我国の当面せる事態は国史未曾有の一大事象にして民心その方途に惑ふも亦故なしとせずと雖も今にして速に正しきに就かずんば事或は民族の存亡に関するものあるに思を致す時民心の匡救に瞬時の緩急を許さざるものあり。恭しく惟みるに往昔宗祖伝教大師円極の妙宗を比叡山上に開創し国体相應の大乗仏教を實現して全日本大和合の本義を顕揚し給いしより台門の仏法恒に王法を翼け国家を鎮護し法雨永えに群生を潤せり。洵に法華一乗の精髄に依らずん

ば何を以てか濟生利民の績を挙ぐる事を得ん。

祖意深遠今日我國の危局に方りて之を仰ぐに弥々高く之を斟むに益々深し衲等適々生を此の國家多難の秋に享く豈祖意を虚うして晏如たるを得んや。

是を以て今次我か宗は教化の機構を一新し昨年度に於いて叡山講を組織し時局に即応せる態勢を整へ大いに祖意を恢弘し益々宗風を宣揚し本末一如本山檀信徒の直結を計り時局匡救の実を示さんことを期し其の準備と事務の進捗を督励し来る。

幸に本日茲に総本部代議員諸氏の参集を得て第一回総本部會議を開會するに至るは本職の最も欣幸とする所なり。

庶幾くは齊しく力を協せ深く祖訓の核心に生き具さに時弊の根源を究め抜本塞源の方策を考究し以て祖意を體現せられんことを。

昭和二十四年二月八日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

三月四日 大林院僧正今出川行忍は延暦寺執行に任命された。

三月十八日 四天王寺にて平和祈念靈堂法要が厳修された。

三月十九日 御親教を申請して決定された教区寺院名は左の通りである。

三月十九日——三日間 滋賀教区東南寺

同廿三日 岡山教区国分寺

同廿六日——三日間 九州西教区長寿寺

四月十三日——二日間 兵庫教区八葉寺

同十八日 東海教区高田寺

同廿三日——三日間 福島教区観音寺

同廿九日 山陰教区長台寺

三月廿日 滋賀教区蒲生郡東南寺に於いて、座主梶下御親授の円頓戒受戒会が修行され、山口教学部長、延暦寺梅山幹事が随行した。

三月廿六日 午前八時半、比叡山上東塔五智院で道路工事人夫の焚火

の不始末により火事が発り、延暦寺事務所員、その他多人数がかつけ消火に当った。

四月自十四至十一日

本年度恒例御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主親下始め、各門跡、地方代表、山内住職等が参勤の上、鎮将夜叉大法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主親下御証義の下厳修された。

六月十日 一柳恵俊が執行長に任命された。

七月廿日 延暦寺一山真蔵院住職僧正森川淳契が望擬講に補任された。

七月廿日 妙法院門跡大僧正三崎良泉が望擬講に補任された。

八月自廿一至廿五

延暦寺一山戒定院住職僧正山田恵諦は戸津説法を勤仕した。

八月廿五日 李王殿下、妃殿下、他随行員が午前来山され、書院で御休憩、昼食の後、午後二時のケーブルで下山され、滋賀院で夕食され

た。

八月廿七日 愛知県大府延命寺伊藤円澄示寂葬儀執行に付き、猥下は午前六時半森川教学部長、坂本村村長赤松円瑞を随行して御出発された。八月卅一日 本日延暦寺合同問題に対する意見交換会議が開かれた。出席は、一柳執行長他各部長、延暦寺執行その他であった。

十月六日 渋谷猥下の三回忌法要が厳修された。

十月十七日 比叡山横川鶏足院灌室に於て、横川院内が中心となり結縁灌頂を行った。

十月廿八日 魚山遮那院多紀道忍は去十月廿六日午後二時四十分遷化、本葬儀はこの日当院に於いて座主猥下導師の下で執行された。

十月廿八日 大僧正浜中光暢四大不調の所本日遷化、廿九日密葬、十一月廿七日本葬儀が執行されることになった。

十一月四日 第三回教学大会は紅葉色どる十一月四日、五日の両日比叡山上宿院に於いて左記次第により盛大に開催された。

記

- 一、開会の辞 荒樋栄実
- 一、法楽諭示 座主猊下
- 一、経過報告 塩入教学研究所長
- 一、挨拶 今出川延暦寺執行
- 一、研究発表 平了照他七名
- 一、閉式の辞 岡田教学研究所有主事

十一月十五日 数年中絶の形に成って居た茨城教区主催の御親教は去る十一月十五日から行われ、社会教化的役割の絶大な効果と、本山と末寺とを直結させ宗風を宣揚する効果とを挙げた。尚、この結果に感銘した同教区は、来年度も亦猊下を拜請することに決定した。

記

月	日	会場	御親教	法儀	行事	備考
十一月	十五日	久慈町千福寺	座主猊下諭示 荒樋随布教師法話	世界平和祈願 戦争犠牲者慰霊法要	廻向 経木塔婆	一般参会者 三〇〇〇人
同	十六日	同 右	荒樋随布教師講演	久慈町民先亡一切 精霊特別法要	同	同上 二〇〇〇人

同	十七日	水戸市薬王院	座主親下諭示	世界平和祈願	平和観音開眼式	同
同	十八日	東郡河村月山寺	同	同	檀信徒剃度式六〇〇人	二〇〇〇人
同	廿一日	大津町長松寺	同	同	檀信徒剃度式七〇〇人	一五〇〇人
同	廿四日	玉川村西蓮寺	同	同	檀信徒剃度式七五〇人	一〇〇〇人
同	廿五日	同	同	同	檀信徒剃度式七五〇人	一〇〇〇人
同	廿七日	黒子村千妙寺	同	同	檀信徒剃度式七五〇人	一〇〇〇人
同	十二月二日	大花羽村安楽寺	同	同	檀信徒剃度式一五〇〇人	二〇〇〇人

十二月十四日 延暦寺に於いて、叡南祖賢大行満の安楽律院住職就任披露会があり、執行、幹事其の他が参列した。

十二月十五日 法律第二百七十号で私立学校法が公布された結果、宗教団体が経営する学校もすべて学校法人を設立してその法人によって経営しなければならないことと成った。但し同法附則第百二条の規定により、幼稚園は当分の間学校法人を設ける必要がない。併し学校法

人を設けて経営する場合、政府並びに地方公共団体に対し助成金の交付を申請したり、その他若干の特典が与えられることになった。

十二月廿三日 午後十時頃安楽律院（叡南祖賢大行満住職）の正殿より出火し本堂、正殿、庫裡、浄人寮、鐘楼、納屋の六棟を全焼したが、幸に本堂本尊の外、仏具類、正殿本尊、什物約半分、護摩堂、幻々庵、山門、経蔵、板木蔵、宝蔵、工部所は無難であつた。

十二月廿五日 比叡山延暦寺から申請中の境内地無償譲与につき廿四日の社寺境内地処分中央審査会で無償譲与に決定した旨本日同寺に通知があつた。因に同境内地は四百二十町歩であり、全国寺院中一番大きい。

昭和二十五年^{庚寅}一月廿六日 本庁より次の如き令達が発せられた。

本日我が宗立教開宗の記念日に当り座主猥下、特に諭示を発せられました事は誠に恐懼に堪へぬ次第であります。惟ふに、終戦後宗教は自由の立場に置かれたとの事のみに依つて、宗義上の確乎たる理由もなく、従来所屬の宗派から独立するものがある等は遺憾であります。猥

下が老軀、只管御憂慮になるところは今徒らに所属宗団と絶縁せんかその薫化力の依って生ずる背景を欠くが為に将来に於いて、自らの教化力を耗滅し内外の嗤笑を買ふの結果に終ることあります。吾が宗内に於いては万々かかる輕卒の挙に出でらる事なしと信ずるものであります。此の際貌下の御諭示の旨を体し自省自誠愛宗護法の思慮を廻らされ天台宗団の健全なる發達を図り、上祖徳に酬いらる事を祈って止みません。

昭和二十五年一月廿六日

執行長 僧正 一 柳 恵 俊

諭 示

宗祖大師天台円頓の宗を開創し給いしより茲に、千百有余年光輝ある伝統と歴史とを保有し、祖山に帰一して不斷に国土安穩仏法興隆の実を挙げ来れり。然るに我国戦後百般の機構未曾有の変革を極め世風の推移現下尚中正ならず。政界亦之に禍いせられ、時に或は自恣の行動を敢てし宗団の伝統を紊すものを出すこと無しとせずと老

納之を仄聞し仏祖の冥鑑に顧みて夙夜憂慮に堪えず、教家、本然の使命達成は鞏固なる宗団の総力に俟つ、宗徒深く自から省み、思索の翼を慎み相率て輕挙を誠め和衷克く宗団の結束を固うし宗風の発揚に邁進せんことを冀望して止まざるなり。

昭和二十五年一月廿六日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

執行長 僧正 一 柳 恵 俊

二月二日 荒樋栄実 は比叡山専修院々長に任命された。

二月五日 比叡山戒蔵院に於いて天台宗修験道法流総会議が開催され、各役員、委員が参集し、各般に亘る制度と人事の大更改が議決された。其の中組織に就いて最も異色ある点は、天台宗教師僧俗は勿論、各教宗派教団の僧俗を問わず、そのまま同法流の教師と成る事が出来る様になった事である。

二月十日 座主猊下は、名古屋の大隈栄一氏の葬儀に、教学部長及び菅田主任を随行して参列せられた。

三月二日 延暦寺一山觀明院住職福吉円鈔は延暦寺執行に任命された。
三月三日 叡山講規定第一条第六項に基づき福聚教会規程が定められた。之により宗祖大師を讃仰し信仰を培養する為詠歌和讃等を唱詠する事と成った。

四月一日 本庁の執行長の呼称が再び従来の「宗務総長」に戻される事になった。従って執行長一柳恵俊は宗務総長に任命された。

四月一日 延暦寺一山葉上照澄は比叡山高校々長に任命された。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度御修法大法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方代表山内住職等が参勤の上、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚長久並に鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿日 総本山延暦寺叡山講大法要の結願日に当り、午後二時から、本宗修験道所属教師数百名参集のもとに根本中堂御宝前に於いて採灯大護摩供を奉修した。同日午後七時山上宿院に於いて教師大会を開き、役員決定の上議事に入り、各般に亘る本道興隆に就いての意見を開陳して協議を為し、之に伴なり制度の変更等に就いては、小委員会を設

置して審議の上決定する事を申合せた。

任命された役員は次の通りである。

修験道管領 宗務総長僧正 一柳 恵俊

事務局長 庶務部長権僧正 黒田 坦海

幹事(事務主任) 財務主事僧都 上野 智信

五月八日 延暦寺一山戒定院住職僧正山田恵諦は望擬講に補任された。

五月廿日 青蓮院門跡太田深澄、延暦寺一山吉祥院住職佐井紀皎覚、

延暦寺一山本行院住職太野垣善浄、延暦寺一山大行満叡南祖賢は夫々

望擬講に補任された。

擬講権大僧正福恵道暢は已講に補任された。

五月廿一日 讚仏堂に於いて午前九時から、午後九時三十分迄の間別

請広学堅義が厳修された。

業 三惑同断 副 権乗下種

探 題 恵心院大僧正

堅 者 雙巖院権大僧正 福 恵 道 暢

一之問 円乗院権大僧正 渡 辺 恵 章

二之問 妙法院門跡権大僧正 三 崎 良 泉

三之問 戒定院僧正 山 田 恵 諦

五月廿二日 已講権大僧正渡辺恵章は探題に任命された。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下巖修された。

六月十五日 本庁に於いて、午後一時から三千院門跡後任住職の選挙が行われた結果、東海教区密蔵院住職僧正水谷教章が当選し任命された。

六月廿二日 国宝建造物調査のため、ジョーシ・ケイツ氏が来山した。

七月八日 本庁に於て、午後一時から准別格大寺毛越寺後任住職の選挙が行われた結果、陸奥教区慈光院住職大僧都穂積慈玄が当選した。

七月十五日 本庁に於いて午後一時から別格大寺浅草寺後任住職の選挙が行われ埼玉教区喜多院住職権大僧正塩入亮忠が当選した。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山叡南覚誠は戸津説法を勤仕した。

九月三日 近畿地方は「ジェーン台風」に襲われ、各地に甚大な被害を生じた。比叡山上の被害も大なるものがあつた。

九月九日 山口光円は比叡山専修院々長に任命された。

九月自九日至十日 天台宗第三回布教師会総会は九、十の両日比叡山上宿院に於いて開催される予定の処過般の台風に依り山上の被害甚大で、殊に会場である宿院の被害も予想外であるため、会場を変更して滋賀院門跡に於いて開催し一宗に左記の如き声明書を発表し、教学部長に具申すると共に、会員各自申合せを行ない、盛会裡に終了した。

声明書

現下本宗の実状を顧みると、世態の変遷に対応して新鮮活発な活動を展開し得ないばかりでなく、所属中より、一、二有数なる寺院の背反独立するものを生じた事は誠に遺憾の極みであります。是偏に信仰為本たるべき宗徒觀念の薄弱、乃至欠除に因るものであつて是が培養の任にある我等布教師の努力の足らざりし為と痛感して

慚愧に堪えません。依って我等布教師は一致結束して宗徒及び檀信徒の愛宗護法心の昂揚と宗内人心の安定を図り相共に、宗祖大師の立教開宗の御精神に鑑み、座主猥下の御慈旨を体して離脱等の輕挙妄動を慎み、祖廟を中心として以って一宗の興隆發展を期するものであります。

右声明します。

昭和二十五年九月十日

天台宗布教師会

九月十一日 去る八月廿五日遷化した一柳恵俊宗務総長の本葬儀が、本日午後二時から比叡山麓滋賀院門跡に於いて、天台座主猥下の御導師の下一山大衆の出仕により、天台宗葬を以て執り行われた。

九月十五日 宗務庁に於いて、午後一時から後任宗務総長の選挙が行われた結果、兵庫県飾磨郡曾左村大字書写仙岳院住職僧正大樹承算が当選し任命された。

九月廿九日 社寺国有境内地の譲渡後に於ける管理について、大蔵省管財局長から仏教連合会理事長宛に左記の通りの令達があった。

「社寺国有境内地の譲渡後に於ける管理について」

社寺等に無償で貸し付けてある国有財産の処分に關する法律の規定によつて今回神社寺院又は教会に対し譲与又は時価の半額売却した境内地は将来その社寺等に於て責任を以て維持保全し専らこれを宗教活動に使用すべきものでありますがその譲渡に際して何等の条件を付けなかつた為譲渡後間もなく謂所宗教目的外に使用し更に之を売却する等の事件が度々生じている事は甚だ遺憾な事であります。御承知の通り国有境内地の処分に際しては新憲法の政教分離の精神により且つは宗教家の道義的責任に信頼し譲渡後に於ける境内地に就いて何等の条件を付けなかつたのであります。が最近前記の事件が漸次増加する傾向があり、會計検査院等も既にこの事実を注視しているので国有境内地処分の円滑な処理上に重大な支障を招く慮がありますから管下各府県

神社庁仏教会又は教宗派の主管者に対してこの境内地の管理処分について尚一層の注意を喚起しその取締について別段の御協力方示達下さる様重ねて御願います。

十月九日 宗教法人令施行以来、大寺の独立があり一宗の団結につき憂慮す可き事態相次いで生じ前途甚だ不安の際、更に浅草寺の離脱を見て、最早や坐視するに忍びないと九月廿五日北海道函館天祐寺住職山口智順権大僧正が本山に登り、座主猊下に所懐の衷情を申達し、又転じて五ヶ室各門跡を訪ね意中を披瀝し、宗風宣揚の事を進言され、更には四天王寺に田村徳海大僧正を訪ねて旧に復する様勧められる等、誠意を展開された。予てから機会が有ればと念じて居た各門跡は、止みがたい愛宗の発露より、茲に不惜身命の決意を以て一斉に奮起され、宗祖伝教大師の御精神を顕揚し、宗風を振興する様、本日、本山滋賀院に会合された。恰も、十月七日総本山檀信徒総代北河豊次郎氏は、現下の宗状に関し烈々の誠意を書翰に托して座主猊下に申達される事

があり、主催者としては心機一致を喜び、電報を以て同氏の登山参会を乞い、茲に僧俗一体数時間に亘り終始一貫国家の将来と宗団の使命に就いて真摯な談合が交わされ、国民精神を匡救し善導する途は一に宗祖大師の御精神を宣伝高揚し、宗風を全土に靡かせるより他に無いと云う結論に到達した。依て更に関東の門跡、大寺の方々にも此の意を伝えて発起者に加つて貰う事になり、十月十日、山口曼殊院門跡が代表東上の上各方面を歴訪し、何れも心からの賛同を得た。そして十月末には再度全発起者が本山に集り祖廟宝前に於いて懺悔し、宣誓し、方法を定めて、清く強く新運動の第一歩を踏出す事に申合せが出来た。因に、此の会合に出席されたのは次の諸師である。

滋賀院門跡	権大僧正	即 真 周 湛
妙法院門跡	権大僧正	三 崎 良 泉
曼殊院門跡	権大僧正	山 口 光 円
毘沙門堂門跡	権大僧正	川 原 田 円 匡

三千院門跡 僧 正 水 谷 教 章

北海道天祐寺 權大僧正 山 口 智 順

総本山檀信徒総代 北 河 豊 次 郎

十月廿一日 門跡寺並大寺住職時局対策緊急協議会が、比叡山上書院に於いて午前十時から午後五時迄開催された。当日は先づ祖廟に参拝し、座主猊下御導師の下に参集者一同法樂を修し、終つて猊下から特に御挨拶を頂き、宗門総親和、宗義昂揚に付き更に一段の努力を望む旨御諭しがあり、之に対して山口曼殊院門跡が答辭を申上げ、協議に入つてからは、終始和氣霽々の裡に討議して、左記要項の決定を見たのである。

参集者（順序不同）

輪王寺代	菅 原 栄 海	善光寺	清 水 谷 恭 順
滝泉寺	青 木 道 晃	喜多院	塩 入 亮 忠
妙法院	三 崎 良 泉	滋賀院	即 真 周 湛

毘沙門堂	川原田 円匡	三千院	水谷 教章
曼殊院	山口 光 円	延命寺	茂渡 恵寛
真如堂	竹内 純孝		
檀信徒総代	北河 豊次郎		
宗務総長	大樹 承算	教学部長	山田 恵諦
庶務部長	熊谷 寂澄	執行	福吉 円鈔
幹事	梅山 円了	幹事	菅田 玄昭
同	赤松 円瑞	同	福田 実衍
	今出川 行忍		三浦 義薫
録事	熊岡 堯順	(以上二十三名)	

協議決定要項

一、総親和に関する件

イ、宗門の内外に総親和運動を起す事

ロ、宗門の内外に亘りて連絡提携を緊密にする機関をつくること

二、宗義宣揚に関する件

イ、「比叡山」誌を再刊して宗義を宣揚すると共にそれに附随して宗報を詳密にすること。

(右委員に三崎良泉、山口光円、宗務庁、延暦寺)

ロ、「伝教大師奉讃会」を復興して其の活動を大ならしめ且つ機関誌を発行すること。

(右委員に青木道晃、塩入亮忠、菅原栄海、北河豊次郎)

十一月十七日 宗務庁に於て午後一時から後任宗務総長の選挙が行われた。その結果岡山教区大円寺住職、権大僧正清田寂坦が当選し、任命された。

十一月十九日 茨城県石岡町高照山東耀寺に於いては今般平和慈母観音を造立し、世界平和に寄与しようと、座主貌下を拝請して開眼法要が行われた。貌下は十一月十八日午前つばめ号で随行熊岡録事、誉田延暦寺幹事を従え御出発午前八時半無事会場東輝寺へ御到着、十九日は、快晴で、石岡町は勿論近郷近在からこの法雨に浴し様として参拝

者其の數三万人に達した。法要は左記の次第で盛大に行われた。

平和慈母觀音開眼大法要御親教次第

一、一番鐘 午前十時二十分

大衆東耀寺本堂御参集

二番鐘 午前十時三十分

大衆御装束

三番鐘 午前十時四十分

大衆東耀寺御出発

行列 午前十時

二、行列次第（檀徒総代高野喜兵衛氏宅より東耀寺まで四丁道中散華）

先旗（座主旗）、次先導法螺師（三名）、次詠歌衆（四十名）、次稚児衆（五十

名）、次出仕大衆（二十名）、次高照山主、次延暦寺座主管長猊下（籠）、

次本山随行師、次奉讃会員

三、護摩供之攸 正午

先大衆入堂口上座、次大導師管長猊下入堂、次一同着座、次大導師登礼盤、次表白、次五大願、次大衆助咒、次隨方回向、次誦誦文、次心經一卷、次後唄、次大導師降礼盤

四、御親教之攸 午後一時

先諭辭、次管長猊下正座、次奉讃会々長総代挨拶、次護摩師登礼盤、次大衆助咒、次後唄、次大衆出堂下座立、次大導師出堂

五、供養塔回向之攸

先大衆列立、次大導師塔前、次自我偈、次觀經文、次念仏十返、次総回向、次大導師御退出、次大衆退座

廿日猊下は御休憩の違もなく御出発、御元気で午後九時帰叡された。
十二月四日 延暦寺一山円乗院住職探題大僧正渡辺恵章は本日遷化した。

昭和二十六年^{辛卯}一月十日 延暦寺一山叡南覚誠は望擬講に補任された。

三月五日 サンフランシスコ講和条約を前にして座主猊下から次の諭示が発せられた。

諭 示

今年、若し伝ふるが如く媾和が成立して自由と、平等と、正義とを理念とする高度の文化国家に、立直るを得るなれば、わが日本国民は人類史上にかがやかしい光明期を現出せしめることと、将来への希望大なるものがある。

しかし、道は遠く且つけわしい。世界は二大思想の対立に大きなうねりが生じているが、私どもまでが、之にまきこまれて、地の声を聴くにさとして、天の声に耳をおおうようなことがあっては第三次の不幸を招き、やがて宗教の権威を極度に失うに至るであろうことを恐れる。抑も、仏徒は真俗ともに、帰依三宝に生き、帰依三宝に死すべく常に殉職者の態度を堅持し、如何なる苦難にも打ち勝つて行く金剛心を心の奥に埋没せしめてはならない。円満なる智慧と、広大なる慈悲の体であられる御仏に身を捧げ、そのみ心に従って各々がその分限をつくすことが、活きた私どもの文化生活である。行

為に、言葉に、まことを打ち出し、自己を磨き、社会に仕へる、かくてこそ諸天善神の恵みにも浴し社会は浄化せられるのである。わが宗の根本聖典たる法華經に、仏徒の生活の基本として、懺悔、勸請、随喜、回向、発願の五要心が説かれているが、これを日夜に遵奉して、各自の生活を営むなれば、それがやがて「一隅を照す」人となり、自然に宗祖の御心にも沿い、三世諸仏の護念をこうむるのである。

願くば、国家存亡の重大な時期に際し、わが山の千古の法灯を各自の胸に移して、随時随所に世に照りわたらせ、文化の梢を芽ばえしめんことを念願する次第である。

三月十日 望擬講権大僧正即真周湛は擬講に補任された。

四月一日 宗学法の改正によって比叡山専修院、比叡山専門学院が廃止されて、天台宗立叡山学院に改組され、観明院住職福吉円鈔が学院々長に任命された。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主親

下始め各門跡等参勤して、七仏薬師大法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

五月十九日 讚仏堂に於いて午前九時から翌朝迄、別請広学堅義が嚴修された。

業 爾前身土 副 三諦勝劣

探 題 延暦寺座主大僧正

堅 者 滋賀院門跡權大僧正 即 真 周 湛

一之問 雙嚴院住職權大僧正 福 惠 道 暢

二之問 玉照院住職權大僧正 叡 南 覚 誠

三之問 戒定院住職權大僧正 山 田 惠 諦

已講權大僧正福惠道暢は探題に補任された。

五月廿日 擬講權大僧正即真周湛は已講に補任された。

六月四日 長講会は比叡山上浄土院に於いて例年の通り座主猊下御証義の下嚴修された。

七月四日 望擬講叡南覚誠は擬講に補任された。

八月自廿一日至廿五日 津金寺住職池田長田は戸津説法を勤仕した。

九月八日 この日米国サンフランシスコ市に於いて、第二次大戦で無条件降伏した日本と四十八の連合国との間に、対日媾和条約が調印された。

九月自廿九日至卅日 延暦寺戒壇院に於いて大乘円頓授戒会が厳肅裡に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼俱 大林院権大僧正 今出川行忍

教授師 寿量院僧正 獅子王円信

十月自一日至五日 法華大会広学豎義が総本山延暦寺大講堂に於いて厳修された。

臨監 勅使 子爵 唐 橋 在 知

探題 延暦寺大僧正 玄 秀

探題 雙巖院権大僧正 道 暢

已講 滋賀院門跡権大僧正 周 湛

擬講 玉照院權大僧正

覚 誠

会行事 松寿院大僧都

覚 円

昭和二十七年^{壬辰}二月七日 宗教法人法による宗教法人「天台宗」の設立

登記を行つた。

二月廿五日 宗教法人「天台宗」の設立にともない座主猊下より諭示が発せられた。

諭 示

各宗派に魁けて宗制の認証を得、国法による宗団としていよいよ二利の善行を励み、社会の福祉に貢献することを得るに至りたるは、一に宗徒団結して推進したる結果にして、歆びに堪えません。

国家独立の機運目睫に迫ると雖も、而も猶、世界は二分せられて、我が国の前途、永遠の和平保持に憂慮すべき事態を見ることは、遺憾の極みであります。宜しく此際、党同伐異の悪風起ることなく、挙宗一致、寺檀一体祖意を奉体して一仏乗の顕現に努め、総親和のもと、総力を挙げて宗風を宣揚し、速かに仏国土を成じて、人類の

幸福を増進せんことを希う次策であります。

三月四日 日光一山菅原栄海は日光輪王寺門跡に任命された。

三月末 根本中堂半解体大修理のため素屋根を構築した。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法大法は延暦寺大講堂に於いて、天台

座主猊下始め各門跡、地方代表、山内住職等が参勤して、普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿八日 占領下の日本はこの日よりその主権を回復し独立した。

六月四日 例年の長講会は比叡山上浄土院に於いて、午前十時から座主猊下御証義の下厳修された。

座主猊下は本日諭示を発せられた。

諭 示

仏法の大海は信を以て能入の門となす。信仰は安心獲得の基本にして如来の室に入る唯一の資糧なり。仏子たるもの須く先ず自ら帰命三宝に徹し、三軌弘経以て化益に精進せねばならない。

今や全世界は凡てを挙げて永遠の平和を求めつつあるも、思想を異

にする二大勢力は一致協調を得ず、和平の具現容易ならざる事情にあるは遺憾にして、今にして宗教の力を發揚せずんば何によってか之れを打開し得ん。宗教は機に應じて功用を現わす。之を信ずるものに差別なし。而も我が中道実相の妙理は絶大の真理にして、世界何れの宗教も皆その本源を此の妙理に發す。何れの世、何れの時、何れの人に対しても時宜に適し、機根に應じて自らの信仰を以て之を引導する時は、その人必ず心安かに生活し社会は平和に歸せん。信仰の世界に不可能の文字なし。不自惜身命は如来の金言なり。然も天台に法統を継ぎ、円宗に信心を培う老衲他に依存し、自らを愛して仏祖の冥鑑に乖きつつあるを怖る。既に一心三觀の教化は平安長期の平和を保持し、一実神道の宗風は江戸三百年の長春を指導したり。之ら過去の実証に徴し、また現下社会の実相に鑑み、時を今と限り身魂を尽し精誠を運んで澆季の苦患を除かんと欲す。同法の諸師自ら信仰に徹すると共に、檀信同行の信心培養に力を致し、老衲と共に祖風を宣揚して、世界恒久平和の樹立に力を竭さん

ことを懇望す。

昭和二十七年六月四日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

八月自廿一日至廿五日

延暦寺一山大林院住職今出川行忍は戸津説法を勤仕した。

九月十五日 延暦寺一山大林院今出川行忍及び津金寺住職池田長田は

望擬講に補任された。

十月一日 延暦寺一山観明院住職権大僧正福吉円鈔は延暦寺執行に任

命された。

十一月八日 東京で行われた世界仏教徒会議に参加した十八ヶ国の代表が登叡し大講堂での仏舍利供養法会に参加した。

十一月十日 立太子礼式御挙行に際し天皇、皇后両陛下、皇太子殿下に本宗より賀表を捧呈した。

十一月十五日 東京巢鴨拘置所に於いて、天台座主猊下御親修のもとで、戦犯受刑死者並びに受刑中病歿者殉難英霊の慰霊法要を厳修した。

昭和二十八年癸巳四月一日 延暦寺一山葉上照澄は叡山学院々長に任命さ

れた。

四月自十四日至十一日

本年度恒例御修法大法は総本山大講堂に於いて、座主

猊下始め各門跡、地方代表、山内住職等が参勤して、鎮將夜叉法を奉修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十日 学校法人延暦寺学園に比叡山幼稚園が開設せられ、この日開園式並びに入園式が行われた。

四月廿六日 善光寺大勸進住職僧都東伏見慈治は青蓮院門跡へ転任するため善光寺大勸進を辞職した。

五月自十一日至十一日 讚仏堂に於て午前九時から翌朝迄別請広学堅義が嚴修された。

業 弥陀報応 副 八教授不

探 題 延暦寺座主大僧正

堅 者 法曼院住職 大僧正 叡 南 覚 誠

一之問 滋賀院門跡 大僧正 即 真 周 湛

二之問 妙法院門跡 大僧正 三 崎 良 泉

三之問 松禪院住職権大僧正 山 田 恵 諦

擬講叡南覚誠は已講に補任された。

已講大僧正即真周湛は探題に補任された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下で厳修された。

六月十日 比叡山横川恵心堂で例年の恵心講法要が勤まったが、今年からは六道講式が中山玄雄僧正の指導の下にて復興された。

六月十五日 東伏見慈治師は青蓮院門跡に任命された。

七月十九日 九州地方大水害見舞のため、清田宗務総長、福吉延暦寺執行は本夕本山を出発し現地へ向った。

八月自廿一日至廿五日 上野春性院住職二宮守人は戸津説法を勤仕した。

十月十一日 比叡山横川中堂政所の近くに高浜虚子の爪髪塔が建立され、一山僧によって開眼法要が厳修された。この虚子塔は逆修回向として、地元句友や同人の協力で、椿の木の多く植え込まれた浄地に出来上った。因みに、比叡山には、裳立の峯に紀貫之卿の、飯室谷には

藤原定家卿の各々爪髪塔が建てられ残っている。

十月廿五日 延暦寺一山善学院住職権大僧正福吉円鈔は望擬講に補任された。

十一月十三日 比叡山延暦寺一山護心院葉上照澄阿闍梨は北嶺千日回峯を満行したので、この日京都御所へ参内し旧儀に則り玉体加持を奉修した。

十二月十八日 延暦寺仲座職法眼川喜多正円は本日他界した。

昭和二十九年^{甲午}一月一日

天台座主新年のお言葉

謹みて昭和二十九年甲午の新春を迎え、聖上陛下いよいよ御機嫌麗しく皇太子殿下ますます御成人遊ばされ御祝福至極に存じ上げます。旧年中は誠に多事でありまして先ず独立第一年を祝し、立太子礼に次ぐ御外遊御帰朝を祝し、此の間近年稀なる凶作不況に拘らず人心漸く太平の兆に向い李ラインの險悪なる風雲も荒立てずに静かに処理する雅量に住し、保安自衛の用語に見解の相異あれども等しく恒

久平和の念願は微動だもせず、党人頻りに離合集散常なきも一般国民は之を静観して焦眉の憂とせず、大体において悠々と国運の明日を隆昌ならしめんとして希望に輝くを見るは偏に敗戦後九年にわたる困苦欠乏に堪えたる辛酸の賜物にして常勝軍を夢みて輕薄浮華の毒酒に酔いしれたる過去の追憶が今さら新なるを覚えます。誠に戦前と戦後を対照して反省することは実物教育として此現場の教訓を国民一同は肝に銘じて忘れることが出来ません。只戦後一斉に立ち上った新宗教の繁茂については之に戦前戦後比較反省の質実さが其中に見出され得るか否かの再検討を要するものが多々あり、何も殊さらに新しく一宗一派を開く程の問題に触れる事は少しもなく、寧ろ昔からの宗教々義の正統が全面的につかめないで其一部門だけをゆがめて宣布していると見られる向きも少なくないかに見えます。それにしても昔よりの歴史由緒を持ち国宝文化財に恵まれ、あらゆる国家の保護の下に正統宗教の伝承を以て任ずる宗教人の活躍が少しも熱せず、徒らに拱手傍観して他人の宝を数える観あるは痛恨の

極みであつて折角の家の宝を死蔵することなしに思い切り之を自分の身にも付け他人にも実味して頂き之により日本は斯かる結構な国体を持ち世界の文運に対して之々だけの貢献をなしつつありと自覚することが出来たらば如何に緊張した幸福感が毎日を楽しくして呉れることであらうと思います。新興宗教は確かに結構な一面も持つて居るけれども過去の伝統文化と無関係でもあるかの如く装いそれが四分五裂してやや乱雑の觀をなして居る事は日本宗教の為に取らぬ所であつて、宗祖大師が南都六宗の無統一を憂いて法華一乗を叫ばれた事は現在の国情にも其のまま適用されてよい先例であると思います。祖山の大堂の修理も宗門人の熱心なる協力により不日落慶供養の運びとなるべく、実に明年に控えたる天台大師御遠忌準備に宗門一同の胸は張り種々心おどりを感ずる期待もかけらるる本年の新春を心より祝福し弥々一天太平四海静寧の御祈願を凝らして、聖恩の無窮に答え奉りたいと思います。

三月二日 滋賀院内仏殿に於いて、探題相承式が、天台座主探題中山

大僧正から理性院探題即真大僧正へ、秘密相承の古則によって、行われた。

三月十六日 坂本日吉馬場律院本堂の落慶法要が座主貌下御導師の下三十二人出仕して盛大に行われた。

四月一日 延暦寺一山藤支哲道は叡山学院々長に任命された。

矢田部四郎は比叡山高校々長に任命された。

四月自十四日至十一日 本年度恒例の御修法は延暦寺大講堂に於いて、座主貌

下始め、各門跡、地方代理、山内住職等参勤して、熾盛光法を奉修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

五月二日 九州西教区大興善寺で御親教があった。

五月三日 九州西教区御井寺で御親教があった。

五月六日 近畿教区法安寺で御親教があった。

六月四日 比叡山浄土院に於いて午前十時から長講会が例年の通り座主貌下御証義の下厳修された。

六月廿日 東京上野春性院住職二宮守人は望擬講に補任された。

六月廿五日 宗務本庁では、四度加行は厳に古来の制に則るべきであるが、社会状勢の激変に応じて止むを得ず短縮する場合も卅五日以上履修すべきことを、宗内に告示した。

七月一日 来年四月執行の天台大師一千三百五十年遠忌を迎えて次の親諭が発せられた。

親 諭

夫れ高祖天台大師廣大無辺の恩徳何の世にか報じ尽さん、夙に後身を比叡山日本天台宗祖伝教大師と現じて八家九宗隔つる事なき天子天台の宗風を掲げ神仏不二真俗一貫の一大円教を弘めて一切衆生悉有仏性草木国土悉皆成仏の法雨を注ぎ給う。是を以って慈潤普く上に霜月会の嚴儀勅会として行はれ下に大師講全国の年中行事となり百姓万民年々歳々報恩謝徳懇懃鄭重を極む、茲に千三百五十年の御忌を迎え折柄全世界あげて戦乱瀕死の危険に劫さるるに際し大いに一乗和合の祖訓を顕彰し此功徳を以って世界万邦戦没総霊に廻向し、願くば一天泰平殊には高祖の故国たる隣邦大陸と醍醐の法味を共に

せん事を

昭和二十九年七月一日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

八月自廿一日至廿五日

延暦寺一山善学院住職権大僧正福吉円鈔は戸津説法を

勤仕した。

九月廿五日 第十三号台風によって比叡山山上山下に被害を蒙り、滋

賀院門跡通用門等が倒潰した。

九月廿八日 光嚴寺に於いて、群馬、茨城、栃木三教区共同で、御親教があった。

九月卅日 信越教区松源寺で御親教があった。

十月二日 信越教区釈尊寺で御親教があった。

十月七日 四国教区香古寺に於いて御親教があった。

十月廿一日 勅使石川忠氏及び文部省文化財技官等が来山し、勅封唐櫃の勅封を剪り唐櫃より嵯峨天皇御宸筆光定和尚戒牒を出して披覽した結果これを国宝に指定することに決った。

十月廿六日 來春の天台大師千三百五十年御遠忌並びに根本中堂修理落慶大法要の慶讃行事として比叡山名宝展をこの日から大阪大丸百貨店、続いて東京大丸百貨店に於いて開催した。

十一月七日 滋賀院門跡に於いて叡山学院が当番となって大蔵会展観が行われた。午前は小牧実繁博士、午後は獅子王、森、両師の講演があった。

十一月十日 延暦寺一山勸修寺信忍大行満は今般北嶺回峯一千日を満行したので、京都御所へ土足参内し玉体加持を奉修した。

十一月十七日 東京天王寺大僧正福田堯顥は逝去した。

この年比叡山上防災工事として防雷と水道の二種類の工事を一千二百五十万円の予算で着手した。

昭和三十年^{乙未}四月^{自十一}日 本年度恒例御修法は、総本山比叡山延暦寺大講堂に於いて、天台座主猊下を始め、各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、七仏薬師大法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。御衣奉迎奉還、巻数献上等は例年の通りで

あつた。

四月自廿九至廿九日

天台大師千三百五十年遠忌法要及び根本中堂大修理落慶法要が今日から十日間山上にて行われた。

四月廿日開闢 於根本中堂

根本中堂修理落慶大法要本尊藥師曼荼羅供執行
催しもの

一、舞樂

振鉦、迦陵頻、胡蝶、万歳樂、延喜樂、陵王、落蹲、春庭樂、白
浜、賀殿、還城樂、長慶子

二、献茶

裏千家今日庵宗匠一行

一、稚児練供養

一、福聚教会詠歌奉納

四月廿一日 於根本中堂

宗祖伝教大師報恩会講經論義執行

催しもの

一、奏楽 楽人奉仕

一、詠歌 福聚教会奉納

四月廿二日 於根本中堂

檀信徒各家息災延命祈願大護摩供奉修

四月廿三日 於阿弥陀堂

檀信徒各家精靈追善回向法要常行三昧嚴修

四月廿四日(中日) 於根本中堂

高祖天台大師千三百五十年遠忌法要高祖大師御影供奉修

催しもの

一、献茶 地元献茶会奉仕

一、稚児練供養

一、詠歌奏楽奉納

一、篆垣除幕式

甲冑武者礼射、居合、魔切、据物切

四月廿五日 於根本中堂

各宗祖報恩会奉修

催しもの

一、九州盲僧、妙音十二樂法要奉納

一、詠歌奏樂奉仕

一、献茶 名古屋宗匠連

四月廿六日 於阿弥陀堂

万国忠靈追悼回向法要法華三昧嚴修

四月廿七日 於中堂前広場

世界平和祈願採灯護摩供奉修

四月廿八日 於阿弥陀堂

永代祠堂納骨回向常行三昧嚴修

四月廿九日（結願） 於根本中堂

桓武天皇千百五十年聖忌法要御饌法講会嚴修

催しもの

一、京都河道屋そば献供

一、稚児練供養

四月廿一日 西塔釈迦堂解体大修理起工式が挙行された。約三ヶ年で完成の予定である。

五月十一日 滋賀会館に於いて、午前十時から、全県下忠靈追悼法要が中山座主猓下御導師の下十八口出仕して嚴修された。

六月四日 長講会が比叡山上浄土院に於いて例年の通り座主猓下御証義の下嚴修された。

六月廿日 望擬講池田長田は擬講に補任された。

八月自廿一日至廿五日 岡山県津山市大円寺住職清田寂坦は戸津説法を勤仕した。

九月一日 今井玄崇は延暦寺仲座職に就任した。

九月十五日 津山市大円寺住職清田寂坦は望擬講に補任された。

九月廿日 禪定院住職大僧正藤支哲道は延暦寺執行に任命された。

九月自廿九日
至卅日 比叡山延暦寺戒坦院に於いて、大乘円頓授戒会が厳肅裡に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 禪定院大僧正 藤 支 哲 道

教授師 大林院権大僧正今出川 行 忍

十月自一日
至五日 法華大会広学豎義が総本山延暦寺大講堂に於いて厳修された。

臨監 勅使 旧堂上華族 飛鳥井雅信

探題 延暦寺 大僧正 玄 秀

探題 正覚院 大僧正 周 湛

已講 法曼院 大僧正 覚 誠

擬講 竹林院 権大僧正 長 田

会行事円乗院 大僧都 惠進

十月五日 神田尚順は宗務総長に任命された。

十月九日 座主猥下は、東京駒込学園創立三十周年記念式典に学園総裁として御臨席された。

十月廿日 延暦寺一山寿量院住職獅子王円信は叡山学院々長に任命された。

十一月八日 座主猥下は天皇陛下より園遊会に御招待されたので大橋教学部主事を随行して東上された。

十一月廿四日 埼玉教区慈恩寺において玄井三蔵法師靈骨の一部を台湾に分贈する分贈法要が営まれ、廿六日には台北善導寺に於いて授受の式を挙げた。

十二月自三日
至四日 座主猥下は、兵庫教区悟真院にて同寺開創九百五十年開基記念法要並びに天台大師千三百五十年御遠忌法要を御親修された。

十二月十二日 中山玄雄勸学の天台声明の保存録音が、文化財保護委

員会の需めによつて、日本放送協会京都放送局で行われた。

十二月十七日 滋賀県英霊供養塔開眼供養が、大津市膳所本丸公園に於いて、座主猊下御導師の下十口出仕して厳修された。

昭和三十一年^丙二月廿一日 上野一山神田尚順は上野輪王寺門跡に任命された。

三月十五日 ビルマ方面戦没者遺骨収集団に参加した吉田道稔は無事帰国した。

四月一日 本年は恰も開宗千百五十年に相当するので、今年から三十三年に至る三ヶ年に亘り総本山に於いて開宗記念法要が勤修される事に成った。就いては今般座主猊下は左記の教諭を発せられ、宗徒の奮起を要望された。

教諭

恭しく惟るに宗祖伝教大師四宗一源の法幢を樹てて天台円頓の宗を開き給いてより正に千百五十年の紀辰を迎ふ。

今や国運未だ旧に復せず世相仍黯黮国家益々多事多難の時に際会す。此に於てか宗徒たる者謹んで大師立教開宗の丕業に鑑み宜しく決意を新にし、以て祖訓を顕彰し鴻恩奉謝に丹誠を捧げざるべからず。庶幾くは宗徒此の機を逸せず門末檀信と俱に齊しく力を協せ、内は法華一乗の信仰を固うし、外は国威振張の佳運を扶け、弥々国家鎮護の宗威を宣揮せんことを。

昭和三十一年四月一日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

四月^{自十一}_{至十四}日 本年度御修法大法は、延暦寺大講堂に於いて、座主猊下始め各門跡等参勤して、普賢延命法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿日 開宗千百五十年記念大法要が始まった。

四月廿九日 福島教区鏡石寺に於いて、開宗千百五十年記念大法要並びに戦死者供養塔開眼法要が、座主猊下御親修の下に嚴修された。随

行は木下教学部長、三浦延暦寺幹事、菅田布教師であつた。

五月一日 陸奥教区仙岳院に於いて、教区主催の開宗千百五十年大法要が、座主猊下御親修によつて厳修された。随行は右に同じ。

五月三日 陸奥教区中尊寺に於いて、陸奥出羽押領使鎮守府藤原二代基衡公八百年遠忌大法要が、座主猊下御親修の下厳修された。随行は右に同じ。

五月五日 埼玉教区吉祥寺に於いては、梵鐘再鑄撞初式並諸堂宇營繕落慶法要が、座主猊下御親修にて執行され、盛況であつた。随行は右に同じ。

同日 慈覚大師の御生母の墓碑が、栃木県下都賀郡小野寺村上岡の実相院(眞言宗)に在る事が、最近判明したので、之を記念して、栃木教区佐野部寺院では、この日同教区主催の実相院殿尼公追善法要並びに墓前祭を盛大に執行した。

五月十二日 三井寺第百六十二代長吏晋山式が午前十一時から金堂で

行われ、座主猊下は執行等を随行参列された。

五月廿五日 日本仏教徒会議が比叡山延暦寺に於いて、各宗派代表、各府県地区職域等の仏教団体代表、各大学生、仏教青年会、仏教婦人会等の団体代表総数約五百名参加して三日間に亘って開催された。

五月廿六日 日本仏教徒会議参加者は、延暦寺根本中堂に於いて、午前十一時から座主猊下調声によって厳修された各宗祖師報恩並びに世界平和祈願法要（声明例時之攸）に参列した。

六月四日 長講会が比叡山上浄土院に於いて例年の通り厳修された。

六月五日 日光一山僧正小暮慈全は宗務総長に任命された。

七月十五日 日本仏教学会比叡山大会が各大学代表者十八名の研究発表によって開かれた。

八月五日 福井市光照寺に於いて、大仏再建開眼並びに開宗壹千百五十年御遠忌法要が座主猊下御親修の下に行われた。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山禪定院住職藤支哲道は戸津説法を勤仕した。

九月十五日 比叡山西塔釈迦堂の立柱式が午前十一時から執行された。
自九月廿八日
至十月十三日 伝法灌頂は、比叡山東塔北谷総持坊に於いて、穴太流鶏
足院灌室当番で執行された。

十月七日 川越市喜多院に於いて、無量寿殿以下重要文化財六棟、其
の他十棟の解体修理又は新築修理等が完成したので、座主猊下御親修
の下に落慶法要が行われた。猶、十月中、座主猊下は埼玉教区喜多院
の他、群馬教区長寿院、陸奥教区等にも御親教をされた。

十月十一日 午前三時半頃大講堂出火を発見、山上事務所宿直員は直
ちに山下諸院へ連絡、山上総持坊灌室宿泊者と協力して現場に到着し
たが火災は堂内に満ちて手の施す術もなく、堂外の各消火栓を開いて
懸命の消火を続けた。午前四時十分頃より比叡山ケーブルは応急頻発
して一山住職、宗務庁員、出入方及び消防団等急遽登山駆け付け消火に
つとめたが火勢強く大講堂消失し、堂後の前唐院、堂西の食堂も延焼
消失、堂前の大鐘楼も延焼してわずか残骸を残すのみとなった。この
間、堂東下の根本中堂、堂西上の戒壇院にも飛火頻りであったが、懸

命の放水によってこれらの諸堂の延焼を漸やくにして喰い止めた。午前五時半頃一往鎮火したが焼落ちた後の余燼は残っているので放水は翌十二日夜まで続けられた。惜しくも焼失した仏像は次の通りである。

一、大講堂の部

大日如来像一軀、十一面觀音像一軀、弥勒菩薩像一軀、梵天像一軀、帝釈天像一軀、四天王立像四軀、桓武天皇坐像一軀、伊井大老坐像一軀、釈迦如来坐像(銅造重文)一軀、文殊菩薩坐像一軀、弥勒菩薩坐像一軀、毘沙門天立像(木造重文)一軀、持国天立像(木造重文)一軀、阿弥陀如来坐像(木像重文)一軀、文殊菩薩坐像一軀、藥師如来立像一軀、地藏菩薩坐像一軀、地藏菩薩立像三軀、大黒天立像一軀、善光寺如来像一軀、妙見菩薩立像一軀、三面大黒天像一軀、山王権現七社像七軀、伝教大師坐像、智証大師坐像、法然上人坐像、親鸞聖人坐像、良忍上人坐像、道元禪師坐像、栄西禪師坐像、日蓮上人坐像、空也上人坐像、真盛上人坐像、一遍上人坐像、百枝公坐像、藤子坐像各一軀

二、前唐院の部

慈覚大師坐像一軀

十月十二日 未だ火災跡から火煙ののぼりつつある焼失大講堂の正面に仮壇を設け、理性院大僧正御導師の下一山各院住職全員出仕して、焼失仏像の為法要を執行した。

十月十六日 延暦寺真島全性僧正紹介の米人ロバート・カール・ウィラー氏の得度式が滋賀院に於いて、理性院大僧正御導師の下執行された。

十月廿九日 延暦寺恵光院住職大僧正叡南覚誠は延暦寺執行に任命された。

十一月六日 衆議員文部省関係文教委員（委員長佐藤氏）一行五名其他県教育委員等十五名は午前十時比叡山を訪れ、叡南執行他幹事の案内のもと大講堂火災跡を詳しく視察した。

昭和三十三年丁酉一月卅一日 比叡山をより広く多くの人に紹介する目的で、昨春から延暦寺と宗務庁共同で、カラー映画「比叡山」の作製に

かかり、その中の諸堂篇が完成した。尚、行事篇の作製が続けられ、五月には完成される予定である。

二月十一日 九州大興善寺住職神原玄祐は宗務総長に任命された。僧正勝野隆信は天台宗史編纂所々長に任命された。

二月廿二日 比叡山上大講堂跡に飯堂が建てられ、その上棟式が執行された。

三月十五日 延暦寺一山仏乗院住職三浦義薫は叡山学院々長に任命された。

三月廿六日 往昔近江比良山中で行われて来た比良八講が、今度比叡山横川飯室不動堂の輪番箱崎文応大行満等によって復活される事になった。この日午前八時半から、横川院内を主とする一山住侶と行者達は、浜大津から船に乗り、船上で琵琶湖上の安全祈願や塔婆流しをした後、志賀町湖岸に上陸、八所神社で比良八講、採灯大護摩供を奉修した。

四月自十四日至十一日 本年度御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始

め、各門跡、地方代表、山内住職が参勤して、鎮將夜叉法を厳修し、玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月八日 延暦寺では、今度月刊新聞「比叡山時報」を発行して、大衆教化の一助とし、又一山及び一宗諸寺の行事等の報道をする事に成った。

四月十七日 三月末から比叡山宿院で行われている第二回ビルマ派遣留学僧の研修会に、この日ビルマ郵政庁長官ウー・トン・ティン氏、最高裁判所判事ウー・オンキン氏他二名が来山した。

四月^{自廿一日至廿三日} 岐阜県神戸町善学院に於いて開宗千百五十年慶讃法要が、座主猊下御親修の下教区寺院住職出仕して厳修された。又座主猊下親修の五重相伝が約百人の善男善女に授けられた。

五月三日 北茨城市浄蓮寺で一時半から、愛染明王堂落慶入仏法要が、座主猊下御親修の下、部内各寺院住職の出仕を得て、境内一杯の参詣人の随喜する中、盛大に行われた。次いで同寺本堂で、第二次世界大戦で散った英霊追善法要を猊下御導師の下に執行、又信徒に授戒を行

い、その後清水谷本山布教師の法話があった。

五月七日 比叡山にドライブウェイが設けられる事に成り、その起工式が、午前十時から根本中堂で叡南執行導師の下関係者等が参列して盛大に行われ、引続き現場で地鎮祭が行われた。主な参列者は、京阪電鉄村岡社長、間組社長、大阪陸運局長、六社代表、大津市長等であった。なお、この道路の完成は明年三月の予定である。

五月十二日 延暦寺檀信徒総代北河淑氏夫妻は親戚代表と共に、先代の納骨に来山し、阿弥陀堂での猊下御導師の法要に参詣した。

五月十九日 神奈川教区医王寺では、戦災で焼失した本堂を総工費七百万円で再建中であつたが、この程完成したのでこの日、本山から座主猊下を迎えてその落慶入仏供養の法要が盛大裡に行われた。猊下は、式後、孝道教団本部を訪問された。

五月廿一日 延暦寺大講堂の仮堂落慶入仏供養大法要は、午前九時から有縁の各方面名士、檀信徒等数百名の参列の中、座主猊下を大導師に仰ぎ一山の衆僧出仕して執り行われた。

六月四日 長講会は比叡山上浄土院に於いて例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

六月六日 関西、四国を御旅行中の高松宮殿下は午前十一時過煙雨の比叡山に登られ、中山座主猊下、叡南執行の挨拶を受けられ、根本中堂、大講堂仮堂に御参拝の上、書院で御中食を召され、午後一時半のケーブルで坂本へ下られ、日吉神社に参拝の後大津の宿舎にお歸りになった。

六月八日 第一回中央布教講習会が午後一時から比叡山宿院で開催された。講師は神戸大都留教授、真言宗寺河布教師、山口光円勸学、飛鳥井滋賀仏婦会副会長であった。

七月二日 延暦寺一山大僧正山田恵諦は延暦寺執行に任命された。

七月十二日 琵琶湖の与える恩恵に感謝し、そこに眠る故人の靈を慰め、且事故絶滅を祈念する湖神祭は、今年もこの日、中山天台座主猊下の御導師で一山の僧衆出仕して厳肅に執行された。上原大津市長、斉藤大津警察署長、船野滋賀県会議長の挨拶等もあり二百人程の善男

善女が随喜して盛大であつた。

八月三日 去る七月廿五日西九州長崎県大村、諫早両市方面に局地的豪雨があり、空前の災害をもたらしたが、天台宗関係寺院の被害は軽微であつた。関東を巡回中の神原宗務総長は諫早の災害地視察と慰問の為東京から急ぎ帰り九州に向つた。

八月^{自廿一日}至廿五日 日光輪王寺門跡菅原榮海は戸津説法を勤仕した。

八月廿五日 昨年不慮の災禍によつて焼失した延暦寺大講堂は本年五月仮堂が完成し、本堂の復興が一宗あげての大事業として宗教界内外から注目されていたが、今回大堂復興局の他の役員（復興局は六月に総長、副総長を決定）が正式に決り座主猊下から各々任命され、焼失一週年を待たずして愈々實際活動の態勢に入る事になった。

復興局役員

総 長 神原宗務総長

副総長 山田延暦寺執行

事務局長 山田延暦寺執行兼任

企画部長 木下寂元

組織部長 駒田光厳

会計部長 梅山円了

総務部長 吉田道稔

九月二日 比叡山横川の堂宇に初めて電灯線が開通された。

九月七日 日光山輪王寺門跡菅原栄海は望擬講に補任された。

延暦寺一山禅定院住職藤支哲道は望擬講に補任された。

九月廿一日 名古屋の都築氏、延暦寺の葉上大行満等の発案による仏教詩人宮沢賢治の歌碑が根本中堂の前によりやく完成し、丁度二十五周忌の命日に当るこの日、その除幕式が、中山座主猥下を御導師に一山僧出仕の下、賢治の姪宮沢潤子さんを始め関係者約百名が参列して盛大に行われた。

十月一日 大講堂焼失以来殊の外御心痛の座主猥下には、現下の宗情に漸く御安堵されたが、更に宗運を興隆し信仰を恢弘する為に、焼失一週年を迎えるに当って特に御言葉を発せられた。

座主猊下の御言葉

総本山の大講堂が不慮の災禍に遇うて焼失してより茲に一年、始めて巡り来る痛恨限りなき十月十一日を迎えるに当り、敢えて衷情を披瀝して闔宗の諸師並びに檀信徒の各位に告ぐ。

災火の原因等その筋に於いて糾明せられつつあるも未だ結論に至らず、ただ早期にこれを発見し得ざりしは、その悔い、永劫に残り、慙愧に耐えず。本山一同総懺悔の誠を致して直ちに仮堂を営み、本尊を安んじて日夜に恩徳を謝し、復興を祈念す。嚴肅なる世の批判は当然なるも、天下の同情また翕然として集まる、列祖の遺徳にしてただ感泣あるのみ。

夫れ我が大講堂は、第二祖義真和尚の創草し給へる開明の道場にして、爾来列祖先徳の開示悟入し給へる所、いやしくも天台の流れを汲むの輩、必ずこの堂に入りて大導師の印可に預る。伝統相承は釈家の嚴規、仏法の大本、これを捨てこれを忘れて仏教在るなく、宗の名存せず、我が宗に於いて欠くべからざる根本道場なり。しかも

ただに相承の典儀を行うのみならず、講堂の名に於いてその用を発揮するを以って面目となす。若しこれを果さざるは宗祖の遺訓にそむき、本山の実質に違ひ、また宗学の研鑽に衰微せるを示すのみ。宗徒思いを茲に致し、傾日宗議會を開いて満場一致これが恢復を決議し、復興の局を發し評議の会を設けて着々実行に進む、未曾有の大事業にして困難思いの他なるべきも、法師の一致和協と檀信徒各位の篤き信仰によって必ず時代に相応したる講堂の再現あるを信じ、心から法師に委嘱し、各位に依頼す。宜しく諒解し努力せられんことを翼う。

昭和三十三年十月一日

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

十月五日 東京教区目黒不動滝泉寺では、練行道衆二千五百名が参加して座主猊下御親修のもとに本尊開扉の大法要が執行された。一

十月九日 岡山教区津山大円寺では、諸堂宇の大修理が完成し、梵鐘再鑄開眼撞初を兼ねての大法要が座主猊下御親修の下に執行された。

十月十一日 大講堂焼失一週年を迎えた比叡山延暦寺では、この日早朝午前三時半から根本中堂を中心とする防火訓練が始められ、九時からは大講堂仮堂で再建祈願並焼失仏像供養法要が、天台座主代理即真滋賀院門跡の導師の下、一山、本庁の僧全員が托鉢の服装で出仕して厳修され、懺悔と再建への決意をした。続いて宮島大津消防署長作の不動尊の開眼式があつて後、天台座主猊下を先頭に、「大講堂再建勸進」ののぼりをかかげて、宗務総長、延暦寺執行、一山住職全員と、宗務本庁、復興局、延暦寺関係婦人会、詠歌講、巡礼講、出入商人、高校生を交える総勢三百余人で、京都市、大津市内外に再建の為の大托鉢と街頭募金運動を繰り広げた。

因みに、この日十余万円と三石の米が喜捨された。

十月廿八日 比叡山延暦寺阿弥陀堂に於いて、東京教区品川常行寺住職修多羅亮澄師が願主となり、一立斉安藤広重の百回忌追善回向法要が厳修された。

十月卅日 陸奥教区気仙沼観音寺に於いて教区主催開宗千百五十年記

念法要が座主猊下御親修のもとに行われた。

十一月二日 比叡山無動寺谷法曼院跡に建立道場（本尊大日如来）が完成し、座主猊下を迎えてその道場開きが行われた。法曼流の灌室法曼院が滋賀院御殿内に移築された後長らくそのままに成っていたが、一昨年明王堂輪番葉上照澄師等が發起人となってその再建を計画し、この程灌頂道場並びに止観道場として一般にも広く開放される事になった。

十一月三日 兵庫教区神戸市会下山善光寺に於いては、堂宇庫裡が新築され、本堂落慶入仏供の大法要が座主猊下御親修の下に行われた。

十一月五日 前首相石橋湛山夫妻は森滋賀県知事の案内で、秋雨模様
の比叡山に登山、諸堂を参拝後石山に向った。

十一月八日 岡山の山陽新聞社社会事業団が行なう「歳末厚生展」に参加方、中山座主猊下にも要望して来たので、猊下はその主旨に賛同され、同展に御染筆を数葉出品される事になった。

同日 日光山輪王寺前門跡大僧正菅原英信が遷化した。本葬儀は今月

十二日執行される。

十一月九日 京都粟田口の青蓮院門跡ではこの日、同門跡宸殿に於いて、故久邇幌子さんの一週忌法要を、各宗本山管長等参列の中、中山天台座主猊下御親修の下、延暦寺、真如堂等京都市内各寺住職出仕して厳かに行われた。

十一月廿三日 南総教区主催の円頓授戒会が千葉県長生郡長南町妙覚寺(住職藍長覚)に於いて、天台座主猊下御親修の下厳修された。参詣者一万余名の中、千数百名に授戒、五千名に血脈授与があつた。

十二月八日 比叡山の大講堂の再建に当り、御本尊の大日如来像は、天台座主猊下の御発願によって、猊下を始め延暦寺一山寺院の住職全員が惇資を献じて奉納されることになった。又前の御堂と同様に、新大講堂に各宗祖師像が奉安される事に決り、有縁の人々の協力を得て各宗本山に祖師像の奉納を懇請していたが、この程各宗派当局から各々快諾が得られた。因みに新大講堂再建の日に比叡山を祖山とする各宗祖師の尊像奉安を勧請する為座主猊下より各宗派本山に出された請

願文は次の通りである。

請願文

稽首和南比叡山玄秀謹んで申す。我が山大講堂昨秋十月十一日未明不慮の災禍に罹り、匆忙の裡一瞬にして烏有に帰す。不幸発見遅く時既に劫火全堂を包み、加うるに周囲の戸扉堅固にして容易に入るを許さず、御本尊を始め奉安の仏像等、一軀をも遷座し得ず、皆焼失の厄に遇い給う。予てこの堂に安置し、祭祀怠らざりし我が山より出で給う各宗派祖師の御像も亦、俱に本地に還り給う。痛恨極りなく、悲嘆限りなし。仏罰嚴にして恐懼の至りに堪えず。速かに堂宇を再建して諸仏諸尊等を迎えて安置し、仏法興隆、国家安穩を祈念せんことを期す。

我れ等既にして発願する所あり、即ち宗祖伝教大師開創以来、恒に仏教を興隆して国家に貢献し国民の幸福を増進せんがために我が山を道場として、国宝等の育成に努むるべきを規定し給い、久しきに亘り籠山修行の実行あり、この故に歴世偉僧輩出して時代適應の教

法を流布し、濟世利民の仏法を弘宣す。各宗派祖師の時に応じて新たな教線を布き給う、一にこの大願より発る。しかも各宗祖師の開示悟入し給う道場が大講堂なるを想い、我等自ら等身の祖師尊像を彫みて壇上に安置し、詣ずる者をして帰依を發さしめ、恩徳を謝せしむ。参拝の各教徒の喜び限りなかりしに、この不幸により遂に願望を中絶す。悲泣痛嘆ただ祖師に対しては罪を謝し、宗派の諸師に対しては赦しを希うのみ。然れども我れ等既に大講堂の再建を發願し、寺檀一致宗の総力を挙げて之を達せんことを祈誓す。仏天の冥応と十方有縁の援助を得て成就の暁には、再び各宗派祖師の尊像を旧の如く大講堂の壇上に安置し、有縁と共に仏法興隆の冥護を仰がれんことを念ず。茲に於いて則ち乞う、我等の懇志を諒解し、求願を援助するの意を以って、貴本山または貴宗派より祖師の等身の御像を新たに建立する大講堂に納め給え。安置の後貴宗派に於いて、期を定めて報恩の法要を営み給う志あれば、則ち求めに応ずべし。また祖師の御行蹟を慕い、貴宗派の教師檀信徒等が、新たな大講

堂に於いてその宗派の宗規に準じて修行せんと欲する者あらば、山務に差支えざるを見て即ち喜びを頒たん。宗祖伝教大師の本願に依憑し、謹んで請願す、庶くは懇望を容れて求願を満足せしめ給え。

合掌敬て白す

比叡山延暦寺住職

天台座主 大僧正 中山 玄 秀

十二月十一日 去る九月の第一回大堂復興局評議員会、延暦寺一山会議で決定をみた大講堂の鐘台の再建は、約七百万円の総工費で着工される事に成り、その起工式が午前十時から、中山天台座主の導師で、宗務庁役職員、延暦寺当局と一山住職全員が出仕して行われた。

昭和三十三年^{戊戌}一月十四日 小雨煙る比叡山西塔に於いて、昭和三十一年四月から解体修理中の釈迦堂の上棟式が、座主親下の御導師の下、事務所役員、三院内役者出仕して厳粛に行われた。高さ二十尺有余の軒に設けられた祭壇で、先づ大導師開音によって神力品が誦誦され、その後栗田万喜三人夫頭が木槌節を朗々と唄い、続く「槌打ち」は栗

田頭の「万才楽」の掛声に三人のとび職の「応答」の声と共に三三五拍子の古式に倣って力強く打たれ、目出度く上棟式を終了した。

一月廿六日 午前九時から滋賀院門跡に於いて中山座主猊下御導師の下に開宗記念法要を行った後、山田延暦寺執行を先頭に約百人が四班に分れて、坂本一円を寒風の中、大講堂再建の浄財を求めて大托鉢行を展開した。

三月三日 比叡山観光道路工事の完成とともに業務を開始する新会社「比叡山自動車道路株式会社」の発起人会が午後京都ホテルで行われ、延暦寺側からは山田執行が出席した。この発起人会には、京都、滋賀両知事、京都、大津両市長、京阪電鉄社長等が集まり、定款、事業計画、役員を決めた。

三月八日 滋賀県甲賀郡飯道山行者講では、去る二月十二日から十日間、総勢二百人程で大講堂再建勸募托鉢を行ない、その浄財献納式が、午前十時から滋賀院で、座主猊下御臨席の下行者講員四十名が参加して行われた。

四月三日 天台学の權威、延暦寺恵光院住職望擬講大僧正福吉円鈔は午前五時遷化した。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、

座主猊下始め、各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十八日 開宗千百五十年大法要に間に合わす様突貫工事を続けていた、比叡山ドライブウェイ工事はようやく十七日の徹夜作業を最後に完成した。この日折からの雨の中、根本中堂、田の谷峠、四明岳頂上の三カ所で、京滋両県知事を始めとする多数の来賓を迎えて盛大に完成式が行われ、十九日から「東洋一の景観と聖地比叡山へ」のキャッチフレーズで華々しく業務を始める事に成った。この日午前九時から根本中堂に於いて、工事関係者（京阪電鉄、自動車会社、間組）の参列する中、中山座主猊下の大導師の下に延暦寺一山僧出仕して、厳かに道路の安全を祈り、開通を記念する金色のはさみが御加持され、渡辺法務幹事がそれを奉持して車を連ねてドライブウェイの起点の田の谷峠へ

向った。田の谷峠では、村岡京阪社長が山田延暦寺執行から渡されたはさみで五色のテープを切って完成式が終り続いて四明岳駐車場で、午前十一時から完成祝賀式が行われた。

四月自廿四至廿四日 去る三十一年四月から始まった天台宗開宗千百五十年

記念大法会は、この五日間、比叡山上で繰り広げられ、絢爛の大法要で三ヶ年に亘る幕を閉じた。この間比叡山には約五万人の団参客があり、全国各地では僧俗一体となって宗祖大師の徳をしのび、日本歴史に偉大な業績を残した天台の教の認識を深めた。

四月廿日 開宗一千百五十年記念大法会開闢

開宗記念薬師曼荼羅供 於根本中堂 大導師天台座主猊下

檀信徒各家精霊回向法要 於阿弥陀堂 大導師毘沙門堂門跡

廿一日 各宗祖師報恩会献茶法要 於根本中堂 大導師青蓮院門跡

世界平和祈願法要採灯大護摩供 於中堂前広場 大導師修験道管領

永代祠堂総回向法要 於阿弥陀堂 大導師日光輪王寺門跡

廿二日 桓武天皇報恩法要 於根本中堂 大導師天台座主猊下

全國詠歌奉納大会奉詠之儀 於根本中堂 大導師三千院門跡

叡山講福聚教會物故者追悼法要 於阿弥陀堂 大導師妙法院門跡

廿三日 宗祖大師報恩會御影供 於根本中堂 大導師滋賀院門跡

万国忠靈総回向 於阿弥陀堂 大導師上野輪王寺門跡

廿四日 (結願) 大講堂復興祈願法要藥師供 於根本中堂 大導師天台座

主猊下

百萬靈総回向法要 於阿弥陀堂 大導師曼殊院門跡

四月廿四日 各宗祖師像を再び叡山に迎え、大乘仏教の一層の興隆を願う座主猊下の起請に応え、この日、日蓮宗増田管長を始め全部長と信徒約二千人が、日蓮上人御像を奉持して来山、増田管長を先導に根本中堂に到着、直ちに奉納式が行われ、天台座主から拝受の辞が述べられ、この後、式を大講堂仮堂に移して、天台座主御導師の下奉安の法要が営まれた。

四月廿八日 大津市下阪本聖衆來迎寺住職大僧正山中忍海は毘沙門堂

門跡に任命された。

五月二日 陸奥教区岩手県中尊寺の東大本山昇格伝達式法要が本庁から役員を迎えて厳粛に行われた。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて長講会が例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

六月十一日 近江八幡市興隆寺（住職橋野順芳）に於いて午後二時から、開宗千百五十年慶讃法華三昧法要が、天台座主猊下御導師の下蒲北部内住職二十名が出仕して厳粛に行われた。この盛儀には宗務庁、延暦寺各代表、近江八幡市長等の参列があり、清水谷教学部長の特別布教が行われた。

六月^自至^{廿三}日 第二回中央布教講習会が京都青蓮院門跡で、全国から推薦された七十名の布教師を集めて盛大に行われた。因みに、開講式には宗務総長、教学部長、山田延暦寺執行等が参列した。

六月廿七日 古建築の権威である京大教授村田治郎博士が小牧実繁滋賀大教授と共に登山、大講堂跡を大堂復興局役員の案内で視察した。

同博士は、大講堂復興について近く設置される建築顧問団の一員として、特に文部省の推薦で復興局が依頼した人であるが、今後の復興再建計画のため来山したのである。

七月十五日 秩父宮妃殿下は、上原大津市長等と共にドライブウェイを車で比叡山に登られ、出迎えの山田執行の案内で、根本中堂、大講堂仮堂に参拝され、書院で御中食を召され午後一時半再び車で下山された。

七月十六日 自動車道の開通に伴ない参拝者の激増した比叡山では、その靈域を護る為色々考慮されていたが、この日午前十時から、大津市公民館に、県、市、県警、大津署、大津消防署、延暦寺の六者が集まり、靈域浄化の為の六者協議会を開いて、今後制限区域を設けて、聖地比叡山を関係法律等を適用して守る事に成った。

七月廿二日 比叡山中学校校舎が新築される事になり、その地鎮祭が執行された。

八月十一日 比叡山大講堂鐘台復興工事中、鐘を釣り下げる鉄鉤に、

年号と作者の銘があるのが発見されたが、天台座主記に記されているのと相違があり、問題となった。因みに、渋谷大僧正編の座主記に、第二百十二世入道二品尊真親王の記事の中に「安永二年四月八日朝大講堂の鐘落ち、播州の冶工をして鈎鉄を鍛えしむ」と記されているのに対し、発見された鈎鉄の銘には「若州小浜住西川市助富明」と作者の名を刻み、片面には「発安永二年巳十月日」とあった。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山延命院住職獅子王円信は戸津説法を勤仕した。
九月四日 参議院文教委員会の竹中委員長を始め全委員、文化財保護委員会の服部建造物課長ら一行十余名は、午前十時、京都から自動車で来山、服部課長、山田執行の案内で根本中堂に参拝した後、ドライブウェイ開通後の比叡山一帯を視察、昼前下山した。

九月廿八日 群馬教区は、宗祖大師遺跡の鬼石町浄法寺に於いて立教開宗千百五十年記念法会を、教区内檀信徒総代七百余名参拝のもとで行った。

十月十日 大講堂鐘楼落慶法要が午前十時半から座主猊下導師で行わ

れた。主な参列者は天台真盛宗木村管長、天台寺門宗福家長吏、曹洞宗高階管長、臨済宗建仁寺派竹田管長、同心上執事長、融通念仏宗西洞院管長、智恩院千々和執事長、臨済宗南禅寺派教学部長などであった。

落慶法要次第

先 衆僧入堂

次 大導師御入堂

次 宗歌

次 大導師登壇

次 懺悔歌

次 唄匿

次 散華

次 大導師表白

次 四弘誓願

次 読経 神力品

次 報恩歌

次 後唄

次 鳴鐘の儀 大導師二回
他は一

次 般若心經

次 真言 大日如来
諸天総咒

次 回向

次 大堂復興局総長挨拶

次 工事報告

次 来賓祝辞

次 工事功労者表彰

次 終典歌

次 大導師退座

次 衆僧退座

同日 大野善久氏寄附による大講堂復興伝道車の献納式が行われた。

十月十一日 比叡山の大講堂が焼失して二周年に当るこの日を迎えて、

本年も天台座主を先頭に、一山住職、宗務庁、行者講、婦人会、出入商人、叡山高校生等が数組に分れて、京都、滋賀の各地区に向い、大講堂再建の大托鉢を行った。

十月十五日 群馬教区中道院住職三沢長忍は本日付で、地方社会の厚生福祉に尽力した功績により藍綬褒章を受賞した。

十月十七日 東京浅草寺本堂落慶々讃大法要が行われた。

十月廿二日 長野善光寺で世界各国戦病没者慰霊大法要があり、元東久邇宮総裁等の参列の中、大勸進東伏見大導師の下金剛界曼荼羅法要が厳修された。

十一月一日 平泉中尊寺（住職園実円）では、寺格昇格（東北大本山となる）の式典を兼ねて、比叡山根本中堂の不滅の法灯相承の大法要が行われた。又同日中尊寺の防災工事の落成式も行われた。この大法会は、神原宗務総長、山田延暦寺執行等が参列して、厳肅盛大裡に終始した。

十一月三日 東欧チェコスロバキヤ、プラーグ大学東洋研究所長ウラストー、ヒルスカ女史が在日チェコ大使館員イヤン・ヴァインケルフェ

ーフェル氏の案内で、比叡山に日本文化の根源を尋ねて、諸堂を参詣の後、山下滋賀院で中山座主猊下と面談、五時奈良ホテルへ帰った。

十一月九日 京都青蓮院門跡に於いて、久邇家故妃殿下三週忌法要が、東伏見門主大導師の下執行され、山田延暦寺執行等が参列した。

十一月十六日 大津市坂本日吉馬場の律院に於いて、新鑄の鐘の撞初式が、午前十一時から、中山座主猊下の導師で行われた。

十一月廿四日 延暦寺仲座職法眼山中祐源は本日他界した。

十一月廿五日 去る昭和十二年十月廿九日長野県伊那郡阿智村智里園原に、当地の薬師堂並びに比叡山開創千百五十年記念法要事務局によって、広極院遺跡碑が建立されたが、同十三年四月、前述の比叡山開創千百五十年記念事務局では、更に岐阜県側に広済院記念碑の建立を計画して、広極院趾碑と同大の碑石も出来上ったが、諸事情の為惜しくも完成を見なかった。併し、今般信越教区が三十三年四月に行う開宗千百五十年記念大法要事業として広済院碑の建立を議決し、この日遂に岐阜県中津川市御坂霧ヶ原に広済院遺跡顕彰碑が竣工し、その除

幕式が小春日和の中、青蓮院門跡東伏見御導師の下、宗務総長、延暦寺執行、中津川市長等が参列して盛大に行われた。

十一月廿七日 皇太子と正田美智子さんの御婚約内定発表のこの日、延暦寺は根本中堂に於いて、薬師護摩供を奉修して御婚約の魔事のないことを祈り奉った。

十二月八日 比叡山高校校舎増築第一期工事の竣工式は折からの雨を
ついで、天台座主猊下を始め上原大津市長等来賓多数を迎え盛大に挙
行された。

十二月廿日 延暦寺一山明徳院住職権大僧正中山玄雄は延暦寺執行に
任命された。

昭和三十四年^己三月十八日 滋賀院に於いて第一回教学研究会が、延暦
寺学問所、同徒弟学問所、及び叡山学院の合同にて開催された。

^自三月卅一日
^至四月十五日 名古屋の覚王山日泰寺に於いて、本尊釈迦如来の大開
張が執行されたが、開帳大法要には毎日各宗管長、門跡が大導師を勤

め、四月七日には青蓮院門跡東伏見慈治、十二日には滋賀院門跡大僧正即真周湛、十三日には妙法院門跡三崎良泉、等が各々大導師を勤めた。

四月一日 去る三月廿七日から東京で始まった釈尊二千五百年祝典世界仏教徒大会は会場を四月一日から関西に移し、その第一日の祝典行事が比叡山で行われ、印度等十二カ国代表と日本代表等総勢百六十人が国際色豊かに不滅の法灯ともる根本中堂に詣り、即真滋賀院門跡の導師の下一山総出仕して行われた国禱会に参拝した後、書院で休憩して、十時半一般の参詣者に見送られて下山した。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、

座主猊下を始め各門跡、地方選拔者、山内住職等出仕して、七仏薬師法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十日 皇太子殿下と美智子さんの御結婚に際して、延暦寺では丁度御修法中であるため、この御修法を奉祝の御修法として、特に、十

日、御二人の御安泰祝禱法要が特修された。又全国三千の末寺に於いても、既に宗務当局から達示された通り、各々奉祝法要と記念事業が実施された。この御成婚に対して、中山天台座主猊下は左記の和歌を宮内庁を通じて献詠された。

皇太子殿下御結婚献歌

中山 玄 秀

皇太子（ヒノミコ）祈る修法の堂を出で来れば石欄竹に春の風呀ゆ
この佳き日皇太子（ヒノミコ）禱る比叡の山風竹台の葉をかがやかす

竹苑春風

皇太子（ヒノミコ）の佳き日寿ぐ御修法に比叡の中堂竹翠りなり

千歳経（ちとせの）る石欄干の若竹をそよがせわたる比叡の春風

五月自一日至五日

比叡山無動寺谷建立道場で天台座主猊下の証誠による結縁灌頂が修行された。無動寺谷住職教師全員が参勤し、約百人の善男善女が法縁にうるおった。

五月八日 比叡山内最古を誇る西塔転法輪堂（釈迦堂）の四年に及ぶ年月と五千三百万円の総工費をもって解体修理工事が完成したので、この日午前十一時から各方面の名士を招き、中山座主猊下を大導師として一山総出仕の下に、盛大な落慶御本尊釈迦如来遷座法要が厳修された。

法要次第

先 衆 僧 入 堂

次 大導師御入堂

次 大導師登壇

次 唄 匿 此間大導師開眼作法

次 散 華 上段

次 大導師表白

次 読 經 神力品一卷

次 真 言

次 後 唄

次 宗務総長挨拶

次 工事報告

次 来賓祝辞

次 工事功労者表彰

次 大導師退堂

次 衆僧退堂

因みにこの修理工事に使った材料の内、木材は一、三九〇石（うち檜材八九六石）、銅板五、六〇〇枚（七・七四トン）、従事した職人は大工延べ一二、七四一人、銅板ふき工延べ一、〇七五人、石工とび人夫その他延べ一六、四〇八人で、工事従事者は総計延べ三〇、二二四人の多きに上った。

五月十日 天台宗教学の最高機関である勸学集会が坂本滋賀院で開かれ、新院長に福井康順博士を、事務局長に赤松延暦寺副執行を選出し、本年の教学活動について協議を行った。

同日 五月八日から十八日迄滋賀会館を中心議場として開かれたMR

A アジャ大会に、延暦寺から乗実院真島全性住職が客員として出席し、この日午後四時から「伝教大師の精神とM R Aの心」と題して話した。五月十四日 去る五月八日から大津市滋賀会館大ホールで開かれたM R A アジャ会議に出席したタイ国仏教会長老フラ・ビマラドハルマ大僧正は、タイ国仏教大学教授B・C・ケマシイ氏を通訳に随え、午前谷口滋賀県知事の案内で比叡山を訪れ、中山延暦寺執行、葉上明王堂輪番等と懇談、根本中堂に参拝後下山した。

五月廿一日 讚仏堂に於いて午後二時零分から翌廿二日午前五時廿五分迄の間、別請広学堅義が厳修された。

業 地上空仮 副 権乗下種

探 題 滋賀院門跡周湛大僧正

堅 者 竹林院住職権大僧正 池 田 長 田

一之問 法曼院〃 大僧正 叡 南 覚 誠

二之問 松禅院〃 大僧正 山 田 恵 諦

三之問 禅定院〃 大僧正 藤 支 哲 道

五月廿二日 已講大僧正叡南覺誠は探題に補任された。擬講権大僧正池田長田は已講に補任された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて長講会が例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

六月十二日 来迎寺住職山中忍海は宗務総長に任命された。

七月一日 天台宗寺院共済組合が発足した。

七月廿九日 比叡山上一本杉の地にて、国際ホテルの竣工式が午前十時半から挙行され、中山延暦寺執行及び、幹事が出仕した。

八月自廿一日至廿五日 川越市喜多院住職塩入亮忠は戸津説法を勤仕した。

九月自三日至十一日 比叡山中興の祖、第十八世天台座主元三大師（慈恵大師）

の九百七十五年遠忌大法要は、比叡山横川四季講堂を中心に天台座主猊下を始め一山の僧徒、及び宗内の住侶多数参集して、全国から登山して来た大勢の信者の歡喜法悦の中、盛大厳肅に執行された。

先ず第一日目の九月一日は、午前中横川灌室で結縁灌頂が行われ、午後は叡南法曼院大僧正導師による法華三昧大法要が修された。

翌二日の午前中は、有縁の人々の菩提をとむらう回向法要が行われ、続いて午後一時から大師報恩の御影供法要が探題大僧正即真滋賀院門跡御導師で、京都、滋賀の信者代表による献華、献香、献菓を得て、厳そかに修された。最後の第三日は、午前中の回向法要の後、午後一時から、中山天台座主猊下を大導師として如意輪曼荼羅供法要が古式ゆかしく行われ、莊嚴な遠忌法要の幕を閉じた。因みに、記念事業の一つとして、山田恵諦大僧正著の伝記「元三大師」が完成した。

九月十八日 望擬講菅原栄海は擬講に補任された。

九月廿五日 川越市喜多院住職塩入亮忠及び延暦寺一山延命院住職大僧正獅子王円信は夫々望擬講に補任された。

九月廿六日 伊勢湾台風が襲い、殊に東海、三重の両教区の惨禍甚だしく、死者行方不明数千名、家屋の全半壊等無数の被害は目を覆う有様であった。本庁では直ちに慰問使を派遣し、被害各地を見舞った。九月廿九日 史上最大と云われる伊勢湾台風により、東海、三重両教区は大惨状を呈したが、延暦寺では見舞と状況視察を兼ねて、赤松副

執行、生田企画幹事を現地に派遣して、而師の報告に基いて直ちに実質的な災害地救援活動に入った。

九月自廿九日
至卅日 本山戒坦院に於いて大乘円頓授戒会が厳肅裡に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 妙行院権大僧正 梅 山 円 了

教授師 禅定院大僧正 藤 支 哲 道

十月自一日
至五日 法華大会広学豎義が総本山延暦寺根本中堂に於いて厳修された。

臨 監 勅使 旧上堂華族 清岡長吉

探 題 延暦寺 大僧正 玄 秀

探 題 正覚院 大僧正 周 湛

探 題 恵光院 大僧正 覚 誠

已 講 竹林院 権大僧正 長 田

擬 講 日光輪王寺門跡大僧正 栄 海

会行事真乘院 大僧都 玄 昭

十月十五日 山形教区吉祥院住職佐竹義亮は四十年間地方自治に尽した功績により藍綬褒章を受賞した。

十一月九日 天台座主大僧正中山玄秀猊下は午前一時三十五分遷化された。

第二百五十一世

探題大僧正 即真周湛 在山十一年

岐阜県大垣市東長一〇三九 沢 汀舟 四男

師主 延暦寺一山理性院 即真得湛

昭和三十四年十一月九日 任天台座主

十一月九日 本日直ちに探題大僧正即真周湛猊下が天台座主に就職され、同日延暦寺住職に就かれた。

十一月十日 金剛慈心院天台座主探題大僧正大々先達玄秀総一和尚の密葬儀が、滋賀院門跡に於いて、天台座主大僧正即真座主猊下御導師

の下一山住職出仕して執行された。

十一月自廿六日至廿八日

第十二回定期宗議会に於いて、天台宗史編纂の事が決められ、五十余万円の予算があてられた。その後編纂主任に勝野隆信、東大助教授が任命された。

十一月廿九日 金剛慈心院天台座主探題大僧正玄秀大和尚の御本葬の儀は、この日比叡山麓讚仏堂に於いて午前十一時から、新座主大僧正即真周湛猊下の御導師の下一山住職総出仕してしめやかに執行された。会葬者は、仏光寺、興正寺、鞍馬寺、四天王寺、大聖寺、聖観音宗、三井寺、石山寺、孝道教団等各本山代表を始め、宗内各門跡、教区長、宗会議員等宗内公職員、仏聯代表、谷口滋賀県知事、上原大津市長、学校関係代表、学界代表他各種団体代表及び一般参列者等で、凡そ千数百名に上った。

十二月十九日 延暦寺一山叡南覚誠は滋賀院門跡に任命された。
十二月廿四日 大僧正叡南覚誠は延暦寺執行に任命された。

昭和三十五年^{庚子}

一月十二日

故中山座主猥下の五七日の法要は、比叡山

麓滋賀院で午後四時から、即真座主猥下御導師の下一山を始め、宗務当局、近隣大寺住職等出仕して厳かに営まれた。

一月十三日 故中山座主猥下の納骨の儀が、比叡山麓慈眼堂の歴代座主墓地で執行された。

一月十六日 即真座主猥下の御拝堂式が行われた。この日猥下は、中山延暦寺副執行、福田幹事、北角財務部長を随えて、根本中堂、祖廟を始め三塔諸大堂の御拝堂を古式に則って行い、御上任の御報告を無事終了された。

一月十七日 延暦寺一山禪定院住職藤支哲道は叡山学院々長に任命された。

自二月廿三日
至三月十三日

藤原三代の平泉文化をしのぶ中尊寺秘宝展が、大阪心斎

橋大丸に於いて、中尊寺、朝日新聞社の共催、文化財保護委員会、奈良国立博物館、岩手県、延暦寺後援で開かれた。

三月一日 比叡山の大講堂再建の実現を目指して発足した延暦寺叡南内局は、その第一歩として、延暦寺一山自身の強化団結に踏み出し、先ず行政組織の根本的改革と、教学、財政の強化を断行する事を決定し、山上中心主義に転換する事に成り事務所を山上にあげた。

三月九日 近江八景「比良の暮雪」で有名な比良山を舞台にした比良修験道は、久しく絶えていたが、この程箱崎文応大行満によって復活される事になり、その復活結成報告祈願祭が、比叡山麓日吉大社に於いて、行者等多数集まり盛大に行われた。

三月十五日 ドライブ・ウェイの開通等もあって、比叡山を訪れる人数が最近急増したので、延暦寺一山協議会に於いて、諸堂塔の整備と山の尊嚴の護持運営の建前から、延暦寺国宝諸堂巡拝冥加料収納規定が定められ、この日から実施される事に成った。

三月廿七日 岡山教区本山寺（住職清田寂雲）で、本尊開帳大法要が、即真天台座主猊下の御親修の下、厳肅盛大に執行され、座主猊下のお授戒を受けた人も約百人を数えた。

四月三日 天台真盛宗本山西教寺では、かねて建築中であつた大本坊がこの程完工したので、その落成慶讃法要が桜花らんまんの此の日行われ、座主猊下は叡南副執行等随員と共に参列、その他各宗管長、谷口滋賀県知事、上原大津市長等も参列した。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度恒例御修法は延暦寺根本中堂に於いて、天台座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月廿六日 真盛宗総本山西教寺から、宗祖慈摂大師真盛上人の御木像が延暦寺へ奉献される事になり、御尊像奉安法要が行われた。この日午前十一時正装した木村管長をはじめ真盛宗寺院僧侶が隊列を整えて御尊像を奉持して、数百人の結衆の念仏奉唱の中、根本中堂に到り、中堂正面に安置し、木村管長導師によって常行三昧念仏回向法要が厳かに執行され、木村管長から御尊像奉納目録が天台座主に手渡された。

同日 比叡山浄土院侍真を二期(二十四年)勤めた延暦寺本行院住職権大

僧正太野垣善淨は、七十三才をもって遷化した。

四月廿七日 天台座主伝灯相承式が執行された。この日宿院玄関より

先先弘——会行事——伶人——式衆——布衣——護持僧——御相承譜（執行）——弟子——座主猊下

——弟子——布衣——草鞋——宗務総長——役員（二宗並延暦寺）——内司——法類近親者等

の行列を整えて根本中堂に到着、座主猊下は御宝前に進み登壇後、唄
匿、散華の間に、「八舌の鍵」「一字金輪塔相承譜」「舍利塔」を相伝し各
相承譜に署名して相承の儀式を終り、法楽御降壇の後参列者並びに宗
徒に対して御挨拶があり、宗会議長、延暦寺檀信徒代表、西教寺管長、
滋賀県知事、大津市長等の賀辞奉呈があつて相承の典儀が終了した。

第二百五十一世天台座主伝灯相承式次第

一番鐘 午前九時式衆集会所参集

二番鐘 同九時半式衆装束 此間参列者入場

三番鐘 同十時天台座主猊下並式衆入堂

先 式 衆 入 堂 （越天楽）

次 座主猊下御入堂登壇 （嘉祥楽）

次 唄 (長寿唄) (賀 殿)

此間御宝前にて相承の御儀式

次 散 華 (迦陵頻)

次 表 白

次 諷 誦 文

次 発 願

次 四 弘

次 開 經 偈

次 法 樂 (心 經)

次 後 唄

次 座 主 猊 下 降 壇 (胡 飲 酒)

次 座 主 猊 下 御 挨拶

次 賀 辞

次 宗 務 総 長 挨拶

次 座 主 猊 下 並びに式衆退場 (蘭 陵 王)

次 一 同 退 場

即眞座主猊下は左記の通り就任の御挨拶をされた。

お言葉

宗祖大師一乗の妙法を叡岳に弘め給うや親しく円宗弘教の聖勅を蒙り万里の波濤を凌いで大法を異朝に求め顕密の奥旨を伝えて濟世利民の主旨を定め給い以って化道を本邦に布き給えり、爾來隆替無きに非ずと雖列祖克く宗祖立教の本旨を繼承し宗基を恢弘し給いて今日に至る。

宗徒各員深くここに鑑み宗祖の遺訓に遵い列祖の軌範に則り各自戒行精進よく勸励して群迷を極い令法久住の法鼓を鳴さんことをこれ深く望む処なり、一乗沙門周湛茲に宗規に則り天台座主の職位に就き伝灯を相承し奉る。

惟うに老衲夙に宗祖瀉瓶の法水を汲み解行に専念すと雖尚未だ欠くる所多し唯々仏天の冥鑑と宗祖の照覧を仰ぎ且つは同法諸師の協力を得て以って此の大任を全うせんことを期す。

願くは我同法深く世情を達観し住持仏法利益国家接引群生の実をあげ奉ると共に、又己が本分を尽さむことを。

昭和三十五年四月廿七日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

四月廿八日 横浜の孝道教団では、先頃から建築中であつた仏舍利殿がこの程完成し、先に延暦寺から譲渡された仏舍利が奉安されたが此の度この舍利殿に根本中堂の不滅の法灯がともされる事になり、その分灯式が比叡山上根本中堂に於いて厳肅裡に行われ、白木の宝塔にうつされた法灯が即真座主猊下から岡野孝道教団統理の手に渡された。

五月三日 山陰教区安来市の古刹清水寺（住職中安実円）では、諸堂宇が損壊していたため安来市清水寺文化財保存会が修理を計画、先ず第一期工事として根本堂、仁王門、大門、毘沙門堂、本堂等の修繕工事を昭和三十一年から四年継続事業で行つて来たが、この程ようやく完成したので、その落慶法要が天台座主猊下御親修の下、山陰教区各寺院住職二十数人が出仕して行われ、稚児八十人、大井安来市長の他来賓

信徒数百人が参列随喜した。

五月十四日 延暦寺法灯護持会の発会式が書院で行われた。

五月十五日 この日読売テレビで、午前七時二十分から、即真天台座主猊下の法話、比叡山のお話が放送された。

五月十九日 天台寺門宗管長に当選した三井豊興大僧正の晋山式が三井寺山内勸学院で午前十一時から宗内外の名士百余人参列の下で行われた。

五月廿一日 京都山科の毘沙門堂門跡に於いて、現天台宗宗務総長山中忍海門主の晋山式が、午前十一時から行われ、天台座主始め宗内の各役員等百数十人が参列した。

五月廿二日 横浜の孝道教団で、仏舎利殿の竣工落慶大法要と、仏舎利殿入仏供養並びに「不滅の法灯」遷灯式が、各宗管長等の来賓及び全信徒の参列の中に厳修された。

この日午前九時半、岡野正道統理が、昭和二十七年八月に延暦寺から分譲された三国伝来の仏舎利を捧げて入堂し、後に続く玄尚若統理又、

去る四月廿八日根本中堂で承けた不滅の法灯を奉持して蓮華座塔の両側の灯籠に遷した。この後十時半から、即真天台座主猊下の大導師の下叡山式衆出仕して、平安朝の古式豊かな舍利讃嘆供養によって慶讃法要が執行された。

五月廿七日 天台座主猊下は、午前十一時半叡南副執行等を随えて、大阪府南河内郡太子町磯長にある叡福寺聖徳太子廟に参拝され、二百五十世天台座主上任の御報告を済まされた。この後猊下は随行と共に四天王寺にも参拝された。

六月一日 東叡山一山浦井亮玄は上野輪王寺門跡に任命された。

六月二日 京都市右京区山ノ内町内の、宗祖大師の御生母妙徳夫人の御出生の地と伝えられる場所は、現在も伝教大師史跡保存会の有志の手により守られ、嘗ては毎年八月十八日に叡山から参拝していたが、昨今途絶えたので。最近になって同町有志から往年の行事を復活させたい旨の申入れがあり、延暦寺では、伝教大師御入滅の日を迎えたこの日、福田法務部長等が同地へ出向き、保存会の人達と俱に懇な回向

を行なった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下厳肅裡に執行された。

七月三日 東京都上野の輪王寺門跡に就任した浦井亮玄門主の晋山式は、この日本堂で宗内外関係者約二百人が参列して盛大に行われ、延暦寺からも叡南副執行、武庶務部長が参列祝意を表した。

七月八日 この程完成した比叡山西塔方面の全長一、六〇〇米にわたる防災消火施設の竣工式が、午前十一時から釈迦堂に於いて、即真天台座主猊下御導師の下一山僧出仕して執行された。引続き一山僧侶や来賓の見守る中、延暦寺自警団員による放水式が行われた。

七月廿四日 午後零時二十五分、比叡山ドライブ・ウェー延暦寺駐車場東方五百米の三差路付近で、神戸市葺合区遺族会四十余人を乗せた全但バスが百五十米下の約七十度の傾斜をもつ西ノ谷に転落、二十九人が死亡、十七人が重傷を負うと云う、大惨事が起ったが、当時現場近くに居合せた延暦寺一山の関係者約五十人はいち早く救援の手をさ

しのべる等適切な処置をとり、犠牲者の冥福を祈った。

七月廿七日 比叡山自動車道株式会社では、ドライブ・ウェーを利用する自動車の交通安全と厄難消除を祈るため、昨年からは各旅客自動車、バス会社に呼びかけて根本中堂で祈願法要を行っていたが、今年も午前十一時から、天台座主猊下御親修の下一山僧出仕して、京阪神地区二十四社から各代表が参列して、交通安全祈願法要を執行した。

八月十六日 去る七月廿四日比叡山ドライブウェーで起ったバス転落事故の遭難者二十九人の霊をとむらう慰霊法要は、盂蘭盆のこの日比叡山阿弥陀堂に於いて、天台座主猊下の御導師で一山僧侶三十人が出仕して、遺族等参拝者の列席の中で執り行われた。この後一行は、ドライブウェー転落現場に赴き、遭難者の冥福を祈った。

八月^{自廿一日}_{至廿五日} 延暦寺一山総持坊住職権大僧正中山玄雄は戸津説法を勤仕した。

八月廿四日 日本仏教に於ける教学の根本道場とも云うべき比叡山延暦寺の使命に鑑み、この聖域を護持し乍ら今後の運営の根本方策を確

立し、国家有用の人材を育成すると共に、不滅の法灯を顕揚するため真俗一体の「延暦寺奉讃会」が結成される事になり、この日山上書院で即真座主猊下御臨席の下に、特別法縁者懇談会が開かれ、各有力方面の協賛を仰ぐことになった。

奉讃会結成発願

平安朝の昔伝教大師が、後の仏の御代迄も光り伝えよと点ぜられた叡山の法の灯火は、世々のひじりたちによって護られ、我国精神文化の上に不滅の光明を輝かせて来ましたことは、今更申す迄もありません。

開宗このかた日々護国の経文を講転して、国家の紹隆を祈り只管民衆の利福を念願し、国宝的人材をば育成せんとの祖師の御本意は、そのまま今日の叡山の願いであります。

遮莫昏迷のさ中にある世界の現状にかんがみて、叡山に課せられた要望と使命は、大なるものがございます。

この叡山今後の教学、信仰、経済、整備等真俗両面に渉る運営対策

につき、百年の規範となるべく恒久の指標をたまわり、限りなき慈護を仰ぐべく、茲に延暦寺奉讃会を結成致し度く、就きましては何卒尊台に發起人としての御高護を賜わります様伏して懇願申し上る次第でございます。

昭和三十五年八月吉祥日

比叡山延暦寺 即 真 周 湛

十月一日 香川県長尾町長尾寺（住職木村俊海）に於いては、本堂、大師堂、庫裡等の大修理が完成したので、その落慶法要が、天台座主猊下の御親修の下、宗務庁吉田録事、延暦寺学問所長山田大僧正、武総務部長、教区寺院五十人の僧が出仕して、多数の参列者の中、盛大厳肅に執行された。

十月^{自九}_{至十}日 滋賀教区安土町東南寺に於いて、蒲北部主催による円頓戒が、座主猊下御親修の下、約三百人の檀信徒を集めて盛大に行われた。十月十日 京都御所へ土足参内し、玉体安穩の御加持を天皇陛下に捧げる玉体加持が、今年廻峯行一千日を満行した延暦寺一山玉照院木村

覺照阿闍梨によって勤められた。

十月十九日 大阪中之島中央公会堂に於いて午後一時から、親鸞聖人を讃仰する会が西本願寺の主催によって、千人の聴衆を集めて開かれたが、即真座主猊下もこれに御出席、「叡山と親鸞聖人」と云う演題のもとに約四十分になたって講演され多大の感銘を与えた。この外西本願寺大谷光照門主、真言宗大原智乗管長、智恩院岸信宏門主、南禅寺柴山全慶管長の講演も行われた。

十一月九日 第二百五十世天台座主中山大僧正の一週忌法要が、比叡山阿弥陀堂に於いて即真座主猊下の御導師の下、延暦寺一山住職出仕して営まれた。

十一月十四日 日本大乘仏教発祥の靈地としての比叡山の一千百年にわたる不滅の法灯を護持し、仏教教学、堂宇の復興、経済、観光面等、比叡山の各方面に於ける態勢を整備拡充し、仏教を通じて国民一般生活の向上発展に資し、新しい時代の比叡山へ前進するために組織された延暦寺奉讃会（仮称）の名称を、比叡山延暦寺法灯護持会と正式に決

定し、その發起人会がこの日午後三時東京寛永寺本坊で、又廿四日午後三時大阪四天王寺で夫々開かれ、明年四月の正式発足を目ざして、関東、関西、中部地区の世話人を中心にその準備が進められる事に成った。發起人には各界の有力者が参加し、明日の比叡山に力強い後援が期待されることになった。

昭和三十六年^{辛丑}一月一日 座主猊下から、新年に当っての御挨拶が次の通りあった。

戦後国民道徳は廃退し殊に昨今は自由思想の履きちがえから、ややもすれば人としての常道を逸脱し、血腥き事件や、悪質の犯罪記事は日々、各新聞雑誌の紙面を賑わし、目を覆い心を寒からしめるものがあります。そうして又一方には新興宗教が各地に声を高くして叫び出され、一般人はその善悪邪正にも迷う次第でありますから、こういう時こそ吾が宗団人は、破邪顕正の声を大きくし僧俗一致となつて一層宗意の顕揚に精進し、祖風の発揮へ邁進して、文化の伸

張と社会平和獲得のために少しでもより多く貢献することが、我が宗祖大師への御報恩の誠を尽すものという事になると信ずるものがあります。

大師の御言葉にも「解脱の味独り飲まず、安楽の果独り証せず」とも仰せられ、また「志を同じうする者道を守り道を修し、相思い相待て」とも仰せられた金言は繰り返し拝誦して、躰解していただきたいのであります。

猶先年焼失致しました大講堂再建の着工が未だ其の運びに到らない事は、何としても宗祖大師に申訳の無い事であって、此の「天講堂こそは今日も猶、厳肅な勅会の行わるる大堂で、高祖天台大師及び宗祖根本伝教大師の御報恩のため法華十講の講筵が行われ、且つこの御法会中に於いてのみ、天台最極の法灯は古探題より新探題に以心伝心によって相伝授受せられ、我が天台の法灯は赫々連綿として今日迄厳かに伝承せられたのでありますから是非共挙宗一致で一日

も早く其の着工の事のみ、日夜念願して止まない次第であります。皆さんも幸に老衲が微衷を了せられん事を敢て新年に當って冀う次第であります。

一月^{自十五}至十五日 「日光文化史展」が、大阪心斎橋大丸で、読売新聞と日光輪王寺の主催、文化財保護委員会、日光東照宮、日光二荒山神社の後援、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、比叡山延暦寺、四天王寺、栃木県、日光市、東武鉄道の協賛によって開催された。

一月廿一日 大阪貝塚市水間寺に於いて、兼住を発令された今春聴新住職の晋山式が挙行され、来賓として即真天台座主猊下始め、山中宗務総長、叡南延暦寺執行、福家園城寺長吏、三崎妙法院門跡、宗務庁と延暦寺の各部長、衆議院議員三木武夫氏、橋本貝塚市長、他財界、政界、文化界の諸名士千余名、並びに一般参詣者等数千人が参列した。三月十二日 去る昭和三十一年十月延暦寺大講堂焼失以来、過去五ヶ年間に亘りその再建に就いて、大講堂復興評議会や天台宗宗議会等

に於いて論議計画されて来たが、昨年の宗議会繼續審議会に於いて、「大講堂再建については延暦寺が主体と成って推進されたい」と云う決議が為され、これ迄の計画を根本的に改めざるを得なくなり、三月廿六日の宗会で大堂復興事務局規定が宗令をもって発令されることになり、延暦寺では三月十二日の一山會議の決定に基づき、山麓に在る讚仏堂を解体移築して再建を実現するため、技術専門家に委嘱して調査に着手することに成った。

三月自十三日至十七日 京都の名刹東山の三十三間堂では二十一年にわたる東大門及廻廊の新築、境内の整備等全般に及ぶ昭和の大修理がこの程完成し、その落慶大法要が天台座主猊下、三崎妙法院門跡の導師で嚴修された。法要は、法華千部会に始まり、中日は三崎門主導師による百僧供養の千手觀音曼供法要、十六日は座主猊下御導師による後白河法皇七百五十年聖忌法要（光明供錫杖）、並びに奉讃会々長五島慶太氏を始めとする大修理関係物故者の追悼法要が行われ、十七日の大般若会をもってこの慶讚大法要の幕を閉じた。

三月十五日 大阪四天王寺の復興再建事業は着々と進み、昨年の五重塔に引続き金堂の再建が見事に完成、この日奉賛会総裁高松宮殿下を招いてその竣工慶讃法要が行われ、延暦寺からも出仕僧十名が参列した。

四月一日 一週間にわたる長野県御視察旅行中の皇太子御夫妻は、午前十一時頃、御開帳で賑わう善光寺へ御成りになり、善光寺大勸進住職都筑大僧正の案内で本堂各所を御参拝になった。七年毎に行われる長野市善光寺の御開帳大法要は、この日幕をあけ、五十一日間行われ、集まる全国信徒のために毎日盛大な法要を営む事に成った。

四月二日 東京目黒滝泉寺仁王門新築落慶法要が行われた。

四月自十四至十一日 本年度御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下を始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月自十五至十六日 和歌山県松見寺に於いて、十五日円頓授戒が即真天台座主猊下の御臨席を仰いで盛大に行われた。十六日、戒弟百二十名に

剃度度牒授与、授戒灌頂血脈授与等厳肅に執り行われた。

四月十八日 九州西教区大宰府の觀世音寺では、本堂と宝蔵の造営を手がけていたが、この程完成したので、即真座主猊下の御臨席を得て落慶供養大法要が営まれた。

四月廿五日 讚仏堂を解体し大講堂として移築する事に決定した延暦寺では、この日午前九時から即真座主猊下の御導師で讚仏堂解体本尊遷座法要を営んだが、来賓は谷口滋賀県知事、村田大講堂再建建築顧問等であった。解体工事は、各関係当局の許可があり次第着工されるが、是と同時に山上大講堂跡の発掘調査も進められることになった。

五月二日 日光輪王寺の本堂である三仏堂の解体修理工事は、総工費一億五千万円で、七ヶ年の歳月をかけて、この程ようやく完了したので、この日恒例の強飯式に続いて三仏の入仏落慶供養が盛大に厳修された。

五月十日 戦時中日本で殉難した中国人六千七百五十三人の名簿を中国へ持って行く奉仕団の一人として、東京都台東区永住町華蔵院壬生

照順住職が天台宗務庁から特使として任命され、天台山国清寺を訪問する事になり、同師を通じて即真座主からの「日中は再び戦わずとの誓を新たにします。云々」のメッセージと延暦寺からの伝教大師御絵伝が贈られる事になった。

同日 京都の真如堂に於いては、竹内大僧正の逝去に伴う後任住職に、同山の中川真暢僧正を推薦、第四十九世貫首としての晋山式を、午前十一時から本堂に於いて行った。

五月十四日 比叡山法灯護持会の発会をかねた第一回総会は、延暦寺書院に於いて午前十時から、各發起人の出席を得て開かれ、ここに全国各界有力者による真俗一体の推進態勢が確立したのであるが、この会に於いて、即真座主を総裁に戴き、会長に杉道助氏、副会長には足立正氏、石川芳次郎氏、佐々部晩穂氏、その他幹事等が任命された。

五月廿四日 比叡山横川飯室谷の堂宇に電灯がつけられ、これで全山に電気が行き届いた。不動堂で行われた点灯式には延暦寺一山の総出仕をみ、信者約二百人がつめかける中、点灯のスイッチが入れられ

た。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて長講会が例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

六月五日 讚仏堂を滋賀県の文化財に指定するための調査がこの日現地で行われた。県文化財専門委員会の委員横山教育長、田中社会教育課長、小牧滋賀大学長等数人の委員が、服部文化財係長、現場主任金子技師等の案内で解体中の讚仏堂を視察、同日県の文化財に指定する事に決まった。

六月十四日 去る三月の天台宗定期宗会で、教学財団の設立等重要案件が宗制特別委員会に付託されたので、その第一回の特別委員会が、この日午前十時から宗務庁で開かれた。教学財団は宗内外から一億円を募集して財団を設立、天台教学の振興を図るものである。

八月十五日 比叡山延暦寺に於いて、座主猊下御導師の下、雲井昭善大谷大学教授と福井文雅大正大学講師の渡欧安全祈願法要が行われた。

八月十六日 第二室戸台風（台風第十八号）は午後最悪のコースをたどり大阪付近に上陸、滋賀県を通り湖国に鋭い爪跡を残して北陸方面へ去ったが、台風圏内が広いので各地の被害は大きく、被害の一宗末寺も相当多かった。比叡山もこの日約三時間、風速五十米の烈風にさらされ、延暦寺は昭和二十八年の十三号台風以来の大被害をうけた。その中には重要文化財等の山上諸堂もあるが、山麓の里坊も殆んど全部被害をうけ、比叡山の立木も約一万石が倒れた。

八月自廿一日至廿五日 滋賀教区西明寺住職権大僧正北角良澄は戸津説法を勤仕した。

九月十三日 比叡山西塔黒谷青龍寺（住職喜里山光観）に於いて、同寺慈恵大師開基一千年と法然上人七百五十年御忌法要が即真天台座主猊下御親修の下、一山僧出仕して、約二百人の参詣人と智恩院からの参列者の念仏の下で、厳かに弥陀曼供によって執り行われた。

十月六日 北嶺回峰千日大行満龍珠院住職小林栄茂阿闍梨は、この日

午前十時、即真天台座主猊下を始め延暦寺僧、信者と俱に古儀の行列を組んで、京都御所に参上し、石川所長の案内で小御所に土足参内して、玉体加持の秘法を奉修した。

十月自七
至八日

岐阜県山形郡高富町西深瀬慈明院（住職福生信善）では、新

しく鉄筋で本堂が復興されたので、秋晴れのこの日天台座主猊下を迎えてその落慶法要が盛大に行われた。この式典には、梅山延暦寺副執行等が随行、二日間に亘って落慶法要と共に円頓戒授戒会を厳修、三百五十人の戒弟に血脈を授けた。

十月十五日 日本野鳥の会の会長中西悟堂（天台宗権僧正、東京都在住）は、長年の野鳥の研究保護に尽した功によって藍綬褒章を授与された。

十一月二日 陸奥教区東北大本山中尊寺本堂屋根銅板葺大修復完成慶讃法要が厳修された。

十一月五日 石川県金沢市医王山寺（住職井上行照）では、根本道場の建築が完成し、又阿弥陀堂の移築も完了したので、それらの落慶遷座法要が午前十一時から、即真天台座主猊下の御親修を仰ぎ、三浦善光寺

大勸進副住職、叡南延暦寺副執行等その外北陸教区各寺院住職が列席して行われた。

十一月九日 故天台座主中山玄秀大僧正の三回忌追悼回向法要は、比叡山上阿弥陀堂に於いて、即真天台座主猗下を始め、延暦寺一山僧侶、天台宗務庁員等が参集して厳修された。

十二月八日 大講堂再建地鎮祭が、座主猗下御導師のもと一山僧侶の出仕にて執行された。

十二月十四日 アルゼンチン大統領訪日に当り日本仏教代表者十七名中の一人として座主猗下は御東上、目黒迎賓館で該大統領と接見された。

昭和三十七年^{壬寅}二月十三日 第二百四十七世天台座主梅谷孝永大僧正の十七回忌法要が、京都妙法院に於いて、即真座主猗下の大導師によって厳修された。

三月^{自十三日} 天台宗第十四回定期宗議会は、比叡山麓滋賀院で天台座主即真周湛大僧正猗下御臨席の下開会式を行い次のお言葉を頂い

た。

御言葉

本日茲に第十四回宗議会が開会せられるに当り議員各位には寺務多端の砌り遠路参集せられ御苦勞に存じます。

各位には一宗の選良として日夜その職分に精勵せられ、宗運の發展に尽されつつあることは洵に感謝に堪えません。

今や宗徒各位の絶大なる配慮により大講堂再建の工事も進められ、教学財団基金勸募も亦着々その成果を挙げつつあることは私の欣幸とするところであります。更に又慈覚大師一千百年の御遠忌を近く明春に迎えんとするのであります。この秋に際し宗徒たる者は宜しく宗祖大師開宗の大義に徹し、先徳の偉業をしのび愈々報恩の至誠を捧げ、宗学の振興と宗議の布衍に精進を重ね、相依り相扶け、社会福祉の増進と世界平和に貢献せられんことを懇望してやみません。茲に宗務当局はこれ等の意を体し緊要の案件を提出されたと聞く、各位宜しく慎重審議宗団の要望に応え以って祖恩に報ぜられんこと

を。

昭和三十七年三月十日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

四月^{自十四}至十一日 本年度恒例御修法は総本山延暦寺根本中堂に於いて、

座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、熾盛光法を嚴修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十一日 延暦寺に於いて故鳥井信治郎氏の追薦回向法要が座主猊下御導師の下一山僧出仕して執行された。

四月十四日 兵庫教区第五部正福寺の本尊開扉法要と梵鐘再鑄の記念法要の御親教に、この日から三日間座主猊下が御臨席された。

四月廿五日 再建工事中の比叡山延暦寺大講堂の上棟式が午前十一時から即真座主猊下の御導師で嚴かに行われた。

四月廿九日 兵庫教区第一部善光寺の御親教に猊下は随員を滞同して赴かれた。

五月廿日 午後一時から孝道山仏舍利奉安十週年記念法要（舍利讃嘆

供養之攸」が、座主猊下御導師の下十口出仕して行われた。

五月廿五日 去る三十一年秋焼失した比叡山延暦寺の大講堂に安置されていた法然上人像の代りの御像が、智恩院から延暦寺へ贈られる事に成り、その奉獻大法要が岸門主御導師の下智恩院式衆によって盛大に営まれ、御尊像奉獻の目録が岸門主から即真座主に手渡された。因みに、三十三年日蓮上人像、三十五年真盛上人像の奉納に次いで、今回は第三番目の奉納式であった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下厳肅に執行された。

六月十一日 岡山県津山市大円寺住職清田寂坦は宗務総長に選ばれ、天台座主猊下から任命された。

六月廿四日 函館市春日町天祐寺（住職山口智雄）では、北辺の布教伝導の効果を一層大ならしめるため鉄筋による新しい様式の「本堂」を建てていたが、この程ようやくその内容外観の整備がととのったので、その落慶法要が午後一時から、即真天台座主猊下御親修の下道内天台宗寺

院住職等が列席して営まれた。

八月自廿一日
至廿五日

延暦寺一山仏乗院住職大僧正三浦義薫は戸津説法を勤

仕した。

九月自廿四日
至廿九日

文部省文化財保護委員会の「比叡山総合調査」は、比

叡山の秘宝に解明のメスを加えるため三年計画で実施される事になり、その第一次現地調査がこの期間、文部省文化財松下隆章美術工芸課長等十五氏によって、東塔根本中堂を始め西塔横川等全山にわたって行われた。

十月八日 比叡山の麓旧讃仏堂横に在った鐘楼が山上阿弥陀堂前に移築されたが、之にふさわしい新しい梵鐘が栃木教区から延暦寺へ奉納されることになった。

同日 北嶺大行満建立院少僧都宮本一乗阿闍梨は、千日を満行したので、此の日京都御所へ参内し、旧儀に則り玉体加持を奉修した。

十月十二日 東京都文京区駒込林町にある駒込学園では、今年が学校法人設立十周年に当るので、その記念式典が午後二時から、学園総裁

即真座主猊下を迎えて執行された。

同日 ニューヨーク市で日米仏教会議と世界六大宗教会議が行われ、本宗からは日光輪王寺門跡大僧正菅原栄海が日本側代表団の一人として参加した。

十月十九日 比叡山高等学校の講堂が完成したので午前十時からその落成式が座主猊下他六口出仕して挙行された。

十月廿八日 聖観音宗（浅草寺）、和宗（四天王寺）、大峯修験宗（金峰山寺）等関係宗派で結成している大乘連盟協議会が、比叡山上書院に於いて開かれた。

十月自廿九日至卅一日 天台宗教学大会と中央布教講習会が三日間の日程で、比叡山上宿院に於いて開かれ、慈覚大師中心の研究発表や布教講習が行われた。

十一月自三日至四日 比叡山の回峯行創始者である建立大師相応和尚の一千百年御遠忌大法要が、この両日比叡山東塔無動寺谷明王堂に於いて行われた。

十一月五日 氣仙沼市観音寺（住職鮎貝真観）では、開基慈覚大師の讃仰大法要を即真天台座主猊下御親修の下、菌中尊寺貫主、陸奥教区内寺院住職列席して、約二千人の檀信徒が随喜する中で厳修された。

十一月^{自十一}_{至十一}日 京都市東山青蓮院門跡（住職東伏見慈治）では、東伏見門跡の母君久邇侂子さんと姪君東久邇成子（照宮）さんの御忌法要を行った。

十一月廿三日 群馬県泉蔵寺（住職桑原興教）では、多宝塔式の鉄筋コンクリート納骨堂が完成したので、即真座主猊下を大導師に仰ぎ、東伏見青蓮院門跡、都筑善光寺大勸進を副導師として、その落慶法要と、慈覚大師千百年遠忌讃仰法要とを営んだ。

十一月廿五日 群馬教区主催の御親教大法要が午前、午後の二回にわたって渋川市真光寺に於いて行われた。行列準備会場の遍照寺より御親教会場の真光寺まで大行列を組んで入場、猊下には先ず本堂前の塔婆開眼を修されて本堂に御入堂、慈覚大師千百年の御遠忌法要として法華懺法を奉修された。大法要に相い会する檀信徒等の数は約二千名

であつた。

十二月一日 来春四月に大講堂落慶供養並びに慈覚大師一千百年遠忌大法要が行われるに當つて次の諭示が座主猊下から発せられた。

諭 示

恩徳報謝の至誠を運ぶことは正法興隆の要道、末葉繁榮の肝心積善福恵の第一義であります。我が宗第四祖慈覚大師は夙に宗祖伝教大師の真精神を継承して天台仏教を円成せられた宗門の大聖祖であります。

大師は山に在つては籠山の制に服して、祖意を体得し、地方に巡化しては経を講じて衆庶の心蓮を開き、開拓授産文化を進めて民衆の生活を温め、詔を拝しては、捨身の苦難を重ねて唐土に仏法の秘奥を求め、天台座主に任ぜられては三朝帝の師となつて大戒を王公貴顕に伝授するなど祖意を発揚すると共に、真諦門に於いても蘇悉地の法を伝承して真言密教を完成し法華総持院に闍梨を定置して顕密一致を具現し、引声念仏を伝えて浄土の門を開き顕揚大戒論を著し

て菩薩の大戒が僧尼に平等なるべきを示し、悉曇の典籍を移入して大乘教の根拠を開明し、声明を伝えて法儀を莊嚴し、懺摩の法を立てて止観の行を薦めるなど仏教発展の要素を残るところなく完備せられました。ただに仏教のみならず日本文化今日の発展に至る元本を築かれたことは仏教徒はもとより全国民が斉しく感謝せなければならぬ鴻業であります。

明年大師の一千百年の祥忌を迎えるに当り祖山に於いては陽春を期して大法要を嚴修せんとする際地方に於いてもよろしく寺檀一致一乗和合の精神に則り大師の高徳を敬仰感謝して報恩謝徳の法要を修し伝道布教に専念して社会の善導に努め以って宗徒としての本分を全うせられんことを切望するものであります。

昭和三十七年十二月一日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

十二月八日 福島県田村町金剛寺（住職伊東寂泉）では、昭和二十年の戦災で本堂が焼失し、その後再建に努力して、この程完成したので、そ

の落慶供養が、即真座主猊下の御親修を仰いで、福島教区第二部住職一同出仕して、法華三昧によって嚴そかに修せられた。

十二月十日 座主猊下は再建される比叡山大講堂前に石灯籠一基を御寄進されたが、左記六師も浄土院前の参道に石灯籠一対づつをそれぞれ奉献された。奉献者は、日光輪王寺菅原栄海門主、京都妙法院三崎良泉門主、比叡山滋賀院叡南覚誠門主、上野輪王寺浦井亮玄門主、京都三千院水谷教章門主、信州善光寺大勧進都筑玄妙大僧正である。

十二月十八日 擬講大僧正菅原栄海は已講に補任された。

昭和三十八年^{癸卯}一月十日 望擬講大僧正塩入亮忠は擬講に補任された。

一月十三日 比叡山上阿弥陀堂に於いて、午前十時半から、慈覚大師壹千百年御遠忌逮夜法要（常行三昧之修）が、座主猊下大導師の下一山総出仕で嚴修された。

一月十四日 比叡山阿弥陀堂に於いて、午前十時半から、慈覚大師壹千百年御遠忌御祥当法要（法華三昧之修）が、座主猊下大導師の下一山総出仕して嚴肅に執行された。

三月十八日 比叡山大講堂に於いて、名古屋市大黒寺大沢円覚住職から奉納された宗祖大師尊像の開眼法要が営まれた。

同日 姫路市書写山円教寺に於いて、兵庫教区主催の慈覚大師一千百年御祥忌慶讃法要が、天台座主猊下御親修の下盛大に厳修された。

三月廿三日 比叡山上阿弥陀堂鐘台に於いて、午前十一時から鐘台落成並びに梵鐘供養法要が、座主猊下御導師の下一山僧出仕して盛大に行われ、菅原日光輪王寺門跡、清田宗務総長が参列した。因みに、この梵鐘は日光輪王寺から延暦寺阿弥陀堂へ寄進されたものである。

三月廿五日 比叡山上大講堂に於いて午後二時から、智証大師御尊像奉安法要が寺門宗長吏御導師の下厳修され、この後奉納授受の式が行われ、天台座主から寺門宗長吏へ御受書が手渡され、寺門宗長吏から天台座主へ奉納書が渡された。

四月一日 比叡山大講堂に於いて午後一時から栄西禅師の御木像の奉安式が、建仁寺派竹田益州管長御導師の下で行われ、同管長と即真天

台座主との間に奉納目録授受の式が行われた。

四月自十四日至十一日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主

猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、七仏薬師法を厳修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十二日 比叡山大講堂に於いて、曹洞宗から奉納された道元禪師尊像の奉安式が厳修された。

自四月十九日至五月十二日 総本山比叡山延暦寺に於いて慈覚大師千百年御遠忌並大講堂落成慶讃大法要が厳修された。

大法会の導師は座主猊下を始め門跡、各宗管長の勤仕で各特有の法要を営み、日々盛んに法楽を捧げた。

法要目次は左の如くである。

四月十九日朝座 大講堂落成慶讃四箇法要附今様歌舞樂奉納於大講堂

四月廿日朝座 御本尊法楽胎藏界曼荼羅供養会 於大講堂

同 日夕座 和宗大本山四天王寺慶讃法要附舞樂奉納 於大講堂

四月廿一日朝座 慈覚大師御影供法要附献茶式 於大講堂

同 日夕座 吉野大峯修驗宗大本山金峯山寺慶讚法要

於大講堂庭前

四月廿二日朝座 慈覺大師舍利讚歎供養會

於大講堂

同 日夕座 天台寺門宗總本山園城寺慶讚法要

於大講堂

四月廿三日朝座 天台真盛宗總本山西教寺慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 叡山講々員物故者總回向法要附全國詠歌奉詠大会

於大講堂

四月廿四日朝座 鎮護國家祈願大般若轉読會法要

於根本中堂

同 日午前 聖觀音宗大本山淺草寺慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 淨土真宗大谷派本願寺慶讚法要

於大講堂

四月廿五日朝座 曹洞宗慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 各宗祖師報恩會光明供都錫杖法要

於大講堂

四月廿六日朝座 孝道教団慶讚法要

於大講堂

同 日夕座 山家大師報恩會講經論義

於大講堂

四月廿七日朝座	本宗檀信徒諸願成就祈願藥師秘密供	於根本中堂
同 日午前	淨土宗慶讚法要	於大講堂
同 日夕座	日蓮宗慶讚法要	於大講堂
四月廿八日朝座	世界平和鎮国安泰祈願藥師護摩供	於根本中堂
同 日午前	淨土真宗本願寺派本願寺慶讚法要	於大講堂
同 日夕座	天台修驗道世界平和祈願採灯護摩供	於大講堂庭前
四月廿九日朝座	本宗檀信徒各家祠堂総回向法要	於大講堂
同 日夕座	臨濟宗大本山建仁寺慶讚法要	於大講堂
四月卅日朝座	前唐院御講密教論義	於大講堂
五月一日夕座	万国英靈追悼回向法要	於大講堂
五月三日朝座	宗祖伝教大師御影供法要附献茶式「裏千家家元宗匠」	於大講堂
五月五日夕座	北領修驗回峯行者報恩供養法要	於大講堂
五月七日朝座	妙見宗大本山本滝寺慶讚法要	於大講堂
五月十二日朝座	桓武天皇御講声明饌法附献茶式「表千家家元宗匠」	

於大講堂

この他 玄清法流琵琶法儀奉納

於大講堂

四月廿一日 慈覚大師千百年御遠忌法要執行中の比叡山延暦寺に、ライシャワー駐日米国大使夫妻及びパワース公使夫妻が訪れ、大講堂で厳修された慈覚大師御影供に参列し、午後西塔方面諸堂を訪れた。

四月廿六日 新大講堂に於いて、孝道教団による大講堂落慶、慈覚大師一千百年御遠忌法要が、岡野統理の導師の下、信徒五百余名の参加随喜の裡、莊嚴に行われたが、この後、孝道教団から延暦寺へ奉納される聖徳太子御木像の目録の贈呈の儀が行われた。

五月一日 陸奥教区主催慈覚大師千百年御遠忌報恩法要に座主猊下が御親教された。この日午前十時中尊寺本堂で法華三昧を、午後毛越寺本堂で法華三昧を夫々奉修し、翌二日午前九時より中尊寺金色堂解体修理遷座法要を御親修された。

五月四日 茨城教区主催慈覚大師千百年御遠忌報恩法要が岩瀬町羽黒月山寺において天台座主代理山田恵諦大僧正の御導師で行われた。

五月自廿六日至廿七日

比叡山無動寺弁天堂に於いて、御本尊奉祀千百年記念法要が、天台座主猊下御親修の下五十人の僧が出仕して盛大に厳修された。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下嚴肅裡に執行された。

六月五日 別請広学堅義は山上大講堂に於いて、午後二時から六日午前五時迄の間厳修された。

業 弥陀報応 副 八教摂不

探 題 滋賀院門跡 大僧正 叡 南 覚 誠

堅 者 南光坊住職 大僧正 塩 入 亮 忠

一の問 恵日院 大僧正 菅 原 栄 海

二の問 松禅院 大僧正 山 田 恵 諦

三の問 禅定院 大僧正 藤 支 哲 道

六月六日 已講大僧正菅原栄海は探題に補任された。

擬講大僧正塩入亮忠は已講に補任された。

六月十九日 上野寛永寺一山本覚院大僧正大照晃道は上野輪王寺門跡に任命された。

六月廿三日 叡山学院に於いて午前十時から叡山学会の研究発表会が行われた。

六月廿七日 延暦寺一山大僧正叡南祖賢は延暦寺執行に任命された。

七月一日 権大僧正平了照、権大僧正勝野隆信、権大僧正関口慈光は各々勸学に任命された。

七月廿二日 延暦寺一山禪定院住職大僧正藤支哲道は滋賀院門跡に任命された。

八月自一至六日 天台宗教学部主催の第一回ボーイスカウト指導者講習会並びに研修会が、比叡山麓滋賀院門跡に於いて開催された。

八月自廿一至廿五日 善光寺大勸進大僧正都筑玄妙は戸津説法を勤仕した。

八月卅日 全日本仏教会が招待した中華民国仏教訪問団（団長白聖大師）の一行八名は、比叡山に登山参拝し、山上書院に一泊し、翌日下山した。

九月一日 明德院住職中山玄雄は叡山学院々長に任命された。

権大僧正葉上照澄は比叡山行院々長に任命された。

九月十日 望擬講大僧正山田恵諦は擬講に補任された。

同日 大照晃道大僧正の輪王寺門跡兼寛永寺住職晋山式が行われた。

九月自十二日至十三日 兵庫教区御嶽山清水寺で座主猊下御親修の下で円頓授

戒会が行われた。

九月自廿九日至卅日 比叡山延暦寺戒坦院に於いて大乘円頓授戒会が厳肅裡

に行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 妙行院大僧正 梅山円了

教授師 止観院大僧正 叡南祖賢

十月自一日至五日 この五日間法華大会広学暨義が行われた。

臨監 勅使旧堂上華族 清岡長言

探題 天台座主大僧正 即真周湛

同 恵光院大僧正 叡南覚誠

同 日光輪王寺門跡大僧正菅原榮海

已 講 喜多院大僧正 塩入亮忠

擬 講 恵心院大僧正 山田恵諦

会行事 星光院大僧都 小堀光詮

十月^{自八}_{至九}日 岡山県鴨方町明王院に於いて、三千人の宗徒を集め盛大

な御親教法要が催された。八日は、午前十時から慈覚大師千百年御遠

忌法要が厳修され、九日は、午前十時から全国戦歿英霊追悼法要が営

まれ、十日は、午前十時から檀信徒先祖供養会が執行された。三日間

とも、午後一時から円頓授菩薩戒会が親修された。猊下には森定延暦

寺庶務部長、山田延暦寺学問所長等が随行した。

十月十三日 京都市左京区浄土寺真如町真正極楽寺に於いて、座主猊

下御親修の授戒会の典儀が、午前八時半から午後四時迄続けられ、五

百人の戒弟に「おかみそり」が授けられた。出仕者は、赤松天台宗庶

務部長、武延暦寺部長、三崎妙法院門主、山口曼殊院門主等であった。

十月廿日 横浜市港北区日吉本町金蔵寺に於いて、座主猊下御親修の

円頓菩薩戒会が執行され、千人以上の戒弟に「おかみそり」が授けられた。猊下には、葉上延暦寺副執行、井深大堂復興局係長が随行した。十一月九日 栃木県下都賀郡壬生町壬生寺に於いて座主猊下御親修の大法要が営まれた。午前十二時、オープンカーの猊下は、詠歌講、武者行列、稚児等の先頭で宿舎から壬生寺本堂に入られ、教区内寺院住職の出仕による慈覚大師千百年御遠忌大法要を御親修、この後戒弟八百名に「おかみそり」を御授けになった。猊下には葉上延暦寺副執行等が随行した。

十一月十日 日光輪王寺で御一泊された座主猊下は、栃木県下都賀郡岩舟町大字小野寺大慈寺に御参拝、延暦寺から当寺に奉納される御戸張の目録を加藤住職に手渡された。この後、伝教大師六所宝塔の一である現存相輪様に懇ろな法楽を捧げられた。

十一月^{自十三日}_{至十五日} 日光山輪王寺の三仏堂の修理は、去る昭和二十九年三月から始められ三十六年三月に完成されたが、その落慶法要がこの期間盛大裡に行われた。第一日は、日光三社合行供が菅原門主御導師

の下日光一山総出仕によって嚴修された。参列の来賓は、文部省文化財保護委員長河原春作氏、栃木県知事横川信夫氏、日光市長佐々木耕郎氏等であった。第二日は、慈覺大師千百年御遠忌大法要が営まれ、天台座主代理滋賀院門跡藤支哲道大僧正が参列して祝辭を述べられた。その他随喜焼香の来賓は、清田宗務総長、清水谷浅草寺貫主、三崎妙法院門主、塩入喜多院貫主、大照上野輪王寺門主、若水栃木教区長、叡南延暦寺執行等であった。第三日は、檀信徒所願成就のための大護摩供大般若転読会が奉修され、多数の随喜者があった。

十一月十四日 大津市文化財専門委員会（会長景山春樹）は、比叡山横川の慈惠大師御廟等を対象にした文化財調査を行った。

十二月十日 比叡山上の新大講堂に於いて、新大講堂落慶大法要終了報告式、並びに御本尊、脇侍及び各宗祖師御尊像奉安報告法要が、午前十時半から営まれた。本尊は京都の大仏師松久朋琳氏によって刻まれ、去る九月廿六日奉安され開眼供養されたが、脇侍の観音、弥勒の

二尊像も十月五日聖観音宗浅草寺と和宗四天王寺からそれぞれ奉安された。

十二月十一日 比叡山延暦寺、上野東叡山輪王寺、日光山輪王寺の三山で組織する三山会議が、上野輪王寺で午後二時から開かれた。この日、延暦寺叡南執行、中山、梅山、叡南三副執行、日光輪王寺菅原門跡、荻原執事長、上野輪王寺浦井門跡、杉谷執事長等が集まり約三時間_間にわたって懇談した。

昭和三十九年_{甲辰}一月八日 延暦寺で午前十一時から、恒例の年賀式が、即真座主猊下を始め延暦寺一山住職、宗務庁役職員、各界来賓参加のもとに行われた。

一月廿五日 滋賀院門跡勸学大僧正藤支哲道は遷化した。

二月八日 延暦寺では、毎年正月の鏡餅のおさがりを社会施設へ寄附して来たが、今年は坂本西教寺にある真盛養老院へ寄付した。

二月廿六日 奈良国立博物館で開催された「密教法具展」に比叡山の

山内寺院所蔵の法具を出陳した。因みに、叡山文庫からは金銅五鈷杵三口を出陳した。

二月廿九日 延暦寺一山松禪院住職大僧正山田恵諦は滋賀院門跡に任命された。

三月二日 比叡山高等学校同中学校（校長矢田部四郎）の卒業式は、例年の通り午前十時から同校講堂に於いて、天台座主猊下を始め、谷口滋賀県知事等多数の来賓を迎えて行われた。

三月三日 ライシャワー駐日米国大使夫妻は、慈覚大師ゆかりの栃木県岩舟町大慈寺と壬生寺を巡拝し、慈覚大師の幼少期を偲んだ。尚同大使は宇都宮高校で、「円仁に続け」との講演を行った。

自三月八日
至四月十九日 大阪市立博物館で開かれた「印刷の歴史」の特別展に、延暦寺からは、叡山文庫所蔵の鎌倉期の刊行書や、宗存版、天海版、叡山版等十一点を出品した。

三月十二日 叡山学院の卒業式が例年の通り同学院講堂に於いて、午前十時から、天台座主猊下の御臨席、宗務総長等来賓参列のもとに行

われた。

三月十八日 比叡山延暦寺大講堂に於いて、午前十時から、安然和尚（五大院の先徳）一千五十年御遠忌法要（常行三昧之修）が、滋賀院門跡山田大僧正御導師の下一山大衆総出仕で厳修された。

三月廿六日 三岐教区では本末一如の実を具現する為本山で集團得度式を行う事になり、本山大講堂に於いて天台座主猊下御戒師の下執行された。新得度者は八名であった。

三月廿七日 坂本滋賀院に於いて第十六回宗議会が開かれた。

四月一日 宗祖大師御生誕の地比叡山麓坂本の生源寺は、西塔の総里坊として西塔によって護持されて来たが、時代の推移に應じて、四月一日から延暦寺直轄の大堂として、輪番制によってその機能を發揮する事になった。又毎月、御本尊十一面観音の縁日であり伝教大師の御誕生日でもある十八日に、一山大衆出仕して法要を勤め、その後で仏教講話がなされる事になった。

四月二日 旧比叡山中学の山家寮の跡に比叡山中学校の鉄筋コンクリ

ト三階建の校舎が新築される事に成り、その着工式が午後一時から止観院叡南祖賢御導師の下執行された。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度恒例御修法大法は、総本山の根本中堂に於いて、

座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、普賢延命法を厳修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月八日 去る昭和三十七年文部省文化財綜合調査によって比叡山及び山麓寺院に所蔵されている文化財が明らかにされたが、今回その中の十点が、文化財保護委員会から重要文化財に指定された旨通知があった。指定された十点は次の通りである。

- 一、相応和尚像図（無動寺明王堂）、二、木像四天王立像二軀（西塔釈迦堂）、
- 三、木像大黒天立像（律院所有）、四、金銀鍍水瓶（横川弘法寺）、五、銅水瓶（聖衆来迎寺）、六、刺納衣（延暦寺叡山文庫）、七、糞掃衣（延暦寺叡山文庫）、八、
- 尾長鳥ぬいふち花文錦打敷（延暦寺叡山文庫）、九、法華経（横川弘法寺）、十、
- 法華経（聖衆来迎寺）

四月十二日 京都東山妙法院門跡に於いて昭憲皇太后尊儀五十周年御

法要が行われた。

同日 セイロン文化大臣等が比叡山を訪れ、中堂、浄土院に参拝して、書院で座主猊下と対談後下山した。

四月廿日 名古屋大黒寺の大沢円覚住職及び檀信徒の努力によって、延暦寺の新大講堂に桓武天皇の御尊像が奉安された。その奉安式は午後一時から、天台座主猊下御導師の下一山僧侶出仕して、宗務総長等参列の中厳肅に行われた。法要後、猊下と寄進者との間に御尊像授受の儀式があった。

四月廿日 慈覚大師研究(論文集)が天台学会から発刊された。

四月^{自廿四}_{至廿四}日 叡山講大法要が例年の通り比叡山延暦寺に於いて厳修され、多数の参詣者があった。

五月八日 比叡山西塔の法華堂、常行堂の解体大修理起工式並びに遷座法要が、同堂に於いて午前十一時から、天台座主猊下御導師、一山住職出仕で、来賓多数参列のもとに厳修された。

同日 釈尊の御誕生を祝う花祭が、比叡山上では一月遅れのこの日、

各堂に於いて行われた。

五月十日 比叡山法灯護持会物故者総回向が、比叡山上大講堂に於いて午前十一時半から、座主猊下御導師の下一山僧出仕によって厳修された。

同日 法灯護持会第四回総会が比叡山延暦寺書院に於いて、座主猊下の御臨席の下で開かれた。

五月十四日 比叡山大講堂に於いて、慈覚大師御影供が午前十時半から、即真座主猊下御寄進の慈覚大師御尊像宝前にて、猊下の御導師の下、一山大衆総出仕で厳修されたが、兼ねて、中国天台山国清寺から西山景文、大河内隆弘両師に托され将来寄進された細字法華経一部の奉納式が行われた。因みに、中国天台山では今回慈覚大師の一千百年の御遠忌法要を執行して、法華経を遙々比叡山に寄進したのである。

五月廿二日 奥比叡開発株式会社（社長佐々部晩穂）では、昭和三十七年夏東塔から横川を経て仰木峠に通ずる新しいドライブ・ウェーの建設を計画して、既に滋賀県、大津市の強力な賛助の下に、建設省、厚生

省、文部省、運輸省へ認可の申請を出していたが、今回文化財保護委員会からその建設の許可があり、他の省からも免許が下り、茲に正式決定と成った。

五月卅日 孝道教団の青年会館の新築に際して、延暦寺から天台座主貌下の御染筆「孝道」の扁額が寄贈され本仏殿御宝前にかかげられた。その折、孝道山からは比叡山大講堂へ四人掛椅子百二十五脚の寄贈があった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主貌下御証義の下巖修された。

六月十六日 午後一時二分、新潟、山形、秋田地方を中心にして東北地方、関東地方にかけて大地震が発生したので、本庁から渡辺録事、延暦寺から武副執行等が十七日夕方急遽出発、現地へ向ったが、宗内寺院には大した被害は無い様であった。

六月廿二日 滋賀院に於いて勸学集会が開かれた。

六月廿八日 叡山学会では、叡山学院に於いて研究発表と総会を開い

た。

七月八日 この程比叡山延暦寺に於いては、延暦寺教学財団を設立して、広く一般宗徒の育成と併せて教学振興に寄与する事になったが、天台座主猊下はこの趣旨に賛同され、金壹百万円をこの財団に寄付された。

同日 比叡山上大講堂に於いて、午前十時半から、海外日系人物故者孟蘭盆法要（光明供錫杖之修）が、天台座主猊下御導師の下十二口出仕で厳修された。

七月自十八日至廿八日 第一回比叡山大講堂仏教文化講座が三百名の会員を大講堂に迎え、杉道助氏の開会挨拶によって幕が開けられ、三日間に亘り諸講師の熱弁がふるわれた。因みに講師は、山田恵諦、加藤弁三郎、梅原真隆、塚本善隆、水谷教章、平沢興、山田無文の諸氏であった。

七月自廿一日至廿七日 比叡山林間学舎が例年の通り延暦寺宿院で行われ、近畿各地から合計一千八百八拾余名の小、中学校生徒が参加した。

七月廿四日 去る昭和三十五年の全但バス比叡山上遭難者の慰霊法要

が、比叡山上阿弥陀堂に於いて、座主貌下御導師の下しめやかに執行された。

八月一日 東西本願寺を始め浄土真宗全派によって結成されている真宗各派協和会によって、親鸞聖人尊像が大講堂へ寄進されることになり、その奉安法要が大講堂に於いて、五百有余人の門徒衆が合掌念仏する中、連枝大谷昭乗御導師の下式衆多数参列して、莊重に行われた。

八月廿一日 英国人J・L・ブリンクリー氏は逝去した。氏は昭和二十三年宗学研究家として権僧正を贈られていたが、今回逝去によって僧正に贈補された。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山止観院住職大僧正叡南祖賢は戸津説法を勤仕した。

九月三日 孝道教団では、秋の「お修行」を比叡山でつとめる事になって、九月三日から、四百五十名づつ四団に分れて登山して、各団は

夫々二日間靈氣の中での修行に励んだ。猶、今回の修行登山を記念して孝道教団から延暦寺教学財団へ金壹百万円が寄附された。

九月自十二日至十四日 天台宗寺庭婦人講習会が比叡山上宿院に於いて開かれた。

九月廿六日 天高く澄み切ったこの日、比叡山書院に於いて、天台座主猥下の喜寿祝賀会が、宗務庁代表谷教学部長及び延暦寺一山住職全員が集って、ささやかに開かれた。

十月四日 津金寺に於いて探題大僧正池田長田大和尚の葬儀が行われた。

十月十六日 天台宗教学大会が、本山の宿院大広間に於いて、座主猥下を始め、宗務総長、延暦寺執行、勸学の出席を迎えて、聴衆約七十名参加のもと開かれ、七名の研究発表があった。

十月廿六日 奥比叡ドライブ・ウェーの起工式（地鎮秘密供之伎）が、大講堂裏の式場で、座主猥下の御導師の下延暦寺一山大衆出仕して、施主である奥比叡参詣自動車道路会社々長佐々部晚穂氏、施工者大成建設会社専務木下氏等参列して行われた。

十月卅一日 比叡山蓮華院住職權少僧都堀沢祖門は、去る昭和二十七年以来伝教大師所定の十二年籠山中であつたが、この日無事一紀籠山を満願した。

十一月六日 比叡山中学校第二校舎が新築され、その竣工式が座主親下御出席の下、延暦寺執行、副執行等も参列して、盛大に挙行された。十一月八日 延暦寺法儀音律研究所では、今度日本グラマフォン社の要請によつて、芸術祭参加作品として天台声明を吹き込み、長時間レコードとして完成発売される事に成つた。

十一月十五日 京都の真正極楽寺（真如堂）に於いて十一月五日から行われていた「お十夜会」の結願法要が賑やかにつとめられた。因みに、全国の寺々で行われているお十夜は真如堂から起つたものと云はれている。

十二月十五日 東京読売新聞社主正力松太郎氏発願によりセーロンから寄贈された仏舍利、御聖髪の回向法要が、読売ランドの釈迦殿に於いて午後二時から、天台座主親下が御導師となつて、正力社主始め諸

1965.2.8.

外国大使に同席して天台宗各役職員も多数参列随喜する中、厳かに執り行われた。法要後深大寺講の御詠歌が奉納された。

十二月十九日 上野寛永寺一山権大僧正杉谷義周は宗務総長に任命された。

十二月廿一日 比叡山法灯護持会会長であった故杉道助氏の追善回向法要（常行三昧之修）が延暦寺に於いて午後一時から、天台座主猥下御導師の下一山住職出仕して厳修された。

昭和四十年_{己乙}二月八日 昨秋芸術祭参加作品として吹き込まれた、天

台声明に対し、この程芸術祭賞が与えられた。

二月廿七日 近畿教区主催の円頓授戒会並びに結縁灌頂は天台座主親修のもとに和歌山県下津市善福院に於いて勤修された。

座主猥下には、廿六日正午滋賀院本坊を森定教学部長、武延暦寺副執行、上野教学課長等を随行して出発され、加茂郷駅で兼平宗務所長、市野善福院住職、同寺檀信徒総代その他大勢の出迎えを受けられ、御宿所善福院庫裡に到着された。猥下には南紀の一夜を明かされ、午前

十時同寺庫裡階上仏間に於いて円頓授戒会を奉修され、一〇五人の戒弟にそれぞれ剃度された。午後一時から本堂宝前に内道場を設け中山大僧正教授師となり、教区内寺院住職出仕の下に結縁灌頂が行われ、猊下は正覺壇にあって実相念仏の直授相伝を行われた。廿八日猊下御一行は、戒弟の整列して見送る中を御出発、帰路つつがなく帰山された。

三月十四日 滋賀教区円如寺に於いて、本堂新築落成法要が営まれた。当日は天台座主御親修の下に円頓授戒会が勤まり、宗務総長を始め来賓多数が参列して盛大であった。

今月、東塔東谷五智院上に六〇〇坪にわたって、第一回比叡山仏敎文化講座受講者の寄附による記念植樹が行われた。

四月^{自十四日至十一日} 本年度恒例御修法は、総本山延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十七日 座主猊下は中支天台山を始め北京等へ御訪問の為坂本を

出発された。

四月十八日 慈覚大師御遠忌を記念して、昨年四月訪中した日本仏教会の長老西川景文、大河内隆弘両師に托して、中国天台山国清寺から中国仏教協会を通じて、総本山延暦寺に微細楷書の法華経が上納贈呈された答礼として使節団が四月廿七日正午B・O・A・C機で香港經由で出発する事になった。この度の使節団は高祖大師の御宝前に報恩の勤行をつとめ、感謝の誠意を表わす事が目的で、即真周湛座主猊下を団長に、杉谷義周（宗務庁代表）、佐伯秀胤（宗議会代表）、梅山円了（総本山延暦寺代表）、壬生照順（秘書長）、今井玄崇（団長秘書）の六師から成り、四月十八日午前十一時から東京上野寛永寺で結団式を行った。

四月廿七日 答礼使節団の出発歓送式が午前十時四十分から羽田空港ロビーで行われた。浜名徳有師の司会で東京教区宗務所長の歓送の辞、天台保育連盟所属の幼稚園児と孝道教団から花束の贈呈があり、杉谷総長、延暦寺叡南祖賢執行の挨拶があった。浅草寺清水谷恭順師の音頭で万才が三唱され、一行六名は元気よく、タラップを上り、雲一つ

ない好天気の中を一路香港に向った。(午後四時五分無事香港に到着。) 当

日の見送りは宗務庁、延暦寺、日光輪王寺、上野寛永寺、浅草寺、孝道教団、日中友好協会、宗務所長、宗議会議員、東京、神奈川両教区寺院、各教区布教師会、保育連盟所属幼稚園、保育園児及び父兄等数百名の多数であった。

四月廿八日 座主猊下御一行は、午前八時三十七分九龍を汽車で御出発、同十一時十分深圳に入り、訪中入国の第一步を印し、趙朴初居士代理中国仏教協会国際組長陳仲瑤氏、及び通訳商家龍氏の挨拶を受けられた。同日午後三時過ぎ広州に着き、六榕寺住持雲峰法師、広東省平和委員会秘書長欧錦氏、及び広州宗教事務處秘書牟筠女史等の出迎を受け、宿舍群愛大廈に入られた。

四月廿九日 午前十時、座主猊下御一行は広州六榕寺に御参拝、同十一時広州市の烈士の墓に参拝された。午後四時三十七分広州市白雲飛行場を出発、同六時二十分杭州飛行場に到着、中国仏教協会副会長居士周淑迦氏、杭州仏教協会副会長靈陰寺住持性空氏外僧十名の出迎を

受けられた。

同日 比叡山横川の行院落慶入仏式が、午前十一時から、叡南延暦寺執行の導師の下三塔院内出仕で厳修された。

四月卅日 中国訪問中の座主猊下御一行は、この日、杭州市内各所や催物等の見学をされた。

五月一日 午前八時四十分座主猊下は随行と共に杭州最大の寺院靈隱寺に御参拝、香料及び記念品を進呈された。同十一時四十分から歓迎中食会に出られ、午後二時半から西湖に舟遊された。

五月二日 座主猊下は随員と共に午前八時杭州飯店から中国側差廻しの車四台に分乗して待望の天台山へ向われる事になった。十二時三十分には嵯県を御出発、約二時間後天台山に入られた。午後三時国清寺に御到着、鐘や太鼓のならされる中、住持澹雲大法師の御案内で本堂へ進まれ、大雄宝殿に御参拝、高祖大師の御前に自我偈一卷を誦誦して感激の焼香をなされた。午後四時国清寺から山上の真覺寺廟へ車を連ねて御出発、五時十分真覺寺の門をくぐられた。先づ白琳監院の御導

師で、猊下御一行の来山を告げる法要が、太鼓の音に和して約十分間行われ、引続き猊下始め随行僧は高祖大師の御廟前に額き投地礼拝され、猊下はしばしの間御声も出ない程感涙にむせばれ、舍利礼文、自我偈を奉誦された。

五月三日 国清寺大雄宝殿に於いて午前八時三十分から、国清寺僧衆によつて座主猊下御一行歓迎大法要が執行され、引続き座主猊下御導師の下一行一同によつて高祖大師報恩謝徳大法要が厳修された。法要終了後、猊下は持参の記念品等を、杉谷総長立合の下、澹雲大法師に親しく御渡しになり、引続き佐伯宗会議長が訪中答礼の宗会決議文を朗読、中国側も澹雲大法師から猊下に数々の記念品の御贈与があり、後本堂前で記念撮影があつた。午後二時猊下御一行は、同寺の鐘太鼓がならされる中、国清寺僧衆に見送られ、杭州へ向かわれ、帰途、嵯県、紹興の両県で休憩され、同七時三十分杭州飯店に帰着された。因みに、即眞猊下と澹雲大法師との間に交された記念の詩偈は左記の通りである。

天台山国清寺へ

天台鐘秀白雲峰

聖跡靈場苔色濃

垂涕仰觀千載後

奇巖怪石旧時容

参拝中国天台山国清寺

日本天台座主第二百五十一世

大僧正周湛薰沐拜手

日本天台宗訪華団へ

延暦寺即国清寺

比叡山是天台山

両宗伝統法縁在

難得同袍到此間

当公元八百零五年間即我国唐順宗永貞元年特有日本最澄伝教大師来我

国天台山国清寺学習天台宗教觀後到日本即指比叡山為天台山在山上建一寺名国清寺作為留學我寺紀念現在又承即真周湛法師率領日本天台宗訪華代表團來寺訪問使我回憶到過去中日兩國人民友誼文化歷史傳統法緣之余賦此以贈紀念

公元一九六五年五月

天台山国清寺住持澹雲

同日 東京教区安養院で、本堂落慶大法要が、天台座主代理日光輪王寺門跡菅原栄海大僧正導師の下、盛大に営まれた。

五月四日 座主猊下御一行は、午後五時四十五分杭州駅から特別列車で上海に向われた。同九時三十分上海に着かれ、駅では、上海仏教協會副會長玉仏寺葦舫法師他十余名の出迎を受けられ、和平飯店に着かれた。

五月五日 座主猊下御一行は、この日上海の各所、諸施設等を見学された。

五月六日 座主猊下御一行は、午前八時三十分から上海の重型器庁他

を見学され、午後二時三十分上海仏教会々長持松法師住職寺真言系常安寺に参拝された。

五月七日 座主猊下御一行は午後五時上海少年宮を見学され、同七時上海市仏教協会主催の歓迎晚餐会に出席された。

五月八日 座主猊下は随行僧と共に、午前八時三十分上海玉仏寺に於ける灌仏会に参拝された。法会は、先づ中国側の法要が行われ、引続き猊下御導師の下一行によって法要が執行された。午後三時二十六分、御一行は上海仏教協会会長持松法師、同副会長韋舫法師等約二十名の見送の中、特別寝台車で南京に向け出発された。同七時十六分南京に御到着、駅頭では、南京仏教協会会長毗盧寺方丈映徹法師、同副会長棲霞寺方丈光鑑法師等の出迎を受けられ、南京飯店に入られた。

五月九日 座主猊下御一行は、午前八時三十分、映徹方丈、光鑑方丈の案内で中山陵に参拝された。同十時二十分、南京郊外の臨済系棲霞古寺に参拝され、午後は雨花台公園内に在る殉難烈士の大墓碑に花輪を捧げ御回向され、又夕刻、南京の毗盧寺を訪問された。猶、南京仏

教会主催の歓迎晩餐会に出席された。

五月十日 座主猓下御一行は、午前八時三十分光鑑法師の案内で南京市の東北の玄武湖公園を訪遊された。午後四時二十分北京飛行場に着陸され、中国仏教協会副会長阿旺嘉措活仏、同副会長北京広済寺巨贊法師他二十余名の出迎を受けられ、四十分後民族飯店に到着された。

五月十一日 座主猓下御一行は午前九時三十分から、中国仏教協会石鳴珂秘書長、商通訳の案内で、故宮の参観に行かれた。午後六時中国人民共和国全国人民代表大会代表、中国仏教協会副会長兼秘書長趙朴初居士が飯店に猓下を訪問、挨拶を交わされた。

五月十二日 猓下御一行は、午前七時三十分北京郊外の仏舍利塔に参拝され、同十時趙朴初氏の案内で万寿山に登られた。午後三時三十分、最後の正式訪問地であり、中国仏教協会の在る、北京広済寺に到着の御一行は、中国仏教協会副会長趙朴初居士、同副会長阿旺嘉措法師、同副会長周淑迦居士、宗教事務処員等の出迎を受けられ本堂に入堂された。本堂に於いて日中友好世界平和大祈願法要が執行された。先づ

中国側法要は広済寺住持の巨賛法師大導師の下六十名の黄衣の僧によつて行われ、直ぐ後、猓下御導師の下御一行の祈願法要が厳修された。引続き中国側趙朴初居士から歓迎の挨拶があり、佐伯宗会議長が天台宗会の訪中についての決議文を朗読し、続いて猓下から、杉谷総長立合の下、中国側阿旺嘉措副会長に対して、伝教大師御絵伝、延暦寺綜覧、如法衣、墨宝、輪袈裟、猓下の御染筆等を贈られ、中国側からも猓下に対して、釈迦像、大線香、如法衣等の贈与が行われた。同五時三十分同寺の鐘、太鼓の音に送られて飯店へ歸られた。御一行は同六時五十五分、郭沫若氏の招待で国民大会堂新疆省の間に於いて催された歓迎晩餐会に出席され、郭沫若氏の口添えによって、周副会長の案内で国民大会堂内を參觀された。

五月十三日 猓下御一行は午前六時十分、見送りの人々と名残を惜しみつつ、北京飛行場から広州に向け出発され、午後一時二十五分広州飛行場に到着された。御一行は午後七時から、広州仏教協会主催の晩餐会に招待され出席された。

五月十四日 座主猥下御一行は、午前七時三十分、多数の見送りの中、深圳行きの特別列車に乗車され、同十時深圳に到着された。午後一時二十五分羅湖発九龍に向われ、午後二時三十五分香港に御到着、金門ホテルに着かれた。

五月十五日 猥下御一行は午前中香港各所を御見学、午後三時金門ホテルを出発され、香港飛行場に向われた。同八時二十五分無事羽田に帰着され多数の出迎を受けられた。斯くして猥下御一行は、今回の画期的な天台宗訪中答礼団の予定行事を総て完遂してその任務を果され、日中両国仏教徒友好親善の道に固き足跡を残されたのである。

五月十六日 比叡山大講堂で午前十一時半から、比叡山法灯護持会物故者総回向が座主猥下御導師の下執行された。

五月十九日 午前十時半、座主猥下は、訪中使節団の全員、並びに生田法務部長、羽場宗議会副議長、教区宗務所長と共に比叡山上祖廟に御参拝、天台山参拝の御報告を申し上げられ、同十一時半、山上書院に於いて、宗内諸師参列のもと、訪中答礼団の解団式を挙行した。

五月廿日 勸学集会在滋賀院に於いて、福井院長始め、勸学九人、事務当局全員参集のもとに開会された。先づ事務局長森定慈紹師開会を宣言、次いで座主猊下の御言葉があり、次に天台山参拝について座主猊下、並びに杉谷総長の報告があつて議事に入つた。議題の宗祖生誕千二百年記念法要宗祖千百五十年大遠忌の指導原理については担当者を決めて慎重に研究した上来る七月末の第二回勸学集会在於いて大綱を決定する事を約して四時過ぎ散会した。

六月四日 比叡山浄土院に於いて、午前十時から、長講会が例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

六月^{自十四日}_{至十八日} 延暦寺に於いて新しい試みとして一山住職の中堅及び若手住職の練成会が二部に分けて催された。第一部は十四、十五、十六の三日間十四名が参加し、第二部は十六、十七、十八の三日間十六名が参加し、自主的修行に専注し効果的であつた。

六月^{自廿七日}_{至廿九日} 三日間 昨年に引続き第二回中央寺庭婦人研修会が比叡山上宿院に於いて開会された。寺ぐるみの教化活動をより活発に推進

するため、時代即応の措置を講じて寺院の在り方についても進んで體質改善へと宗団の近代化を計ると共に寺庭婦人としての責務を認識し、その覚悟を新たにして、特に今回は、全員が天台座主猊下を戒師として得度受戒と僧籍登録が出来得る様にして、その地位を明らかにし、住職を補佐して簡単な檀務にたづさわり、布教の一端をも担当する能力と資格を具備して、次代を担う子弟の養成に熱意をもって挺身する事を力強く誓い合い、予期以上の成果を始めた。

六月廿八日 比叡山大講堂に於いて、午前十時から、寺庭婦人会円頓戒剃度式が、座主猊下御親修の下厳肅に執行された。

六月廿九日 比叡山行院の遂行式が、午後一時から、座主猊下御導師の下執行された。

七月一日 滋賀県比良山上サンケイバレー山開祈願法要が、止観院叡南大僧正導師の下執行された。

七月七日 根本中堂に於いて午前十一時半から、比叡山自動車道交通安全厄難消除祈願法要（薬師護摩供之惣）が止観院叡南大僧正導師の下厳

修された。

七月自十七日
至十九日

第二回比叡山延暦寺仏教文化講座は山上大講堂に於い

て開催された。

出席の講師は、勝野隆信、茅誠司、藤井日静、井上靖、

朝比奈宗源の諸氏であった。

七月自廿二日
至廿八日

宗務庁主催のボーイスカウト合宿訓練が滋賀院で約三

十名集会して実施された。

七月自卅一日
至卅一日

比叡山麓滋賀院門跡に於いて、勸学集会が開かれ、福

井、清水谷、塩入、山口、荒樋、山田、中山、勝野、平、関口の各勸

学が出席した。因みに福井院長の任期満了によって、山口光円勸学が

新院長に選出された。

八月自廿一日
至廿五日

三千院門跡大僧正水谷教章は戸津説法を勤仕した。

八月自廿六日
至廿八日

天台宗務庁、天台保育連盟主催の第十四回全国保育大

会が延暦寺会館で開催された。

九月自三日
至八日

孝道教団比叡山修行参拝団法要が毎日座主猊下の御導師

の下厳修された。

06
40
80
44

九月八日 この程来山した南ヴェトナム古山門派総書記並びに義方寺住職大徳釈智心師は、比叡山浄土院での修行に入った。師は三年間在山して大乘仏教を研鑽する予定である。

九月十一日 比叡山上宿院に於いて、午前十時から、檀信徒宿院解体並びに新築起工式（地鎮秘密供之儀）が座主猊下御導師の下厳修された。

九月十八日 台風二十四号が襲来し、山麓本坊二階書院の屋根が飛散し、高塀等が倒壊した。

十月三日 滋賀教区大正寺（住職大橋良仁）では、開山大正念院及誉上人三百五十回忌法要が、天台座主猊下大導師の下部内寺院総出仕で、頗る盛大且つ厳粛に勤修された。

十月五日 群馬教区大蔵院に於いて午前十時から、伝教大師一千二百年御生誕慶讃法要並びに円頓授戒会が、桐生部檀信徒会、大蔵院檀信徒会の共催の下、座主猊下の御親修に依り盛大に奉修された。戒弟は約一千人に及んだ。座主猊下には、森定教学部長、桜井延暦寺法務部長、上野教学課長等が随行した。猊下は平井山荘で第二夜を明かされ、

翌朝九時、御親教役職員を初め関係者の御見送りのもとに、自動車で小山駅へと向われた。

十月六日 狹下御一行は桐生部御親教に引続き、小山駅から福島へ向い、福島駅で寛宗務所長、中村宗会議員、高松大僧正その他役職員の出迎えを受け、直に自動車で宗務所観音院へ御到着、東北で一夜を明かされた。

同日 大津市坂本々町梅林に於いて、延暦寺厚生寮起工式（地鎮秘密供之修が、止観院叡南大僧正導師の下執行された。

十月七日 福島教区観音院に於いて午前十時から、天台座主狹下を戒師として、福島教区主催寺庭婦人集団得度式が盛大に行われた。因みに、得度受戒者は寛清子外四十八人であった。当日婦人代議士栗山女史の激励の祝辞があった。午後一時から教区伝導師の集団得度式が行われた。受戒者一〇五人は、居士から僧侶へと覚悟も新たに教化の一端を担って希望にもえる第一歩を踏み出した。

十月八日 福島教区福島市御山、葉王寺（住職山河信海）に於いて、教区

主権伝教大師千二百年御生誕慶讃法要並びに薬王寺本堂、庫裡修理落慶法要が天台座主猊下御親修に依って行われた。改修成った本堂で法華三昧の厳儀が莊重且つ厳肅に執り行われた後、随行布教師室生貞信の法話があった。

猊下には福島駅発特急で上野駅へ御到着、駅頭で杉谷宗務総長、羽場副議長、小林録事等が御出迎え、直に自動車で東京駅迄御見送り、その夜新幹線で道中つつがなく帰還された。

十月十五日 日本武道館に於いて天皇皇后両陛下の御臨席を得て行われた、国民参政七十五周年、普選四十周年、婦人参政二十周年記念式典に際して、南総教区滝泉寺住職権大僧都永野高敬は、選挙管理委員会委員長として選挙管理執行に尽した功績により、藍綬褒章受賞の栄を得た。

十月^{自十八日}_{至十九日} 東京都豊島区大正大学に於いて天台宗教学大学が開催された。

十月^{自廿一日}_{至卅一日} 三日間 第四回中央布教々化研修会は、比叡山麓滋賀院

門跡に於いて開催された。開会式に当り座主猊下から、伝教大師の御遺誠である「吾が為に仏を作ることなかれ、吾が為に経を写すことなかれ、吾が志をのべよ」と仰せになった、その志を述べる事こそ布教師の本務である旨の御言葉を賜り、大遠忌を迎えるに当り感激を一層新たに於いて研修会の幕を開き、熱心真剣に終始し無事研修を終了した。

十一月三日 東京教区徳正寺住職権大僧正佐野広中は、十一月三日地方自治の功績により勲五等双光旭日章の叙勲の御沙汰があり、十二日宮中に於いて、天皇陛下に拝謁、優渥なる御言葉を賜って叙勲の光栄に浴した。

十一月九日 第二百五十世天台座主金剛慈心院玄秀大和尚七回忌法要が、延暦寺本坊に於いて午前十一時から、座主猊下御導師の下一山僧出仕して厳修された。

十一月十三日 神戸市会下山善光寺（住職高阪盛純）で、開山英盛上人三十三回忌法要並びに梵鐘撞初め大法要が、天台座主大僧正猊下御親修のもとに莊嚴且盛大に執行された。猊下には、森定教学部長、武延暦

寺総務部長等が随行した。法要は午後一時から天台座主大僧正調声、部内寺院総出仕で常行三昧が厳修され、続いて午後二時から梵鐘撞初法要が行われ、秋日和の快晴の下に善男善女多数で境内を賑わした。

十一月十四日 岐阜県垂井町、朝倉山真禪院（住職中川円寛）に於いて、本地堂、三重塔、鐘楼、修理落慶大法要が天台座主猊下を迎えて盛大に厳修された。

猊下には早朝七時滋賀院を御出発、上野教学課長、延暦寺から渡辺恵進、森川宏映等、が随行した。法要終了後天台座主猊下から、奉讃会々々長岐阜県知事松野幸泰、奉讃会委員長西脇弘康、奉讃会世話人委員長井川欣一の三氏に対し感謝状並びに記念品の贈呈があり、一同感激裡に式を閉じた。

十一月廿五日 今般宗務庁、延暦寺、信越教区の補助金と中津川市並びに地元神坂部落の協力により、去る昭和三十三年の開宗記念法要の事業として宗祖大師開基の広済院趾に建立された広済院顕彰碑の周囲

にブロックの玉垣が立派に完成し、周辺も美しく整理された。その落慶法要は午後秋雨の中、都筑善光寺大僧正導師の下に地元信越教区小山宗務所長、本多宗議會議員等多数出仕し、森定教学部長、三岐教区相生宗會議員、中津川市長等の来賓、地元神坂部落の人々等百余人参列して、厳かに執り行われ、その後、施工者に感謝状の贈呈、経過報告、祝辞等があり、一、一五〇余年前の宗祖大師の御偉業を偲び乍ら夕刻盛会裡に終了した。因みに、地元には本宗寺院も檀信徒もないが、地元民から土地の提供や心からの奉仕があった。

昭和四十一年丙午一月一日

昭和

丙午

歳元旦

周湛恭賦

宗祖降誕一千二百年慶讃因于

新年御題「声」

出世一千二百年 声高法鼓響人天
甚深微妙一乗教 顯密止觀根本全

一月十八日 延暦寺叡南執行一行は、京都市右京区山内に在る伝教大師旧蹟を訪れ読経供養して、御生誕一千二百年慶讃大法要を奉修する旨を御報告した。今回比叡山法灯護持会員である駒垣一良氏が、この由緒の地百六十五坪を七百万円で購入して妙徳院を建てる事になった。一月廿六日 本宗立教開宗の佳日を卜して、座主猊下は宗徒に対して、本年八月に宗祖大師御生誕千二百年の佳辰を迎えるに当り諭示を發せられた。

諭 示

本年八月、宗祖伝教大師御生誕一千二百年の佳辰を迎うるに当り、宗祖の本懷を繼承して宗意を顯揚せんがために、衷情を披いて宗徒各位に告ぐ。

宗祖伝教大師は、我が国仏教が隆萎の岐路に直面せる重要な時機に出現し給ひ、桓武聖帝の勸願のもと、国家と国民の性情に適應せる四宗一源の我が宗を開創し、鎮護国家住持仏法のために、高く比

叡山上に山家の學風を宣揚して、千百有余年の永きに亘り、一隅を照すの人師を天下に相續せしめて、國家の文化を向上し、國民を利導するの恩沢を垂れさせられたことは、千古無比の大聖者として、歴世の縑素俱に深く敬慕し、感謝するところである。

然しながら仔細に仏教の実情を顧るに、叡岳の枝葉は八宗の名に於いて榮え、真言の宗と共にその教化全国に風靡すと雖も、時流の推移は消長を伴うて、外教の禁止は仏教独善の弊を生み、国政の庇護は宗教活動を次第に習慣化して教化の効を損じ、廢仏棄釈の難に遭うと雖も、猶その眠り醒めず、惰性を以って今日に至るの感あり。

その上、發達したる物質文明は、思想を低下せしむると共に、宗教信念を稀薄にして世人の心に安住なく、道義の癡癡は、人命を輕視し、孝道を侮蔑するの徒を横行せしむる等、慨嘆すべき世情をもたらずに至りたるは、一に以って教家の微力に基因するを免れず。

この秋に當り、宗祖御生誕一千二百年の佳辰を迎うこと、正しく祖

意恢弘の靈勅なり、宜しく之を奉けて一致団結、從來の弊風を一掃すると共に時局適應の教化を施して隨情違理の徒輩を善導し、青年の教化と國家觀念の養成に力を集中して、宗祖が理想とせられたる大乘國家の建設に邁進せんことを期す。

宗徒各位、不惜身命の誓いを宗祖に致して祖風を宣揚し、以って千載一遇の佳辰を嚴らんことを。

昭和四十一年一月廿六日

天台座主大僧正 即 眞 周 湛

同日 かねて東京教区内青年宗徒によって準備が進められていた、天台仏教青年会発会式が、開宗記念日のこの日午後六時から東京寛永寺で挙行された。当日は、杉谷宗務総長を始め八名の來賓と會員六十名の参集があった。

二月十日 第九回宗務所長會議は滋賀院門跡に於いて、午前十時から午後四時迄開催された。

二月十八日 大僧正叡南祖賢は延暦寺執行に任命された。

三月六日 滋賀県甲賀郡櫟野寺（住職三浦俊英）では、宝物収蔵庫が完成したので、その落慶法要が真即座主猊下御親修の下執り行われた。

三月廿八日 比叡山上浄土院の修理起工式が午前十一時から行われ宗会議員全員が登山参列した。

三月卅日 大阪府南泉寺（住職権僧正津守良海）を会場として、円頓授戒式並結縁灌頂が厳修された。天台座主猊下には早朝七時、延暦寺法曼院大僧正中山玄雄、本庁録事小林昭延、教学課長上野智信等を随え、春雪の降る中を坂本を出発し、十一時南泉寺へ御到着、門前に兼平宗務所長並びに教区内住職初め、檀信徒及び戒弟等多数出迎える中会場へ御入場、直ちに円頓授戒会が執行され一人づつ懇ろに剃度された。次いで午後一時から内道場で結縁灌頂が行われ、投華得仏が厳修され、座主猊下は正覚壇に在って実相念仏の直授相伝を行われた。この法縁に浴する者一〇〇人を超え仲々の盛況であった。

四月一日 去る第十八回宗議會に於いて宗務庁規程が改正され、この日から教學部に社会課が新設された。社会課では、青少年教化、社会福祉及び公益事業、共済及び災害、広報活動、宗勢の調査等の事務を行うこととなり、特に宗祖伝教大師千五十年大遠忌並びに御生誕千二百年慶讃法要事業の主眼である青少年教化の活動と相俟って今後の活躍が期待される。宗祖大師の御精神を現代に普及徹底させるため特に青少年への教化を中心に「一隅を照す運動」が提唱され、忘己利他の精神を強調するため、現代寺院の方向づけや教化対策を考慮することになった。又寺院仏子の育成と後継者に悩む人々の相談に応じて出来るだけの世話をする相談所が開設され、先づ今年度に於いては養子縁組等に重点を置く事になった。

同日 京都市下京区高倉通真宗仏光寺派本山仏光寺に於いて、仏光寺第三十代の法嗣彰師の得度式が行われ、即真座主猊下は古来からの法式に従いその証誠として御参列、大師堂を埋め尽した仏光寺関係の入門信徒と共に慶祝の意を表せられた。

同日 京都祇園歌舞練場での都おどりのフィナーレに比叡山横川の桜がとりあげられ、伝教大師御生誕千二百年の賑いをPRした。

同日 延暦寺一山妙行院住職大僧正梅山円了は比叡山高校校長に任命された。

四月^自至^{十一}日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十七日 滋賀教区金剛輪寺(住職権僧正浜中光志)に於いて、午前十時から宗祖大師一千二百年御生誕教区慶讃法要が、午後一時から御本尊開扉法要が、天台座主猊下御導師の下厳かに奉修された。杉谷総長、叡南執行、森定教学部長等が随行した。

四月廿四日 兵庫教区能福寺(住職僧正雲井弘善)に於いて、今般諸堂宇及び境内が整備されたので、之を記念して円頓授戒、並びに諸堂宇落慶々讃法要が、天台座主猊下を拝請して厳かに行われた。

四月廿九日 比叡山麓「仰木トルゲート」に於いて、午前十時半から、

奥比叡参拝自動車道路竣工開通式が、座主猊下御導師の下執行された。
五月一日 中尊寺の秘仏開帳法要が厳修され、又、今春聴新貫主の晋
山式が本堂で行われた。

五月三日 「延暦寺秘宝特別展」が、大師関係及び比叡山関係の秘仏、
秘宝を東京、名古屋、大阪に於いて公開展示し、比叡山の紹介と、大
師精神の高揚を期するため開催された。時期及場所は左記の通りであ
る。

期日 五月三日～八日まで 大阪

五月十日～十五日まで 名古屋

六月七日～十二日まで 東京

場所 各松坂屋（東京は銀座の松坂屋）

主催 法要事務局、毎日新聞社

五月廿二日 比叡山上大講堂に於いて、午前十一時から法灯護持会物
故者法要が座主猊下御導師の下厳修された。

五月廿四日 比叡山横川恵心堂（横川仮中堂）が、午後三時三十分頃火魔

に襲われ、全焼した。焼失した恵心堂は約二十四坪、江戸末期の建造物であった。御本尊聖観音立像は秘宝特別展に出展中であつたので難を免れたが、脇侍の不動明王木像、毘沙門天木像、慈慧大師木像、恵心僧都木像は焼失した。

五月卅日 僧正武覚円は比叡山行院々長に任命された。

六月四日 比叡山浄土院に於いて、長講会が午前十時から、座主猊下御証義の下厳修された。

六月十七日 滋賀院門跡に於いて、伝教大師幼形像仮奉安式が、座主猊下御導師の下厳修された。

六月十八日 延暦寺一山會議に於いて、去る五月廿四日焼失した恵心堂の再建を決議し、約五百万円で工事を進める事になったが、当面の目標としては、山麓の別当大師堂を横川へ移築して恵心堂とすることになった。

六月廿日 宗祖大師御生誕一千二百年慶讃大法要記念切手として、根

本中堂図入りの六十円切手が、この日発売された。

六月廿八日 この日の台風四号による風水害は、特に神奈川教区に多大の被害をもたらししたので、本庁は、被害状況の調査と見舞のため小林録事を派遣した。その結果左記の寺に被害がある事が判明した。

横浜南部光明寺（住職傍島毅堂）は、本堂半壊、庫裡傾斜、玄関大破、内部荘嚴具凡て破損建具畳等使用不能と云う、被害総額一千五百万円と見込まれる大被害を蒙った。

神武寺（住職土屋慈順）は裏山の土砂が崩壊して境内を埋め、相当の被害をうけた。

自六月卅日
至七月六日 山形市立石寺に於いて、昭和二十三年以来途絶えていた灌頂が復興され、本山法曼流継承指導教授中山玄雄大僧正等を迎えて行われたが、入壇二十名、開壇二十六名、結縁灌頂二百八十名の受者があった。

七月一日 奥比叡ドライブウェイの沿線中の勝景の地に在る峯道駐車

場に、建坪約一六〇坪の「峯道レストハウス」が営業を始めた。猶、奥比叡を通る路線バスの許可が京阪バスと江若バスに下り、七月九日から開通することになった。

七月一日 延暦寺では、大法要を機会に檀信徒の宿泊施設として親しまれて来た宿院本館の改築を、昭和四十年十月十五日に一億一千二百万円の予算で着工し、急ピッチで完成を急いで来たが、この程ようやくその工事も終り、鉄筋コンクリート造り、クリーム色のスマートな、近代設備のととのった新館が完成した。この延暦寺会館の竣工式は、午前十時から、天台座主猊下の御導師の下に一山大衆出仕して、杉谷宗務総長、中野京都商工会議所名誉顧問、鳥井サントリー社長、西田大津市長等多数の来賓を迎えて、厳かに修された。因みに、同館は和洋両室合わせて六十一室六〇〇人の収容力がある。

七月廿日 宗祖伝教大師御生誕千二百年慶讃大法要並びに御入寂千五百年の御遠忌を記念して比叡山西塔の本覚院に「居士林」が開設さ

れた。この道場は在家仏教推進の根本道場として、檀信徒並びに一般在俗の人々に伝教大師のお教を体得させ、「在家の菩薩」の道を自覚してもらう事を目的とするものであり、今年三月十九日西塔釈迦堂政所に於いて、実質上始められたものである。

七月自廿三日
至廿五日

比叡山上大講堂に於いて、第三回仏教文化講座が開催

された。出席の講師は、塩入亮忠、塚本哲、大谷光紹、中野種一郎、小倉遊亀、出口常順の各師であつた。

七月卅日 宗祖伝教大師御生誕千二百年を奉讃して左記の通り音楽会が開催された。

大師讃歌製作 作詩 土岐善磨 作曲 清水 修
音楽発表会時期及場所

四十一年七月卅日(土曜日) 東京上野文化会館

四十一年九月十七日(土曜日) 京都会館

この日会場に根本中堂の「不滅の法灯」が即真座主の奉持によって奉

祀された。

八月自二日至四日 比叡山釈迦堂に於いて、如法写經会が座主猊下御親修の下開かれ、結願の後参会会員の物故者回向法要があり、続いて法華塔開眼埋經法要が厳修された。

八月自七日至八日 天台宗保育連盟の園児登山参拝が、今年度から行われる事になり、その第一回が実施された。

八月自十七日至十八日 第一回滋賀県下小中学生大師奉讃献書展覧会が、大遠忌行事の一つとして、大師の御遺徳を偲ぶと共に青少年教化の意味をかねて開催された。

八月八日 比叡山麓坂本生源寺に於いて午前十一時から、天台宗保育連盟が寄進した伝教大師幼形像（木彫極彩式、等身大、錦戸親観作）の奉安式が、天台座主大僧正大導師のもとに延暦寺一山、保育連盟関係者の出仕、全国選抜の園児二百名の稚児行列、比叡山高校中学生徒の楽隊、合唱隊の先導、保育関係職員、園児の母、姉並びに来賓各位等総員約

七百名によって執行された。この法要は先づ延暦寺本坊（滋賀院）を行列で出発し、生源寺まで練供養し、道場に到着して、大師尊像の除幕、大導師の開眼、園児の献花、讃仰歌の合唱、読経等の順で行われた。

八月十日 京都市右京区山ノ内にある伝教大師母君妙徳夫人の生地と伝えられる縁りの土地に寺が建てられ、妙徳院と名付けられた。駒垣一良氏が、坐禅石の辺り七百坪程の土地を購入、二間四方の御堂と庫裡を自費で建立したもので、此の日延暦寺からは、即真座主猊下を始め杉谷宗務総長、叡南執行、武副執行等が参列して妙徳院の落慶を祝った。

八月十七日 宗祖大師御生誕前夜祭には、夕方から比叡山高校、中学生徒、幼稚園児、坂本学区民等による坂本地区提灯行列、楽隊鼓笛合唱隊行列が行われ、生源寺に於いては大師奉讃の法華三昧が厳修された。

八月自十八日

天台宗檀信徒の子弟を祖山に招待参拝させ、伝教大師

の御精神を少年少女の心に布衍する趣旨で、今年度から四十五年度迄毎年四百名を祖山に集めて研修会が催される事になり、その第一回が開かれた。

八月十八日 宗祖大師御生誕当日午前十時から天台宗檀信徒子弟代表、男女合計五百名による法楽法要が奉修され、全教区から選抜招待された子弟五百名が生源寺に参集、讃仰歌、心経等を称えて大師を奉讃した。叡中鼓笛隊、比叡山幼稚園児はこれを出迎え、先導した。午後一時から、伝教大師御影供が天台座主猥下大導師の下各門跡、大寺、一宗役員、一山総出仕して厳修された。先づ出仕者一行は、滋賀院より稚児を先頭に、練供養して生源寺に到着、コーラス、献茶等により、大師御影供が奉修され、来賓各位の焼香、挨拶等があった。午後三時から、生源寺に於いて小、中学生の献書、献画の表彰式が行われ、午後七時から常行三昧、詠歌奉詠、奉納余興が行われた。猶、生源寺を中心に坂本一帯に、旗、提灯、吹散等が建てられ、一帯に慶

祝ムードが盛り上げられた。

天台宗総本山比叡山延暦寺内伝教大師千百五十年大遠忌並びに御生誕千二百年慶讃法要事務局編の天台宗「青少年の手帳」が発行された。

八月十九日 寺院住職として五十一年以上勤続して寺門興隆に尽した者、並びに一宗公職を歴任して宗内発展に尽した者に対する褒賞は、第十八回宗議会に於いて予算化され、その第一回の表彰式が宗祖伝教大師御生誕千二百年慶讃法要のこの日に行われた。表彰式は、住職勤続者代表兵庫教区普門寺前住萩原孝全に賞状と記念品（銀盃）が、公職勤続者代表南総教区妙音寺住職浅野航海に賞状と記念品（特別三諦章付輪袈裟）が座主猊下から授与され、続いて神奈川教区大久保良頭と近畿教区兼平真海がそれぞれを代表して謝辞を述べ、総長の挨拶、延暦寺執行の祝辞があつて式を終了、引続いて叡中体育館に於ける祝賀パーティーに移り、代表者によるスピーチ等があり午後三時過ぎ終了した。因みに、褒賞該当者一八二名に案内状が発送されていたが、相当の老令者が多

く、又孟蘭盆会の行事等もあって、当日の参列者は約五十名にとどまった。

八月廿日 総本山の呼びかけで「伝教大師連盟」が結成され、かつて天台宗に属していた宗派、寺院二十一ヶ寺、二団体が大師御生誕一千二百年を機会に結束を固め大師の御教、御遺訓の下一体の宗教活動を進めて行く事になった。この日一行は午前十時から生源寺に於いて、鞍馬寺信楽管長御導師の下大師御生誕を慶祝する法楽を捧げ、車で登山し浄土院へ参詣、聖廟に敬虔な焼香を献じた後、山上書院での第一回会合に臨んだ。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山妙行院住職大僧正梅山円了は戸津説法を勤仕した。

九月五日 大僧正赤松円瑞は比叡山行院々長に任命された。

自九月廿四日至十月二日 延暦寺灌頂が無動寺灌室で厳肅に行われた。

九月廿五日 この日伊豆半島に上陸した台風二十六号は、山梨県から

中部関東地方を北上して各地に甚大な災害の爪跡を残したのであるが、特に本宗に於いては日光山内の被害を始め、栃木、群馬、埼玉、神奈川等各教区に渡る広範囲な地域に、稀有の惨害をもたらした。本庁から、十月九日、具に現地を視察すると共に懇ろな見舞をするために、上野社会課長が慰問使として派遣された。その結果左記の如き被害が判明した。

日光三大廟の別所龍光院は、床下まで殆んど土砂で埋まる惨状にあった。立木観音の石碇流失の惨状は啞然とする程で、取除き作業だけで五百万円は要るとのことであった。群馬教区宝門寺、長楽寺、大蔵院は各々甚大な被害を受けた。

自九月卅日
至十月二日 三日間 新装なった比叡山延暦寺会館に於いて、第三回中央寺院婦人研修会が開会された。又大講堂で座主猊下を戒師として四十数人の寺院婦人が厳肅裡に得度受戒した。

十月一日 かねてから宗議会や教区等から要望のあった、過去幾多の

大戦に於いて宗内教師で戦死或は戦病死された方々の慰霊に就いて、昨年来その実態の調査を行った所、今日迄に一四九名の戦歿教師について遺族及び師僧等から報告があった。これ等の英霊に対し宗団としていささかなりとも御慰霊を為す事と成り、秋期彼岸会に際し、宗務総長の挨拶状を付け、叡山香三束が夫々に献香された。

十月九日 比叡山西塔居士林（本覚院）で、本覚会が催され、座主猊下が御臨席された。

十月十日 比叡山横川恵心堂跡に延暦寺文化財収蔵庫が建てられる事になり、その起工式（地鎮秘密供之修）が、座主猊下御導師の下執行された。

十月自十五日
至十六日 両日に亘り真盛宗総本山山西教寺に於いて天台宗教学大会が開催された。第一日目の十五日午後一時から、天台学会員、真盛宗々学寮の講師、叡山学院学生等七十名が参加し、殊に真盛宗管長、延暦寺代表、三崎宗機顧問、佐伯宗議会議長、塩入、荒樋両勸学の来賓

を迎えて開会の式が行われ、続いて研究発表があり、終って西教寺食堂で懇親会がもたれた。又両日共、叡山学院、比叡山高等学校が当番校となり、西教寺を会場として大蔵会が開催され、恵心僧都関係秘宝約七十点、西教寺宝物約三十点が展観された。猶十六日午後一時から、十河泰隆師が「真盛上人と往生要集」について、福井康順師が「新戒律試論」について、記念講演を行った。

十月十六日 比叡山上大講堂に於いて、午前十時から、各宗祖師像奉安三十五周年献茶式法要（法華三昧之修）が、座主猊下御導師の下執行された。

十月自廿九日至卅一日

第五回中央布教々化研修会は祖山延暦寺会館に於いて開会された。各教区から布教師会長、教区から推薦された布教師、聴講希望布教師等六十名の参加を得、三崎宗機顧問、延暦寺執行、佐伯宗議会議長、清水谷勸学の来賓を迎え、廿九日午前十一時開会式が行された。開会式に当り座主猊下から「宗祖大師御生誕一二〇〇年慶

讃の諸行事も、宗徒諸師の赤誠溢れる尽力により盛大に行われた事に
対し共に欣びたい、と共に来る昭和四十六年に迎える一一五〇年の大
遠忌に当りては、尚一層布教の振興を計って祖恩に酬い奉る事は布教
師の本務である。との御言葉を賜り、一同感激を新たにし、終始熱心
に研修し無事終了した。

十一月^{自一日至二日} 日光山輪王寺開山勝道上人一千百五十年御遠忌並びに
日光山開創一千二百年慶讃大法要が、午前十一時から、日光山の大本
堂（三仏堂）に於いて、同山門跡大僧正菅原栄海大導師の下盛大裡に挙
行され、約十万の参詣人が勝縁に浴した。

十一月^{自十五日至十三日} 岡山県教育委員会と山陽新聞社では、比叡山延暦寺
と天台宗岡山教区の各寺院の協力を得て、伝教大師御生誕一千二百年
を記念して、比叡山名宝展を岡山市天満屋デパートで開催した。

十一月八日 日本古典芸能の殿堂として去る十一月一日開場した国立
劇場の記念公演の一つとして天台声明が披露された。演奏されたのは

天台声明魚山秘曲「三十二相」で、雅樂の散吟打球樂と合奏されると云う声明の中でも異色の作品である。当日は舞台に、根本中堂の法灯の分火が奉持され、導師には中山玄雄大僧正が当り、又片岡義道僧正が指揮をとり、天台宗及び天台真盛宗の両音律研究所員二十三人の合唱と十二人が奏でる宮中雅樂会によって、午後六時半から約一時間にわたって演奏された。

十一月十日 去る五月廿四日不慮の災火によって焼失した恵心堂の再建工事は着々と進められて来たが、十一月一日ようやく全工程を終り、この日午前十一時からその落成式が、天台座主猊下の御導師の下盛大に営まれた。今度再建された恵心堂は、山麓生源寺の横にあった別当大師堂を移築したものである。

十一月十六日 比叡山横川千光房靈蹟は道元禪師得度の靈跡であるが、曹洞宗ではかねてからその顕彰碑を改修していたが、今度完工したので、この日午後一時から、その顕彰碑の除幕式が、永平寺、総持寺両

本山代表、全国各教区宗務役員、遺跡顕彰会、来賓として延暦寺執行を始め各宗関係者多数参列の中、中村貞元宗務総長が御導師となつて厳そかに営まれ、信徒二千五百余名の焼香の列が連り、辺り一面は法縁の薫香に包まれた。

十一月廿一日 延暦寺書院に於いて、日光山、東叡山、比叡山の三山の懇親会が行われ、座主猊下を始め、菅原日光輪王寺門主他四人、大照東叡山輪王寺門主他三人、杉谷宗務総長、京都五箇室からは、水谷三千院門主、三崎妙法院門主、山中毘沙門堂門主、山田滋賀院門主が参会され、延暦寺叡南執行、各副執行も出席して懇親の実をあげた。

十一月廿五日 韓国曹溪宗中央宗議會議長兼韓国社会福祉総裁釈青潭師、国際部長李広基師、京城大学教授李義喆師等八名は去十一月廿二日に、今東光師の招待により、日本仏教界と韓国仏教会との平和交流を目的として東京上野寛永寺を始め都内の大寺を訪れ、廿四日には京都青蓮院で一泊、この日比叡山延暦寺を訪れ、杉谷宗務総長、叡南延暦寺執行の出迎を受け、根本中堂御宝前にぬかずいた後、書院に於い

て昼食を共にし歓談した。因みに、韓国僧一行は火食を一切口にしないといふので、接待役の延暦寺側では食事の準備に大わらわであった。十一月廿七日 天台宗、聖観音宗、和宗の三者代表が比叡山麓滋賀院に於いて会合し、今後法儀、教学の興隆に於いて相互の一層協力発展方を話し合った。当日の出席者は、浅草寺綱野執事長他各部長、四天王寺出口管長、塚原執事長他各執事、宗務総長他本庁各部長、小林録事、延暦寺叡南執行他各部長であった。

十二月四日 東海教区妙乗院（大僧都寺西内慈住職）に於いて、宗祖大師御生誕千二百年慶讃並びに妙乗院庫裡新築落成慶讃法要を、天台座主猊下を拜請して、石黒教区宗務所長初め安藤宗議會議員、長教区布教師会長等教区内役職員、該寺法類等参拾口の出仕で奉修した。法要に引き続き参拝者に剃度が行われた。

今年度より昭和四十六年春迄の間に延暦寺へ参詣する本宗団参は、遠忌団参として取扱われ、各団参毎に遠忌慶賛報恩法要が奉修されるこ

とになった。

猶今年度から四十五年度迄毎年三月～十月の間比叡山根本中堂に於いて駐在布教が行われ、又各教区に於いても、あらゆる機会に布教が実施され、且、各教区へ映画伝導員が派遣されP・R・につとめる事になった。

又昭和四十六年迄に大遠忌記念出版として、一、伝教大師研究号、二、天台座主記第三編、三、新布教資料が各々刊行されることになった。

昭和四十二年^{丁未}十一月十八日 南太平洋戦歿者慰霊協会では、日米両国の相互協力の下に、戦後民間として始めての遺族を含めた一行百十七名が、最も激烈を極めた玉砕の島マリアナ群島のグアム、サイパン、テナアン諸島に渡航し、夫々戦歿者の遺骨収集を行い、各戦跡地を巡拝して、この日グアム島マタギ山激戦地に慰霊塔建設の起工式を行った。本宗からは、浜名徳有、山本忍友の両派遣僧がこの一行に参加した。
自二月廿六日
一ヶ月間 中尊寺秘宝展が、京都岡崎美術館に於いて、京都新聞社の後援で開催され、初日の開館法要には延暦寺執行も出仕した。

三月廿七日 第二十三回宗議會に於いて、左記の件が本年度に実施される事に決った。

記

一、天台宗の宗章を配した宗旗を調製して全国三千ヶ寺院に頒布すること。

一、布教師、伝道師に伝道バッヂを交付すること。

一、檀信徒へもれ無く祈禱した御札を授与すること。

一、合掌礼拝運動を展開すること。

一、根本中堂の不滅の法灯をかたどった法灯器を一万五千個調製して檀信徒総代に配布すること。

一、「一隅を照らす運動推進事務局」をつくり、宗内は勿論全国的な国民運動として展開すること。

三月廿八日 比叡山浄土院の拝殿の改修工事が本格的に実施される事になり、その起工式が午前十一時から、天台座主猊下御導師の下、式衆出仕して、宗會議員全員、水谷三千院門跡、大照上野輪王寺門跡、

近畿、東海等近県各教区長等が随喜する中、厳肅に執行された。

四月一日 宗祖大師の大遠忌を記念して昨年宗務庁に社会課が新設されたが、更に今年度から社会部に昇格された。去る第十九回宗議会に於いて、宗団の前向きの姿勢として強力に社会福祉、共済互助の実を揚げる事を目的として、宗内共済互助規定が議決され、この日から実施の第一歩を踏み出す事と成った。その大要は、任職はもとより教師が死亡した際、各々規則に依って弔慰金を給付する事になっており、教師の配遇者即ち寺族は、任意加入制で一人について拠出金一千円を毎年納付する事によって弔慰金が給付されるのである。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度御修法は延暦寺根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内僧参勤して、七仏薬師法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月十一日 再度に亘って合議検討され続けて来た、天台宗（延暦寺）、和宗（四天王寺）、聖観音宗（浅草寺）による三宗派連合提携の件は、三宗派代表委員会に於いて最終的に「縁故宗派連合会規約」と云う具体的成

案と成り、この日延暦寺書院に於いて三宗派管長（聖観音宗のみ代理）並びに各関係者が集まり規約に調印して、新しく三宗派連合が発足する運びとなった。

四月十三日 岐阜県安八郡神戸町日吉神社に於いて千百五十年祭が行われ、延暦寺から叡南執行が参向して、五色の御幣を社殿に奉幣し、続いて境内の舍利塔に法楽を捧げた。

四月末 四十二年度春の叙勲授賞者は、塩入亮忠大僧正、延暦寺法灯護持会員平山孝、阿部孝次郎、市川忍、谷口久次郎の各氏であった。猶同会員橋本利一氏はアカデミー賞を受賞した。

五月五日 東海教区神宮寺に於いて、本堂落慶々讃法要並びに宗祖大師千百五十年御遠忌法要が、午前十時から、天台座主猊下御親修の下、脇導師に水谷京都三千院門跡を迎え、森下住職を始め教区住職等約三十口の出仕によって盛大に厳修された。

五月十三日 岡山教区第五部国分寺（住職田中孝円）で本尊（薬師如来）開扉法要と宗祖大師遠忌法要の法華三昧が座主猊下御親修によって厳かに

修され、午後は同じく猊下御導師の下、戦病没者並檀中先祖回向法要が盛大に行われた。

五月自廿二日至廿三日 別請広学堅義は山上大講堂に於いて午後二時から廿三日午前七時迄の間厳修された。

業 元品能治 副 法華教主

探 題 恵日院 大僧正 菅 原 栄 海

堅 者 恵心院 大僧正 山 田 恵 諦

一の問 南光坊 大僧正 塩 入 亮 忠

二の問 延命院 大僧正 獅子王 円 信

三の問 止観院 大僧正 叡 南 祖 賢

五月廿三日 已講南光坊大僧正塩入亮忠は探題に補任された。擬講恵心院大僧正山田恵諦は已講に補任された。

五月廿四日 去る五月廿一日他界した延暦寺仲座職今井常玄の延暦寺葬は、生源寺に於いて山田滋賀院門跡大導師の下執行された。

五月卅一日 比叡山上浄土院拝殿の修理が去る四十一年末から施行さ

れ、この日完了した。今迄こけら葺であったのを銅板葺に改修した。

六月一日 今般宗規の制定、改正に当り、勸学、講司、准講司、嗣講、准嗣講の五学階を授与する学階規定が制定公布された。

六月三日 第二回伝教大師連盟懇親会が延暦寺書院で午前十一時過ぎから開かれ、十五ヶ寺の出席をみた。出席者数は、聖護院一名、粉河寺一名、四天王寺三名、鞍馬寺二名、念法真教二名、円満院一名、西教寺一名、養源院一名、園城寺一名、孝道教団三名、金峯山寺二名、本滝寺一名、実相院一名、天台宗延暦寺十名であった。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主貌下御証義の下厳修された。

六月廿三日 望擬講大僧正叡南祖賢は擬講に補任された。

七月十三日 岡山教区大円寺住職大僧正清田寂坦は遷化した。同師は宗務総長、宗機顧問等の宗務公職を歴任した。

七月自廿三
至廿五日 比叡山上大講堂に於いて、第四回仏教文化講座が開催

された。出席の講師は、今東光、竹村吉右衛門、水谷教章、佐治敬三、岡野貴美子、古市義秀の各師であつた。

七月自廿七日
至廿八日 天台宗保育連盟の第二回園児登山参拝として、園児、父兄等約百名が比叡山に登山参拝した。

八月自八日
至十日三日間 比叡山西塔居士林に於いて天台宗第一回学校教職員研修会が開催された。この会の目的とする所は、宗規によって社会部が発足したのを機に青少年教化と社会浄化を二大柱として、各種事業が計画されている中、最も焦眉の問題は学校奉職者の青少年に対処する心構であるとする事であり、今回は取敢えず、教区代表でなく地区的比例代表の形で十五人を選抜して開催された。

八月十日 比叡山上浄土院に於いて集団得度式が、座主猊下大戒師の下厳修された。新発意三十四名は、式の最後に、猊下から諭示を、杉谷総長、叡南執行から訓示を受け、感激を新たにして下山した。

八月自十四日
至十八日 第二回滋賀県下小、中学生慶讃書展が開催された。

八月自十七日
至十八日 宗祖大師御生誕遠忌法要事務局では昨年と同様、宗内寺

院檀信徒第二回青少年参拝登山研修会を開催した。参拝の各教区代表者は四百二十八名（内女生徒一三七名）、付添者は七十八名であった。

八月十八日 この程宗祖大師御生誕寺である生源寺に於いて、地元坂本の人々の協力によって新しい梵鐘が造られ、大師御生誕法要の一環として開眼撞初法要が座主猊下御導師の下に行われた。従来は、由緒ある鐘があったが、近年われ鐘となり、その用を為さなくなっていたので、御生誕千二百年を記念して延暦寺が発起し、坂本の人々の梵鐘として、又伝教大師の「照于一隅」の明るい社会を築くための自覚と警鐘に役立てようとして造られたものである。因みに、鐘の重さは四六五匁、肩高は九六匁である。

梵鐘銘

比叡山生源寺

經に曰く

一打鐘声

当願衆生

脱三界苦

得証菩提

開眼供養

昭和四十二年八月十八日

伝教大師発願文

願くは、必ず今

生無作無縁の四

弘誓願に引導せ

られて、周く法

界を旋り、遍く

六道に入り、仏

国土を浄め、衆

生を成就し、未

来際を尽して恒

に仏事を作さん

南無根本伝教大師福聚金剛

咒文に日く

我等一滴の水を

奉持し

新鑄の微妙音に

加へ奉る

過去四恩仏道を

成じ

現在の願主災難

を除かん

第二百五十一世

天台座主大僧正

伝教大師御生誕

千二百年の佳辰

を卜して、青少

年の教化善導と

宗祖大師の

御報恩に資せん

がため、坂本在

住市民の協力に

より再鑄す。

八月十九日 三笠宮殿下が午前九時三十分延暦寺書院に御到着、小憩後叡南執行の案内で根本中堂へ御参拝、その後居士林へ向われた。折から滋賀県で開催中の全国レクリエーション大会の分科会が比叡山の居士林で開かれていたので、殿下はそれに御出席された。

八月^{自廿一日至廿五日} 京都市真正極楽寺貫主権大僧正森観濤は戸津説法を勤仕した。

82
8
八月卅日 勸学院出仕者大僧正山口光円は勸学院々長に、勸学院出仕者大僧正山田惠諦は勸学院副院長に、勸学院出仕者権大僧正関口慈光は宗義研究所長に、勸学権大僧正平了照は教学研究部主任に、勸学権大僧正勝野隆信は布教研究部主任に、勸学大僧正中山玄雄は法儀音律研究部主任に、講司権大僧正多田厚隆は教学研究部指導員に、僧正誉田玄昭は法儀音律研究部指導員に、教務課長大橋良仁は宗義研究所主事に夫々任命された。

九月^{自二}至^四日 比叡山西塔居士林に於いて、社会福祉指導員研修会が開催された。

九月廿一日 比叡山では、「比叡山特別参拝会員」なるものを募集し、取敢えず、この日の阿弥陀堂に於ける彼岸会法要参拝と、十月四日の法華大会五巻日(中旦)法会参拝の二回、特別参拝の会を実施する事になった。この会は、一年を通じて八回に亘って行われ、会員は延暦寺の伝統ある古儀法要等に参拝し、書院に於いて法話を聴聞し、叡山流の精進料理を味う事になっている。

九月廿三日 滋賀会館に於いて、午後一時から、明治百年滋賀県知名士合同慰霊祭（法華三昧之修）が、座主猊下御導師の下十二口出仕で執り行われた。

九月廿五日 この程天台宗教学部から、檀信徒必携の信仰の手引書「檀信徒手帳」が発行された。是は山口光円、荒樋栄実両勸学の監修の下に刊行されたもので、本宗檀信徒の信仰の再確認と寺檀関係の一層の親密化に役立て様とするものである。

九月自廿九日
至卅日 比叡山上戒壇院に於いて、大乘円頓授戒会が行われた。

伝戒大和尚 天台座主大僧正

羯磨説浄兼唄 金台院大僧正赤松円瑞

教授師 妙行院大僧正梅山円了

十月自一日
至六日 法華大会広学暨義が総本山延暦寺大講堂に於いて厳修された。

臨監 勅使 元堂上華族野西資忠

1967

探題 延暦寺 大僧正 周湛

探題 恵光院 大僧正 覚誠

探題 日光輪王寺門跡大僧正 栄海

探題 南光坊 大僧正 亮忠

已講 滋賀院門跡 大僧正 恵諦

擬講 止観院 大僧正 祖賢

会行事真蔵院 大僧都 宏映

十月四日 法華大会中日の盛儀には、来日中のチベットのダライ・ラマ師一行、西塔にて学術大会開催中の日本仏教学会の一団及び各宗管長等が参列した。

十月十日 陸奥教区気仙沼市観音寺に於いては、講堂、金堂、開山堂及び荘厳具等一切の新調工事が完了したので、その落慶大法要が午前十時から天台座主猊下御親修の下、盛大に厳修された。随行は杉谷宗務総長、森定教学部長、大橋教学課長、延暦寺居士林葉上所長等であった。

十月自十四日至十六日 第四回中央寺庭婦人研修会が延暦寺で開かれ、開会式に座主猊下が御臨場、御言葉があった。又寺庭婦人の中得度希望者二十四名に受戒式が行われた。

十月十八日 比叡山北端、静寂の地、横川戒心谷を森林墓地「比叡山靈苑」と名づけて敷地造成が始められることになり、この日座主猊下御導師の下、一山僧出仕して歛入式（受地作法之儀）が執行された。

十月廿七日 東京都内、大正大学を会場として教学大会が開催された。

十一月自二日至四日 三日間 第六回中央布教々化研修会が祖山延暦寺会館に於いて開会された。開会式に当り座主猊下から「来る昭和四十六年に迎える宗祖大師一一五〇年の大遠忌に当りては、尚一層布教の振興を計って祖恩に酬い奉ることは布教師の本務である。」との御言葉を賜り、感激を新たにし終始熱心に研修をした。

十一月六日 日展顧問並日本芸術院会員豊道慶中（春海）大僧正は、書道の振興隆盛に尽力した功を認められ、この日東京虎の門の国立教育会館に於いて、他の受賞者と俱に文化功労章を受賞した。

十二月自五
至六日

沖縄の太平洋戦争戦没英霊追悼法要執行並びに遺跡巡
拜の一団に、天台宗特使として山形教区清原浄田、守谷俊雄の両師が、
山形県知事を始め県遺族会、県仏教会、関係者等と共に参加した。

十二月七日 上野輪王寺門跡大僧正大照晃道は午後七時四十分遷化し
た。

十二月十九日 東京教区円珠院住職権大僧正杉谷義周は宗務総長に任
命された。

十二月廿五日 比叡山延暦寺では、一千年来の文化財を保護する目的
で、比叡山上横川旧恵心堂の地に収蔵庫を建設中であつたが、この程
完成し、この日その完工式が天台座主猗下御導師の下に屋鎮法をもつ
て行われ、来賓として、野崎滋賀県知事、西田大津市長を始め、文化
財関係者、設計監督の任に當つた建築研究協会代表、施工の大成建設
株式会社代表等多数の参列者があつた。この収蔵庫は「比叡山秘宝館」
と命名され、来年四月に開館し一般に公開される予定である。この収

蔵庫の建物に関する概要は左記の通りである。

比叡山秘宝館建設概要

一、設計監督 財団法人建築研究協会

一、施工 大成建設株式会社

一、工費 金四千三百三十拾万円

一、起工 昭和四十一年十月九日

一、竣工 昭和四十二年十月廿五日

一、規模 イ、鉄筋コンクリート切妻造り平屋建、床下一・二メートル

ルの通風式、建物全体は朱染、屋根銅板葺

ロ、建坪収蔵庫四三二・四七平方米

陳列室 九六・〇〇平方米

計五二八・四七平方米（約一六〇坪）

昭和四十三年_{戊申}一月廿六日 天台宗宗議研究所編の、天台宗「教師必携」が、宗務庁教学部から発刊された。

二月十六日 上野寛永寺一山大僧正杉谷義周は上野輪王寺門跡に任命された。

二月廿五日 延暦寺一山護心院住職尾崎大顯は浄土院侍真として十二年籠山行に入った。

四月自十四日至十一日 本年度御修法は総本山根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、普賢延命法を奉修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月八日 比叡山麓生源寺で花祭が盛大に行われた。

四月十七日 孝道教団から杉、檜の苗木一万二千本が延暦寺に贈られ、玉体杉附近で盛大に植樹祭が執り行われた。岡野両統理他若統理夫妻や多数の孝道教団特別功德者が植樹して、附近約四町歩は孝道山林と命名された。

四月十九日 比叡山西塔の重要文化財にない堂（法華堂、常行堂）は、去る昭和三十九年四月から滋賀県文化財保護課の監督の下に解体修理を

進められて来たが、この程内外共に工事が終り、この日午後一時から、天台座主猊下の御導師の下一山僧出仕して、県、市を始め関係者多数が参列する中、落慶法要が盛大に執り行われた。

五月自三日
至五日三日間

兵庫教区書写山円教寺に於いて、大修理落慶大法要が盛大に行われた。三日（第一日）は開山性空上人の九百五十回御祥忌に当り、座主猊下の御親教を仰ぎ、教区内寺院住職出仕の許に胎藏界曼荼羅供の秘法嚴儀が開山堂に於いて執行された。四日（第二日）は大講堂に於いて午前中重文諸堂の昭和大修理の落慶竣工式が挙行され、文部省始め県市関係官庁の代表者や総本山代表宗務総長（代理武教学部長）の祝辞等の外、表彰、感謝状の授与等が行われた。又午後から円教寺長吏大僧正大樹承算大導師の下に大般若転読が奉修された。五日（第三日）は当山開山一千年を記念して法華三昧の嚴儀が滋賀院門跡山田恵諦大僧正調声の許に嚴修された。三日間に亘り全山瑞氣に満ち大いに賑わい、参詣の善男善女は法縁に浴した。この間食堂では餅まき、常

行堂では壬生狂言が余興として催された。

五月五日 比叡山特別参拝会員の登山があり、釈迦堂の灌仏会に参拝した後、居士林で坐禅等を修行した。

五月廿二日 福聚教会本部長会議が延暦寺会館に於いて開かれた。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

自六月十一日
至七月四日 日本仏教文化協会（会長水谷三千院門跡）では、今回西欧諸国宗教事情視察を実施したが、この視察旅行には、宗内からは団長水谷門主、顧問葉上照澄大行満及び小松寂光院々主が参加した。

六月自廿四日
至廿四日 大遠忌記念行事の一つとして第一回天台宗青年僧記念安居会が比叡山に於いて開かれた。この安居会は、宗内の満四十才以下の寺院住職、僧都以下の壮年住職を六日間祖山に籠山させ、四種三昧を専修させて、天台宗僧侶としての自覚と信念を確かめさせ様とする目的で行われたものである。

六月廿九日 京都教区方広寺住職大僧正木下寂元は宗務総長に任命された。

七月自廿七日至廿九日 第五回比叡山延暦寺仏教文化講座が開催された。講師は、岸信宏、山岡莊八、加藤日義、藪内紹賀、中西悟堂、藤田蔵の各師であった。

八月五日 京都真正極楽寺貫主大僧正森観濤は叡山学院々長に任命された。

八月自十八日至十八日 第三回滋賀県小、中学生奉讃献書展覧会が開催された。

八月自十八日至廿八日 第三回天台宗青少年登山参拝が行われ、全国から約五百名の青少年の祖山参拝をみて、全日程を盛大のうちに終了した。

八月自廿一日至廿五日 延暦寺一山金台院住職大僧正赤松円瑞は戸津説法を勤仕した。

八月廿二日 比叡山浄土院に於いて、第二回集団得度式が座主猊下大戒師の下執行された。今年は新発意三十名であった。

八月廿五日 比叡山麓滋賀院に於いて午前十一時から探題集會が開かれ、天台座主猊下、日光輪王寺門跡菅原大僧正、喜多院住職塩入亮忠大僧正の三探題が集合した。

八月自廿七日
至廿九日 天台宗保育連盟の第三回園児登山参拝が行われ、約百名の園児が父兄等と参加した。

八月廿八日 京都方広寺住職大僧正木下寂元は再び宗務総長に任命された。

九月一日 三千院門跡大僧正水谷教章は望擬講に補任された。

九月自一日
至八日 比叡山と日光山と毎年交代で会場を受持つて行われる。

大正大学実践仏教が、今年は比叡山西塔居士林で開かれた。吉田、樋口両師引卒の下、受講生六十八名（うち女子三名）が参加した。

自九月廿日
至十一月十日 滋賀県と大津市では、県農協中央会、県商工会議所連合会と共催で、この日から五十二日間に亘って、湖と文化の祭、琵琶湖大博覧会を開催したが、テーマ館である「びわこ館」に於いて比叡山仏教が紹介された。

十月八日 日光山関口慈光師徒弟ドイツ人ローベルト・クラウン・ハイネマン氏(東大印哲科)は、この程延暦寺で灌頂を履修し、滋賀院で座主猊下に面会、今後の活躍を誓った。

十月十一日 浄土院御霊屋の修理起工式が天台座主猊下の御導師で、事務局の局員(宗務総長以下各部長、延暦寺執行以下各副執行)が出仕して厳かに行われた。これより先この御霊屋に安置してあった宗祖大師御尊像(高さ約三十センチ)は、浄土院尾崎侍真によって、拝殿に仮安置された。

十月十三日 兵庫教区神戸市垂水区伊川谷町太山寺に於いて、午前中宗祖大師一千百五十年大遠忌報恩法要(法華三昧之修)、午後剃度、円頓授戒会が、天台座主猊下御親修の下執行された。戒弟三百名であった。猶、座主猊下には、武教学部長、井深遠忌局事務副長が随行した。

十月^{自十四日}_{至十九日} 第二回天台青年僧安居会は、宗内、全国各教区から年令三十九才迄の僧都以下の住職を集めて、比叡山西塔に於いて居士林を宿舍として実行された。この安居会は御遠忌の記念事業中異彩ある

企画として、この期間行われ、又第二期は廿七日から十一月一日迄の期間実修が予定されている。この安居会に集った五十余名は、好相行を始め法華三昧、常行三昧、坐禅止観等を熱心不退に修行した。

十月自十九日至廿一日 第五回中央寺庭婦人研修会が延暦寺会館に於いて開かれ、六十八名が参加し、意欲的に研修に励んだ。

十月廿三日 時宗から一遍上人の御尊像が比叡山上大講堂に奉納され、その奉安式が時宗法主遊行七十一世大僧正他阿隆宝上人大導師の下厳修され、約四百五十名の善男善女が参拝し仏縁を結んだ。

十月自廿六日至廿七日 天台宗教学大会が大阪四天王寺に於いて開催された。

十一月二日 東京大正大学では、三階建の新校舎が三億千三百万円の費用を以って新築され、その落慶式が盛大に執行された。

十一月五日 布教師会長会が、滋賀院で開かれた。

十一月八日 比叡山居士林に於ける昭和四十三年度研修受講の集計は、研修生二、三〇五人、受講生一、五〇六名、計三、八一一名にのぼった。

十一月十二日 第七回中央布教研修会が延暦寺会館で行われた。

十一月十四日 関西修学旅行中の浩宮徳仁親王（学習院初等科三年）は、

午前十一時半頃、琵琶湖大橋から奥比叡ドライブウェイを経て、根本中堂へ御参拝された。根本中堂では、宗務総長や延暦寺執行等が御出迎えし、叡南執行が御案内説明申し上げた。又参道では比叡山幼稚園児が日の丸の小旗で御歓迎した。同親王御一行は、この後四明嶽から大津側へ御下山された。

十一月^{自十五}_{至十六}日 東京国立劇場に於いて、天台声明公演が三回に分けて行われた。公演種目は「声明懺法」であった。

十一月^{自十八}_{至十九}日 大遠忌事務局事業計画の一つとして天台宗檀信徒総代祖山参拝が実施される事になり、その第一回として、岡山、山陰、

四国、九州東、九州西の五教区から代表百二十四名が祖山に結集した。是の研修会は、宗門発展興隆の原動力となる各寺院の檀信徒総代の代表を祖山に招待し、遠忌法要の意義の徹底とそれに対する自覚の培養に資し、併せて檀信徒会の結成を促進すると共に、大師御精神「一隅

を照す」精神運動の大展開を期する目的で開催された。この日参集の代表は、大遠忌大事業の完遂に向つて僧俗一貫して邁進する事を決議した。

本年末、座主猊下から、来る御遠忌に備えて七条袈裟二十領を新調するようにと、金三百万円が延暦寺事務所へ寄附された。

昭和四十四年酉己二月十九日 止観院大僧正叡南祖賢は延暦寺執行に再び任命された。

三月廿三日 兵庫第五部法雲寺（住職吉川広昭師）では、昨年高松宮御幸臨と宗祖大師御遠忌を記念して、本堂、庫裡、墓地等の大修理を行い、この程落成したので、その落慶大法要と授戒会が、天台座主代理滋賀院山田門主大導師の下、厳肅盛大に行われた。

三月自廿九日
至卅日 兵庫教区八葉寺（住職岡恵照）に於いて、廿九日午前十一時から在家得度式が、午後結縁灌頂が夫々座主猊下御親修の下滋賀院山田門主等出仕して行われた。卅日は、本堂落慶並びに本尊十一面

観音開眼法要が、天台座主猊下御親修の下盛大に厳修された。

四月一日 延暦寺学問所の本拠が比叡山西塔釈迦堂政所に置かれ、菩薩僧の育成の中心機関として一層強化拡充される事になり、その開所式が座主猊下御臨席の下行われた。これは、宗祖の精神を時代に適應させた一つの試みとして先頃新しく定められた三年籠山の学生養成の制式によって、今回五人の本山交衆が籠山行に入ったためである。

四月^{自十四}至^{十一}日 本年度恒例御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等参勤して、鎮将夜叉法を厳修し玉体安穩宝祚長久並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月六日 延暦寺では今回近畿テレビを通じて、京都、滋賀、大阪の三府県を対象に、テレビ放送を開始することになった。放送タイトルは「比叡の光」である。

四月^{自廿四}至^{廿四}日 恒例の叡山講法要は、比叡山上大講堂、阿弥陀堂を中心に、天台座主猊下を始め延暦寺一山、地方代表の総出仕の下、厳肅

に繰りひろげられた。

四月廿五日 第一回の「一隅を照らす運動」促進委員会が、比叡山麓滋賀院に於いて午前十時から開かれ、会長には宗務総長が任命された。四月廿七日 山陰の瑞光山清水寺（住職清水谷善晃）に於いて、教区主催の宗祖大師一一五〇年の大遠忌法要と円頓授戒会が、天台座主猊下大導師の下、教区全寺院住職等出仕して厳修された。

五月^{自六日}_{至七日} 第二回檀信徒総代登山が行われ、近畿、中部六教区の総代代表二百二十五名が参集し、全員が剃度、研修、会議、三塔巡拝等の貴重な体験を経て、大遠忌法要の円成と新しい教団の育成に邁進し、仏弟子として一隅を照らす国宝的人材の育成に自ら率先する事を誓った。

五月十八日 比叡山法灯護持会第九回総会が、午前十一時から延暦寺書院で開かれ、座主猊下が御臨席され御挨拶があり、佐々部副会長が石坂会長に代って議長となり会議が進められた。

五月^{自廿六日}_{至廿七日} 第三回檀信徒総代登山結集が行われ、東海、信越、神

奈川、東京の四教区総代表百八十五名が参集し、前回と同様天台座主猊下から親しくおかみそりを頂戴して仏弟子と成ると同時に、宗祖伝教大師千百五十年大遠忌を目標に一隅を照らす国宝的人材育成に率先する事を根本大師御宝前に誓うと共に、一致団結新しい教団造りに邁進する事を決意した。

六月三日 比叡山上浄土院祖廟御靈屋の修理完成を宗祖大師へ報告すると共に、拜殿に仮安置してあった御靈屋の御本尊を遷座安置する法要が、午前十時から朱色も鮮かな御靈屋前で、延暦寺叡南執行の導師の下大遠忌事務局員総出仕して、厳肅に修された。因みに、今回の修理は、昨年の拜殿、阿弥陀堂の修理に続く工事であったが、是で浄土院の修理はすべて完了したことになる。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が例年の通り座主猊下御証義の下厳修された。

六月自四日
至九日 第三回天台宗青年僧記念安居会が祖山西塔に於いて行われた。

六月自十五日 引き続き第四回天台宗青年僧記念安居会が比叡山に於いて行われた。

六月十二日 大僧正の僧階はこれ迄は宗務庁から伝達されていたが、今回これが改められ、本山で座主猊下から親しく授けられる事になり、その最初として川崎市龍巖寺住職粕賀広道（六十五）に座主猊下から大僧正位が授けられた。

六月十六日 延暦寺一山会議に於いて、大遠忌記念事業の一つとして、廿七年ぶりに横川中堂を再建する事に決定した。昭和四十六年春完成を目標に、早速再建に着手する事になった。猶、延暦寺では、東塔の大乗戒壇院、西塔の瑠璃堂、相輪棟の三堂塔の修理工事をも七月から行う事になった。

六月廿日 天台宗臨時宗議会が、延暦寺会館に於いて午前十時から開かれた。

六月廿一日 臨時宗務所長会議と照干一隅運動理事会が、延暦寺会館に於いて午前九時から開かれた。

同日 比叡山上浄土院に於いて午後一時から御靈屋落慶法要が、天台座主猊下御導師の下一山住職が式衆となつて厳かに行われ、山中毘沙門堂門跡、山田滋賀院門跡、今東光中尊寺貫主、宗議會議員、宗務所長全員が参列した。法要に続き、羽場宗議會議長が表白文を捧げ、若水宗務所長代表が「伝教大師の御精神を生かすよう努力する」と御宝前に誓いの言葉を述べた。

同日 宗祖伝教大師一一五〇年大遠忌法要に際し、この千載一遇の勝縁を契機として、天台宗では、宗祖伝教大師の「一隅を照らすこれ即ち国宝なり」の御精神を宣揚するため、寺檀一致宗団挙げて「一隅を照らす」運動を展開することになり、新たに今東光大僧正が会長に任命された。

六月廿三日 延暦寺一山円乗院住職権大僧正渡辺恵進は比叡山行院々長に任命された。

七月^{自六}_{至七}日 天台宗各種研修会を統合した「天台宗研修会」の第一回が、延暦寺会館で開催され、全国各教区から選抜された布教師、伝道師、

寺庭婦人、ボーイ・スカウト、一隅運動推進員、社会福祉指導員等多数が参加し研修して盛況裡に終った。

七月自廿二日至廿八日 天台宗B・S研修会が本山に於いて行われた。

七月廿四日 延暦寺一山真乘院住職僧正菅田玄昭は比叡山高校々長に任命された。

七月自廿六日至廿八日 比叡山上大講堂に於いて、第六回仏教文化講座が開催

された。出席の講師は、都筑玄妙、谷川徹三、渋谷有教、土川元夫、原随園、竹田益州の各師であった。

八月自十八日至十八日 天台宗学校教職員研修会が本山に於いて行われた。九日には、比叡山上釈迦堂に於いて、天台宗学校教職員連盟（台教連）の結成総会が、宗務総長、延暦寺執行の臨席の下行われた。

八月自十四日至十八日 第四回滋賀県小、中学生大師奉讃献書展覧会が開催された。

八月自十八日至廿八日 第四回青少年祖山参拝研修会が延暦寺会館で行われ、全国各地から四百四十六名の少年少女が参集して、三塔を舞台に、坐

禪、勤行、比叡山の歴史、自然、伝教大師の教の勉強等、一心に研修に励んだ。

八月^{廿五}日 上野輪王寺門跡大僧正杉谷義周は戸津説法を勤仕した。

八月^{廿二}日 本年度本山集團得度会が、比叡山上浄土院に於いて、座主猊下御戒師の下執行された。

九月一日 来る昭和四十六年に、宗祖伝教大師御入滅一千百五十年の御遠忌を迎えるに当って、座主猊下は特に親諭を発せられ宗徒並びに檀信徒の趣く可き方針を示された。

親 諭

昭和四十六年宗祖伝教大師御入滅一千百五十年の聖諱を迎うるに当り哀情を披瀝して宗徒並びに檀信徒各位に告ぐ。

宗祖伝教大師が立教開宗せられた真意は、五濁の悪世に昏迷する一切の人々に、真実の仏光を輝かして、之を救済せんがため、仏性の開発と浄仏国土の建設にその本願を托されたのである。

而もこの二つは別々のものではなく、ただ一に道心ある人を育成し

充実させることにあるのである。

宗祖大師曰く、国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり、道心ある人を名づけて国の宝となすと、道心は菩提を求める心であり、忘己利他の精神である。この故に末世のわれらに遺された法華一乗の教法によつて、広く衆生を導き給うたのであり比叡山がいつの世にも仏教隆昌の根源となる所以である。

然しながら翻つて現状を見るに、社会の人心は自らの欲望を満たすに急にして、慈悲を施すの心浅く、秩序を輕視し、生命を尊重しない傾向が次第にその度を増し、偏狭の宗教跋扈して、人心やすらぎを求むるに遑なき様相を見ることは遺憾の極みである。この時に当り、宗祖大師の聖諱に遭遇することは、正しく宗を挙げて教法を興し、国家の福祉を成就せよとの靈告と仰いで肝銘対処しなければならぬ。今や世界は思想的に対立して利害を事とし、各所に惨事を見ながら、なお干戈の是非を論ずるのみで、和平並存の実を挙げ得ないことは我ら宗教家の恥辱にして將に奮起すべきの秋である。私

どもは須らく、宗祖大師の意を体して、宗是を仏教各宗派の和合と教化の高度実現に置き、寺檀一致、僧俗一体となつて国家の隆盛と人類の幸福に寄与しなければならない。

冀くば同信の各位、千載一遇の好機に際会するを喜び自ら道心ある人としての範を示すと共に全国民に忘己利他の大精神を鼓吹して一遇を照らす人物を国内に充満せしめ、以つて、宗祖大師の鴻恩に報いられんことを。

昭和四十四年九月一日

天台座主 大僧正 即 真 周 湛

九月^{自三}至^八日 孝道教団では伝教大師大遠忌慶讃の為、今年も岡野統理、同副統理引卒の下四千百六十人が修行参拝のため比叡山に登山し、祈念法要を毎日午前十時から座主猊下御導師の下厳修し、又厳しい修行をしたが、今度孝道山から横川中堂再建資金として一千万円の浄財が延暦寺に寄進され、大講堂で座主猊下から岡野統理に感謝の念をこめて受納証が親授された。

九月八日 比叡山横川中堂の再建は、主務官庁である文化庁との打合せ、折衝もほぼ終り、近く本工事にかかるが、之に先だって中堂跡の発掘調査が行われる事になり、この日叡南延暦寺執行導師の下、中堂跡に祀られてあつたブロンズの聖観音の遷座法要が営まれた後、直ちに発掘作業が福山敏男元京大教授、西田弘等の手によって始められた。

九月自十八日
至十三日 第五回天台宗青年僧安居会が比叡山西塔「にない堂」で行われた。

九月十九日 根本中堂の「不滅の法灯」が群馬県高崎市薬王寺（千葉照源住職）へ分灯される法要が、比叡山上根本中堂に於いて午後六時から、叡南延暦寺執行の導師の下、宗務庁、延暦寺両当局役職員、二十人の薬王寺総代が参列合掌する中、厳肅に執行された。

九月廿二日 比叡山高等学校校舎増築工事が完成し、午前九時からその竣工式が挙行された。

自九月廿五日
至十月二日 本年度比叡山延暦寺伝法灌頂は、延暦寺灌室に於いて天

台座主猊下が教授阿闍梨となり厳肅に執行された。

九月廿八日「一隅を照らす運動」の理事会が延暦寺書院で開かれ、今東光会長を始め、岩井京都商工会議所会頭、竹村安田生命前社長、弘世日本生命社長、羽場宗会議長等三十七人が出席した。

十月七日 南紀那智山青岸渡寺に於いて、福聚教会叡山流奉詠舞大会が、総本部長叡南大僧正出席の下、盛大に行われた。

十月十日 山形市国分寺（柏山寺、住職富樫晃全）に於いて、宗祖大師大遠忌法要並びに円頓授戒会が、天台座主代理山田滋賀院門跡御導師の下行われた。戒弟約千百名であった。

十月自十七日
至十八日 第四回檀信徒総代比叡山登山結集が行われ、東京、千葉、埼玉、栃木、群馬各県から代表が参集し、座主代理山田滋賀院門主の御導師で剃度を受け寺檀一致協力の旨を誓った。

十月廿日 目黒瀧泉寺を会場に、伝教大師大遠忌と、一隅を照らす運動を記念して、東京本部奉詠舞大会が盛大に行われた。

十月自廿一日
至廿二日 第五回檀信徒総代比叡山登山結集が行われ、東北の総

代表が登叡し、前回の通り剃度等を受け大遠忌に向つて寺檀一致協力の決意を新たにした。これで全国の総代の登山が終り、宗祖大師千百五十年大遠忌法要完遂への熱意が全国津々浦々に至るまで盛上った。十月^{自廿五}至^{廿六}日 第十一回天台宗教学大会が、東京浅草寺福祉会館で開かれた。今年は大正大学が中心となり、浅草寺の後援で開かれた。

十一月^{自二}至^四日 滋賀県湖東びわ村東雲寺（任職吉田戒善）では慰霊殿が建設されたので、宗祖大師大遠忌法要並びに慰霊殿落慶法要及び円頓授戒会が、座主猊下大導師の下盛大裡に行われた。座主猊下には叡南執行等が随行した。

十一月六日 比叡山横川中堂跡の発掘調査は九月以来続けられていたが、この日完了し、調査結果の報告を待つて愈々再建工事に着手される事に成った。

十一月廿一日 東京上野寛永寺で開かれた一隅を照らす運動の常任理事会で、この運動の具体的な推進方法の一つとして、年賀状や日常使用のはがき、封筒、名刺等に運動の標語を記載し、より多くの人に呼

びかける事になった。

十一月廿四日 延暦寺一山恵光院住職探題大僧正叡南覚誠は遷化した。十二月十五日 比叡山横川中堂再建工事の第一歩を飾る埋経式が、午前十一時から寒風の吹きすさぶ同中堂跡に於いて、叡南延暦寺執行の導師の下横川中堂再建委員が式衆となり、厳肅裡に行われ、法灯護持会々員夫人等の浄書した写経観音経三十三巻が銅筒に収められ、つぼの中に密封されて、基壇下地下深く埋められた。

埋納経表白

闔山の大衆等本山北塔横川中堂再建の宿願誠に久しく成就の懇望愈々深し。茲に発願祈誓を籠めて浄地の主郭を点定し妙典埋経の供養会を修し永劫の法宝を納めて以て鎮土堅牢ならんことを期し奉る。伏して願くは経遠く伝えて未来諸仏の所に至り今仏所説の会に異なることなく、此の鎮経久しく住して諸仏法華の砌に現じ弥勒証明の三会に期する所なり。

重て乞う写経奉埋の功德を以て周ねく十方に徧し六道四生等しく潤

いを蒙むり列座陪席の縑素、妙經奉写の懇志者等同じく菩提の覺路に到らんことを。

十二月廿九日「一隅を照らす運動」本部の一行事として、今東光会長を先頭に、木下宗務総長以下五十名が、銀座数寄屋橋で托鉢を行い、今会長の辻説法等があつて、民衆に「一隅を照らす運動」を大いに紹介した。

本年十月から大師奉讃講演会を開くことが提唱、奨励された。

昭和四十五年^{庚戌}一月卅一日 一隅を照らす運動の実践の一つとして、東京に続く第二回の托鉢が午後一時から京都で行われ、今東光会長を先頭に、京都、滋賀の住職等五十人の僧が参加し、集まった浄財を京都社会福祉協会に寄付する等一隅を照らす運動の実をあげた。

二月十三日 九州宮崎県国富町法華岳薬師院に於いて、宗祖大師遺蹟顕彰碑が建立された。

自二月十四日 至三月十四日 明年春に宗祖大師一千百五十年大遠忌法要を厳修するに当り、その記念事業の一として「天台の秘宝展」が東京小田急百貨店

に於いて、天台宗、延暦寺主催、東京新聞社後援で盛大に開催され、内外に多大の感銘を与えた。

三月九日 第二十五回宗議会が滋賀院門跡で招集され、座主猊下の御臨席があつた。この宗議会で、伝教大師六所宝塔の一つ、慈覚大師出家の名刹である栃木県下都賀郡岩舟町の大慈寺（住職林慶真）が準別格寺に指定される事になった。

三月卅日 延暦寺書院に於いて、午前十一時から、天台宗縁故宗派連合会が開かれ、宗務総長等も参集し、各宗派より提出の議題を協議した。

四月^{自十四}_{至十一}日 本年度御修法は総本山の根本中堂に於いて、座主猊下始め各門跡、地方選拔者、山内住職等が参勤して、熾盛光法を厳修し玉体安穩宝祚無窮並びに鎮護国家世界平和を祈り奉った。

四月^{自十八}_{至十九}日 滋賀県石部町常楽寺（住職高橋良暢）に於いて、十八日は御本尊千手観世音菩薩御開扉法要、十九日は天台座主猊下御親修の慶讃法要が厳修された。参列者は、木下宗務総長、叡南延暦寺執行、妙

法院三崎門主、本山法類寺院住職、石部町仏教界各宗寺院住職、天台宗滋賀教区各部代表寺院住職等であつた。参詣人に対して、今東光講師が記念講演を行なつた。

四月廿九日 熊本県下益城郡富合村長寿寺（住職角本澄昭）に於いて、伝教大師千百五十年大遠忌と同寺本堂改築四十五周年記念慶讃大法要が、天台座主代理滋賀院門跡山田恵諦大導師の下厳修された。随行は中山玄雄長老、武延曆寺副執行、井深遠忌事務局副長であつた。参詣人は県内外から約五千人あつた。

五月十八日 伝教大師千百五十年大遠忌を迎えて比叡山延曆寺では、全国有縁者の支援を得て三億二千万円の巨費で横川中堂の再建工事を進めているが、その工事現場に於いて午前十一時から、叡南延曆寺執行導師の下、横川中堂再建委員が出仕して上棟式が行われた。

五月廿四日 栃木県岩船町大慈寺で、慈覚大師顕彰文化講演会が同町教育委員会と仏教会の主催で開かれた。講師は福井康順博士であつた。又、準別格寺昇格奉告祝賀会が開かれ、多数参会し盛況であつた。

五月廿七日 延暦寺一山善学院住職大僧都中野英賢は、去る昭和三十三年以来一紀、伝教大師所定の十二年籠山中であつたが、この日無事籠山を満行した。

自五月廿九日
至六月九日 比叡山西塔に於いて、第六回、第七回天台宗青年僧安居会が、五泊六日でそれぞれ行われた。

五月卅日 大阪万国博覧会場内鉄鋼館大ホールに於いて午後七時から、同館特別催物「日本古典芸能と現代音楽の夕べ」の第三回公演として、天台声明が披露された。この公演は、円型舞台中央に浮び上った根本中堂の不滅の法灯を円形に囲む様に、袍裳七条をまとった中山玄雄導師他十四人の出仕僧が列立して、唄、散華、百石讃嘆の唱和を行なつた。

五月卅一日 万国博内自治館に於いて、日光山輪王寺に伝わる「強飯式」や「延年の舞」が披露された。

六月三日 天台宗保育連盟の第四回園児登山参拝が行われ、約百五十名の園児が祖山に参集した。

猶、彫刻家錦戸親観氏が伝教大師大遠忌を讃えて、大師晩年の御姿を彫刻、出来上った御木像は、天台宗保育連盟を通じて比叡山根本中堂に奉納される事になり、その御木像が、この日全国から集った園児代表の手によって中堂内陣に奉安され、その開眼、除幕法要が、山田滋賀院門主御導師の下執行された。

同日 津山市小田中地藏院住職権僧正清田寂潤は、永年に亘る保護司活動の貢献により藍綬褒章を受賞した。

六月四日 比叡山上浄土院に於いて、長講会が午前十時から座主猊下御証義の下厳肅に執行された。

同日 天台宗「一遇を照らす運動」本部では、一遇を照らす行為を行なった左の二名に感謝状と表彰状を贈った。

感謝状 国鉄盛岡鉄道管理局一の関貨車区長 住吉久吉(五十三才)

表彰状 下館市 故大島清次郎(八十七才歿)

七月二日 去る六月十二日急逝した木下寂元天台宗宗務総長の本葬儀は、比叡山麓滋賀院門跡に於いて午後一時から、即真天台座主猊下御

導師の下、天台宗葬をもって、しめやかに営まれた。

七月自廿五日
至廿七日 比叡山大講堂に於いて、第七回仏教文化講座が開催さ

れた。出席の講師は、梅原猛、堀沢祖門、金島桂華、奥田慈応、鵜飼隆玄、梶浦逸外の各師であった。

七月卅日 千葉照源天台宗社会部長は宗務総長に任命された。

八月自十四日
至十八日 第五回滋賀県小、中学生大師奉讃献書展覧会が開催された。

八月十八日 宗祖大師の御両親の邸宅趾と伝えられる大津市坂本々町の紅染寺跡に、延暦寺では将来寺院を復興する計画で、この跡の整地に着手しこの程完成したので、この日午前十一時から現地に於いて、宗務総長、各部長、延暦寺執行、その他多数の参列者の中、滋賀院門跡山田大僧正導師の下延暦寺一山僧出仕して、御両親の追慕法要が厳粛に執行された。

八月自十八日
至廿日 比叡山延暦寺に於いて、第五回天台宗青少年祖山参拝研修会が開かれた。

八月自廿一日至廿五日 善光寺大勸進副住職大僧正徳江亮宏は戸津説法を勤仕した。

八月廿二日 今年の本山得度が、比叡山浄土院に於いて、座主猊下の戒師で行われた。

八月自廿七日至廿九日 第十九回天台保育大会が、比叡山延暦寺で盛大裡に行われ、二百二十名が参集し研修した。

九月自十二日至十七日 第八回天台宗青年僧安居会が祖山西塔に於いて行われた。

九月十二日 兵庫教区神池寺に於いて、本堂落慶本尊開扉法要が、天台座主代理中山玄雄大僧正御導師の下教区住職総出仕して盛況裡に厳修された。

九月自十三日至十五日 滋賀教区樺野寺に於いて、新築本堂の落慶法要が、天台座主代理妙法院門跡三崎良泉大僧正御導師の下盛大に行われた。

九月自十六日至十四日 天台宗研修会が延暦寺会館に於いて開かれた。全国各地から選抜された布教師、伝道師、寺庭婦人、一隅運動推進員、社会

福祉指導員等百九十人が参集して、熱心に修行、討議、実習に終始した。

九月十八日 滋賀院門跡に於いて、天台宗勸学会議が、山口光円院長、他各勸学出席の下開かれた。

九月廿六日 書道家である芸術院会員大僧正豊道慶中は九十二才をもつて遷化した。

自九月廿六日至十月一日 今年最後の天台宗青年僧特別安居会が比叡山西塔「にない堂」で行われた。この宗内の若い住職の比叡山での修行は、今回で既に九回を数える事と成った。

十月^{自二}至^三日 東京国立劇場に於いて、第三回天台声明公演が中山大僧正他十四人の僧衆によって行われた。第一部例時作法別時念仏、第二部秘曲三十二相が、前回同様宮内庁雅楽部の演奏をバックに披露された。

十月四日 岐阜県慈明院（住職楓生信善）に於いて、天台座主代理都筑玄妙大僧正御導師の円頓授戒会が執行された。教区住職二十五人が出仕

し、戒弟約六百人であつた。

十月六日 群馬教区真光寺（住職都筑玄澄）に於いて、午前十時から報恩法要と円頓授戒会が、天台座主御名代山田滋賀院門跡御導師の下、盛大に執行された。

十月七日 群馬教区光嚴寺（住職田中耕順）に於いて、報恩法要並びに円頓授戒会が、座主猊下代理滋賀院門跡大僧正御導師の下厳修された。戒弟は七〇〇人に及んだ。

十月八日 群馬教区華藏寺（住職藤井祐康）に於いて、報恩大法要と円頓授戒会が、座主猊下代理滋賀院門跡山田大僧正御導師の下厳修された。戒弟は八〇〇人に及んだ。

十月九日 群馬教区長寿院（住職丸岡興舜）に於いて、報恩法要と円頓授戒会が、座主猊下御導師の下行われた。これで群馬教区の大遠忌記念御親教は終了した。

十月十日 埼玉教区慈恩寺に於いて、午前九時から、宗祖大師大遠忌法要と円頓授戒会が、座主猊下御導師の下行われた。戒弟は約一千人

であつた。

十月十一日 川越の喜多院に於いて、午前九時から同寺本堂で、座主
猊下代理山田滋賀院門跡御導師の下宗祖大師一千百五十年大遠忌法要
並びに剃度円頓授戒会が行われた。戒弟二千名であつた。

同日 高松市行泉寺（住職柞原俊道）に於いて、本堂及び境内整備が完了
したので、その落慶法要をかねて伝教大師大遠忌法要が、天台座主代
理中山玄雄大僧正御導師の下教区住職総出仕して、盛大に執り行われ
た。

十月十四日 午後三時半、岩手県で開かれた第二十五回国民体育大会
に御出席の天皇・皇后両陛下、皇太子御夫妻、高松宮御夫妻が、聖火
採灯の地東北大本山中尊寺へ御参拝になり、今東光貫主が御案内説明
申し上げた。

十月十六日 岡山教区主催の伝教大師千五十年御遠忌大法要が、岡
山市山下の岡山市民会館で、座主猊下代理滋賀院門跡山田大僧正御親
修の下執行され、約二千人の檀信徒が参集した。この岡山大会は、岡

山教区寺院、檀信徒連合会、寺庭婦人会、仏教青年会等が一体と成つて開催されたものである。法樂の後、岡山宗務所長の式辭、千葉宗務総長、加藤岡山県知事の挨拶があり、又午後には室生貞信師と、「一隅を照らす運動」会長今東光大僧正の記念講演があつた。

十月^{自十六}_{至廿一}日

京都国際会議場で世界宗教者代表者による平和會議が開催された。この會議の目的は、宗教関係者は世界平和の為にどうすべきかを、宗教、宗派、国家、民族を超えて話し合う事にあつた。比叡山からは小川天台宗社会部長が出席した。

十月十八日 京都真正極樂寺に於いて、座主猊下代理三崎妙法院門主御導師の円頓授戒会が行われ、水谷三千院門主等が出仕した。

同日 南総教区行元寺に於いて、座主猊下代理滋賀院門跡山田大僧正御導師の下十五名の住職が出仕して、伝教大師報恩大法要が嚴修され、檀信徒千百余名に対し座主猊下代理御親修の授戒が執り行われた。

十月廿一日 北嶺大行満宝珠院光永澄道阿闍梨は千日回峯を満行したので、この日京都御所へ参内し、旧儀に則り玉体加持を奉修した。

十月廿二日 陸奥教区麓峯寺に於いて、宗祖一千百五十年大遠忌並麓峯寺開山一千三百年慶讃法要が、天台座主代理今春聴権大僧正御導師によって盛大に奉修された。

十月廿四日 天台座主即真周湛大僧正猊下は、来春の宗祖大師千百五十年御遠忌大法要の執行を控え健康上その任に堪えないと辞意を御表明され、本日付で辞表を宗務本庁に提出された。

第二百五十二世

探題大僧正 菅原栄海

本貫 岩手県江刺郡藤里村三十二 菅原堯玄三男

師僧 栃木県日光 照尊院 菅原栄信

昭和四十五年十月廿四日 任天台座主

十月廿四日 即真猊下座主職御辞任に伴ない、次席探題である日光山輪王寺門跡菅原栄海大僧正猊下は同日付で自動的に天台座主並びに天台宗管長に御就任された。猶、菅原猊下は日光輪王寺門跡を御兼務される。

十月廿六日 比叡山横川定光院に於いて、日蓮上人の祖師堂が完成したので、午前十一時から身延山藤井日静法主大導師の下その落慶法要が厳修された。

十月廿八日 名古屋に於いて「一隅を照らす運動」本部主催の托鉢が行われた。東海、北陸教区の住職、修験道の行者衆、空也念仏の教師等一二〇名が托鉢衣裳に身をかため、午後一時C B Cホール正面玄関を出発し、広小路へ繰り出した。中日ビル前広場では今会長の辻説法が行われ、大衆に対して「一隅を照らす」ことの大事さを訴えた。

十月^{自卅}_{至卅一}日 本年度の天台宗教学大会が、京都市真如堂に於いて開かれ、伝教大師に関する研究を中心とした発表があった。

十一月三日 滋賀教区東南寺に於いて、東南寺円頓授戒会が、天台座主代理三浦義薫大僧正御導師の下に厳肅裡に執行された。

十一月四日 菅原座主猊下は午前九時から、千葉宗務総長他各部長、叡南延暦寺執行他一山住職を随えられ、古式に則って根本中堂、祖廟を始め三塔各堂に御参拝、座主就任の御報告を為され、午後四時半無

事御拝堂の儀を終了された。

同日 延暦寺一山華藏院住職権大僧正森定慈紹は叡山学院々長に任命された。

十一月十四日 駐日米国大使が比叡山を訪問し根本中堂に参拝した。

十一月^{自廿二日至廿三日} 長野、新潟両県下の全住職が中心となり全国の有縁

者の協力を得て、伝教大師縁りの広拯、広済両院趾に宗祖大遠忌を記念して献灯される事になり、廿二日は広拯院趾、廿三日は広済院趾で、それぞれ山田滋賀院門跡御導師下の献灯法要が行われ、奉讃講演会が開かれた。

因みに、本年の大師奉讃講演大会は、五月四日福島教区、六月廿四日東京教区、十月五日九州東・西教区、十月十六日岡山教区、十月十八日京都教区に於いて、各々盛況裡に開催された。

十一月廿九日 第二百五十二世天台座主菅原栄海大僧正猊下の伝灯相承式が根本中堂に於いて左の次第で行われた。

第二百五十二世天台座主伝灯相承式次第

次	祝	辭 1 宗議會議長 2 延暦寺檀信徒代表 3 各宗管長代表
次	座主 猊下御挨拶	
次	座主 猊下御降壇	(胡飲酒)
次	後 唄	
次	法 楽	(心経)
次	開 経 偈	
次	四 弘	
次	発 願	
次	諷 誦 文	
次	表 白	
次	散 華	(迦陵頻)
	此間御宝前にて相承の御儀式	
次	唄	匿 (長寿唄) (賀殿)
次	座主 猊下御入堂御登壇	(嘉祥楽)
先	式 衆 入 堂	(越天楽)

4 文部大臣 5 滋賀県知事 6 栃木県知事 7 大津市長

次 宗務総長挨拶

次 座主猊下并式衆退場 (陵王)

十一月卅日 座主猊下は大阪河内磯長叡福寺の聖徳太子廟に参詣された。

十二月一日 座主猊下は京都御所へ参上して座主就任を御報告された。
十二月三日 座主猊下は東京千代田皇居に参内して座主就任を御報告された。

自第二十四世
至第二百五十二世

天台座主年譜

第二百四十七世
天台座主 梅谷孝永

昭和十五年十月三十一日 天台座主退職

同年十一月十日 宮城外苑に於ける紀元二千六百年
式典並奉祝会に天台座主の資格で

参列

昭和十六年五月一日 東久邇宮家から御見舞の御菓子を下賜される

昭和二十年一月十三日 遷化

第二百四十八世
天台座主 久田全珧

明治二年六月二十四日 誕生

明治十一年一月 第七教区滝之坊に於いて得度

明治十五年 自七月至十一月 第七教区観音寺に於いて四度加行を履修

明治十七年十一月 密蔵院灌室に於いて入壇灌頂を履修

明治十七年十二月三日 愛知県愛知郡荒子村大字高畑七四番久田さかい養嗣子として転籍

明治二十三年十二月 密蔵院灌室に於いて開壇灌頂を履修

明治二十四年十月 天台座主実源大僧正に就いて登壇受戒

同年十月 探題淑栄大僧正に就いて暨義遂業

明治二十六年一月 第七教区法王寺住職

明治二十七年六月 第三教区徳万坊住職

明治三十年九月 第八教区真福寺住職

同年十月 総会議員

明治三十八年四月 会議副議長

明治三十九年十一月 宗務庁庶務課員

大正三年六月 権僧正補任

大正四年三月 宗務庁庶務部長

同年四月 第八教区長

同年七月 精査局精査員

大正九年四月 僧正補任

同年九月三日 愛知県額田郡岩津村大字真福寺字西谷一番地へ再転籍

大正十年九月 総務

大正十三年五月 曼殊院門跡

同年十一月 精査局長

大正十四年七月 宗機顧問

同年同月 比叡山中学校長

同年八月 戸津説法勤仕

昭和二年四月 権大僧正補任

昭和三年二月 望擬講補任

同年同月 擬講補任

昭和四年六月四日 長講會五役已勤

昭和五年三月 審理局長

昭和六年十一月 已講補任

昭和十年四月 大僧正補任

昭和十五年五月四日 延曆寺根本中堂勅額拝戴慶讃法要

同年同月 導師勤修

同年同月 探題補任

第十六教区紀元二千六百年、大祝

禱會並支那事変忠霊追悼法要に座

主代理として導師を勤修

同年十月三十一日 延曆寺住職、第二百四十八世天台

座主

昭和十六年三月三十一日 天台座主退職

昭和二十二年二月八日 京都市左京区一乗寺竹内町曼殊院

門跡に於いて遷化

第二百四十九世 天台座主 渋谷慈鑑

明治九年八月一日 誕生

明治二十年 第二十三教区永年寺に於いて得度

明治二十四年自三月至六月 第二十三教区永年寺に於いて四度

加行を履修

同年十一月 金山寺灌室に於いて入壇灌頂を履

修

明治二十九年十二月 第二十三教区宝寿寺住職

明治三十六年五月 天台座主三津玄深大僧正に就いて

壇受戒

同年同月 探題山岡觀澄大僧正に就いて暨義

遂業

明治三十八年十二月 延曆寺一山鶏頭院住職

明治四十年九月 延曆寺鶏足院灌室に於いて開壇灌

頂を履修

明治四十二年十月 延曆寺幹事

大正八年五月 延曆寺幹事

大正十年二月 叡山試学寮長

同年十一月 教学商議會商議員

大正十二年五月 延曆寺幹事

大正十三年四月 權僧正補任

大正十四年八月 教学商議會商議員

大正十五年三月 延曆寺一山華藏院住職

昭和二年五月 延曆寺幹事

昭和三年九月 比叡山專修院兼叡山学院幹事

昭和五年六月 長講会五役已勤
 同年八月 戸津説法勤仕
 昭和六年四月 僧正補任
 同年十一月 比叡山専修院教授並叡山学院講師
 昭和九年二月 第一教区真正極楽寺住職
 同年三月 延暦寺幹事
 同年九月 教学商議會商議員
 昭和十年七月 教学商議會商議員
 同年同月 延暦寺執行、本山教区長
 昭和十一年九月 望擬講補任
 同年同月 擬講補任
 昭和十四年八月一日 毘沙門堂門跡
 同年四月 樞大僧正補任
 昭和十五年三月 比叡山専修院講師
 同年同月 教義討究所委員
 同年五月 已講補任
 昭和十六年二月 審理局長
 同年三月三十日 探題補任
 同年同月三十一日 延暦寺住職第二百四十九世天台座主、三派合同天台宗初代管長
 同年十月四日 戰時下臨時御修法導師勤仕
 同年十二月自八日至十四日 戰時下國禱會導師

同年十二月十七日 戰時下伊勢大神宮に正式参拝
 昭和十七年九月十五日 滿洲建国十年記念祭大祝典儀に大
 日本仏教会を代表して参列
 同年十一月二十六日 各宗管長等と俱に天皇陛下に拝謁
 の光榮に浴す。
 昭和二十二年十月七日 遷化

第二百五十世
 天台座主 中山玄秀

明治十二年一月七日 誕生

明治二十五年三月八日 戒師中山玄航大僧正に就いて得度

明治二十七年自六月二十日至九月三十日 阿闍梨中山玄航大僧正に就いて
 四度加行履修

明治二十八年六月十六日 法曼院灌室に於いて入壇灌頂を
 履修

明治三十二年十月一日 天台座主中山玄航大僧正に就いて
 登壇受戒

同年同月二日 探題中山玄航大僧正に就いて豎義
 遂業

明治三十四年七月 回峯行一百日履修

明治三十五年六月十七日 延暦寺一山真乘院住職

明治四十年九月十八日 法曼院灌室に於いて開壇伝法

大正九年十月十四日 延曆寺一山明德院住職

大正十年一月十五日 御遠忌事務局掛員

同年五月二十八日 延曆寺幹事

大正十四年五月三十日 延曆寺幹事

同年十一月二十日 延曆寺参事會員

昭和七年六月一日 開宗記念評議員會評議員

昭和八年七月七日 比叡山中学山家寮建設委員

昭和九年六月 比叡山中学加行依法阿闍梨

昭和十年二月一日 開宗記念事務局評議員會議員

同年六月一日 精查局精查員

同年十月十八日 天台宗教學財団評議員、天台宗教學財団監事

學財団監事

昭和十一年八月二十六日 戸津說法を勤仕

昭和十二年三月一日 開宗記念法會につき灌頂教授師

昭和十三年三月八日 延曆寺執行 滿洲開教局本山課長

同年同月十九日 財団法人比叡山專修院評議員

同年四月十四日 財団法人比叡山專修院監事

同年同月十八日 教學商議會商議員

昭和十四年九月一日 臨時宗制調查會委員

昭和十五年三月七日 勅額拝戴慶讃法要奉行

同年五月十八日 望擬講補任

同年七月十八日 精查局精查員

昭和十六年六月三十日 毘沙門堂門跡

昭和十八年十二月二十四日 擬講補任

昭和二十年九月五日 宗機顧問

昭和二十一年五月八日 已講補任

同年九月二十一日 比叡山專修院々長並に比叡山專門

學院學長

昭和二十二年一月三十日 教師檢定会委員長

同年五月二十二日 探題補任

同年十月十日 延曆寺住職、第二百五十世天台座主

主

昭和三十年四月_{自二十日至二十九日} 天台大師千三百五十年遠忌大法

要並根本中堂大修理落慶法要導師

昭和三十三年四月_{自二十日至二十四日} 天台宗開宗千百五十年記念大

法要導師勤仕

昭和三十四年五月八日 比叡山釈迦堂大修理落慶大法要導

師勤仕

同年九月三日 元三大師九百七十五年遠忌法要導

師勤仕

昭和三十四年十一月九日 遷化

第二百五十二世
天台座主 即眞周湛

明治二十一年九月二十六日 誕生

明治三十二年十一月二十四日 比叡山理性院に於いて即眞

得眞を師として戒師坊城皎然大僧

正に就いて得度

明治三十六年 自八月二十三日至十一月二十七

日 横尾山施福寺に於いて前天
台座主坊城皎然大僧正に就いて四

度加行を履修

明治四十年九月二十五日 正覚院灌室に於いて阿闍梨華王

院天納中海に就いて入坦灌頂を履

修

明治四十三年十二月十四日 延暦寺一山理性院住職

明治四十四年九月十八日 正覚院灌室に於いて天台座主梅

谷孝成大僧正に就いて開壇伝法

同年十月三日 天台座主不二門智光大僧正に就いて登壇受戒

て登壇受戒

同年同月四日 探題石堂晃純大僧正に就いて豎義

遂業

大正四年三月二十四日 天台宗西部大学卒業

大正五年四月二十五日 比叡山中学校教師

大正六年十二月二十二日 延暦寺支院大覚寺兼任、(爾来

白豪院、華王院、観明院、総持坊

薬樹院、正覚院兼任)

大正十一年一月二十五日 地方教師検定会委員

大正十二年六月二十一日 安居講習会幹事

大正十四年十二月二十一日 延暦寺幹事

昭和四年一月三十日 教師検定会委員

昭和七年六月四日 法華大会々行事

昭和九年四月二十一日 権僧正補任

同年九月一日 慈恵大師九百五十年御遠忌法要掛

員

同年十月一日 宗務庁委員

昭和十年一月一日 開宗記念事務局員、営繕部長

同年七月十五日 善光寺別当大勸進副住職

同年八月二十二日 叡山学寮長

昭和十三年七月一日 精査局精査員

同年八月二十五日 戸津説法勤仕

昭和十五年四月十六日 勅額拝戴慶讃法要奉行、教師詮衡

会委員

同年四月二十日 延暦寺執行

同年五月十六日 本山教区長

同年六月四日 長講会五役己勤

同年同月六日 専修院財団評議員、同監事

昭和十六年三月三十一日 僧正補任

同年十一月一日 特に宗会議員に補任、教学財団評

議員、同監事

昭和十九年十一月六日 望擬講補任

同年 同月 十一日 滋賀院門跡

昭和二十三年四月二十一日 權大僧正補任

昭和二十六年五月二十日 已講補任

昭和二十八年四月二十一日 大僧正補任

同年 五月 十一日 探題補任

昭和三十四年十一月九日 延曆寺住職、第二百五十一世天台座主

昭和三十八年自四月十九日至五月十二日 慈覺大師千百年御遠忌並大講堂落成慶讚法要導師

昭和四十年五月二日 中国天台山国清寺參拜

昭和四十一年八月十八日 宗祖伝教大師御生誕一千二百年大法要導師

昭和四十五年十月二十四日 座主退職

昭和四十六年二月十五日 遷化

第二百五十二世
天台座主 菅原 栄海

明治二十一年二月十六日 誕生

明治三十一年十月十二日 戒師石室孝暢大僧正に就いて得度

明治三十五年自五月十一日至七月三十日 阿闍梨彦坂諶照僧正に就いて四

度加行履修

明治四十三年十月五日 寛永寺灌室に於いて入壇灌頂履修

大正三年十一月十七日 医王院住職

大正八年十月二日 天台座主吉田源応大僧正に就いて登壇受戒

同年 同月 三日 探題石堂晃純大僧正に就いて暨義遂業

昭和三年九月十六日 法曼院灌室に於いて開壇伝法

昭和十三年八月三十日 第十六教区長

昭和十六年五月十五日 第二十教区宗務支所長

昭和二十七年三月四日 日光輪王寺門跡

同年 十一月 十七日 宗機顧問

昭和三十二年八月二十五日 戸津説法勤仕

同年 九月 五日 望擬講補任

昭和三十四年九月十八日 擬講補任

昭和三十七年十二月一日 已講補任

昭和三十八年六月六日 探題補任

昭和四十二年九月二十九日 宗機顧問会々長

昭和四十五年十月二十四日 延曆寺住職、第二百五十二世天台座主

天台山座主

あ　と　が　き

本書は昭和四十六年の宗祖伝教大師一千百五十年大遠忌の記念出版の一として、昭和四十一年の宗祖大師一千二百年の御生誕慶讃の歳に計画されたものである。

その後、宗務総長は三代に亘り、教学部長もまた屢々更迭になり、このため緒についたのが古宇田前教学部長のとき、池山一切円、渡辺恵孝両師に編纂を委嘱し着手されたが、木下前宗務総長の遷化により当局が変わり、ここに昨年暮になってようやく具体的発足の運びとなり、急拠編纂に取りかかった次第である。

本書は今回の出版が続編巻三に当るのであるが、今後の出版予定も考慮し「天台座主記第三編」とし、前巻までは文語体で、カタ仮名であったのを時流に従い口語体、ひら仮名書きに改めた。しかし装訂、製本型はできるだけ前巻に準じた。

特に大遠忌を控えての多端な折に、編纂に尽力下された叡山学院池山院長、叡山文庫渡辺主任の労を多とし謝意を表する。尚、本書が記念出版として刊行できたことは、宗内関係諸師の物心両面にわたるご配慮とご協力ご支援のお蔭であると衷心よりお礼申し上げます。

昭和四十六年六月一日